

SIMATIC HMI

HMIデバイス Unifiedコンフォートパネル

操作説明書



概要

1

安全対策注意事項

2

デバイスの取り付けと接続

3

デバイスの操作

4

[コントロールパネル]の操作

5

データの転送

6

装置の保守と修理

7

技術情報

8

技術サポート

A

マークおよびシンボル

B

略語

C

法律上の注意

警告事項

本書には、ユーザーの安全性を確保し製品の損傷を防止するうえ守るべき注意事項が記載されています。ユーザーの安全性に関する注意事項は、安全警告サインで強調表示されています。このサインは、物的損傷に関する注意事項には表示されません。以下に表示された注意事項は、危険度によって等級分けされています。

⚠ 危険

回避しなければ、直接的な死または重傷に至る危険状態を示します。

⚠ 警告

回避しなければ、死または重傷に至るおそれのある危険な状況を示します。

⚠ 注意

回避しなければ、軽度または中度の人身傷害を引き起こすおそれのある危険な状況を示します。

通知

回避しなければ、物的損傷を引き起こすおそれのある危険な状況を示します。

複数の危険レベルに相当する場合は、通常、最も危険度の高い事項が表示されることになっています。安全警告サイン付きの人身傷害に関する注意事項があれば、物的損傷に関する警告が付加されます。

有資格者

本書が対象とする製品 / システムは必ず有資格者が取り扱うものとし、各操作内容に関連するドキュメント、特に安全上の注意及び警告が遵守されなければなりません。有資格者とは、訓練と経験に基づき、製品の設置、組立、試運転、操作、廃止、解体を熟知し、危険を識別し、発生しうる危険を回避できる人です。

シーメンス製品を正しくお使いいただくために

以下の事項に注意してください。

⚠ 警告

Siemensの製品は、カタログおよび関連の利用情報に記載されている目的に対してのみ使用できます。製品を正しく安全にご使用いただくには、適切な運搬、保管、組み立て、据え付け、配線、始動、操作、保守を行ってください。ご使用になる場所は、許容された範囲を必ず守ってください。付属の技術説明書に記述されている指示を遵守してください。

商標

®マークのついた称号はすべてSiemens Aktiengesellschaftの商標です。本書に記載するその他の称号は商標であり、第三者が自己の目的において使用した場合、所有者の権利を侵害することになります。

免責事項

本書のハードウェアおよびソフトウェアに関する記述と、実際の製品内容との一致については検証済みです。しかしながら、本書の記述が実際の製品内容と異なる可能性もあり、完全な一致が保証されているわけではありません。記載内容については定期的に検証し、訂正が必要な場合は次の版で更新いたします。

まえがき

この操作説明書の目的

この操作説明書に記載されている情報は、機械工学文書に関する必要条件に基づいています。場所、輸送、保管、設置、使用、および保守に関する情報が記載されています。

これらの操作説明書が対象とする読者は、以下のとおりです：

- ユーザー
- コミッショニングエンジニア
- 保守要員

特に「安全に関する注意事項(ページ 21)」のセクションの情報を読みください。

詳細については、TIA Portalヘルプを参照してください。

必要な基礎知識

この操作説明書をご理解いただくためには、オートメーション技術とプロセス通信に関する一般知識が必要です。パーソナルコンピュータおよびMicrosoftオペレーティングシステムの知識が必要です。

操作説明書の適用範囲

操作説明書は、ソフトウェアSIMATIC WinCC Unified V21以上と併用して、下記のHMIデバイスに適用されます。

名称	タイプ	商品コード、Siemens ロゴ付き装置	商品コード、Siemens ロゴなし装置
MTP700 Unified Comfort	7インチ装置	6AV2128-3GB06-0AX0	6AV2128-3GB36-0AX0
		6AV2128-3GB06-0AX1	6AV2128-3GB36-0AX1
MTP1000 Unified Comfort	10インチ装置	6AV2128-3KB06-0AX0	6AV2128-3KB36-0AX0
		6AV2128-3KB06-0AX1	6AV2128-3KB36-0AX1
MTP1200 Unified Comfort	12インチ装置	6AV2128-3MB06-0AX0	6AV2128-3MB36-0AX0
		6AV2128-3MB06-0AX1	6AV2128-3MB36-0AX1
MTP1500 Unified Comfort	15インチ装置	6AV2128-3QB06-0AX0	6AV2128-3QB36-0AX0
		6AV2128-3QB06-0AX1	6AV2128-3QB36-0AX1
MTP1900 Unified Comfort	19インチ装置	6AV2128-3UB06-0AX0	6AV2128-3UB36-0AX0
		6AV2128-3UB06-0AX1	6AV2128-3UB36-0AX1
MTP2200 Unified Comfort	22インチ装置	6AV2128-3XB06-0AX0	6AV2128-3XB36-0AX0
		6AV2128-3XB06-0AX1	6AV2128-3XB36-0AX1

この説明は、HMIデバイスイメージバージョン21.0.0.0に基づいて作成されました。
HMIデバイスイメージの更新をインストールする場合は、更新ファイルに関連する
readmeファイルにも注意してください。

デジタルタイププレートのIDリンク



IDリンクは、IEC 61406に準拠した一意の識別子であり、将来的には製品および製品パッケージにQRコードとして表示されるようになります。

IDリンクは、右下の黒い角のあるフレームで確認できます。IDリンクをクリックすると、製品のデジタルタイププレートが表示されます。

スマートフォンのカメラ、バーコードスキャナー、または読み取りアプリを使用して、製品またはパッケージラベルのQRコードをスキャンします。関連するリンクを呼び出します。

デジタルタイププレートで、製品データ、マニュアル、適合宣言書、証明書、その他の製品に関する役立つ情報が見つかります。

このドキュメントの保管

通知

マニュアルはHMIデバイスの一部

このマニュアルはHMIデバイスの一部で、コミッショニングにも必要になります。HMIデバイスの全耐用年数を通じて、供与された文書および補足文書を全て保管してください。

HMIデバイスの次の所有者に全ての保管文書をお渡しください。

デジタルの添付ドキュメントの場合:

1. 製品を受け取ったら、最初の組み立て/コミッショニングまでに関連ドキュメントをダウンロードしてください。ダウンロードには次のオプションを使用します。
 - 技術サポート (<https://support.industry.siemens.com>):
ドキュメントは商品コードによって製品に割り付けられます。商品コードは製品およびパッケージラベルに記載されています。互換性のない新しい機能を備えた製品には、新しい商品コードとドキュメントが与えられます。
 - IDリンク:
製品にIDリンクが付いている場合は、右下に黒い角の枠があるQRコードとして認識できます。IDリンクをクリックすると、製品のデジタルタイププレートが表示されます。スマートフォンのカメラやバーコードスキャナーで商品やパッケージラベルのQRコードをスキャンします。関連するIDリンクを呼び出します。
2. このバージョンのドキュメントは保管しておいてください。

商標

登録記号®が付いた以下の名称は、Siemens Aktiengesellschaftの登録商標です。

- HMI®
- SIMATIC®
- WinCC®

スタイルの表記規則

テキスト説明	例	意味
角括弧に挟まれているテキスト: [テキスト]	[画面の追加]	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザーインターフェースに表示される用語。たとえば、ダイアログ名、タブ、ボタン、メニュー命令などが挙げられます。 • 限界値、タグ値などの必要な入力。 • パス情報
角括弧に挟まれているテキストで、>の記号で区切られているもの: [テキスト]>[テキスト]:	[ファイル]>[編集]	操作シーケンスです。たとえば、メニュー命令やショートカットメニュー命令が挙げられます。
アングルブラケットに挟まれているテキスト: <テキスト>	<F1>、<Alt+P> <ip>、<date>、 <time>	<p>キーボード操作</p> <p>URL、パス情報、フォルダ名、ファイル名のタグ値、またはユーザーインターフェースのラベル値</p>

以下のような注が記載されている場合には、その注に従ってください:

注記

注には、マニュアルに記載された製品とその使用に関する重要な情報、あるいは特別な注意を払う必要があるマニュアルの特定のセクションが含まれます。

ネーミングの表記規則

本書には、以下のネーミングの表記規則を使用します。

用語	適用対象
プラント	<ul style="list-style-type: none">・ システム・ 複合工作機械・ 1台以上の機械
Comfort HMIデバイス、 HMIデバイス、 装置	<ul style="list-style-type: none">・ MTP700 Unified Comfort・ MTP1000 Unified Comfort・ MTP1200 Unified Comfort・ MTP1500 Unified Comfort・ MTP1900 Unified Comfort・ MTP2200 Unified Comfort
WinCC	SIMATIC WinCC Unified V20以上

完全な製品名の代わりに、接尾辞「Unified Comfort」の無い短縮した製品名も使用されます。たとえば、

「MTP700」の代わりに「MTP700 Unified Comfort」

図

このマニュアルには記載されているデバイスの図が含まれています。図は、納入されたデバイスの詳細部分と異なることがあります。

画像の要素には、①、②、③など白い背景に黒い位置番号が付いています。

図の手順は、実行する順番に従って黒い背景に白いプロセス番号でマークされています: ①、②、③、…

目次

まえがき	3
1 概要	12
1.1 製品の説明	12
1.2 納品範囲	14
1.3 デバイスの設計	15
1.4 インターフェース	16
1.5 付属品	17
1.6 操作プロセスにおけるHMIデバイス	19
1.7 アプリとソフトウェアのオプション	20
2 安全対策注意事項	21
2.1 一般的な安全に関する注意事項	21
2.2 HMIデバイスのセキュリティ管理	23
2.3 データ保護	23
2.4 Unified Comfort Panelのデータ	25
2.5 使用についての注記事項	27
2.6 危険領域での使用	29
3 デバイスの取り付けと接続	30
3.1 設置準備	30
3.1.1 納品の確認	30
3.1.2 動作状況の確認	30
3.1.3 許容取り付け位置	31
3.1.4 クリアランスの確認	33
3.1.5 取り付けカットアウトの準備	34
3.2 装置の取り付け	35
3.2.1 取り付けに関する注意	35
3.2.2 取り付けクリップの位置	36
3.2.3 取り付けクリップを使用した内蔵デバイスの固定	38
3.3 ストレインリリーフプレートの取り付け	39
3.4 デバイスの接続	41
3.4.1 接続に関する注意	41
3.4.2 等電位ボンディング	43
3.4.3 電源の接続	45
3.4.4 設定PCの接続	47
3.4.5 コントローラの接続	48
3.4.6 USBデバイスの接続	49
3.4.7 プリンタの接続	52

3.4.8	装置の電源投入、テストおよび電源オフ	53
3.4.9	ケーブルの固定	54
3.4.10	危険領域で使用するケーブルの固定	55
3.5	デバイスの削除	56
4	デバイスの操作	57
4.1	オペレータ入力オプション	57
4.2	タッチスクリーンに関する注意事項	57
4.3	サポートされるジェスチャー	60
4.3.1	[コントロールパネル]でサポートされるジェスチャー	60
4.3.2	ランタイムプロジェクトでサポートされるジェスチャー	61
4.4	スクリーンキーボードの使用	64
4.4.1	コントロールパネルのスクリーンキーボード	65
4.4.2	ランタイムの画面キーボード	68
4.4.3	フローティングスクリーンキーボード	70
4.5	タスクバーの使用	71
4.6	HMIデバイスのコミッショニング	72
4.7	メモリコンセプトおよびメモリカード	73
4.7.1	メモリコンセプト	73
4.7.2	メモリカードの交換	76
4.8	HMIデバイスへのWebアクセス	77
4.9	操作に関する注意	82
5	[コントロールパネル]の操作	83
5.1	設定を開く	83
5.2	機能の概要	86
5.3	System Properties	87
5.3.1	Panel information	87
5.3.2	Display	88
5.3.3	Screensaver	89
5.3.4	Update OS	90
5.3.5	Reboot	92
5.3.6	Performance	94
5.3.7	Taskbar	95
5.3.8	Event Logger	95
5.3.9	Touch sound	97
5.4	Runtime Properties	98
5.4.1	Project information	98
5.4.2	Automatic runtime start	98
5.4.3	Alarm persistency	99
5.4.4	Web client	100
5.4.5	Load project from storage	101

5.5	Network and Internet	104
5.5.1	Network settings	104
5.5.1.1	概要	104
5.5.1.2	PN-X1	105
5.5.1.3	PN-X2	106
5.5.1.4	General	109
5.5.2	Remote connection	110
5.5.3	Network drives	112
5.5.4	Unified Air	116
5.5.5	Network Tool	117
5.6	Security	119
5.6.1	User management	119
5.6.2	Certificates	130
5.6.3	Control panel access	133
5.6.4	UMAC settings	135
5.6.5	Port settings	138
5.7	External Devices and Input	138
5.7.1	Hardware interfaces	138
5.7.2	Connected devices	139
5.7.3	Printers	140
5.8	Language, Region and Formats	143
5.8.1	Date and time	143
5.9	Service and Commissioning	146
5.9.1	Transfer	146
5.9.2	Update OS	146
5.9.3	Backup	149
5.9.4	Automatic backup	151
5.9.5	Restore	156
5.9.6	Trace options	157
5.10	Apps	159
5.10.1	SIMATIC Apps	160
5.10.2	Add-ons	162
5.10.2.1	Add-onsの概要	162
5.10.2.2	Doc Viewer	164
5.10.2.3	E-Mail Client	164
5.10.2.4	File Browser	165
5.10.2.5	Media Player	165
5.10.2.6	PDF Viewer	166
5.10.2.7	Printer Configuration	166
5.10.2.8	Smart Client	166
5.10.2.9	Web Browser	171
5.10.3	App Management	171

6	データの転送	172
6.1	概要	172
6.2	操作モード	173
6.3	既存プロジェクトの使用	174
6.4	データ送信オプション	174
6.5	PG/PCインターフェースの設定	175
6.6	WinCCを使用したプロジェクトの転送	176
6.7	バックアップと復元	179
6.8	オペレーティングシステムの更新	182
6.8.1	概要および重要な注意事項	182
6.8.2	WinCCによるオペレーティングシステムの更新	183
6.8.3	ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット	185
7	装置の保守と修理	187
7.1	保守とサービスに関する一般情報	187
7.2	デバイスの清掃	187
7.2.1	HMIデバイスの前面ガラスの清掃	188
7.2.2	スクリーン清掃に関する注意事項	189
7.3	メンテナンスマードの使用	189
7.4	ブートローダーの更新	191
7.5	スペアパーツと修理	192
7.6	リサイクルと廃棄処分	192
8	技術情報	193
8.1	ソフトウェア使用許諾契約	193
8.2	マークと承認	193
8.3	認証	198
8.4	規格と要件	198
8.5	電磁環境適合性	199
8.6	機械的環境条件	201
8.6.1	輸送と保管の条件	201
8.6.2	動作条件	201
8.7	周囲の気候条件	201
8.7.1	輸送と保管の条件	201
8.7.2	動作条件	202
8.7.3	天候図	202
8.8	絶縁テスト、保護クラス、および保護等級に関する情報	203

8.9	寸法図.....	204
8.9.1	MTP700 Unified Comfortの寸法図	204
8.9.2	MTP1000 Unified Comfortの寸法図	204
8.9.3	MTP1200 Unified Comfortの寸法図	205
8.9.4	MTP1500 Unified Comfortの寸法図	206
8.9.5	MTP1900 Unified Comfortの寸法図	207
8.9.6	MTP2200 Unified Comfortの寸法図	208
8.10	技術仕様	209
8.10.1	MTP700、MTP1000、MTP1200 Unified Comfort.....	209
8.10.2	MTP1500、MTP1900、MTP2200 Unified Comfort.....	211
8.11	インターフェースの説明.....	213
8.11.1	DC24V X80.....	213
8.11.2	RS422/485 X20	213
8.11.3	PROFINET (LAN) X1.....	213
8.11.4	PROFINET (LAN) X2.....	214
8.11.5	USB X61/X62/X63/X64.....	214
8.12	コントローラによる通信.....	215
8.13	WinCCとの機能範囲	217
A	技術サポート	220
A.1	サービスおよびサポート	220
A.2	トラブルシューティング	221
A.3	適用例とFAQ.....	221
A.4	システムアラーム	222
A.5	製造元および輸入業者に関する情報	222
B	マークおよびシンボル	223
B.1	安全関連シンボル	223
C	略語	225
	用語集.....	227

1.1

製品の説明

SIMATIC HMI Unifiedコンフォートパネルは、お客様の革新的な操作コンセプトを実装するのに必要な自由度とオプションをすべて提供します。

性能が著しく向上するのに加え、ユーザーは、SIMATIC WinCC Unified視覚化ソフトウェアによるパネルの新たな機能、および内蔵されたIndustrial Edge機能によるアプリの拡張機能によるメリットを享受できます。

7~22インチのすべてのデバイスの前面には、産業レベルのマルチタッチグラスが装備され、非常に高品質なディスプレイによりスムースな操作が実現されます。

以下は最も重要なメリットの一覧です。

- ディスプレイの視認性の向上、鮮やかな色調および高い輝度に、マルチタッチ技術の著しく向上した耐久性が組み合わされ、最高の使いやすさを実現。
- 7~22インチのすべてのデバイスに機能を統合。
- ハードウェアの性能が改善し、システム限度が向上したため、パネルベースシステムを基にした以前よりもはるかに大きなアプリケーションに対応。高レベルなITセキュリティにより、専有のオペレーティングシステムを通してハッカーの攻撃からシステムを保護。
- Industrial Edge機能を搭載したことにより、アプリを通して標準機能を簡単に拡張できるため、プロジェクト固有の要件を迅速かつ容易に実装。
- SIMATIC WinCC Unifiedに基づく視覚化、TIA Portalの新たなWebベースの視覚化システムにより、機械レベルのアプリケーションから分散型SCADAソリューションまで、スケーラブルなソリューションを提供。
- すべてのデバイスは、Siemensロゴ入りの標準デザインとSiemensロゴなしのニュートラルデザインで提供可能。

Unifiedコンフォートパネルの特徴

筐体	頑丈なアルミニウム製ダイキャスト筐体
取り付けフォーマット	横および縦フォーマットでの取り付けおよび操作 ユーザーインターフェースの設定中に、それぞれのフォーマットを選択しなければなりません。画面方向は、HMIデバイスのコントロールパネルでも変更する必要があります。
インターフェース	PROFINET基本サービスをサポートする2つのPROFINETインターフェース: <ul style="list-style-type: none"> 2つのポートを備えたPROFINETインターフェース x 1 1つのポートを備えたギガビットPROFINETインターフェース x 2 USBインターフェースUSB 3.1 Gen 1 (タイプA) x 4 RS422/485インターフェース x 1
ディスプレイ	1600万色のワイドスクリーンフォーマットの高解像度TFTディスプレイ ワイドな表示角度 10 ~ 100%で明暗調整可能。
操作	容量性マルチタッチスクリーン
ソフトウェア	インターネットページ表示用のWebブラウザ PDFドキュメントのビューワー WordおよびExcelドキュメントおよびその他の形式のエディターファイルマネージャー Media Player ロギングおよびスクリプトの機能、SIMATICコントローラのシステム診断、トレンド($f(x)$, $f(t)$)の表示などを備えたランタイムソフトウェア。
データの記憶	メモリーカード用スロット x 2 <ul style="list-style-type: none"> ユーザーデータ保存用の「データメモリーカード」 x 1 推奨事項:32 GB以上の容量のSIMATIC SD memory cardを使用します。 サービスのイベントで単純化した再コミッショニングのサービスコンセプトを使用するため「システムメモリーカードスロット」 x 1プロジェクトのデータおよびデバイスの設定は、システムメモリーカードで連続的に更新されます。32 GB以上の容量のSIMATIC SD memory cardを使用します。
コントローラ	SIMATICコントローラのシステム診断は、HMIデバイスから読み取り可能であり、追加のプログラミング用デバイスは不要です。

1.2

納品範囲

HMIデバイスの納品範囲には、以下のコンポーネントが含まれています。

名称	図	数量	
HMIデバイス		1	
インストール説明書 (クイックインストールガイド)		1	
電源コネクタ		1	
紛失不能なクリップスチールの装着		8	MTP700
		12	MTP1000、MTP1200 MTP1500、MTP1900 MTP2200
ストレインリリーフエレメント	 	1	MTP700 MTP1000 MTP1200
		3	MTP700 MTP1000 MTP1200
		1	MTP1500 MTP1900 MTP2200

1.3 デバイスの設計

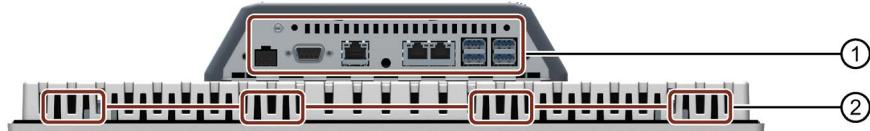
このセクションでは、Siemensのロゴ付きのMTP1900 Unified Comfortを例として使用し、Unifiedコンフォートパネルの設計について説明します。その他のUnifiedコンフォートパネルは、前面のサイズが異なりますが、インターフェースはどのUnifiedコンフォートパネルでも同じです。

正面図と側面図



- ① ディスプレイと容量性マルチタッチスクリーン
- ② 取り付けクリップ用凹部
- ③ 取り付けシール

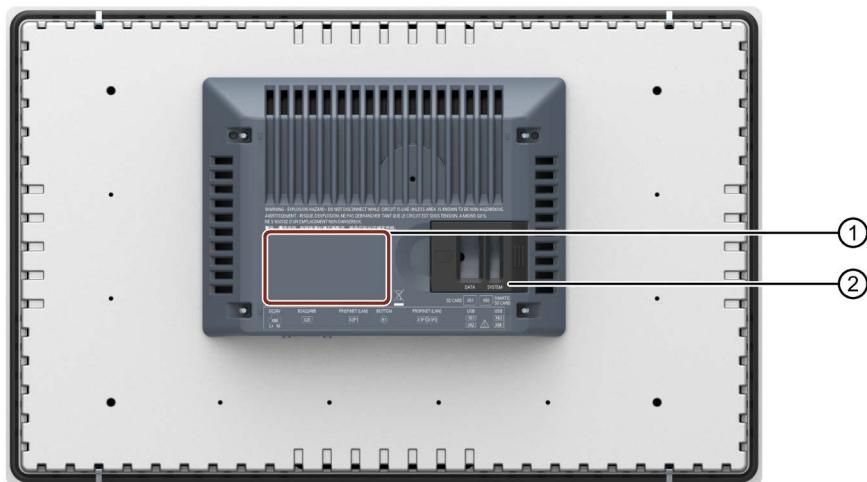
底面図



- ① インターフェース、詳細な説明 (ページ 16)
- ② 取り付けクリップ用凹部

1.4 インターフェース

背面図



① 銘板の位置

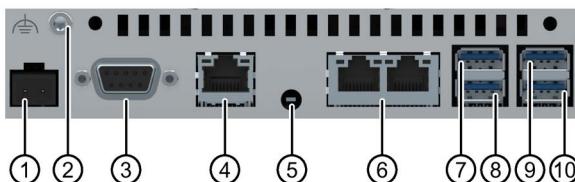
② SDメモリーカードスロットカバーの安全ロック

- X51:データメモリカード用スロット、左
- X50:システムメモリカード用スロット、右

詳細な説明については、「メモリコンセプトおよびメモリカード (ページ 73)」の章を参照してください。

1.4 インターフェース

以下の図は、15インチ型ディスプレイを備えたデバイスのインターフェースプレートを例にして、Unifiedコンフォートパネルのインターフェースについて示しています。



① X80電源コネクタ

② 機能接地用接続

③ X20 RS422/485 (SUB-D)

④ X2 PROFINET (LAN)、10/100/1000 Mb

⑤ B1 ボタン[メンテナンス]

⑥ X1 PROFINET (LAN)、10/100 Mビット

⑦ X61 USB

⑧ X62 USB

⑨ X63 USB

⑩ X64 USB

12インチ型以上のディスプレイを備えた装置では、[メンテナンス]ボタンの上にストレインリリーフプレート固定用のネジ穴がもう1つあります。

下記も参照

インターフェースの説明 (ページ 213)

1.5 付属品

必要な付属品を備えた付属品キットがHMIデバイスに付属しています。

注記

このセクションは、HMIデバイスに適した付属品の選択について説明します。インターネット (<https://mall.industry.siemens.com/mall/en/WW/Catalog/Products/10144445>) の Industry Mall で、この選択の追加バージョン、ならびに全付属品ポートフォリオを見つけることができます。付属品の数量や技術仕様などは、Industry Mall のそれぞれの商品コードから検索できます。

付属品ポートフォリオのステータスや互換性の概要は、インターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/40466415>) の「クロスリスト」で確認できます。

HMI I/Oコンポーネント

名称	商品コード
サーダーパーティ製のコントローラを接続するためのRS 422～RS 232コンバータ	6AV6671-8XE00-....
RS422/RS485インターフェース用90°L型アダプタ	6AV6671-8XD00-....
HMIデバイスの電源プラグ、2ピン、ねじの技術	6AV6671-8XA00-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

保護フィルム

名称	商品コード
MTP700 Unified Comfort用7インチの前面保護フィルム	6AV6881-0GJ22-....
MTP1000 Unified Comfort用10インチの前面保護フィルム	6AV6881-0KJ22-....
MTP1200 Unified Comfort用12インチの前面保護フィルム	6AV6881-0MJ22-....
MTP1500 Unified Comfort用15インチの前面保護フィルム	6AV6881-0QJ22-....
MTP1900 Unified Comfort用19インチの前面保護フィルム	6AV6881-0UJ22-....
MTP2200 Unified Comfort用22インチの前面保護フィルム	6AV6881-0VJ22-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

記憶媒体

HMIデバイスには次の記憶媒体のみを使用してください。

名称	商品コード
SIMATIC SD memory card	6AV6881-0AP40-....
SIMATIC HMI USBスティック	6AV6881-0AS42-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

「メモリコンセプト (ページ 73)」のセクションのメモリメディアの使用についての注意事項をお読みください。

概要

1.5 付属品

ファスナー

名称	商品コード
スチール製取り付けクリップのセット	6AV6881-6AD10-....
メモリカードインターロック	6AV2181-4XM00-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

アダプタフレーム

名称	商品コード
アダプタフレームワイドスクリーン15"	6AV6881-6QD41-....
アダプタフレームワイドスクリーン19"	6AV6881-6UD41-....
アダプタフレームワイドスクリーン22"	6AV6881-6VD41-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

入力ヘルプ

名称	商品コード
タッチペンシステムELOとV2A	6AV6881-0AV2-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

リーダー

名称	商品コード				
RFIDリーダーSIMATIC RF1040R (USB接続ケーブル付き)	6GT2831-6CA50				
RFIDリーダーSIMATIC RF1060R (USB接続ケーブル付き)	6GT2831-6AA50				
RFIDリーダーSIMATIC RF1070R (USB接続ケーブル付き)	6GT2831-6BA50				
モバイルハンドヘルドリーダー(「バー ^{コードスキャナー} 」)	<table border="1"><tr><td>SIMATIC MV320</td><td>6GF3320-0HT01</td></tr><tr><td>SIMATIC MV340</td><td>6GF3340-0HT01</td></tr></table>	SIMATIC MV320	6GF3320-0HT01	SIMATIC MV340	6GF3340-0HT01
SIMATIC MV320	6GF3320-0HT01				
SIMATIC MV340	6GF3340-0HT01				

INOXフレームシステム

INOXフレームと保護フィルムを組み合わせることで、内蔵機器の保護等級をIP69まで高めることができます。INOXフレームと抗菌保護フィルム(限定的な破片保護も提供)により、HMIデバイスは、たとえば食品、飲料、タバコ業界や製薬業界の一部の分野で使用できます。

詳細情報と重要な注意事項については、インターネット
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109806812>)で参照できます。

追加のUSBの付属品

追加のUSBの付属品は、インターネットの次のエントリで参照できます。

FAQ 19188460 (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/19188460>)

その他の付属品

SIMATIC HMIデバイスの追加の付属品については、インターネットの次のリンクで参照できます。

付属品 (<https://mall.industry.siemens.com/mall/en/WW/Catalog/Products/10144445>)

1.6 操作プロセスにおけるHMIデバイス

HMIデバイスは、技術的プロセスの一部です。HMIデバイスを操作プロセスへ統合する方法で、以下の2つのフェーズが重要です。

- 設定
- プロセス管理

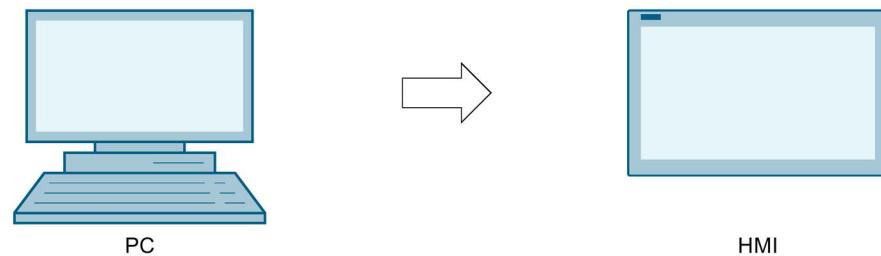
設定

設定フェーズ中に、WinCCを搭載する設定PCに対する技術的プロセスを操作および監視するユーザーインターフェースを作成します。プロジェクト設計は、次で構成されています。

- プロジェクトデータの作成
- プロジェクトデータの保存
- プロジェクトデータの検証
- プロジェクトデータのシミュレーション

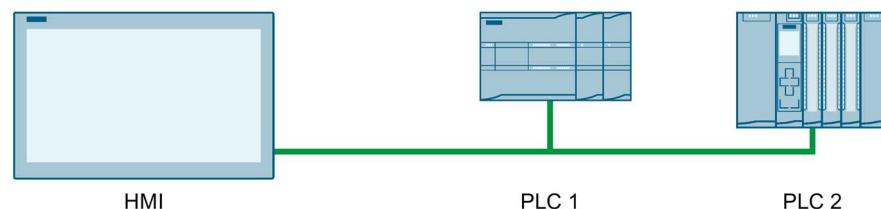
転送

設定のコンパイル後、プロジェクトをHMIデバイスにダウンロードします。



プロセス管理

プロセス管理は、HMIデバイスとコントローラ間の双方向通信として表されます。



次に、HMIデバイスを使用してプロセスを操作および監視します。

1.7 アプリとソフトウェアのオプション

SIMATIC Apps

「SIMATIC Apps」の下に、SiemensがHMIデバイス用に特別に開発したアプリがあります。

SIMATICアプリ	説明
SIMATIC Edge	「SIMATIC Edge」を使って、HMIデバイスでローカルエッジ管理Webページを起動します。

Add-ons

「Add-ons」の下には、Siemensが開発したものではないアプリが表示されます。以下のアプリは、HMIデバイスにライセンスフリーで事前にインストールされています。

アプリ	説明
Doc Viewer	「Doc Viewer」では、テキストやWordファイルなどのドキュメントを表示および編集できます。
E-Mail Client	「E-Mail Client」では、電子メールアカウントを接続して電子メールを送受信したり、別のアプリからメールファイルをインポートすることができます。
File Browser	「File Browser」では、HMIデバイスでファイルの表示および管理が可能です。
Media Player	「Media Player」を使用して音声と動画ファイルを再生できます。
PDF Viewer	「PDF Viewer」を使用してPDFドキュメントを表示できます。
Printer Configuration	「Printer Configuration」では、事前にインストールしたプリンタの表示および管理やプリンタのさらなる追加が可能です。
Smart Client	「Smart Client」アプリを使用して、別のデバイスのSmart Serverに接続したり、このデバイスを監視または操作したりできます。
Web Browser	「Web Browser」はインターネットへのアクセスを提供します。

「SIMATIC Apps」、「Add-ons」および「App Management」に関するその他の情報は「Apps (ページ 159)」のセクションを参照してください。

ソフトウェアオプション

アプリの他にも、HMIデバイスでは、以下のソフトウェアオプションを使用できます。オプションには通常、バージョンに依存しないライセンスキーがあります。利用可能なソフトウェアオプションについては、インターネット (<https://mall.industry.siemens.com/mall/en/us/Catalog/Products/10367281>)に記載されています。

安全対策注意事項

2.1 一般的な安全に関する注意事項

このデバイスは、プラントプロセスの操作とモニタリング用に、産業領域で操作するために設計されています。

デバイスのドキュメントの安全情報に加え、お使いのアプリケーションに適用される安全および事故防止指示に従ってください。

オープン型装置



このデバイスは、背面オープン型装置を構成します。

このデバイスは、背面オープン型装置を構成します。つまりデバイスは、デバイスの操作を前面パネルで行う筐体またはキャビネットに統合される必要があります。この筐体またはキャビネットは、感電や火災から保護されている必要があります。この筐体またはキャビネットは、関連する用途において、機械的強度および保護等級の要件を満たす必要があります。

本デバイスが設置されている筐体あるいはキャビネットには、キーまたはツールを使ってのみアクセスすることができ、資格を有する作業者だけがアクセスすることができるようにしてください。



制御キャビネットが開いている場合の感電死のリスク

制御キャビネットを開くと、特定のエリアやコンポーネントに危険な電圧が存在します。

こうしたエリアやコンポーネントに触れると、感電死する恐れがあります。

必ず開く前にキャビネットと主電源を外してください。プラントの動作中に、プラントのコンポーネントを着脱しないでください。

プラントまたはシステムの安全



安全は組立担当者の責任です

プラントまたはシステムの安全機能を機器に導入することは、プラントまたはシステムの組立担当者の責任です。

ESD



静電気に敏感なデバイスには、電子コンポーネントが搭載されています。構造的な理由で、電子コンポーネントは過電圧に対してだけでなく、静電放電に対して敏感です。ESDに対処するときは、対応する規定を順守してください。

安全対策注意事項

2.1 一般的な安全に関する注意事項

サイバーセキュリティ機能に関する情報

シーメンスは、セキュアな環境下でのプラント、システム、機械およびネットワークの運転をサポートする産業用サイバーセキュリティ機能を有する製品およびソリューションを提供します。

プラント、システム、機械およびネットワークをサイバー脅威から守るために、総体的かつ最新の産業用サイバーセキュリティコンセプトを実装し、それを継続的に維持することが必要です。シーメンスの製品とソリューションは、そのようなコンセプトの要素を形成します。

お客様は、プラント、システム、機械およびネットワークへの不正アクセスを防止する責任があります。システム、機械およびコンポーネントは、企業内ネットワークのみに接続するか、必要な範囲内かつ適切なセキュリティ対策を講じている場合にのみ（例：ファイアウォールやネットワークセグメンテーションの使用など）インターネットに接続することとするべきとシーメンスは考えます。

産業用サイバーセキュリティ対策に関する詳細な情報は、
www.siemens.com/cybersecurity-industry (<https://www.siemens.com/industrialsecurity>) をご覧下さい。

シーメンスの製品とソリューションは、セキュリティをさらに強化するために継続的に開発されています。シーメンスは、製品の更新プログラムが利用可能になり次第すぐにこれを適用し、常に最新の製品バージョンを使用することを強くお勧めします。サポートが終了した製品バージョンを使用すること、および最新の更新プログラムを適用しないことで、お客様のサイバー脅威にさらされる危険性が増大する可能性があります。

製品の更新プログラムに関する最新情報を得るには、[https://www.siemens.com/cert](http://www.siemens.com/cert) (<https://www.siemens.com/cert>) よりシーメンス産業用サイバーセキュリティ RSS フィードを購読してください。

サードパーティ製ソフトウェアの更新に関する免責事項

この製品にはサードパーティのソフトウェアが含まれています。Siemens Aktiengesellschaftは、サードパーティ製ソフトウェアの更新/パッチに対する保証を、シーメンスソフトウェア更新サービス契約の一部としてそれらが配布されている場合、またはSiemens Aktiengesellschaftによって正式にリリースされている場合にのみ提供します。それ以外の場合は、更新/パッチは、ユーザーご自身の責任で適用することになります。当社のソフトウェアアップデートサービス提供に関する詳細な情報は、インターネットのソフトウェアアップデートサービス (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109759444>) を参照してください。

管理者アカウントの保護に関する注意

管理者権限を持つユーザーは、システムにおける広範囲に及ぶアクセス権および変更権限を有しています。

そのため、承認なく変更が加えられるのを避けるため、管理者アカウントを保護するために適切な措置を講じる必要があります。これを行うため、安全なパスワードを使用し、通常の操作には標準のユーザーアカウントを使用するようにします。その他の措置として、必要に応じて、セキュリティポリシーなどを使用することもできます。

2.2 HMIデバイスのセキュリティ管理

データの安全性

外部ソースからのデータ

HMIデバイスには外部のインターフェースがあり、インターネットに接続できます。エッジ管理では、あらゆるソースからアプリをインストールすることができます。

信頼できないソースからのデータには、大きなセキュリティ上のリスクが伴います。

お客様は、信頼できるソースからのデータのみをHMIデバイスに転送すること、およびHMIデバイスでは信頼されたファイルおよびWebページのみを開くことに責任があります。

パスワードの入力

外部のキーボードを使ってパスワードを入力する場合、キーロガーにより知らずにパスワードが記録され、転送される場合があります。

パスワードの入力には、HMIデバイスのスクリーン上のキーボードのみを使用してください。

外部データストレージメディアへのデータのバックアップ

HMIデバイスのデータは、外部インターフェースを使ってUSBまたはSDストレージメディアに保存できます。

お客様は、外部ストレージメディアに保存されたHMIデバイスのデータを不正なアクセスから保護する責任があります。たとえば、外部ストレージメディアに対して適切な暗号化またはパスワード保護を使用します。外部ストレージメディアは安全な場所に保管してください。

追加情報

HMIデバイスのセキュリティ管理に関する詳細については、インターネットの次のアドレスで参照できます：

パネルセキュリティガイドライン

(<https://support.industry.siemens.com/cs/de/en/view/109481300>)

2.3 データ保護

Siemensは、データ保護ガイドラインを順守しています。特に、データ最小化に関する要件を順守しています(設計によるプライバシー)。これは、このSIMATIC製品に従うこと意味しています。

個人データの処理

この製品は、次の個人データを収集および処理します。

- ユーザー名(つまりログインデータ)。姓や名が直接含まれたり、姓や名への参照が確立されたりする可能性があります。
- タイムスタンプ:ログイン、ログオフおよびアクセスの日時
- 位置データ(タイムゾーン)

- デバイス名
- IPアドレス
- オプション:ユーザー管理では、次の個人データを追加できます。
 - 姓名
 - コメント

ユーザーがこのデータを他のデータ(例、シフト計画)に関連付ける場合またはユーザーが個人情報を同じ媒体(例、USBフラッシュドライブ)に保存して、プロセスへの個人参照情報を作成する場合、ユーザーはデータ保護に関するガイドラインを順守する必要があります。

目的

上記のデータは以下の目的で必要です。

- アクセス保護と安全対策(例: ログイン)
- プロセスの同期と整合性(タイムゾーン情報など)
- プロセスの追跡可能性と検証のためのアーカイブシステム(アクセスタイムスタンプなど)
- 追跡可能性と可用性のためのアラームシステム(電子メール通知など)

許可されたオペレータとプロセスイベントを識別することが不可欠であるため、データの保存は適切かつ必要なものに限定されます。

データ設定

お客様は、製品を介して収集されるデータを次のように設定できます。

- プロセス画像にデータを表示する
- レポート形式でのデータ出力(例: 印刷用または電子ファイルとして表示用)
- KPI分析などのためのグラフ形式でのデータ収集と評価

データの削除

本製品では上記のデータを自動的に削除する機能は提供しておりません。

必要に応じて、ファイルブラウザから手動で削除することもできます。

たとえば、デバイスを廃止する前などにすべてのデータを削除するには、次の手順に従います。

1. HMIデバイスに接続されているすべての記憶媒体を取り外します。
2. これらの記憶媒体をフォーマットします。
3. デバイスを出荷時設定(ページ 185)にリセットします。

データのバックアップ

上記のデータは、アクセスやイベント識別の目的を達成できないため、匿名または仮名化されて保存されることはありません。

ユーザーは、次のデータバックアップオプションに関して、プロセス設定の一部としてアクセス保護を確保する必要があります。

- 外部記憶媒体またはネットワークドライブに保存する
- バックアップ機能(ページ 149)を使用して保存する

2.4 Unified Comfort Panelのデータ

欧州データ戦略の重要な要素であるEUデータ法は、2024年1月11日に施行されました。

以下の情報は、SIMATIC HMIデバイスが生成し、ユーザーがアクセスできるデータの概要を示しています。

データの種類、形式、推定範囲、保存場所、保存期間

次の表は、HMIデバイスで生成され保存される、製品データの種類、形式、推定範囲、保存場所、および保存期間を示しています。

外部記憶媒体として、Siemensによってテストされた次のデータ記憶媒体が推奨されます。

- SIMATIC HMIメモリカード(32 GB)、品番: 6AV6881-0AP40-0AA0
- SIMATIC HMI USBフラッシュドライブ(32 GB)、品番: 6AV6881-0AS42-0AA1

したがって、次の表では最大推定範囲として32 GBが指定されています。他のSDおよびUSB記憶媒体を使用する場合は、最大容量を考慮する必要があります。

一般的には次が適用されます。このデータの範囲は設定の複雑さによって異なり、対応する記憶媒体の自由に使用可能なメモリに制限されます。

データタイプ	フォーマット	推定範囲 / 使用可能メモリ	保存場所	保存期間	
認証	バイナリ形式	3 KB ~ 10 MB	フラッシュメモリ	内部	定常的
ユーザーデータ	バイナリ形式	5 KB ~ 2 GB	フラッシュメモリ	内部	定常的
実行時データ(アラームなど)	バイナリ形式	5 KB ~ 1 GB	RAM	内部	デバイスの操作中
トレースロガー	テキスト形式	1 KB ~ 32 GB	SDカード/USB記憶媒体	外部媒体	定常的
バックアップ	バイナリ形式	3 GB ~ 5 GB	SDカード/USB記憶媒体	外部媒体	定常的
ログ(タグやアラームのログなど)	バイナリ形式 (例: SQLite)	1 KB ~ 32 GB	SDカード/USB記憶媒体	外部媒体	定常的
パラメータセット(レシピデータ)	バイナリ形式	10 KB ~ 12 MB	フラッシュメモリ	内部	定常的
		10 KB ~ 32 GB	SDカード/USB記憶媒体	外部媒体	定常的
ローカルユーザ管理	バイナリ形式	1 MB ~ 10 MB	フラッシュメモリ	内部	定常的
			SDカード/USB記憶媒体	外部媒体	定常的

継続的かつリアルタイムのデータ生成

HMIデバイスは、継続的かつリアルタイムでデータを生成できます。データの取得は操作全体を通じて継続的に行われます。

リモートデータ記憶

HMIデバイスは生成されたデータを別のデバイスまたはリモートサーバーに保存することはありません。

データへのアクセス/取得

次の表は、ユーザーがデータにアクセスして取得する方法を示しています。

データタイプ	アクセス/取得方法	利用規約	サービス品質
プロジェクト	ランタイムソフトウェア	転送パスワードによる認証	暗号化されたデータ転送が可能
認証	リモートソフトウェア、HMIデバイスのコントロールパネル	証明書の暗号化パスワードによる認証	暗号化可能
ユーザーデータ	HMIデバイスのファイルブラウザ	コントロールパネルログインによる認証	デバイスへの直接アクセス、パスワード
実行時データ(アラームなど)	ランタイムソフトウェア	コントロールパネル/ランタイムログインによる認証	デバイスへの直接アクセス、パスワード
トレースロガー	HMIデバイスのドキュメントビューア、PC上のテキストプログラム	コントロールパネルログインによる認証	記憶媒体への直接アクセス、パスワード
バックアップ	HMIデバイスのコントロールパネル	コントロールパネルログインによる認証	記憶媒体への直接アクセス、パスワード
ログ(タグやアラームのログなど)	ランタイムソフトウェア	コントロールパネル/ランタイムログインによる認証と対応する操作要素でのランタイム承認	記憶媒体への直接アクセス、パスワード
パラメータセット(レシピデータ)	ランタイムソフトウェア	コントロールパネル/ランタイムログインによる認証と対応する操作要素でのランタイム承認	デバイスまたは外部記憶媒体への直接アクセス、パスワード
ローカルユーザー管理	HMIデバイスのコントロールパネル	「ユーザー管理」機能権限を持つコントロールパネル経由の認証	デバイスへの直接アクセス、パスワード

データの削除

作業メモリ内のデータの削除

デバイスの電源をオフにすると、HMIデバイスRAM内のすべてのデータが削除されます。

内部フラッシュメモリ内のデータの削除

HMIデバイスでは、[File Browser]アプリを介してデータを削除できます。

デバイスを工場出荷時の設定にリセット(ページ 185)して、HMIデバイスのフラッシュメモリ内のすべてのデータを完全に削除します。操作説明書の指示に従います。

外部記憶媒体上のデータの削除

HMIデバイスでは、[File Browser]アプリを介してデータを削除できます。または、記憶媒体をPCに接続し、そこからデータを削除してください。

外部記憶媒体(メモリカードやUSB記憶媒体)上のデータを回復不能に削除するには、次の手順に従います。

1. HMIデバイスの外部記憶媒体を取り外します。
2. 記憶媒体をPCに接続します。
3. PC上で記憶媒体をフォーマットします。

2.5 使用についての注記事項

通知

HMIデバイスは屋内使用専用として承認されています。

HMIデバイスは屋外で操作すると損傷することがあります。

HMIデバイスは屋内でのみ操作してください。

注記

通常の大気環境でのみデバイスを操作する

通常の大気条件かつ通常の空気組成でデバイスを操作すると、操作説明書に記載されているデバイスの技術的特性が保証されます。

注記

このデバイスは、IEC/EN 61131-2またはIEC/EN/UL 61010-2-201に従って乾燥環境、つまりデバイス背面の乾燥環境のSELV/PELV回路の操作向けに設計されています。

その他の情報は「動作条件 (ページ 202)」セクションを参照してください。

工業用アプリケーション

HMIデバイスは、工業用アプリケーション向けに設計されています。次の規格に準拠しています。

- 干渉放射に対する必要条件EN IEC 61000-6-4:2019
- 妨害電波防止に対する必要条件EN IEC 61000-6-2:2019

混合使用ゾーンでの使用

特定の条件下で、混合使用ゾーンでHMIデバイスを使用できます。混合使用ゾーンは、住居地域への大きな影響を与えないハウジングおよび実機オペレーションに使用されます。

HMIデバイスを混合使用ゾーンで使用する場合、無線周波数妨害電波の放射に関する汎用規格EN 61000-6-3の制限事項を順守していることを確認する必要があります。混合使

2.5 使用についての注記事項

用ゾーンでの使用のためにこれらの制限を満たすための適切な措置には、次が含まれます。

- 接地された制御キャビネットにHMIデバイスを取り付ける
 - 電源ラインにフィルタを使用
- 個別の承認が必要です。

住宅地域内での使用

注記

HMIデバイスは、住宅地域での使用には適しません

HMIデバイスは、住宅地域での使用には適しません。HMIデバイスを住宅地域で使用すると、ラジオやTVの受信に悪影響を及ぼす恐れがあります。

追加対策を施した使用

以下の場所では、追加の対策なしでHMIデバイスを使用することはできません。

- 電離放射線の放射程度が高い場所
- たとえば以下の原因などで、使用条件が過酷な場所
 - 腐食性蒸気、ガス、油、または化学薬品
 - 高強度の強力な電界または磁界
- 以下のような特殊なモニタリングが必要な場所:
 - エレベータ
 - 危険の高い区域

TFTディスプレイ

通知

バーンイン効果

2色またはマルチカラーの画像が永久的に表示されると、バーンイン効果が生じ、画像が特定時間薄暗く表示される場合があります。画像のバーンインが長いほど、画像が長く表示されます。極端な場合は、画像が永久的に表示されます。

通常、スクリーンの電源をしばらく切った状態にすると、画像の輪郭は自然に消えます。バックライトがオンのときにアクティブブラックを使用するスクリーンセイバーは、このバーンイン効果を軽減します。

注記

バックライト

動作期間中に、バックライトの明るさは段階的に暗くなっています。次の対策を講じることにより、ディスプレイおよびバックライトの寿命を延長することができます。

- バックライト (ページ 88)の明るさを減らします。
- バックライトの動作時間を順守します。「技術仕様 (ページ 209)」のセクションを参照してください。

2.6 危険領域での使用

次の警告は、危険領域でのEx承認のデバイスを操作する場合に適用されます。



爆発する可能性のある環境でコネクタを差し込んだり、抜いたりしないでください
動作中にプラグインコネクタを着脱すると、フラッシュオーバーのリスクがあります。フラッシュオーバーは、危険区域で爆発を発生させ、死亡または重度のけがにつながる恐れがあります。

24 V DCの電源コネクタ、またはたとえメモリカードでも、危険領域でプラグインコネクタを着脱することは、**禁止**されています。

次の2つの要件のいずれかが満たされるまで、コネクタやメモリカードを着脱しないでください。領域が危険でなくなった場合、あるいはデバイスとそのプラグイン接続の電源が断たれている場合。

デバイスの電源を切るには、開いているすべてのアプリまたは実行中のプロジェクトを閉じ、デバイスの電源をオフにします。

また、爆発の危険がある区域での使用に関する付属のマニュアル、および「マークと承認 (ページ 193)」のセクションにあるEx承認の情報を順守してください。

デバイスの取り付けと接続

3.1 設置準備

3.1.1 納品の確認

梱包内容をチェックして、輸送による損傷がないか外観検査し、付属品がすべて揃っていることを確認します。

注記

破損部品

破損部品は、HMIデバイスに誤動作を発生します。

輸送中に損傷を受けた部品は、取り付けないでください。部品が損傷を受けている場合には、担当の Siemens 代理店にご連絡ください。

HMIデバイスの納品範囲を確認してください。「納品範囲 (ページ 14)」のセクションを参照してください。

追加の文書が、納品範囲に含まれている場合があります。

その文書は、HMIデバイスの一部であり、今後コミッショニングを実行する際に必要です。同梱されているマニュアルはすべて、HMIデバイスの全製品寿命中、保持してください。HMIデバイスの次の所有者またはユーザーに、同梱の関連資料と一緒に渡す必要があります。受け取った文書の補足資料はすべて、操作説明書と一緒に保管しておく必要があります。

3.1.2 動作状況の確認

HMIデバイスの取り付け前に次の事項を順守してください。

1. HMIデバイスの操作に関する規格、承認、EMCパラメータ、技術仕様を習熟します。この情報は次のセクションで説明されています。
 - 「マークと承認 (ページ 193)」
 - 「電磁環境適合性 (ページ 199)」
2. HMIデバイス操作に関する機械や環境状況については、次のセクションを参照してください。
 - 「機械的環境条件 (ページ 201)」
 - 「周囲の気候条件 (ページ 201)」
3. 「使用についての注記事項 (ページ 27)」のセクションにあるHMIデバイスのローカル使用に関する注意事項を順守してください。
4. 許容可能な定格電流を順守してください: +24 V DC

3.1.3 許容取り付け位置

HMIデバイスは、以下の器具への取り付け用に設計されています。

- 取り付けキャビネット
- 制御キャビネット
- スイッチボード
- コンソール

以下の説明では、これらのすべての設置器具を、一般的に"キャビネット"と記述します。

本デバイスは、自己換気型であり、垂直から最大 $+/-35^{\circ}$ の角度で傾斜取り付けすることが承認されています。

通知

過熱による損傷

傾斜取り付けを行った場合、HMIデバイスによる対流が減少するため、動作中の最大許容周囲温度も低下します。

十分な強制換気による対流があれば、傾斜取り付け位置でも、HMIデバイスは垂直取り付けの場合の最大許容周囲温度で動作できます。十分な強制換気を行わない場合は、HMIデバイスが損傷することがあり、認証および保証が無効になります。

このセクションに一覧表示されている作業温度範囲は、HMIデバイスの背面と前面に適用されます。

許容周囲温度に関する詳細情報は、「周囲の気候条件 (ページ 201)」セクションを参照してください。

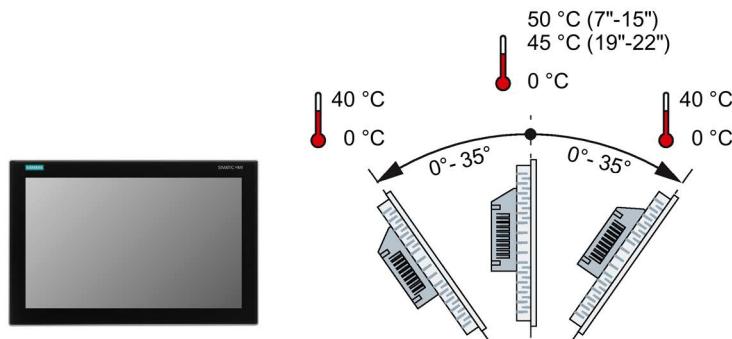
取り付け位置

HMIデバイスは、いずれかの許可された取り付け位置を選択してください。承認された取り付け位置については、MTP1900 Unified Comfort HMIデバイスを例として使用し、以降のセクションで説明します。

3.1 設置準備

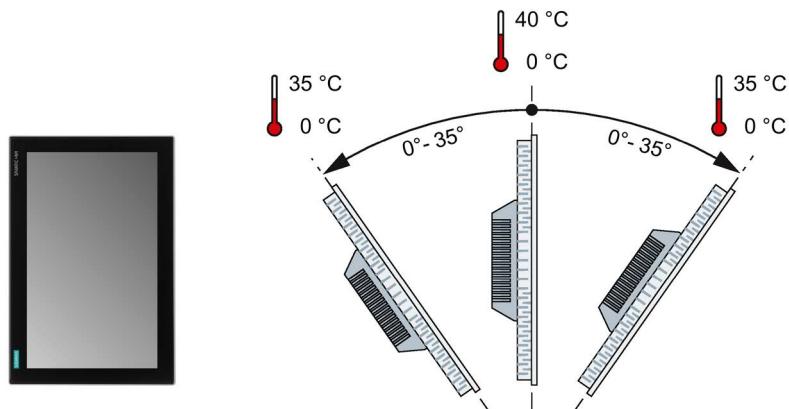
横フォーマット取り付け

Unified Comfort HMIデバイスはすべて、横フォーマットの設置に適しています。



縦フォーマット取り付け

Unified Comfort HMIデバイスはすべて、縦フォーマットの設置に適しています。設定で適切なスクリーンフォーマットを選択します。



下記も参照

天候図 (ページ 202)

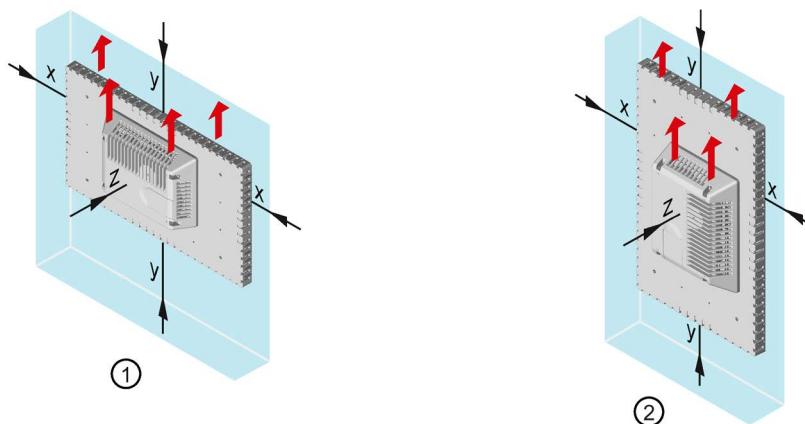
3.1.4

クリアランスの確認

HMIデバイスの周囲に次のクリアランスがないと十分に自己換気できません。

- 取り付け時に取り付けクリップの挿入を可能にするために、取り付けカットアウトの(x方向)の左右両方に対しても少なくとも15 mm
- 換気用に取り付けカットアウトの上に50 mm以上および下に50 mm以上(y軸方向)
- HMIデバイスの背面パネルの裏に最低10 mmの空間(z軸方向)

次の図は、MTP1900 Unified Comfortを例として使用し、HMIデバイスを横フォーマットおよび縦フォーマットで取り付ける場合のクリアランスの例です。



- ① 横フォーマットの取り付けクリアランス
- ② 縦フォーマットの取り付けクリアランス
- x 15 mm以上の距離
- y 50 mm以上の距離
- z 10 mm以上の距離

注記

デバイスをキャビネット、あるいは特に密閉された容器内に取り付ける場合は、最高周囲温度を超えていないことを確認してください。

3.1.5 取り付けカットアウトの準備

注記

安定した取り付けカットアウト

取り付けカットアウト周囲の素材には、HMIデバイスの持続的で安全な取り付けを保証する、十分な強度がある必要があります。

以下の保護基準値を達成するために、取り付けクリップの力またはデバイスの操作によって素材の変形が生じないように注意してください。

保護等級と設置領域

HMIデバイスの保護等級は、次の要件を満たした場合に限り保証されます。

- 保護等級IP65またはType 4X/12 (indoor use only, front face only)で規定されている取り付けカットアウトでの素材の厚さ: 2 mm ~ 6 mm
- 取り付けカットアウト平面からの許容偏差: ≤ 0.5 mm
この条件は、取り付けHMIデバイスに対しても満たす必要があります。
- 取り付けるシールのエリア内の許容表面粗さ: $\leq 120 \mu\text{m}$ ($R_z 120$)
- 設置領域は乾燥していて、埃や潤滑剤などによる汚染がないものとします。

他のHMIデバイスとの取り付けカットアウトの互換性

Unified Comfort HMIデバイスは、ディスプレイサイズが同一の標準のSIMATIC産業用PC、産業用フラットパネルおよび産業用シンクライアントの取り付けが可能です。

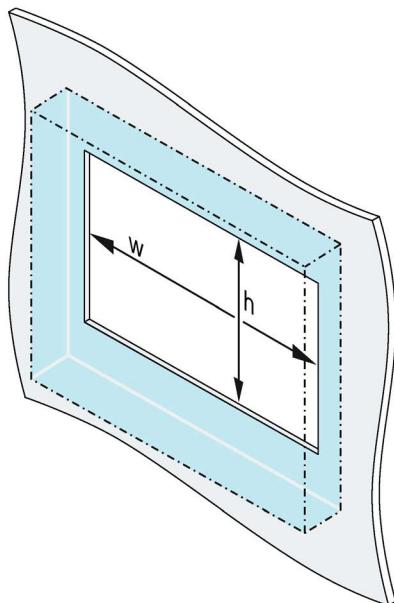
取り付けカットアウトの寸法が同じでも、Unified Comfort HMIデバイスの奥行きが互換性のある装置の寸法と異なる場合があることに注意してください。

また、旧式のデバイスの設置互換性には、以下が適用されます。

HMIデバイス	互換取り付けカットアウト
MTP700 Unified Comfort	TP700 Comfort
MTP1200 Unified Comfort	TP1200 Comfort

ディスプレイサイズが15インチ以上のUnified Comfort HMIデバイスでは、対応するディスプレイサイズのComfort HMIデバイスの取り付けカットアウトに取り付けるため、アダプタフレームを利用できます。「付属品(ページ 17)」のセクションを参照してください。

取り付けカットアウトの寸法



	w 0 ⁺¹	h 0 ⁺¹
MTP700	197	141 mm
MTP1000	264	189 mm
MTP1200	310	221 mm
MTP1500	382	241 mm
MTP1900	448	278 mm
MTP2200	513	315 mm

幅と高さは、縦フォーマットに取り付けるときは、それに応じて逆にします。

3.2 装置の取り付け

3.2.1 取り付けに関する注意

デバイスを設置するまえに、設置位置が以下に準拠していることを確認してください。

通知

IEC 61010-2-201による使用の場合、適切な筐体が必要です。

内蔵されたデバイスの背面は、産業制御機器での使用に関するIEC 61010-2-201により、「Open Equipment」に分類されます。

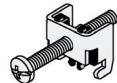
IEC 61010-2-201による承認を受け、使用できるようにするには、デバイスが筐体に設置されているか、またはキャビネットに統合されている必要があります。この筐体またはキャビネットは、感電や火災から保護されている必要があります。この筐体またはキャビネットは、関連する用途において、機械的強度および保護等級の要件を満たす必要があります。

- デバイスは、直射日光を避けた場所に置きます。
- オペレータが使いやすいように、デバイスの位置を決めます。適切な取り付け高さを選択します。
- 設置によって、デバイスの空気口が遮られていないことを確認します。
- 許容された取り付け位置(ページ31)に関する事項を順守してください。

3.2 装置の取り付け

3.2.2 取り付けクリップの位置

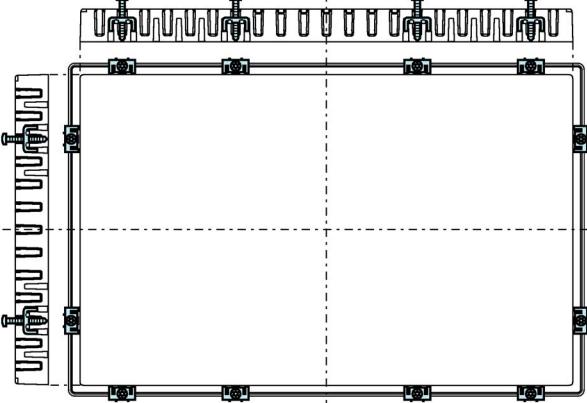
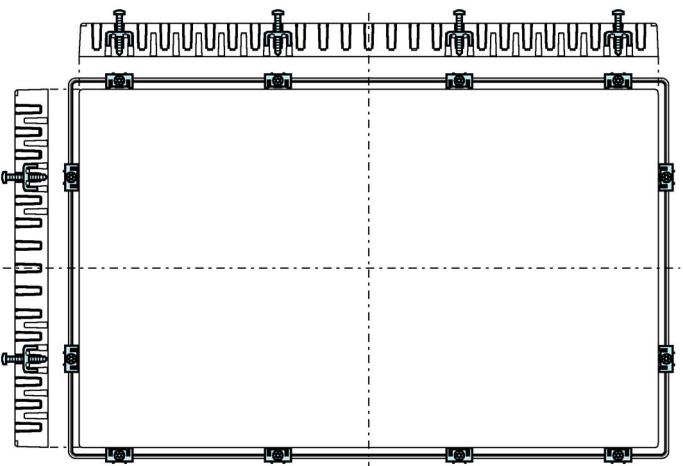
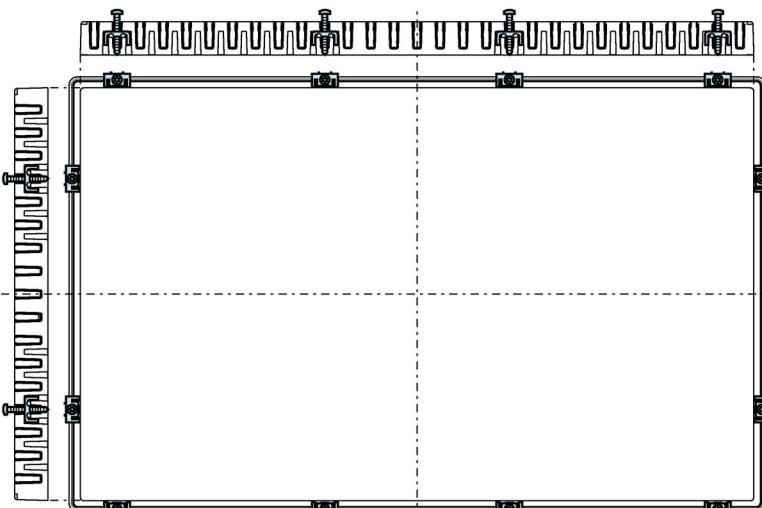
付属品パックの取り付けクリップ(付属品(ページ 17)としても利用可能)を使って内蔵デバイスを固定します。



7インチのデバイスMTP700 Unified Comfortでは、取り付けクリップが7個、その他のデバイスは12個必要です。

IP65保護等級を個々のデバイスで達成するには、下記に示す位置で、取り付けクリップを取り付ける必要があります。

装置	取り付けクリップの位置
7インチ装置	
10インチ装置	
12インチ装置	

装置	取り付けクリップの位置
15インチ装置	
19インチ装置	
22インチ装置	

3.2 装置の取り付け

3.2.3 取り付けクリップを使用した内蔵デバイスの固定

必要条件

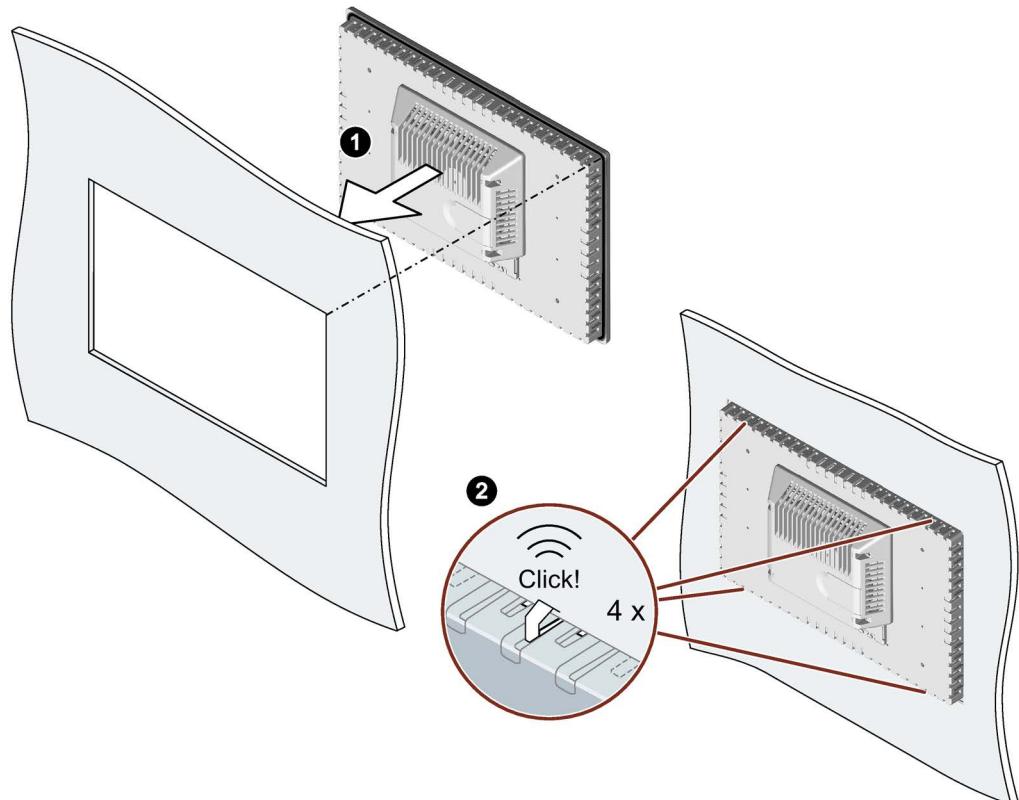
- すべての梱包用部品とカバー ホイルが装置から取り外されていること。
- 次の材料とツールを利用できます。
 - 付属品キットの取り付けクリップ
 - 十字インサートのトルクスクリュードライバー1本(サイズ2)

手順

注記

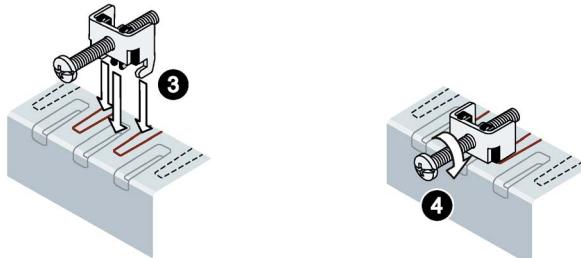
取り付けシールが破損している場合、保護等級は保証できません。

- 正面から、取り付けカットアウトにデバイスを挿入します。



- デバイスの上下4つのスプリングロックがすべて完全に噛み合っていることを確認します。必要に応じて、完全に噛み合っていない場合はデバイスをゆっくりと凹部に押し込みます。

3. 取り付けクリップを、デバイスのカットアウトに挿入します。適切な位置にあることを確認してください。「取り付けクリップの位置 (ページ 36)」のセクションを参照してください。



4. 取り付けクリップを固定するには、スクリュードライバを使用して止めネジを締め付けます(トルク0.5 Nm)。
5. すべての取り付けクリップがしっかりと固定されるまで、ステップ3から4を繰り返します。
6. 取り付けシールの状態を確認してください。

3.3 ストレインリリーフプレートの取り付け

デバイスの納品範囲には、必要な数の固定ねじが付いたストレインリリーフプレートが含まれています。

注記

ディスプレイサイズが12インチ以下のデバイスにストレインリリーフプレートが装着されている場合、ストレインリリーフプレートは、デバイスの外形寸法から突き出ます。ディスプレイサイズが12インチ以下のデバイスのストレインリリーフプレートは、デバイスが設置されてからネジで固定してください。

ディスプレイサイズが15インチ以上のデバイスのストレインリリーフプレートは、デバイスの設置前または後にかかわらずネジで固定することができます。

必要条件

必要なストレインリリーフプレートの取り付け:

- ・ 納品範囲のストレインリリーフ
- ・ 付属の固定ネジ
- ・ T20インサートのトルクスクリュードライバー

3.3 ストレインリリーフプレートの取り付け

12インチ以下のディスプレイを装備したHMIデバイス

付属の2本のネジを使って0.8 Nmのトルクでストレインリリーフプレートをデバイスに固定します。

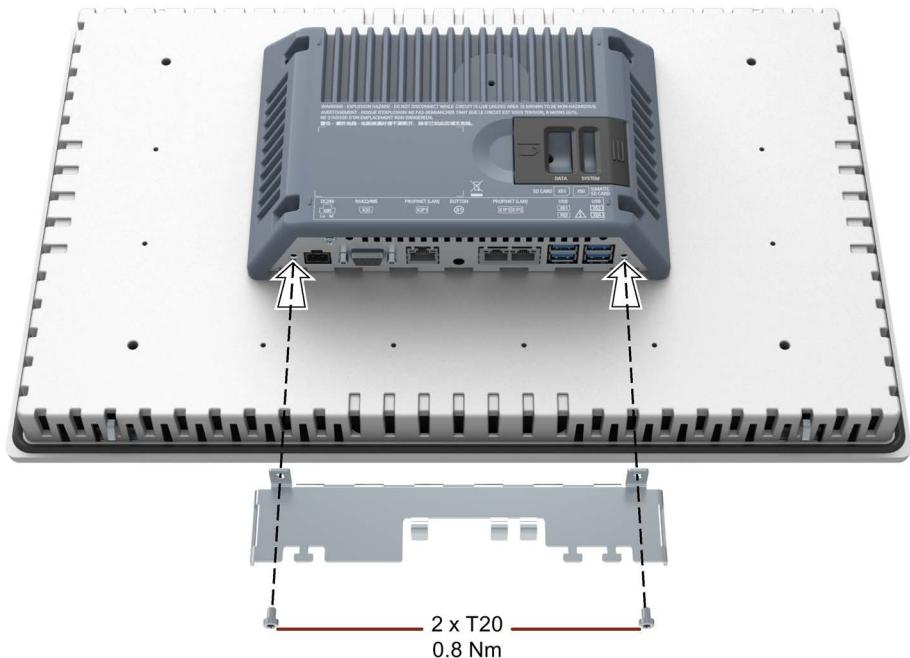
下図は、MTP700 Unified Comfort HMIデバイスを例にした設置を示しています。



15インチ以下のディスプレイを装備したHMIデバイス

付属の2本のネジを使って0.8 Nmのトルクでストレインリリーフプレートをデバイスに固定します。

下図は、MTP1900 Unified Comfort HMIデバイスを例にした設置を示しています。



3.4 デバイスの接続

3.4.1 接続に関する注意

必要条件

- HMIデバイスは、本操作説明書の記載内容に従って、取り付けなければなりません。

ケーブルの接続

シールド標準ケーブルのみをデータ接続ケーブルとして使用してください。注文情報はインターネット (<https://mall.industry.siemens.com>) で確認できます。

注記

他の電気回路からSELV/PELV回路を分離するかケーブルを絶縁します

SELV/PELV回路の配線は、他の非SELV/PELV電気回路から分離するか、すべての導体の絶縁を最も高い電圧に対応した定格にする必要があります。または、接地されたシールドまたは追加の絶縁を、IEC 60364-4-41に準拠して、SELV/PELV回路または他の電気回路の配線の周囲に設置する必要があります。

UL認証の範囲内でのHMIデバイスの使用に関する注意事項:

注記

Use copper cables at connectors with terminal connections

Use copper (Cu) cables for all supply lines that are connected to the device with terminals, e.g. 24 V DC power supply cables to the 24 V DC power supply connectors.

Utiliser des câbles en cuivre sur les connexions à bornes

Utilisez des câbles en cuivre (Cu) pour tous les câbles d'alimentation qui sont raccordés à l'appareil par des bornes, par exemple les câbles d'alimentation 24 V CC sur le connecteur d'alimentation 24 V CC.

接続順序

通知

HMIデバイスの損傷

接続順序に従わない場合、HMIデバイスを損傷することがあります。

以下の順序で、HMIデバイスを接続することは非常に重要です。

1. 等電位ポンディング

2. 電源

パワーアップテストを実行して、電源が適切な極性に接続されていることを確認します。

3. コントローラ

4. 設定PC(必要な場合)

5. I/Oデバイス(必要な場合)

上記の手順の逆順に実行して、HMIデバイスの接続を外します。

ケーブルの接続

通知

地域の設置規則に従ってください

ケーブルの接続時には、電源ケーブルの保護配線など、地域の設置規則や地域の設置条件に従ってください。

通知

ケーブルの熱的安定性や絶縁

最高周囲温度より少なくとも20 °C高い最高許容動作温度でケーブルを使用してください。

ケーブルの絶縁は、動作電圧に適したものである必要があります。

通知

短絡と過負荷保護

プラント全体の設定時には、短絡と過負荷保護に対する別の措置が必要です。構成部品のタイプと保護措置の義務レベルは、プラント設定に適用する規則により異なります。

- ケーブルの接続時に、接続ピンを曲げないよう注意してください。
- ねじでコネクタをソケットに固定して、ケーブルコネクタを固定します。
- すべての接続ケーブルに適切なストレインリリーフを施します。
- ポートのピン割り付けについては、技術仕様を参照してください。

3.4.2 等電位ボンディング

電位差

プラント用コンポーネントの取り付け位置が離れすぎていると、電位差が発生します。その電位差により、大きな均等化電流がデータケーブルに流れて、ポートを破壊することがあります。ケーブルのシールドが両端で接続され、別々のプラント部品で接地されている場合、均等化電流が発生することがあります。

システムを異なる電源に接続すると、電位差が発生することがあります。

等電位ボンディングの一般必要条件

電子システムの関連コンポーネントを問題なく動作させるには、等電位ボンディングを使用して、電位差を少なくする必要があります。等電位ボンディング回路を取り付ける場合は、以下を遵守してください:

- 等電位ボンディング導線のインピーダンスを小さくするか、断面積を大きくすると、等電位ボンディングの効果が高くなります。
- 2つのプラント部品をシールド付きデータケーブルで相互接続し、両端でシールドを接地/保護導線に接続した場合に、追加設置した等電位ボンディングケーブルのインピーダンスは、シールドインピーダンスの10%を超えてはいけません。
- その等電位ボンディング導線の断面積が、最大均等化電流に対応できる必要があります。最小導線断面積が 16 mm^2 の場合、2つの制御キャビネット間に等電位ボンディングケーブルが必要です。
- 銅または亜鉛メッキ鋼製の等電位ボンディング導線を使用します。等電位ボンディング導線と接地/保護導線の間の接触面を大きくし、腐食から保護します。
- 適切なケーブルクランプを使用して、HMIデバイスからのデータケーブルのシールドを、等電位ボンディング端子と同一平面になるように固定します。等電位ボンディング端子は、HMIデバイスにできるだけ近い必要があります。
- 等電位ボンディング導線とデータケーブル間の最低間隔を保って、この両者を平行に配線します。

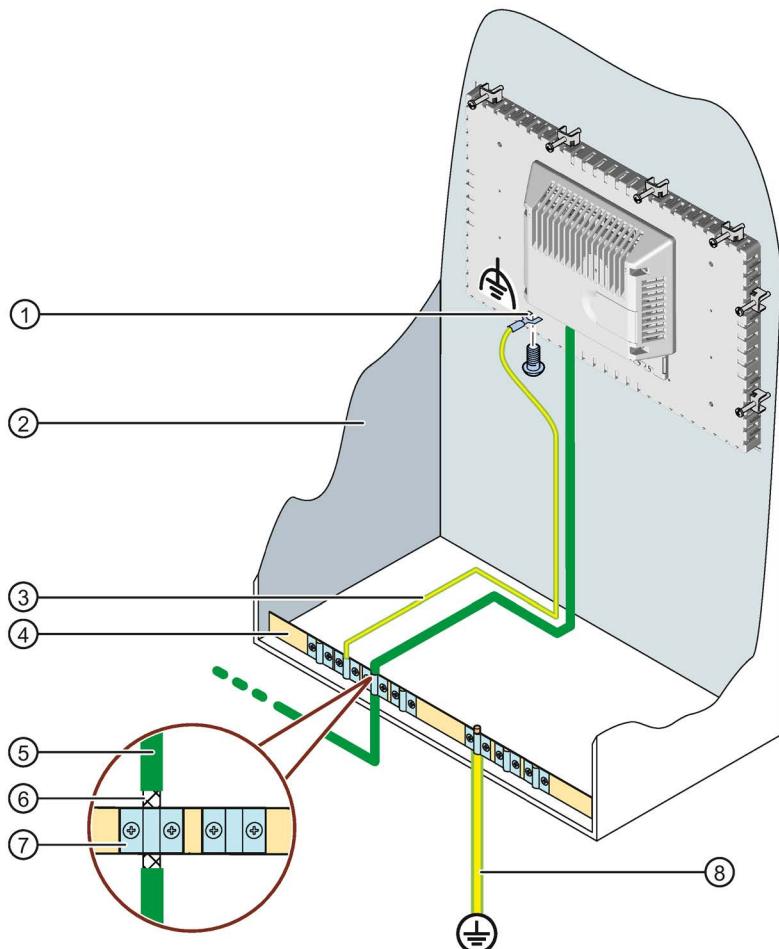
注記

等電位ボンディングケーブル

ケーブルシールドは等電位ボンディングに適していません。これには、所定の等電位ボンディング導線を必ず使用してください。制御キャビネット間の等電位ボンディング導線の断面積は、 16 mm^2 以上である必要があります。アース棒とHMIデバイス間のケーブルの断面積は、 4 mm^2 以上である必要があります。

接続グラフィック

次の図は、MTP1900 Unified Comfortとの等電位ボンディングに対応する機能接地の接続例を示しており、他のUnified Comfort HMIデバイスに同様に適用されます。



- ① 機能接地用の接続。フォークケーブルラグまたはリングケーブルラグ、サイズM4を使用
- ② 制御キャビネット
- ③ 等電位ボンディングケーブル(4 mm^2)
- ④ 等電位ボンディングケーブルの等電位ボンディングレール、接地接続およびデータケーブルのシールドサポート
- ⑤ PROFINETデータケーブル
- ⑥ PROFINETデータケーブルのシールド、等電位ボンディングレールに接続
- ⑦ ケーブルクリップ
- ⑧ アース棒(16 mm^2)

3.4.3 電源の接続

通知
<p>安全な電気的絶縁</p> <p>24 V DC電源の場合、IEC 61010-2-201に準拠した、安全に電気絶縁された電源装置(SELV/PELV)だけを使用してください。</p> <p>電源電圧は指定範囲内でなければなりません。そうでないと、HMIデバイスの誤動作を避けることができません。</p> <p>以下は非絶縁システム設計に適用されます。24 V電源出力からのGND 24 V用コネクタを、等電位ボンディングへ接続して、均一な基準電位にします。端子の中央ポイントを常に選択します。</p>

電源コネクタの接続ケーブル

電源コネクタは、付属品パックに含まれています。

以下の表の仕様に準拠する、電源コネクタに対応するワイヤ端フェルールと合わせてフレキシブルケーブルを使用します。

24 V DC電源コネクタ用のケーブル	仕様
ケーブルタイプ	フレキシブルケーブル(Cu)、ワイヤ端フェルール
接続可能な導線断面積	0.5 ~ 1.5 mm ² AWG*:20 ~ 16
接続ごとのケーブル数	1
ケーブルの剥き長さ	7 ~ 8 mm
DIN 46228に準拠したワイヤ端フェルール	プラスチックスリーブなし 0.5 ~ 1.5 mm ² のプラスチックスリーブ使用
ツール	スクリュードライバ、円すい、3 mm ~ 3.5 mm
接続テクノロジ	スクリュー型端子
締付けトルク	0.5 ~ 0.6 Nm

* American Wire Gauge (米国電線規格)

供給されている電源コネクタと追加で許容されている電源コネクタの詳細については、「付属品 (ページ 17)」のセクションを参照してください。

3.4 デバイスの接続

電源コネクタの接続

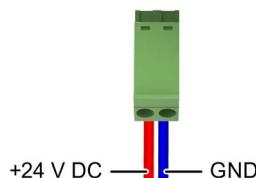
通知

ソケットに損傷を与えないでください。

電源コネクタがHMIデバイスにプラグ接続された状態で、電源コネクタのネジを締めないでください。ドライバからの圧力によって、HMIデバイスソケットが破損することがあります。

電源コネクタがHMIデバイスから外されているときは、電源ケーブルを接続します。

1. HMIデバイスの電源を切ります。
2. 次の図のように、電源ケーブルを電源コネクタに接続します。



3. ディスプレイの対角線が15インチ以上のUnified Comfort Panelの例を利用して、以下の図に示すように、電源コネクタをHMIデバイスの対応するソケットに接続します。



4. HMIデバイスの背面にラベル付けされているインターフェースを使用して、ケーブルの正しい極性を確認します。

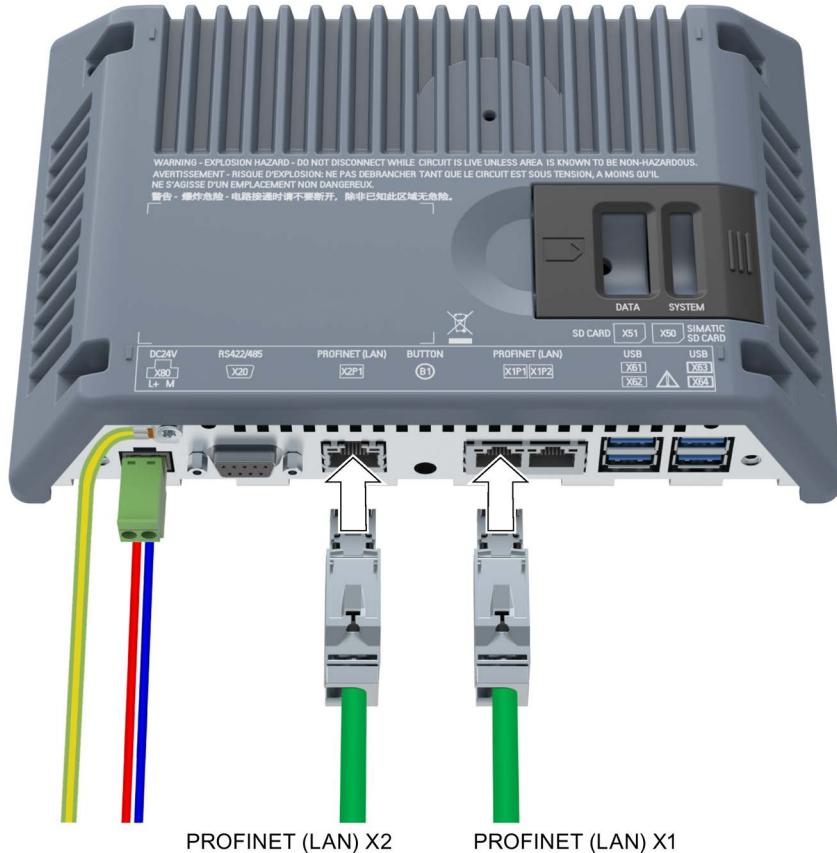
逆極性保護

HMIデバイスは電子逆極性保護が施されていて、これにより、電源ケーブルが不適切に接続されている場合に、デバイスが損傷されるのを防ぐことができます。

3.4.4 設定PCの接続

接続グラフィック

次の図は、HMIデバイスをディスプレイサイズが15インチ以上のUnified Comfort Panelを備えた設定PCに接続する方法を示しています。



手順

以下のように実行します。

1. HMIデバイスをオフにします。
2. 設定PCの電源スイッチを入れます。
3. HMIデバイスをX1またはX2インターフェースで設定PCに接続します。

注記

X2に搭載された技術は、X1インターフェースよりも速いデータ転送速度を実現します。

4. HMIデバイスの電源を入れます。

3.4 デバイスの接続

結果

設定PCとHMIデバイスが接続されます。通信を有効にするには、HMIステーションにIPアドレスを割り付けます。

注記

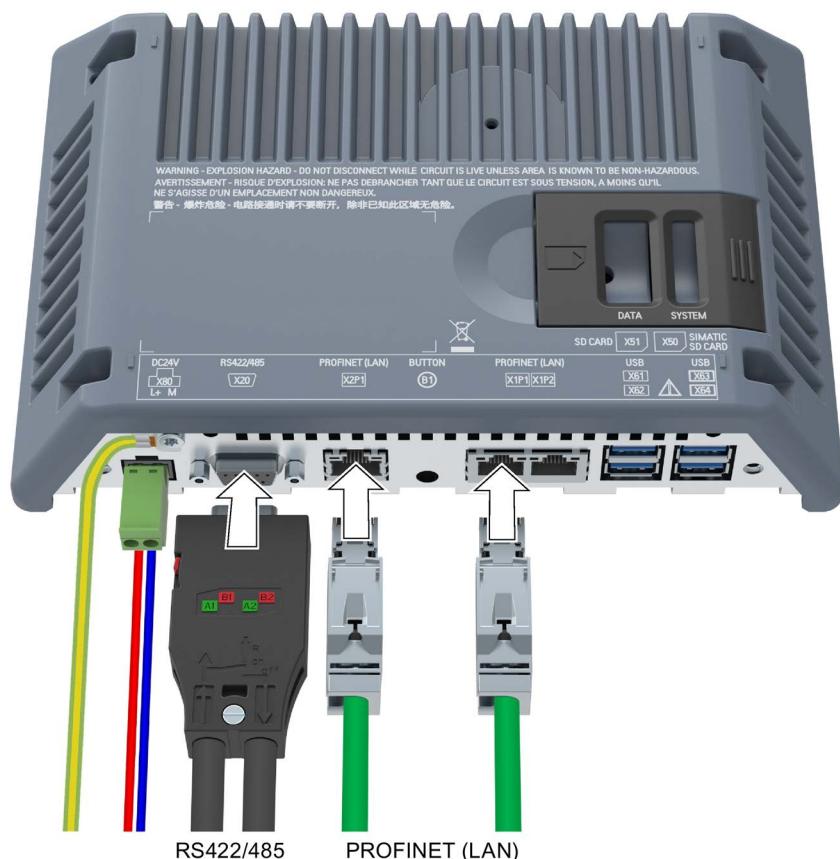
オペレーティングシステムの更新

使用可能なHMIデバイスイメージがHMIデバイスに存在しない場合、オペレーティングシステムを更新するには、2つのPROFINET (LAN)インターフェースのいずれかにより、出荷時設定を復元する必要があります。

3.4.5 コントローラの接続

接続グラフィック

次の図は、ディスプレイサイズが15インチ以上のUnified Comfort Panelを例として、HMIデバイスをコントローラに接続する方法を示しています。



SIMATICプロセス接続には、PROFINET (LAN) X1またはX2インターフェースを使用します。シリアルインターフェースで接続されている他のメーカーのコントローラには、RS 422/485インターフェースを使用します。互換性のあるコントローラに関するその他の情報は「コントローラによる通信 (ページ 215)」のセクションを参照してください。

注記

承認を受けたケーブルのみを使用

SIMATIC S7コントローラの接続用に承認されていないケーブルを使用すると、誤動作が発生することがあります。

SIMATIC S7コントローラとの接続には、認可されたケーブルを必ず使用してください。

注記

ストレート型コネクタのみを使用

可能な場合は常にストレート型ケーブルのみを使用してコントローラに接続します。湾曲したコネクタは隣接するインターフェースを覆ってしまうことがあります。

接続には、標準ケーブルを使用できます。注文情報については、Industry Mall (<https://mall.industry.siemens.com>)を参照してください。

PROFINET

注記

「PROFINETシステムの説明

(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/19292127>)」マニュアルに記載された、PROFINETネットワークの設置に関する指示を順守してください。

インターフェースX1およびX2は両方ともPROFINET基本サービスをサポートしています。

インターフェースX1には内部スイッチがあります。これにより、次の通信参加者を接続したり、X1経由でMRPリングを設定したりできるようになります。

3.4.6 USBデバイスの接続

HMIデバイスのUSBタイプAインターフェースに接続できる産業レベルのデバイスの例は、以下のとおりです。

- 外部マウス
- 外部キーボード
- プリンタ
- USBスティック
- 産業用USB Hub 4、商品コード6AV6671-3AH00-0AX0

- モバイルハンドヘルドリーダー(「バーコードスキャナー」):
 - SIMATIC MV320、商品コード6GF3320-0HT01
 - SIMATIC MV340、商品コード6GF3340-0HT01
- RFIDリーダー:
 - SIMATIC RF1040R、商品コード6GT2831-6CA50
 - SIMATIC RF1060R、商品コード6GT2831-6AA50
 - SIMATIC RF1070R、商品コード6GT2831-6BA50

注記

USBケーブルの最大長1.5 m

1.5 mより長いUSBケーブルでは、安全なデータ転送が保証されません。

ケーブルの長さが1.5 mを超えないようにする必要があります。

注記

USBインターフェースの機能障害

独自の電源のあるUSBデバイスをUSBポートにつなぐ場合は、外部デバイスのUSBアース端子が地面につながれていることを確認してください。

注記

USBインターフェースの過剰な定格負荷

電力負荷が高すぎるUSBデバイスを使用すると、機能障害の原因になることがあります。

USBインターフェースの最大負荷定格値を必ず守ってください。「技術仕様 (ページ 209)」のセクションを参照してください。

注記

データ消失の危険性

USB記憶媒体が取り外されたときに、HMIデバイスがそのデータにアクセスしようとすると、記憶媒体のデータの読み書きが完全に行えず、また破損する場合もあります。

プロセスにより、動作中にUSB記憶媒体を交換する必要がある場合、このことを考慮して、設定に適切なメカニズムを採用する必要があります。

データへのアクセス中には、USB記憶媒体を取り外さないでください。

USBスティックのフォーマット

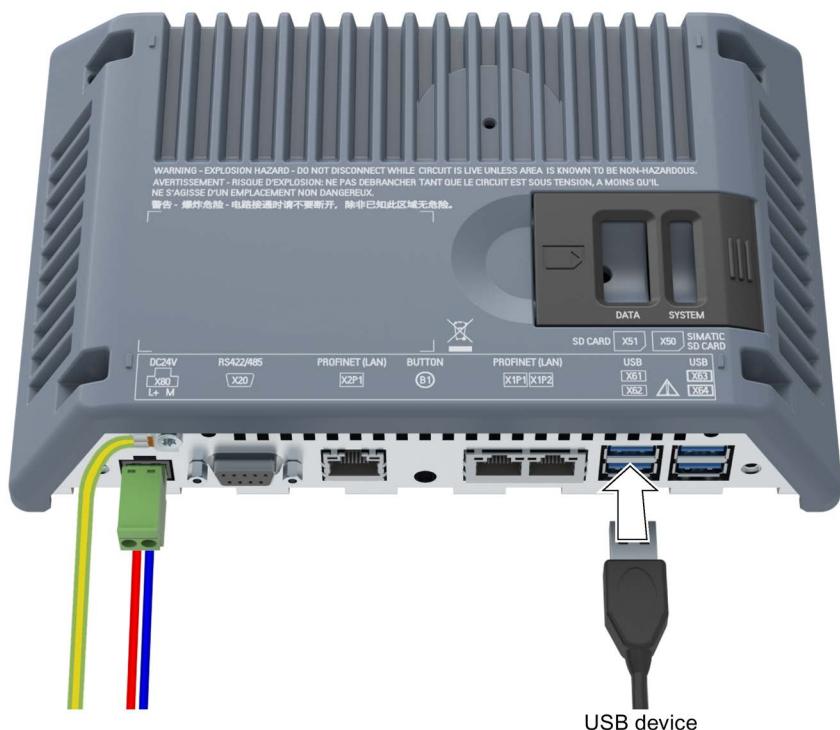
以下のファイルシステムはUSBスティックに対応しています。

- NTFS
- FAT32
- exFAT

「NTFS」フォーマット法は、保存されたファイルのサイズに関してデータの均一性および柔軟性に優れているため推奨します。

接続グラフィック

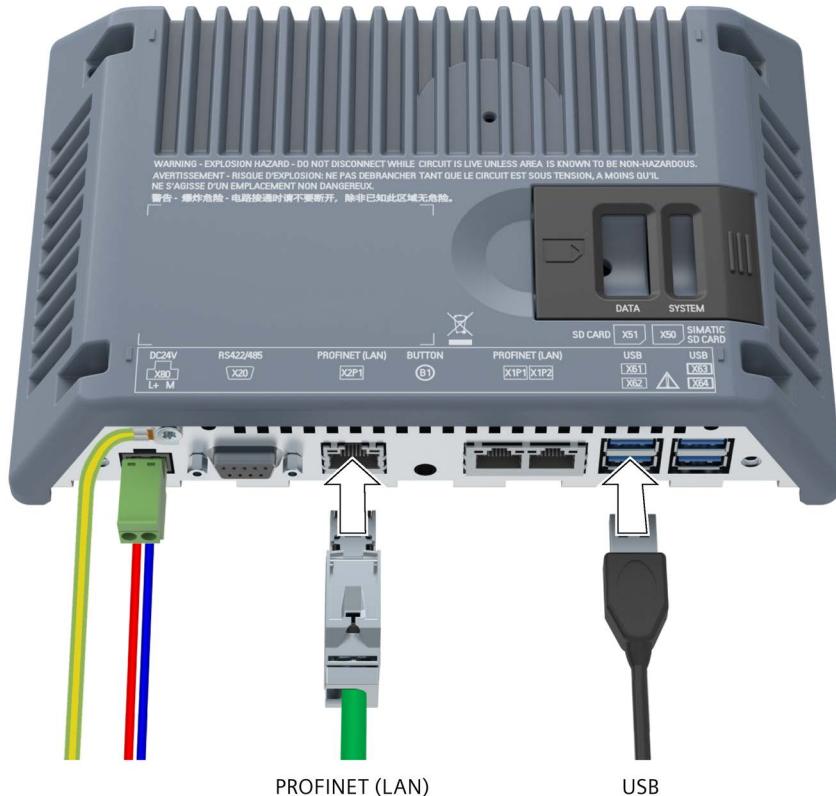
以下の図は、USBデバイスを接続するときの、15インチ以上のスクリーンを装備したUnified Comfort Panelの例を示しています。



3.4.7 プリンタの接続

接続グラフィック

次の図は、ディスプレイサイズが15インチ以上のUnified Comfort Panelを例として、HMIデバイスをプリンタに接続する方法を示しています。



接続時の注意事項

注記

データ交換用ケーブル

金属ネットシールドのないケーブルを、HMIデバイスとプリンタ間に使用すると、機能障害が発生することがあります。

HMIデバイスとプリンタの接続には、両端を接地した金属ネットシールド付きケーブルのみを使用します。

注記

プリンタによっては、プロジェクトで使用するASCII文字セットをプリンタ上でも設定することが必要な場合があります。

プリンタを接続するときは、プリンタに付属しているマニュアルに従ってください。

プリンタの管理

接続されたプリンタは、[External Devices and Input] > [Printers] (ページ 140)で管理されます。

3.4.8 装置の電源投入、テストおよび電源オフ

HMIデバイスの電源投入

1. 電源を投入します。ディスプレイが点灯します。

長期間経過した後にHMIデバイスの起動に失敗する場合、電源コネクタのケーブルが混線している可能性があります。接続ケーブルを確認し、必要に応じて、極性を修正します。

プロジェクトがHMIデバイスで使用できる場合、定義された遅延時間後にプロジェクトが開始されます。

HMIデバイス上にプロジェクトがない場合、[コントロールパネル]が表示されます。



2. 希望する場合、[コントロールパネル]を介してプロジェクトを操作するか、HMIデバイスを設定します。

HMIデバイスが不要になった場合は、電源を切ります。

HMIデバイスの電源を切る

1. HMIデバイスでプロジェクトを閉じます。
2. 電源をオフにします。

3.4.9 ケーブルの固定

起動時テストの後、接続されたケーブルをストレインリリーフで固定します。

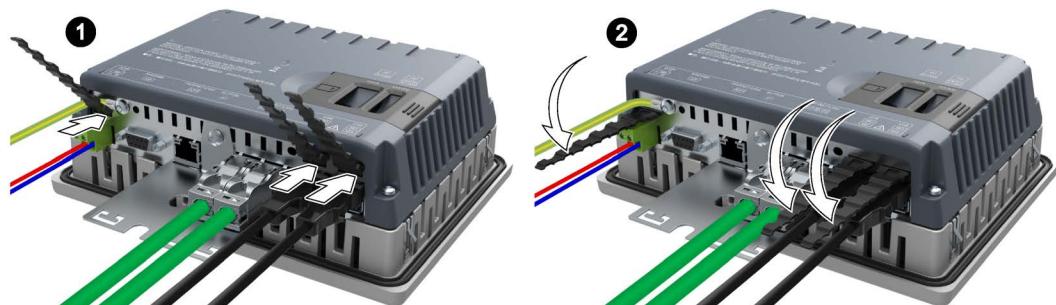
必要条件

ストレインリリーフプレートが取り付けられていること(「ストレインリリーフプレートの取り付け (ページ 39)」セクションを参照)。

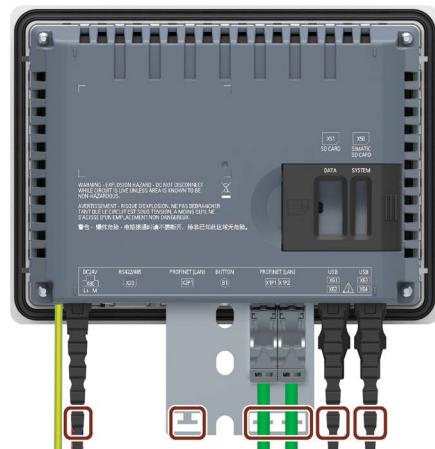
12インチ以下のディスプレイを装備したHMIデバイス

12インチ以下のディスプレイを装備したデバイスの場合、ケーブルをストレインリリーフプレートおよび提供されたプラスチックのストレインリリーフエレメントに固定します。

下記の図では、MTP700 Unified Comfortを例として使用して、プラスチックのストレインリリーフエレメントを取り付ける方法を示しています。



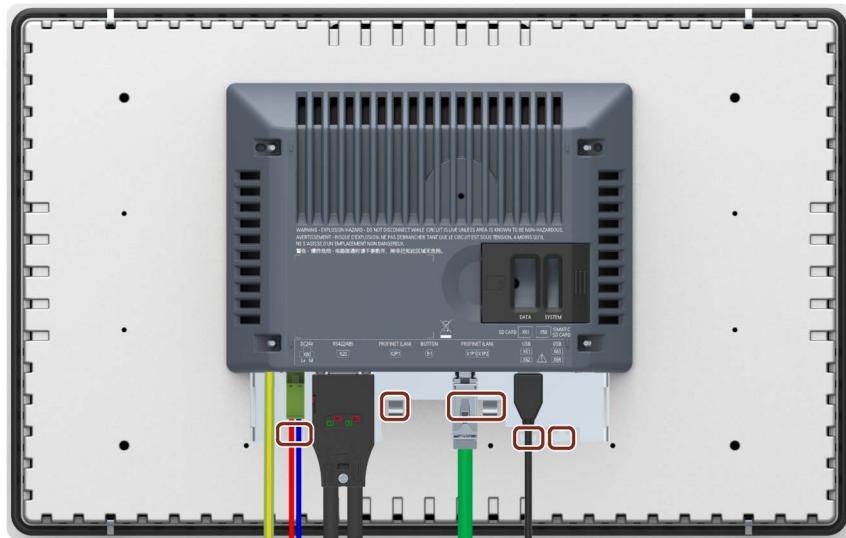
次に、ケーブルタイを使用してケーブルをマークされた固定ポイントに固定します。



15インチ以下のディスプレイを装備したHMIデバイス

15インチ以上のディスプレイを装備したデバイスの場合、ケーブルをストレインリリーフプレートのマークされた固定ポイントに固定します。

下記の図では、MTP1900 Unified Comfortを例として使用して固定ポイントを示しています。



3.4.10 危険領域で使用するケーブルの固定

危険領域でEx(防爆)認証のある装置を使用するとき、コネクタは、インターフェースに係留する仕方で固定される必要があることに注意してください。



警告

コネクタが緩んだときに火花によって爆発が発生する危険があります

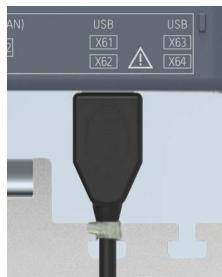
危険領域での操作中に、関連する装置インターフェースからプラグコネクタが外れた場合、インターフェースに発生した火花によって爆発が引き起こされる可能性があります。死亡事故や重傷事故、さらには所有物の損傷を引き起こすことがあります。

危険領域で使用する場合には、ケーブルのプラグコネクタが対応するインターフェースに完全に接続され、どんな場合にもインターフェースから緩むことがないようにする必要があります。SIMATIC HMI Unifiedコンフォートパネルでは、このリスクはUSBインターフェースでのみ存在します。

プラグとケーブルの間の連結部分に直接接続されているすべてのUSBケーブルは、ケーブルタイを使用して直近の取り付けエレメントに固定します。すべてのケーブルタイを締め付けて、対応するケーブルを完全に巻き付けるようにしながらも、ケーブルを損傷しないようにします。

接続されたUSBケーブルを固定するには、前の章で説明されているように、適切な取り付けエレメントを使用します。

下記の図は、係留する仕方でUSBプラグを固定する方法の例を示しています。



3.5 デバイスの削除

HMIデバイスは通常、設置や接続に使用される順序とは逆の順序で削除されます。

手順

以下のように実行します。

1. HMIデバイス上でプロジェクトを実行している場合、この目的のために設定されているHMIデバイスでプロジェクトを閉じます。[コントロールパネル]が表示されるまで待ちます。
2. HMIデバイスの電源をオフにします。
3. HMIデバイスを危険領域で使用する場合、次の要件のいずれかを満たすようにしてください。領域が危険でなくなった場合、あるいはデバイスとそのプラグイン接続の電源が断たれている場合。
4. ストレインリリーフに使用されるHMIデバイスでのケーブルタイをすべて取り外します。
5. すべてのプラグインコネクタと等電位ボンディングケーブルをHMIデバイスから取り外します。
6. HMIデバイスを固定し、取り付けカットアウトから落下しないようにします。
7. 取り付けクリップのねじを緩め、すべての取り付けクリップを取り外します。
8. 取り付けカットアウトからHMIデバイスを取り出します。

下記も参照

デバイスの接続 (ページ 41)

取り付けクリップを使用した内蔵デバイスの固定 (ページ 38)

デバイスの操作

4.1 オペレータ入力オプション

接続されている周辺機器に応じて、次のオペレータ入力オプションが使用可能です。

- 容量性マルチタッチスクリーン
- スクリーンキーボード
- 外部キーボード、USB経由で接続
- 外部マウス、USB経由で接続

操作中に外部キーボードまたはマウスが必要な場合、工業グレードの機器を使用します。工業グレードではない機器は、コミッショニングのみに許可されています。

代替策として、リモートアクセス経由でデバイスを操作またはモニタすることもできます。

- Smart ClientアプリケーションまたはVNCクライアント経由でアクセスします。
「Remote connection (ページ 110)」および「Smart Client (ページ 166)」のセクションを参照してください。
- ブラウザ経由でアクセスします。「HMIデバイスへのWebアクセス (ページ 77)」のセクションを参照してください。

4.2 タッチスクリーンに関する注意事項

1本指または2本指のジェスチャーで容量性マルチタッチスクリーンを操作します。



警告

アース接続がされていないことが原因の人身傷害または物的損傷

接地接続が不適切であるか欠落しているため、容量性マルチタッチスクリーンの誤動作を招くことがあります。機能が適切に動作しないことがあります。その結果、人身傷害や物的損傷が発生することがあります。

- 必ずHMIデバイスを接地導体に接続します。
- HMIデバイスからの接地導体は、低インピーダンスの地面に直接接続される必要があります(短い接続、最小断面積4 mm²)。

アース導体の接続に関する詳細情報は、「等電位ボンディング (ページ 43)」のセクションを参照してください。



誤動作による人身傷害または物的損傷

タッチスクリーンを備えたデバイスの誤操作を避けられなくなります。その結果、人身傷害や物的損傷が発生することがあります。

以下の予防策を講じる必要があります。

- プラントを設定して、タッチスクリーンで安全関連の機能が操作されないようにする。
- プラントスクリーンがHMIデバイススクリーンに表示されている場合、オペレータ操作のみを実行します。
- クリーニングおよびメンテナンスの際はHMIデバイスのスイッチを切ります。

通知

タッチスクリーンの損傷

次のような操作は、タッチスクリーンの耐用年数を大きく縮め、全体的な故障につながることさえあります。

- 先の尖った物やよく切れる物で、タッチスクリーンに触れる
- 硬い物で接点に衝撃を与える

タッチスクリーンに触れる場合には、指かタッチペンのみを使用します。



タッチスクリーンでの不適切なジェスチャーの実行による誤動作の危険

マルチタッチ機能を使用したタッチスクリーンに対して不適切なジェスチャーを実行した場合、これらのジェスチャーは認識されないか、誤って認識される可能性があります。結果として、実行されたエントリがHMIデバイスによって実行されないか、誤って実行されるか、意図しない方法で実行されることがあります。

マルチタッチ機能の不適切な実行は、プラントの操作のエラーを招き、結果として人身傷害を招くことがあります。

容量性マルチタッチスクリーンの操作時の注意事項:

- タッチスクリーンは、圧力ではなく、表面への接触に反応します。
- タッチペンを使用するとき:容量性タッチ用タッチペンのみを使用して、タッチスクリーンを操作してください。
- 意図しないマルチタッチを回避してください(指関節など)。

HMIデバイスを使用する前に、オペレーティングシステムおよびアプリケーションのサポートされているマルチタッチ機能に精通してください。マルチタッチスクリーンでユーザーが実行するジェスチャーがアプリケーションで認識されることを確認してください。あらかじめ特定のジェスチャーを練習することが必要な場合があります。

操作に関する注意

注記

起動中には容量性マルチタッチスクリーンに触れないでください

起動中に、HMIデバイスは容量性マルチタッチスクリーンを自動的にキャリブレーションします。キャリブレーション中は、タッチスクリーンがロックされます。

起動中にはタッチスクリーンに触れないでください起動中に、手のひらをタッチスクリーンの上に置かないでください。

起動中に、タッチスクリーン上に導電性の液体がないようにしてください。

容量性マルチタッチスクリーンの操作時の注意事項:

- オペレータ操作が検出されるには、直径5~20 mmの表面への接触が必要です。
- 材質の厚さが2 mm未満の手袋での操作は、ほとんどの場合検出されます。ただし、使用する手袋が使いやすいか確認してください。
- 正しくない操作を避けるため、特定の入力は無視され、引き続きのエントリがブロックされます。
 - 5本以上の指を使用した同時操作
 - 直径3 cm以上の表面接触。例えば、タッチスクリーン上に手を置いた場合
 - タッチスクリーンに触れなくなるとすぐに入力が再度可能になります。

容量性マルチタッチスクリーンの機能

一般機能

- 一度に最高5本の指のタッチを検出します。
- オペレーティングシステムおよびランタイムソフトウェアによってサポートされるジェスチャーの認識。
- 容量性マルチタッチスクリーンをキャリブレーションする必要はありません。

工業環境でのセキュリティ機能

容量性マルチタッチスクリーンは、次の障害が発生した場合に、セキュリティ上の理由でロックされます。

- 接地されているタッチスクリーン上に筐体やオペレータによって導電性の液体が付けられた。
- デバイスの技術データの仕様を超過する電磁妨害が影響を及ぼした(「電磁環境適合性(ページ 199)」セクションを参照)。

妨害がなくなると、容量性マルチタッチスクリーンはロックされなくなります。

4.3 サポートされるジェスチャー

4.3.1 [コントロールパネル]でサポートされるジェスチャー

次のタッチジェスチャーは、[コントロールパネル]で使用できます。

アイコン	ジェスチャー	動作
	タップ	<ul style="list-style-type: none"> コントロールパネルのナビゲーション領域にエントリを開きます 入力オブジェクト(入力ボックス、オプションボタン、ドロップダウンリストなど)を有効にするには、入力オブジェクトをタップします。
	1本の指で垂直にドラッグ	ウィンドウペインまたはリストで垂直にスクロールするには、1本の指で対応する領域を垂直にドラッグします。
	1本の指で水平にドラッグ	<ul style="list-style-type: none"> コントロールパネルのナビゲーション領域にエントリを開きます ウィンドウペインまたはリストで水平にスクロールしたりスライダを設定したりするには、1本の指で対応する領域を水平にドラッグします。

Apps

HMIデバイスにインストールされたアプリを開くとき、「Web Browser」の「ズーム」および「長押し」機能などの、アプリでサポートされているジェスチャーも使用可能になります。

4.3.2

ランタイムプロジェクトでサポートされるジェスチャー

さまざまなタッチジェスチャーがランタイム操作用に使用可能です。一部のタッチジェスチャーは、プラント画面と操作エレメントで効果が異なります。

注記

3本以上の指での操作はありません。

タッチジェスチャーを使用して操作するとき、1本または2本の指のみを使用します。

タッチジェスチャーで2本以上の指を使用する場合、誤操作を引き起こすことがあります。

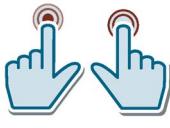
複数の指でのマルチタッチ操作を行う場合、個別に設定されたオブジェクトのみを操作します。

プラント画面でサポートされるタッチジェスチャー

アイコン	ジェスチャー	機能
	タップ	オブジェクトを選択するには、プラント画面で対応する位置をタップします。
	1本の指でドラッグ	画面と一緒にオブジェクトを移動するには、タイトルバーを使用して希望する方向にオブジェクトをドラッグします。
	ズーム	表示を拡大または縮小するには、操作エレメントのない領域を2本の指でドラッグします。
	2本の指でドラッグ	プラントスクリーンのズーム領域を移動するには、操作エレメントが配置されていない領域に2本の指でドラッグします。
	スワイプ	プラント画面間を切り替えるには、1本の指で水平または垂直にスワイプします。タッチ領域は、この機能に対して設定されている必要があります。
	押したまま保持	機能は右クリックに相当します。 右クリックに対して設定されているイベントをトリガするには、オブジェクトまたはリンクを1秒以上長押しします。

操作エレメントでサポートされるタッチジェスチャー

アイコン	ジェスチャー	動作	サポートされるWinCC操作エレメント
	タップ	<ul style="list-style-type: none"> 行を選択するには、行をタップします。 操作エレメントの対応する設定を使用して:セルを選択します。 操作エレメントの対応する設定を使用して:列を並べ替えます。 列を並べ替えるには、列のタイトルをタップします。 トレンドコントロールでは:X/Y軸に沿ってカーブゾーンを拡大します。 必要条件:[ズーム+/-]、[時間軸をズーム+/-]または[値軸をズーム+/-]ボタンが押されていること。 	<ul style="list-style-type: none"> アラームコントロール プロセス制御 トレンドコントロール ルーラーウィンドウ システム診断コントロール パラメータセットコントロール 機能トレンドコントロール
	2本の指でタップする	<p>トレンドコントロールをズームアウトします。</p> <p>必要条件:[ズーム+/-]、[時間軸をズーム+/-]または[値軸をズーム+/-]ボタンが押されていること。</p> <p>タップするときは指の間に少しスペースをあけてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> トレンドコントロール 機能トレンドコントロール
	2本の指でドラッグ	ズームされた表やトレンドなどの画面コンテンツを動かすには、2本の指で操作エレメントの画面をドラッグします。	<ul style="list-style-type: none"> トレンドコントロール プロセス制御 ルーラーウィンドウ ブラウザ
	垂直スワイプ	リストエントリを使用している垂直スクロール	<ul style="list-style-type: none"> ドロップダウンリストボックス

アイコン	ジェスチャー	動作	サポートされるWinCC操作エレメント
	1本の指でドラッグ	<ul style="list-style-type: none"> ルーラを移動します。 X軸またはY軸を移動します <p>必要条件: 「曲線ゾーンを移動」または「軸ゾーンを移動」ボタンが押されているか、操作エレメントが拡大されていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> トレンドコントロール 機能トレンドコントロール
		<ul style="list-style-type: none"> 複数の行を選択します。行をタップし、指を上または下にドラッグします。 操作エレメントの対応する設定を使用して:複数のセルを選択します。 	<ul style="list-style-type: none"> プロセス制御 ルーラーウィンドウ システム診断コントロール パラメータセットコントロール
		列幅を調整するには、列のグリッドラインをタップし、指で左または右にドラッグします。	<ul style="list-style-type: none"> アラームコントロール ルーラーウィンドウ
		ズームされた画面コンテンツを動かすには、1本の指でそれらをドラッグします。	<ul style="list-style-type: none"> ブラウザ スクリーンウィンドウ
	ズーム	操作エレメントの表示範囲内または範囲外をズームするには、2本の指で操作エレメントの画面をドラッグします。	<ul style="list-style-type: none"> トレンドコントロール ブラウザ スクリーンウィンドウ
	両手操作 1本の指で有効化ボタンを押したまま、2本目の指でオブジェクトを操作します。	操作エレメントは、両手操作用に設定できます。つまり、同時に有効化ボタンが押されているときに、オブジェクトのみを操作できることを意味しています。 WinCCでの両手操作の場合、次を設定します: <ul style="list-style-type: none"> プラント画面のセキュリティプロパティで有効化ボタンとして定義されているボタン。 有効化ボタンが押されているときにのみ操作可能になる必要がある、すべての操作エレメントに対応する[明示的な有効化が必要]セキュリティプロパティ。 	

4.4 スクリーンキーボードの使用

HMIデバイスのタッチスクリーン上で入力が必要な操作要素をタップすると、スクリーンキーボードが表示されます。

HMIデバイスには、次のスクリーンキーボードがあります。

- **コントロールパネルのスクリーンキーボード (ページ 65)**

コントロールパネルでは、スクリーンキーボードは固定された位置に固定されたサイズで表示されます。

スクリーンキーボードのレイアウトには、データ入力のためのさまざまなレベルが用意されています。

- **ランタイムのスクリーンキーボード (ページ 68)**

ランタイムを起動すると、スクリーンキーボードがデフォルトの位置に表示されます。

スクリーンキーボードのレイアウトは、コントロールパネルのスクリーンキーボードのレイアウトに対応しています。

追加のコントロールキーを使用して、スクリーンキーボードを移動したり拡大縮小したりできます。

ランタイムを再起動すると、スクリーンキーボードがデフォルトの位置に再度表示されます。

スクリーンキーボードの言語を切り替えるとき、次が適用されます。

- スクリーンキーボードの言語は、ランタイムで設定された言語に対応します。
 - 英語、ドイツ語、中国語(簡体字、繁体字)、フランス語、イタリア語、スペイン語がサポートされています。その他の言語では、英語のスクリーンキーボードが使用されます。
 - 言語を手動で切り替えるには、目的の言語を選択し、スクリーンキーボードを再度開きます。
 - **フローティングスクリーンキーボード (ページ 70)**。アプリでのデータ入力用に設計フローティングスクリーンキーボードは、アプリでのデータ入力に使用できます。データ入力時にスクリーンキーボードが自動的に表示されない場合は、HMIデバイスのタスクバーから開くことができます。
- スクリーンキーボードのレイアウトは、英数字スクリーンキーボード (ページ 65)のレイアウトに対応しています。
- フローティングスクリーンキーボードのサイズは固定されており、左端にある追加のバーを使用して移動できます。

4.4.1 コントロールパネルのスクリーンキーボード

このセクションでは、コントロールパネルのスクリーンキーボードのレイアウトについて説明しています。

英数字スクリーンキーボード

スクリーンキーボードのキーレイアウトは、対応する言語のPCキーボードのレイアウトに基づいています。下記の図では、英語レイアウト([QWERTY])を例として使用してスクリーンキーボードの異なるレベルを示しています。

小文字レベル



<SHIFT>ボタンを使用して大文字レベルに切り替えます。

<&123>ボタンを使用して、特殊文字レベルに切り替えます。

大文字レベル



<SHIFT>ボタンを使用して小文字レベルに切り替えます。

<&123>ボタンを使用して、特殊文字レベルに切り替えます。

4.4 スクリーンキーボードの使用

特殊文字レベル1



<1/2>ボタンを使用して、特殊文字レベル2に切り替えます。

<ABC>ボタンを使用して、最後に使用した文字レベルに切り替えます。

特殊文字レベル2



<2/2>ボタンを使用して、特殊文字レベル1に切り替えます。

<ABC>ボタンを使用して、最後に使用した文字レベルに切り替えます。

数字スクリーンキーボード

入力フィールドに数値を入力する必要がある場合、数字スクリーンキーボードが表示されます。たとえば、入力フィールドが整数型または実数型のタグにリンクされている場合、または入力フィールドに対応する出力形式がある場合がこれに該当します。



注記

16進数値の入力

入力フィールドに16進数を入力する必要がある場合は、英数字のスクリーンキーボードが表示されます。

数値の限界の確認

タグには、限界値を割り付けることができます。この限界値を外れて入力すると拒否されます。アラーム表示を設定すると、システムアラームがトリガされ、元の値が再び表示されます。

実数型の値に対する小数点以下の桁数

設定エンジニアは、数字テキストボックスの小数点以下の桁数を指定できます。このフィールドに値を入力すると、小数点以下の桁数がチェックされ、次のように表示されます。

- 小数点以下の桁数が多すぎる場合、表示される値は次のように丸められます。
 - 表示されていない小数点第1位の数字が0、1、2、3、または4の場合、切り捨てられます。
 - 表示されていない小数点第1位の数字が5、6、7、8、または9の場合、切り上げられます。
- 小数点以下が入力されない場合、「0」で埋められます。

スクリーンキーボードのコントロールキー

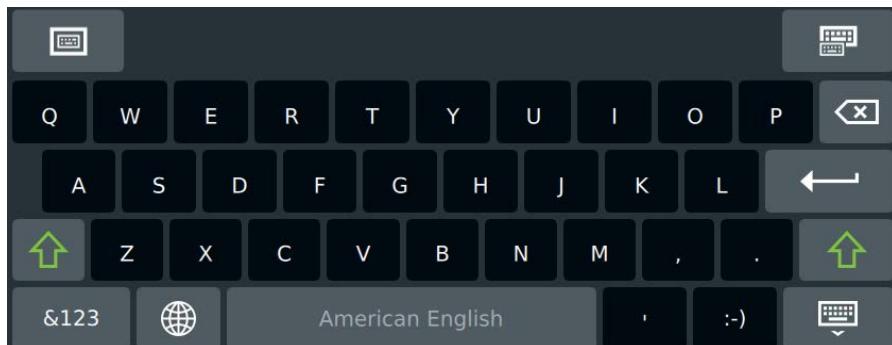
次の表は、スクリーンキーボードに表示できるすべてのコントロールキーを示しています。開いているスクリーンキーボードの種類とレベルに応じて、対応するコントロールキーのサブセットが表示されます。

	カーソルの左側の文字を削除します		入力を確定します。スクリーンキーボードを閉じます
	小文字レベルに切り替えます		大文字レベルに切り替えます
	任意の文字レベルで特殊文字レベル1に切り替えます		言語の切り替え
	特殊文字レベル1で特殊文字レベル2に切り替えます。		特殊文字レベル2で特殊文字レベル1に切り替えます。
	特殊文字レベルで最後に使用した文字レベルに切り替えます		スクリーンキーボードを閉じます。入力を確定します
	有効な入力ボックスでエマージェンシーリンク(省略記号)を作成します		有効な入力ボックスで「顔文字」を作成します

4.4 スクリーンキーボードの使用

4.4.2 ランタイムの画面キーボード

ランタイムで初めて開くとき、またはランタイムを再起動した後、スクリーンキーボードはデフォルトの位置に最大サイズで表示されます。



ランタイム時のスクリーンキーボードのキーボードレイアウトは、[コントロールパネル]のスクリーンキーボード(ページ 65)のキーボードレイアウトとなり、追加のコントロールキーと機能を備えたタイトルバーがあります。

追加のコントロールキーを使用すると、ランタイム時にスクリーンキーボードをデフォルトの位置から解除したり、移動したり、拡大縮小したり、必要に応じてデフォルトの位置に再度固定したりできます。

最後に使用したスクリーンキーボードの位置とサイズが保存されます。再度開くと、保存した位置とサイズでスクリーンキーボードが再び表示されます。

ランタイム時の追加コントロールキー

スクリーンキーボードのタイトルバーでは、次の機能を持つ追加のコントロールキーを使用できます。

	[Undock]:スクリーンキーボードをデフォルトの位置から削除します。 スクリーンキーボードを移動するためのバーが表示されます。 スクリーンキーボードがすでに別の位置に移動されている場合は、その位置に表示されます。
	[Move]:スクリーンキーボードはデフォルトの位置から削除され、バーを使用して別の位置に移動できます。
	[Dock]:スクリーンキーボードはデフォルトの位置に固定されます。スクリーンキーボードを移動するためのバーが表示されなくなりました。
	[Scale]:スクリーンキーボードはジェスチャを使用して拡大縮小したり移動したりできます。 サイズと位置を保存するための[Apply]ボタンが表示されます。 スクリーンキーボードがすでに移動されているかどうかに応じて、次のようにになります。 <ul style="list-style-type: none"> スクリーンキーボードがすでに別の位置に移動されている場合は、その位置に表示されます。 スクリーンキーボードがまだ元のデフォルト位置にある場合(たとえば、ランタイムの開始後)、デフォルト位置から解除されます。 注記:ランタイム時に画面コンテンツを拡大縮小しても、スクリーンキーボードのサイズには影響しません。
	[Apply]:変更されたスクリーンキーボードの拡大縮小と位置が保存されます。

スクリーンキーボードの移動

スクリーンキーボードがデフォルトの位置から解除されている場合は、スクリーンキーボードを移動できます。

[Undock]によるスクリーンキーボードの移動

1. スクリーンキーボードの左上隅にある[Undock]ボタンを押します。



2. [Move]バーを使用して、スクリーンキーボードを希望する位置にドラッグします。

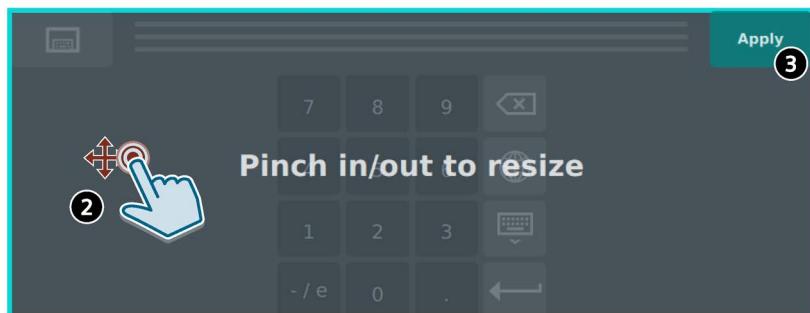


[Scale]によるスクリーンキーボードの移動

1. スクリーンキーボードの右上隅にある[Scale]ボタンを押します。



2. スクリーンキーボードをその境界内かつ[Apply]ボタンの外側の希望する位置にドラッグします。



3. [Apply]で設定を保存します。

4.4 スクリーンキーボードの使用

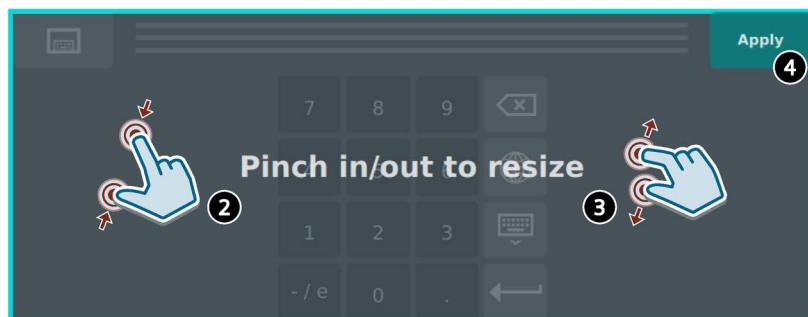
スクリーンキーボードの拡大縮小

- スクリーンキーボードの右上隅にある[Scale]ボタンを押します。



- 必要に応じて、[ズームアウト]ジェスチャを使用してスクリーンキーボードのサイズを縮小します。

初めて開いたとき、またはランタイムを再起動した後は、スクリーンキーボードは最大サイズで表示され、縮小することしかできません。



- 必要に応じて、[ズームイン]ジェスチャを使用してスクリーンキーボードを拡大します。
- [Apply]で設定を保存します。

4.4.3 フローティングスクリーンキーボード

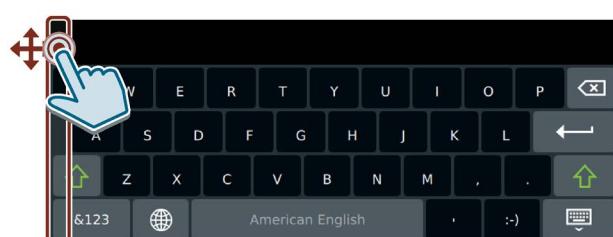
フローティングスクリーンキーボードは、アプリでのデータ入力用に設計されており、ディスプレイ上で最小限のスペースしか必要としません。

HMIデバイスのタスクバーの次のアイコンをクリックして、フローティングスクリーンキーボードを開くこともできます。



フローティングスクリーンキーボードのレベルとボタンは、英数字スクリーンキーボード (ページ 65)のレベルとボタンに対応しています。

さらに、フローティングスクリーンキーボードの位置を移動することもできます。



フローティングスクリーンキーボードを動かすには、フローティングキーボードの左側のバーを希望する位置にドラッグします。

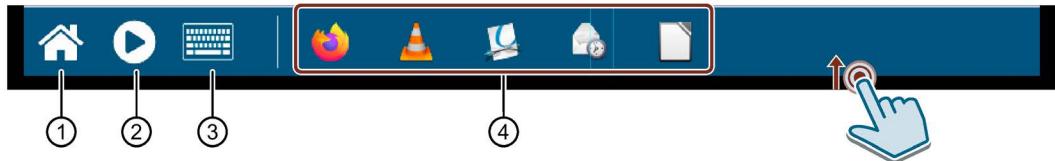
推奨事項: 移動中に不要な入力を避けるには、キーが配置されていない領域でスクリーンキーボードを保持します。

4.5 タスクバーの使用

タスクバーは、機能やアプリに素早くアクセスするために使用できます。

[Taskbar (ページ 95)]の下にある[コントロールパネル]の設定に応じて、タスクバーが使用可能になり、画面の下、上、左または右に表示されます。

画面の縁から中央にスワイプジェスチャーを行うことでタスクバーを開きます。タスクバーで2秒以上操作が行われないと、タスクバーは再度非表示になります。次の図は、画面の下側の縁にあるデフォルト設定[タスクバー有効化]の例を示しています。



- ① ランタイムプロジェクトから[コントロールパネル]を開くためのアイコン。
- ② ランタイムプロジェクトを起動するための[Start Runtime]アイコン。
- ③ フローティングスクリーンキーボードを開くためのアイコン。
- ④ 現在開かれているすべてのアプリのシンボル。例では、左から右に[Web Browser]、[Media Player]、[PDF Viewer]、[E-Mail Client]および[Doc Viewer]アイコンを示しています。

①から③のボタンは常にタスクバーに表示されます。アプリアイコンの数は、開かれているアプリの数に応じて異なります。

ボタンまたはアイコンをタッチして、対応する機能を有効にするか、対応するアプリを前面に移動します。

HMIデバイスを工業グレードのマウスを使用して操作しているか、マウス付きのクライアントマシンを使用してHMIデバイスをリモートで操作している場合、タスクバーのアプリを右クリックしてそれらを再度閉じることができます。マウスを使用せずにHMIデバイスを操作している場合、対応するメニュー機能がアプリのタイトルバーの右端にある[x]アイコンを使用してアプリを閉じます。

注記

ベストパフォーマンス

各アプリは、ある程度の量の作業メモリを占有します。アプリの数や[Web Browser]アプリで開かれるタブの数が増えるほど、使用可能な作業メモリの量が少なくなります。HMIデバイスの可能な限り最高のパフォーマンスを得るために、次の推奨事項に留意してください。

- ・ 同時に開くアプリの数は、できるだけ少なくしてください。
- ・ 使用しなくなったアプリは閉じてください。
- ・ 可能な場合、[Web Browser]アプリでは、1つのタブのみを開いてください。

フローティングスクリーンキーボードはアプリでのデータ入力用に設計されています。他の情報は「スクリーンキーボードの使用 (ページ 64)」セクションを参照してください。

4.6 HMIデバイスのコミッショニング

必要条件

HMIデバイスが、操作説明書に従って設置され接続されていること。

手順

次の手順は、操作中にHMIデバイスを標準的に含める方法を説明しています。

1. 自動バックアップ付きのサービスコンセプトを使用したい場合、32 GB以上のSIMATIC SD memory cardを[X50 SYSTEM]スロットに挿入します。
[コントロールパネル]の[Service and Commissioning] > [Automatic Backup]にある[Start]ボタンを使用して、自動バックアップを有効にします。
2. WinCCのHMIデバイスを設定します。設定するとき、セキュリティ設定でセキュリティコンセプトを検討します。ユーザー管理を設定します。HMIデバイスを未許可の[コントロールパネル]へのアクセスから保護可能なコントロールパネルアクセス機能権限を持ユーザーを設定します。
3. HMIデバイスのネットワークアドレスが設定されているネットワークアドレスと一致していることを確認します。
4. WinCCを介したユーザー管理を含め、プロジェクトを設定PCからHMIデバイスに転送します。
5. 必要な場合、HMIデバイス管理者が、[Security] > [Control panel access]で、[コントロールパネル]を未許可のアクセスから保護するようにします。
6. [コントロールパネル]の[Security] > [User management]でオペレータの権限を確認し、必要に応じて設定を調整します。
7. 必要に応じて、[External Devices and Input] > [Hardware interfaces]で、ストレージメディアに1つまたは複数のインターフェースを無効にします。
8. [Language, Region and Formats] > [Date and time]で日付と時刻を確認します。
9. [Runtime Properties] > [Automatic runtime start]でプロジェクトの開始のために必要な遅延時間を設定します。
10. [コントロールパネル]の[Apps]で、操作に必要なアプリがすべて使用可能かどうか確認します。
追加のアプリが必要な場合、これらを[Apps] > [App Management]からインストールします。

結果

コミッショニングが完了すると、HMIデバイスの使用準備ができます。アプリケーションによっては、上記で説明した手順に加えて、さらに個人設定を行う必要になる場合があります。

4.7 メモリコンセプトおよびメモリカード

4.7.1 メモリコンセプト

HMIデバイスは、以下のタイプのメモリを使用しています。

- 内部メモリ
- ユーザーデータとログ用のデータメモリカード
- 「自動バックアップ」用のシステムメモリカード
- データを持つUSB記憶媒体用のUSBポート

注記

ログ記録用のメモリカードの使用

ログ記録には、読み取り/書き込みサイクル数が多いため、USBインターフェースの代わりにメモリカードを使用します。

内部メモリ

以下のデータは内部メモリに保存されます。

- オペレーティングシステム
- プロジェクトファイル
- ユーザー管理
- パラメータセット
- その他のデータ(ドキュメントやメディアファイルなど)

注記

内部メモリへのサイクリック書き込みアクセスは許可されません

内部メモリへの周期的な書き込みアクセスは許可されていません。これは、永続的なシステムアラームやカスタマイズメッセージがメッセージバッファに生成される設定などの場合に、内部メモリとHMIデバイスの耐用年数を低下させるためです。

アラームウィンドウを設定し、発生するアラームの数と頻度を確認します。アラームから内部メモリに永続的な負荷がかかると予想される場合は、それに応じて設定を調整します。

アラームを永続的に保存する必要がない場合、メッセージバッファの保持型アドレスエリアを無効にできます。セクション「Alarm persistency (ページ 99)」を参照してください。

HMIデバイスの耐用年数を延ばすために、データの保存や記録には、32 GB以上のSIMATIC SD Memory Card などの外部メモリカードを使用することが推奨されています。

さらに、内部フラッシュメモリのモニタを有効にすることができます(「Performance (ページ 94)」セクションを参照)。

データメモリカード

以下のデータを、データメモリカードに保存できます。

- ログ
- データバックアップ

4.7 メモリコンセプトおよびメモリカード

- ユーザーデータ
- パラメータセット¹
- レポート用データ

¹ パラメータセットをメモリカードに保存するには、WinCCでパスとして「\Storage Card SD\」を選択します。

データメモリカードとして、「SD(IO/HC/XC)」のフォーマットの市販のメモリカードを使用することができます。データの整合性の理由から、Siemensではデータメモリカードとして32 GB以上のSIMATIC SD memory cardの使用を推奨しています。「付属品(ページ 17)」セクションを参照してください。

注記

データの整合性

HMIデバイスの電源を切ると、保存されているデータの整合性は、32 GB以上のSIMATIC SD memory cardの場合のみ保証されます。

市販のメモリカードの場合、デバイスの電源を切ると、例えば電源障害の場合などに保存しているデータが失われることがあります。

注記

周波数

ログは約0.2 Hzの周波数で保存されます。これにより、停電の直前に少量のデータが保存されない可能性があります。

UPSを使用すると、停電の直前のデータ損失を回避します。

システムメモリカード

システムメモリカードは、HMIデバイスのサービスコンセプトの一部です。[自動バックアップ(ページ 151)]機能を有効にすると、HMIデバイスの内部メモリのすべてのデータがシステムメモリカードへ転送されます。HMIデバイスに障害がある場合は、システムメモリカードを交換装置に挿入します。交換装置を起動すれば、プロジェクトの作業を続行することができます。こうして、プラントのダウンタイムを最低限度に低減できます。

システムメモリカードがHMIデバイスのユーザーインターフェースに表示されていない場合、データ記憶には使用できません。HMIデバイスにシステムメモリカードを認識させるには、システムメモリカードを専用に設計されているスロットに挿入する必要があります。

注記

システムメモリカードのタイプ

32 GB以上のSIMATIC SD memory cardがシステムメモリカードとして使用することが許可されています。その他のすべてのメモリカードは、HMIデバイスによってシステムメモリカードとして認識されません。

データおよびシステムメモリカードのスロット

データメモリカードおよびシステムメモリカード用のスロットは、HMIデバイスの背面にあります。メモリカードは、安全キャッチで保護されています。

下図に安全キャッチ付きのスロットを示します。



- ① 「SD(IO/HC/XC)」フォーマットのデータメモリカード用のスロットX51は、次のカード用に推奨されています: SIMATIC SD memory card \geq 32 GB
- ② システムメモリカード用のスロットX50は、次のカード用に許容されています: SIMATIC SD memory card \geq 32 GB
- ③ 安全キャッチ、2段階

データメモリカードのフォーマット

データメモリカードのフォーマットには、次のファイルシステムがサポートされています。

- FAT32
- NTFS

データメモリカードをフォーマットするとき、いずれかのサポートされるファイルシステムを使用します。

注記

システムメモリカードをデータメモリカードとして使用する

[自動バックアップ]機能を併用してシステムメモリカードとして既に使用されているメモリカードは、データメモリカードとしては使用できません。データメモリカードとしてシステムメモリカードを使用するには、そのメモリカードをいずれかのサポートされるファイルシステムを使用してフォーマットする必要があります(NTFSを推奨)。

システムメモリカードのフォーマット

32 GB以上のSIMATIC SD memory cardをスロットX50に挿入して[自動バックアップ(ページ 151)]機能を有効にすると、メモリカードは自動的にフォーマットされます。

注記

データメモリカードをシステムメモリカードとして使用する

データメモリカードとして使用されているメモリカードは、システムメモリカードとして使用できるようにする前にフォーマットされる必要があります。フォーマットは、[自動バックアップ(ページ 151)]機能を有効にしたときに、自動的に実行されます。フォーマット中に、メモリカードの全てのデータが失われます。必要な場合、このメモリカードをシステムメモリカードとし使用する前に、データメモリカード内のデータのバックアップを取ります。

4.7.2 メモリカードの交換

メモリカードは、安全キャッチで保護されています。



危険領域でメモリカードをつなげたり、外したりしないでください。

操作中にメモリカードをつなげたり、外したりすると、フラッシュオーバーが発生するリスクがあります。フラッシュオーバーは、危険区域で爆発を発生させ、死亡または重度のけがにつながる恐れがあります。

危険領域でメモリカードをつなげたり、外したりすることは禁止されています。

次の2つの要件のいずれかが満たされるまで、メモリカードをつなげたり、外したりしないでください。領域が危険でなくなった場合、あるいはデバイスとそのプラグイン接続の電源が断たれている場合。

注記

データ消失の危険性

メモリカードが取り外されているときにHMIデバイスがそのデータにアクセスする場合、メモリカードのデータの完全な読み取り、書き込みが行われず、データが破壊されてしまう場合もあります。

プロセスで、操作中にメモリカードを交換する必要がある場合、設定に適切な機構を導入して、これを考慮しておくことが必要です。

データにアクセスしている間は、操作中にメモリカードを取り外してはなりません。画面上の対応するアラームに注意してください。

注記

「自動バックアップ」用のシステムメモリカードを操作中に取り外さないでください。

[自動バックアップ (ページ 151)]機能が有効になっている場合、システムメモリカードはHMIデバイスの電源が切られているときのみ取り外しできます。

注記

プロジェクト実行中のシステムメモリカードの取り外し

プロジェクト実行中にシステムの記憶カードを取り外すと、プロジェクトは終了します。

必要条件

現在メモリカードに読み取りまたは書き込みアクセスが行われていないこと。

手順

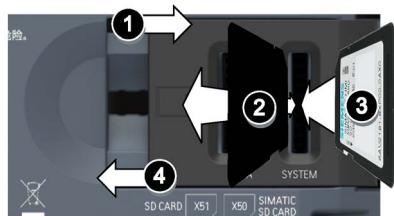
注記

システムメモリカードとして、32 GB以上のSIMATIC SD memory cardを使用します

32 GB以上のSIMATIC SD memory cardがシステムメモリカードとして使用することが許可されています。その他のすべてのメモリカードは、HMIデバイスによってシステムメモリカードとして認識されません。

次の手順は、例として、システムメモリカードを交換する場合を説明しており、データメモリカードにも同じように当てはまります。

1. 安全キャッチを望む位置にスライドさせて、対応するメモリカードを交換します。
2. メモリカードを取り外すには、対応するカードを少し押し込みます。
カードが解除され、取り外しできます。



3. 新しいメモリカードを挿入して、音がして所定の位置に確実にはまり込むようにします。
4. 安全キャッチを元の位置にスライドさせて戻します。

システムメモリカードを挿入した場合、[System memory card plugged]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、[コントロールパネル]を開き、[自動バックアップ]機能を有効にするために使用されます。

4.8 HMIデバイスへのWebアクセス

デバイスへの直接操作の代替手段として、ブラウザ経由でHMIデバイスの次のアプリケーションにアクセスできます。

- ランタイムプロジェクト
- ユーザー管理
- ローカル[SIMATIC Edge]エッジ管理

必要条件

- ブラウザが動作しているデバイスは、同一のサブネットのHMIデバイスに接続されています。
- 使用するブラウザは、HTML5をサポートしており、自己署名証明書を受け入れます。

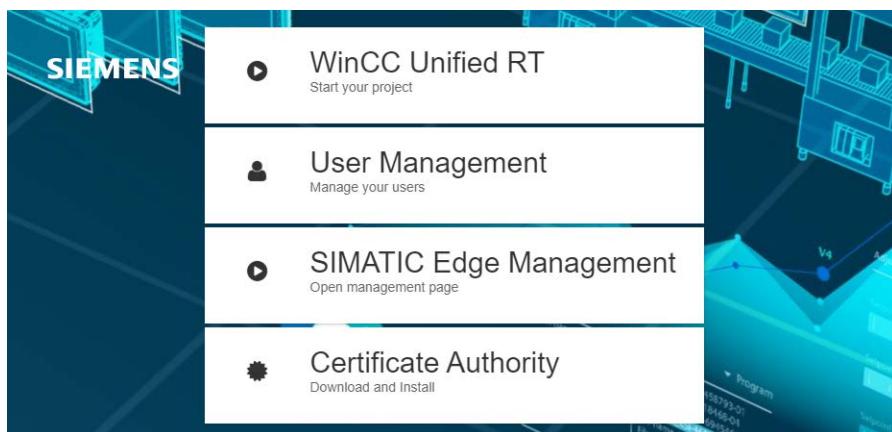
- アクセスしようとしているアプリケーションに応じて、下記が適用されます。
 - [WinCC Unified RT]:ランタイムプロジェクトへのWebアクセスが有効にされています。「Web client (ページ 100)」のセクションを参照してください。ランタイムソフトウェアが停止されています。
 - [User Management]:ユーザー管理の設定がHMIデバイスに読み込まれました。「User management (ページ 119)」と「UMAC settings (ページ 135)」のセクションを参照してください。
 - [SIMATIC Edge Management]:HMIデバイスのコントロールパネルで関連するサービスが有効化されます。「SIMATIC Apps (ページ 160)」のセクションを参照してください。
- Webアクセス用のポートがアクティブになっていることを確認してください。「Port settings (ページ 138)」のセクションを参照してください。

開始ページからアプリケーションを開く

HMIデバイスには、Webアクセスを使用するアプリケーションに対応した便利な開始ページがあります。

開始ページを開くには、次のURLをブラウザに入力します: 「<https://<ip>>」

プレースホルダ「<ip>」ではなく、HMIデバイスのIPアドレスを使用します。HMIデバイスで直接実行するブラウザを使用するとき、IPアドレスではなく「localhost」も使用します。



- [WinCC Unified RT]:ランタイムに対して[Sign in]ダイアログを開くためのボタン。
 - [User Management]:ユーザー管理に対して[Sign in]ダイアログを開くためのボタン。
 - [SIMATIC Edge Management]:[SIMATIC Edge]アプリケーションに対して[Sign in]ダイアログを開くためのボタン。
 - [Certificate Authority]:安全な接続のためにHMIデバイス証明書をダウンロードするためのボタン。
- ブラウザ経由のWebベースのユーザー管理に関する詳細情報は、TIA Portalヘルプの[可視化プロセス(RT Unified)] > [ユーザーおよび役割の設定(RT Unified)] > [Unifiedパネルのユーザー管理の使用] > [ローカルユーザーの管理] > [ランタイムでのローカルユーザーの管理]で参照できます。

開始ページなしでアプリケーションを開く

次のURLを使用して、開始ページなしで対応するアプリケーションの[サインイン]ダイアログを開きます。

- [WinCC Unified RT]: 「<https://<ip>/device/WebRH>」。大文字/小文字の入力に注意してください。
- [User Management]: 「<https://<ip>/umc>」
- [SIMATIC Edge Management]: 「<https://<ip>/device/edge>」

プレースホルダ「<ip>」ではなく、HMIデバイスのIPアドレスを使用します。HMIデバイスで直接実行するブラウザを使用するとき、IPアドレスではなく「localhost」も使用します。

証明書のインストール

ブラウザ経由で始めてWebアクセスを使用するアプリケーションを開くとき、次が適用されます。ブラウザとアプリケーション間の安全な接続をセットアップするため、アプリケーションの証明書をダウンロードし、それをお使いのブラウザで[信頼済み]としてインストールする必要があります。

通知

WinCC Unified Certificate Manager経由で生成されたCA証明書を使用します

信頼できないソースからの自己署名証明書を使用すると、データ転送は、攻撃から保護されません。

HMIデバイスへのWebアクセスの場合、WinCC Unified Certificate Managerで生成されたCA証明書を使用します。次の手順にしたがって、これを実行します。

1. WinCC Unified Certificate Manager を使用してCA証明書を生成します。
2. CA証明書をUSBフラッシュドライブにコピーします。
3. 「Security」>「Certificates」経由で「Trusted Certificate Authority」としてコントロールパネルにCA証明書をインポートします。
4. 次のセクションで説明するように、ブラウザに証明書をインストールします。

証明書のダウンロード

証明書のダウンロードには、次のオプションが用意されています。

- 開始ページで[Certificate Authority]ボタンを使用する。
- [Certificate]リンクを、[SIMATIC Edge]アプリケーションの[Sign in]ダイアログで使用する。
- ブラウザのアドレスバーにあるアイコンまたは[安全でない]メッセージをクリックする。

証明書を「Webブラウザ」で[信頼済み]としてインストールする

アプリケーションの証明書をインポートし、それを[信頼済み]として分類するために、ブラウザドキュメントの指示に従ってください。

これで、Webサイトへの安全な接続は、信頼済み証明書を使用して確立されました。

注記

証明書は、Webアクセスを使用するすべてのアプリケーションに対して有効

Webアクセスを使用するアプリケーションへの安全なアクセスのため、HMIデバイス証明書を一度のみダウンロードし「信頼済み」として分類します。

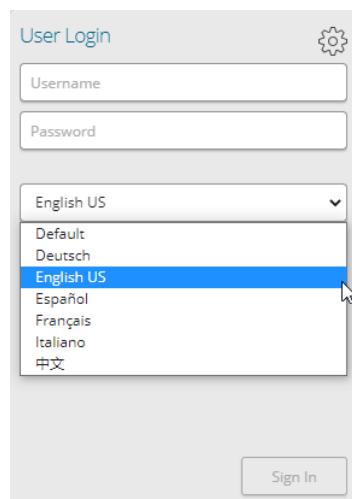
[Sign in]ダイアログを使用したサインイン

[Sign in]ダイアログを使用して、Webアクセスを使用するアプリケーションにサインインします。

ランタイム関連のアプリケーション用の[Sign in]ダイアログ

次の図は、下記のアプリケーションに対応する[Sign in]ダイアログを示しています。

- [WinCC Unified RT]
- [User Management]



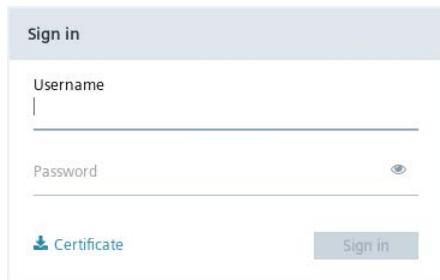
手順:

1. 必要なランタイム言語を選択します。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。
3. [サインイン]をクリックします。

選択された言語がランタイムプロジェクトで使用可能でない場合、デフォルトの言語が使用されます。

[SIMATICアプリ]用の[Sign in]ダイアログ

次の図は、[SIMATIC Edge Management]用の[Sign in]ダイアログを示しています。



手順:

- まだ実行していない場合、[Certificate]ボタンを使用してアプリケーションの証明書をダウンロードし、その証明書をブラウザにインストールします。このセクションの「証明書のインストール」サブセクションを参照してください。
- ユーザー名とパスワードを入力します。
- [サインイン]をクリックします。

Webアクセスに関する注意事項

サインイン後、さまざまなアプリケーションでのWebアクセスに関する下記の注意事項をお読みください。

[WinCC Unified RT]

ログインに成功した後、ユーザー SESSION が有効になります。ユーザー SESSION に関する次の注意事項に注意してください。

- HMIデバイスでは、最大3ユーザー SESSION が許可されています。
- ユーザー管理は、サインイン時のユーザー SESSION で使用されます。HMIデバイスのユーザー管理に加えた変更は、進行中の SESSION には影響しません。
- ユーザー SESSION を完全に閉じるには、次のオプションがあります。
 - システム機能[ログオフ]を使用して操作エレメントを設定します。
 - すべてのインスタンス、つまり開いているブラウザウィンドウをすべて閉じます。

ランタイムでのビデオ再生

ランタイムでのビデオの再生に関し、「Media Player (ページ 165)」セクションの情報を順守してください。

リモートアクセスの詳細については、TIA Portalヘルプの「Web client」を参照してください。[可視化プロセス(RT Unified)] > [分散システムの使用] > [Webクライアント]。

[User Management]

- ユーザーリストは、[ユーザー管理]機能権限が割り付けられているユーザーのみが表示し編集することができます。
- ユーザー管理へのWebベースのアクセスに関する詳細情報は、TIA Portalヘルプの[可視化プロセス(RT Unified)] > [ユーザーおよび役割の設定(RT Unified)] > [Unifiedパネルのユーザー管理の使用] > [ローカルユーザーの管理]で参照できます。

[SIMATIC Edge Management]

- アプリケーションへのアクセスには、「HMI管理者」権限を持つユーザーが必要です。
- ローカルのEdge Managementに関する詳細情報は、Edge Managementウェブサイトのプログラミングおよび操作マニュアル「Siemens Industrial Edge (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109773259>)」で参照できます。

4.9 操作に関する注意

記憶媒体

注記**複数回表示される記憶媒体**

HMIデバイスのオペレーティングシステムは、複数のマウントポイントをサポートしています。これは、ファイルブラウザダイアログで、USBおよびSD記憶媒体が複数回表示される可能性があることを示しています。これは、HMIデバイスやアプリの機能には影響しません。

注記**ラインタイム内およびアプリ内の記憶媒体のディレクトリ**

同じファイルブラウザダイアログを使用するランタイムソフトウェアのファイルブラウザダイアログとアプリでは、「/media」の下に記憶媒体があります。

SIMATIC Edge

注記**SIMATIC Edgeの有効化**

[Apps] > [SIMATIC Apps] > [SIMATIC Edge] > [Enable SIMATIC Edge]オプションは、始動プロセスが完了したときに、HMIデバイスの初めての起動時にのみ有効化することができます。始めてHMIデバイスを起動した後、約1~2分待機します。その後、[Enable SIMATIC Edge]オプションを有効にできます。

[コントロールパネル]の操作

5.1 設定を開く

コントロールパネルは、次のようにして開くことができます:

- デバイスの電源を入れた後、HMIデバイスにプロジェクトがない場合。
- プロジェクトの適切な設定操作エレメントを使用する。
- HMIデバイス上で実行されているプロジェクトを終了する。

下記の図に、[コントロールパネル]のメインウィンドウが開かれている状態を示しています。



対応する設定を行うには、ナビゲーションエリアのエントリまたはウィンドウペインのタイルを選択します。

注記

[コントロールパネル]のパスワード保護を有効にする

[コントロールパネル]のパスワード保護は、HMIデバイスが納入されたときは無効にされています。つまり、すべてのユーザーが[コントロールパネル]に変更を加えることができるということを意味しています。

HMIデバイスを未許可の変更から保護するため、[コントロールパネル]に対するパスワード保護を有効にできます(「Control panel access (ページ 133)」のセクションを参照)。

5.1 設定を開く

通知

設定PCの通信中に設定を変更しないでください

HMIデバイスが設定PCによってアクセスされているときにコントロールパネルの設定を変更すると、不具合が発生する可能性があります。

プロジェクトダウンロード中や[LEDの点滅]機能による通信の場合など、HMIデバイスが設定PCによってアクセスされているときは設定を変更しないでください。

[コントロールパネル]へのログオン

[ログイン]ボタンは、[コントロールパネル]タイトルバーの右側にあります。



ユーザー管理がHMIデバイス用に設定されており、HMIデバイスに転送されている場合、[ログイン]ボタンを使用してログインできます。ログイン後、設定でログイン用に定義された権限を持つようになります。[コントロールパネル]ですべての機能にアクセスするには、ユーザーには[コントロールパネルアクセス]機能権限が必要です。

注記

ログインの試行回数

ログイン資格情報を正しく入力するための試行回数は、WinCCの[ランタイム設定] > [セキュリティ]で設定できます。

ログイン資格情報をもう一度間違えて入力すると、ユーザーがロックアウトされます。そのユーザーを削除し、再度作成するか、ユーザー管理をHMIデバイスに再ロードする必要があります。

ログイン資格情報を正しく入力していることを確認してください。

または、ユーザーにRFIDログインが割り当てられていれば、RFIDカード経由でログインできます。RFIDカードをRFIDリーダーの直前にかざし、必要に応じてPINを入力します。

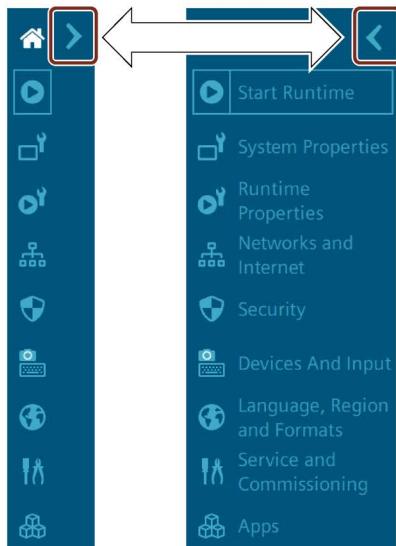
ログインした後、[ログアウト]ボタンが[ログイン]ボタンの代わりにタイトルバーに表示されます。



ナビゲーションエリアの切り替え

ナビゲーションエリアを、最大表示から最小表示まで、次のように切り替えることができます。

MTP1000/1200/1500/1900/2200



MTP700



コントロールパネルのヘルプ

タイトルバーで、[ログイン]ボタンの左側には[ヘルプ]ボタンがあります。



[ヘルプ]アイコンを使用して、[Unified Comfort Panels Help]ダイアログを開きます。



コントロールパネルヘルプを開くためには、[Unified Comfort Panels Help]ダイアログの次のオプションが利用できます。

- QRコードをスキャンするか、インターネット接続がある外部デバイスのブラウザにQRコードの下にあるリンクを入力します。
ヘルプが外部デバイスで開かれます。外部デバイスでヘルプを読み込み、同時にHMIデバイスのコントロールパネルで移動できます。
- HMIデバイスがインターネットに接続されている場合、QRコードの下にあるリンクをクリックします。
ヘルプがHMIデバイスで開かれます。

5.2 機能の概要

下記の表に、コントロールパネルのアイコンおよび対応する機能の適切なセクションの説明へのリンクを示します。

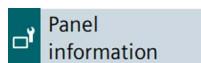
アイコン	名称	割り付けられた機能
	-	[コントロールパネル]のメインウィンドウを開く
	Start Runtime	HMIデバイスでプロジェクトを開始する 「Automatic runtime start (ページ 98)」を参照してください
	System Properties	Panel information (ページ 87) Display (ページ 88) Screensaver (ページ 89) Update OS (ページ 90) Reboot (ページ 92) Performance (ページ 94) Taskbar (ページ 95) Event Logger (ページ 95) Touch sound (ページ 97)
	Runtime Properties	Project information (ページ 98) Automatic runtime start (ページ 98) Alarm persistency (ページ 99) Web client (ページ 100) Load project from storage (ページ 101)
	Network and Internet	Network settings (ページ 104) Remote connection (ページ 110) Network drives (ページ 112) Unified Air (ページ 116) Network Tool (ページ 117)
	Security	User management (ページ 119) Certificates (ページ 130) Control panel access (ページ 133) UMAC settings (ページ 135) Port settings (ページ 138)
	External Devices and Input	Hardware interfaces (ページ 138) Connected devices (ページ 139) Printers (ページ 140)
	Language, Region and Formats	Date and time (ページ 143)
	Service and Commissioning	Transfer (ページ 146) Update OS (ページ 146) Backup (ページ 149) Automatic backup (ページ 151) Restore (ページ 156) Trace options (ページ 157)
	Apps	Apps (ページ 159)

インターフェースパラメータ、ランタイム設定、リモートアクセスの設定やユーザー管理などの一部の設定は、WinCCで設定し、HMIデバイスに読み込むことができます。読み込み後、必要に応じて、HMIデバイスのコントロールパネルで設定を変更できます。

5.3 System Properties

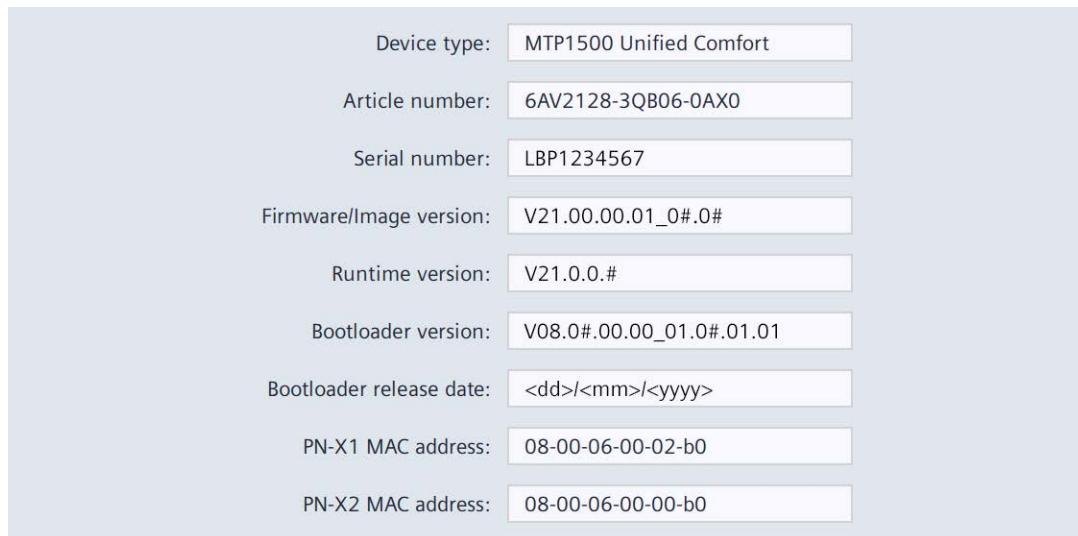
5.3.1 Panel information

[Panel information]で、デバイス固有の情報を参照できます。これは、たとえばテクニカルサポートに連絡するときに必要となります。



Properties

次の図に、例を示します。さまざまな表示値をワイルドカード文字「#」を使用したり、山括弧「<>」で挟んで表示します。



- [Device type]:HMIデバイスタイプ名称
- [Article number]:HMIデバイスの商品コード
- [Serial number]:HMIデバイスのシリアル番号
- [Firmware/Image version]:ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン
- [Runtime version]:HMIデバイスにあるランタイムソフトウェアのバージョン
- [Bootloader version]:ブートローダーのバージョン
- [Bootloader release date]:ブートローダーのリリース日
- [PN-X1 MAC address]:HMIデバイスインターフェースX1のMACアドレス
- [PN-X2 MAC address]:HMIデバイスインターフェースX2のMACアドレス

5.3.2 Display

[Display]で、画面方向と画面輝度をバックライトの強度によって設定します。



通知

バックライトの低減

バックライトの輝度を低減すると、運転時間を長くすることができます。

バックライトの耐用年数を不必要に短くすることを避けるため、バックライトの輝度を低減することができます。

Orientation

- 0° (Landscape)
 90° (Portrait)

- [0° (Landscape)](初期設定):横フォーマットで設置および設定されているHMIデバイスに対してこのオプションを選択します。
- [90° (Portrait)]:縦フォーマットで設置および設定されているHMIデバイスに対してこのオプションを選択します。

注記

画面方向およびランタイムプロジェクト

コントロールパネルでの画面方向は、WinCC設定でのHMIデバイスの画面方向と一致している必要があります。コントロールパネルの方向を切り替えた後、設定を調整し、プロジェクトをHMIデバイスに再ロードします。

HMIデバイスで実行されているランタイムプロジェクトがない場合にのみ、コントロールパネルの画面方向を切り替える必要があります。

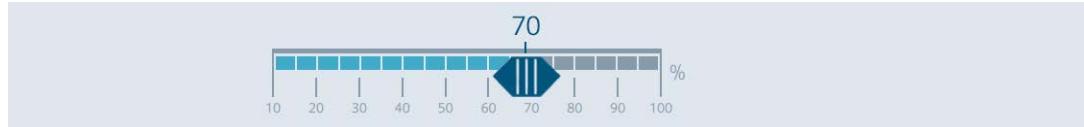
HMIデバイスでランタイムプロジェクトが実行されているときに画面方向を切り替えると、プロジェクトは、切り替え後にHMIデバイス画面で正しく表示されなくなる場合があります。プロジェクトを正しく表示するには、ランタイムソフトウェアまたはHMIデバイスを再起動します。

注記

[Add-ons]での表示方向とアプリ

Media PlayerなどのいずれかのアプリがHMIデバイス上で実行されているときに、[コントロールパネル]の[System Properties] > [Display] > [Orientation]で表示方向を切り替えると、アプリの内容が正しく表示されない可能性があります。これを回避するには、表示方向を切り替えた後にHMIデバイスを再起動してください。

Brightness



スライダを使用して希望する画面輝度を設定します。

値範囲:10~100%。初期設定:70%

画面輝度は、設定から、値範囲内で設定することもできます。

5.3.3 Screensaver

[Screensaver]で、スクリーンセーバーが自動的に起動するまでの時間を定義し、スクリーンセーバー起動中のバックライトの明るさを設定できます。



通知

スクリーンセイバーの有効化

画像が画面に長時間表示されると、輪郭が画面に薄く残ってしまうことがあります。

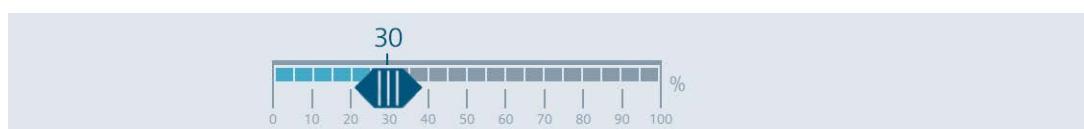
スクリーンセイバーを使用すると、この効果を元に戻すことができます。

General Settings



- [Enable screensaver]:このオプションを選択してスクリーンセイバーを有効にします。
初期設定: [有効]。
- [Wait time]:スクリーンセイバーが有効になるまでの時間です。1~120分の範囲で設定します。初期設定は、[5 min.]です
指定された時間内にHMIデバイスが操作されないと、スクリーンセイバーが自動的に作動します。

Brightness of screensaver



スライダを使用して、スクリーンセイバーの希望する画面輝度を設定します。値範囲は0~100%です。デフォルト設定は、[30%]です。

スクリーンセイバーを解除するには、タッチスクリーンに少しタッチします。安全上の理由で、このタッチはオペレータアクションとして評価されることはありません。したがって、意図しない機能がトリガされることはありません。

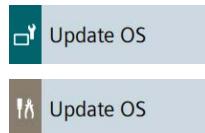
スクリーンセイバーは、Smart Clientや設定PCなどを通して、HMIデバイスにリモートでアクセスされた場合にも解除されます。

5.3.4 Update OS

HMIデバイスのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンは、インストールされているWinCCソフトウェアのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンとの互換性がある必要があります。互換性がない場合、オペレーティングシステムを更新する必要があります。

[Update OS]を使用してHMIデバイスのオペレーティングシステムを更新します。オペレーティングシステムは複数のファームウェアファイルに含まれています。マスタファイルには、拡張子「.fwf」が付きます。追加ファイルの番号は異なります。これらのファイルには、マスタファイルのファイル名に連番(「.0」、「.1」、「.2」など)が拡張子として付きます。

[Update OS]機能は、[System Properties]および[Service and Commissioning]の両方で使用できます。



通知

オペレーティングシステムを更新すると、HMIデバイスのデータが削除されます。

オペレーティングシステムを更新すると、HMIデバイス上のプロジェクト、パラメータセット、およびアラームバッファの内容が削除されます。必要に応じて、オペレーティングシステムを更新する前にデータをバックアップしてください。

オペレーティングシステムを更新する前に[コントロールパネル]で変更した次の設定以外のすべての設定内容は、オペレーティングシステムの更新後にも保持されます。

- 外部インターフェースは再度有効にされます(初期設定)。「Hardware interfaces (ページ 138)」のセクションを参照してください。
- タイムゾーンは初期設定[(UTC) Coordinated Universal Time]にリセットされます。「Date and time (ページ 143)」のセクションを参照してください。
- 接続されているネットワークドライブの認証情報を再度入力する必要があります。「Network drives (ページ 112)」のセクションを参照してください。

SIMATIC Edgeアプリとそのデータについては、[SIMATIC Apps (ページ 160)]のセクションを参照してください。

通知**自動バックアップとオペレーティングシステムの更新**

オペレーティングシステムの更新中に[自動バックアップ]機能が有効にされると、HMIデバイスが正しく再起動されないことがあります。

HMIデバイスのオペレーティングシステムを更新する場合、そして[自動バックアップ]機能を有効にした場合、次の手順に従ってください:

1. [自動バックアップ]機能を無効にします。
2. オペレーティングシステムを更新します。
3. [自動バックアップ]機能を有効にします。

更新前や更新中は、システムメモリカードをHMIデバイスに挿入されたままにします。

32 GB以上のSIMATIC SD memory cardまたは工業用USBフラッシュドライブを使用して、ファームウェアを読み込みます。

Unifiedコンフォートパネルのファームウェアファイルは、インターネット(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109825605>)からダウンロードできます。ダウンロード内容に含まれている取扱説明書に従います。

注記**ファームウェアファイルの名前を変更しないでください。**

ファームウェアファイルの名前を変更すると、オペレーティングシステムをこれらのファームウェアファイルを使用して更新できなくなります。ファームウェアファイルは使用不能になります。ファームウェアファイルの名前を変更しないでおきます。

注記**ファームウェアファイルを完全にコピーする**

ファームウェアファイルをコピーする場合、マスタファイル「.fwf」とすべての関連ファームウェアファイル(「.0」、「.1」、「.2」など)も一緒に確実にコピーするようにしてください。

ファイルが欠けていると、オペレーティングシステムを読み込めなくなります。

[コントロールパネル]で[Update OS]機能を使用する別の方法として、WinCCで[Update OS]機能を使用できます。

Panel Information

Device type:	MTP1500 Unified Comfort
Image version:	V21.00.00.00_04.01.00.00

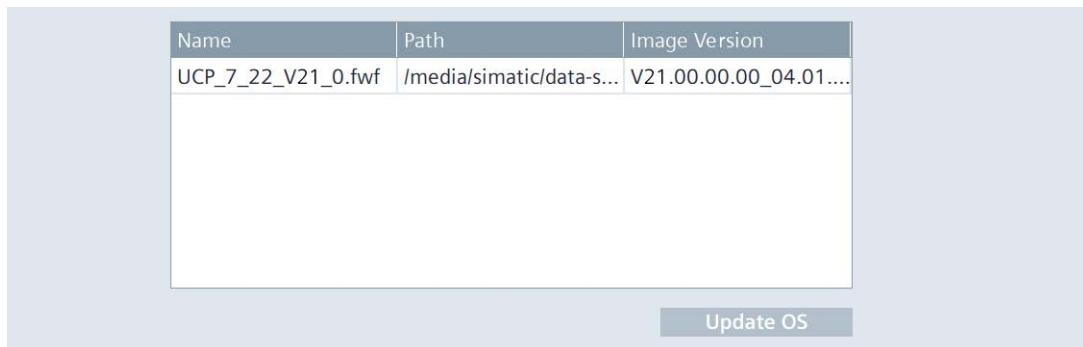
- [Device type]:HMIデバイスタイプ名称。
- [Image version]:ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

Select storage media for OS update



選択リストを使用して、ファームウェアファイルが保存されている記憶媒体を選択します。

Firmware files on external storage

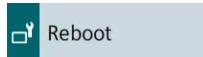


- リストは、HMIデバイスに読み込み可能なすべてのファームウェアファイルを示しています。
リストから希望するファームウェアマスタファイル(.fwf)を選択します。
- [Update OS]:読み込みプロセスを開始するためのボタン。
[Update OS]ボタンを押すと、HMIデバイスが再起動されます。その後、読み込みプロセスが開始されます。
各ファームウェアファイルについて、進捗状況バーがあるダイアログがHMIデバイスに表示されます。
HMIデバイスは、読み込みプロセスが完了した後に再度再起動されます。
[コントロールパネル]のメインウィンドウが、再起動後に表示されます。HMIデバイス上のオペレーティングシステムが更新されました。

5.3.5

Reboot

[Reboot]で手動でHMIデバイスを再起動できます。再起動は、ソフトウェアリセットとして、またはメンテナンスモードで実行できます。

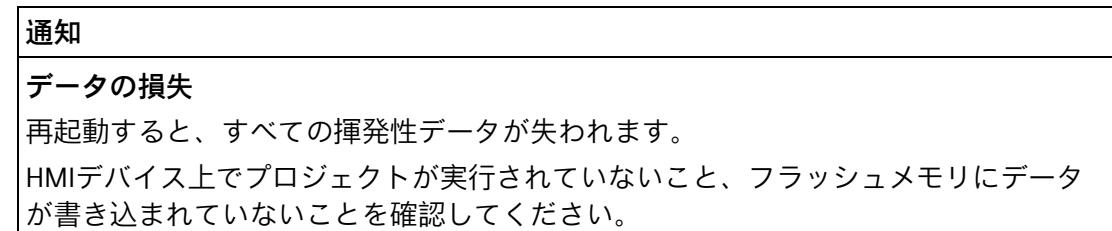


次の場合は、確定後にHMIデバイスが自動的に再起動されます。

- [Ethernet parameters Port 1]または[Ethernet parameters Port 2]でPN-X1インターフェースに変更を加えました(「PN-X1 (ページ 105)」のセクションを参照)。
- [General network settings]で変更を加えました(「General (ページ 109)」のセクションを参照)。
- [Enable alarm persistency]オプションを切り替えました(「Alarm persistency (ページ 99)」のセクションを参照)。
- [Enable authentication via RFID card]オプションを切り替えました(「UMAC settings (ページ 135)」のセクションを参照)。

HMIデバイスの手動での再起動は、以下の場合に必要になります。

- ・ 設定で、[メディア冗長性]の下にあるインターフェースパラメータを変更し、プロジェクトをHMIデバイスに再び読み込みます。
- ・ ディスプレイの向きを変えて、HMIデバイス上でMedia Playerなどのアプリを使用しています。



Reboot panel



[Reboot panel]:デバイスの電源を切らずにソフトウェアリセットを実行するボタン。

Reboot in maintenance mode



[Reboot in maintenance mode]:保守モードで再起動するためのボタン。保守モードでの再起動は、HMIデバイスを出荷時設定にリセットするために必要です。

[Reboot in maintenance mode]ボタンを押すと、HMIデバイスが再起動されます。

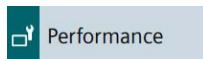
[Maintenance Mode]ダイアログボックスが10分間表示されます。この期間中、HMIデバイスを設定PCに接続し、ProSaveソフトウェアを使用してHMIデバイスを出荷時設定にリセットできます。

下記も参照

ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 185)

5.3.6 Performance

[Performance]で、内部フラッシュメモリのモニタを有効にすることができます。

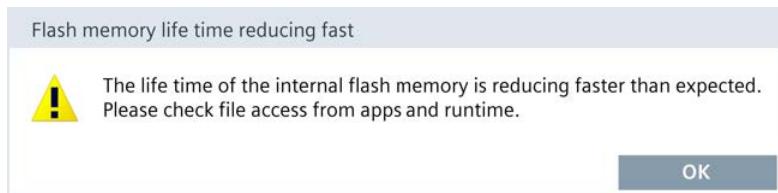


Flash Memory Monitoring Section

Show Alarm if life of flash memory is reducing fast

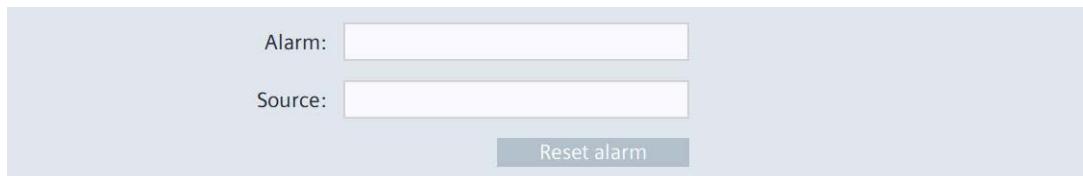
[Show Alarm if life of flash memory is reducing fast]:フラッシュメモリモニタを有効にするためのオプション。初期設定は、[有効]です。

このオプションが有効にされると、フラッシュメモリの状態が定期的にチェックされます。周期的チェックがフラッシュメモリの高負荷を引き起こす場合、メッセージ[Flash memory life time reducing fast]が定期的に表示されます。



- [OK]:アラームを確認するためのボタン。

Last alarm



- [Alarm]:フラッシュメモリのステータスについて表示した最後のアラームが含まれるパネルを表示します。
- [Source]:最後のアラームの原因に関する情報が含まれたフィールドを表示します。この情報を管理者やプロジェクトエンジニアに渡します。これにより、対応するアプリの設定またはHMIデバイスの設定に変更を加えて、[Flash memory life time reducing fast]アラームが表示されないようにすることができます。
- [Reset alarm]:定期的に発生する[Flash memory life time reducing fast]アラームを無効にするボタン。このボタンは、[Control Panel Administrator]権限を持つユーザーのみが操作できます。このボタンを押すと、[Flash memory life time reducing fast]アラームは、次の周期的チェックがフラッシュメモリの高負荷を引き起こすときにのみ再度表示されます。

5.3.7 Taskbar

[Taskbar]で、タスクバーがHMIデバイスで表示されるかどうか、および表示される位置を指定します。

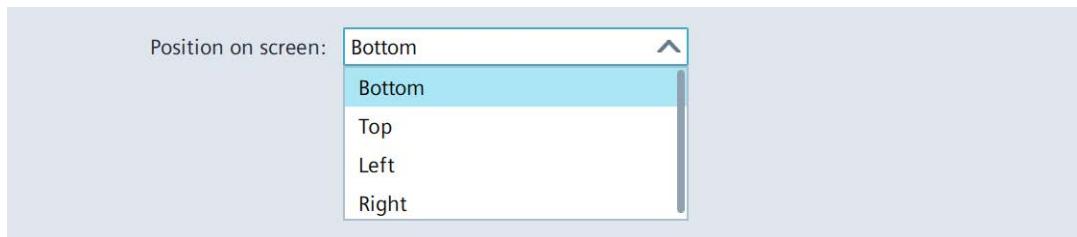


General Settings

Enable taskbar

[Enable taskbar]:タスクバーを有効化または無効化するオプション。デフォルト設定は[有効]です。

Position of taskbar



[Position on screen]:画面のタスクバーの位置を指定するドロップダウンリストです。ドロップダウンリストは、[Enable taskbar]オプションが指定されているときのみ有効になります。

選択オプション:

- [Bottom]:タスクバーは、画面の一番下に表示されます。
- [Top]:タスクバーは、画面の一番上に表示されます。
- [Left]:タスクバーは、画面の左端に表示されます。
- [Right]:タスクバーは、画面の右端に表示されます。

初期設定は、[Bottom]です。

5.3.8 Event Logger

[Event Logger]機能により、記憶媒体で完全なランタイムオペレーティングシナリオを記録するオプションが提供されます。



記録済みのデータには、すべての「トレース」情報、画面の内容、画面の変更、オペレータのアクションが含まれます。テクニカルサポートでエラーの原因を分析するときなどに、記録済みのデータを使用できます。

General Settings



- [Enable Event logger]:[Event Logger]機能を有効または無効にするオプション。初期設定は、[無効]です。
- [Storage Medium]:記録済みのデータが保存される記憶媒体(USB記憶媒体またはSDカード)。

記録の開始および停止

1. HMIデバイスへ外部記憶媒体を接続します。

注記

[Event Logger]機能を有効にする前に、外部記憶媒体をHMIデバイスに接続する必要があります。

2. [Storage Medium]から、記録用記憶媒体を選択します。
3. [Enable Event logger]オプションを選択します。
メッセージが、ランタイムの再起動が必要であることを、ユーザーに通知します。
4. HMIデバイスでプロジェクトをまだ実行中である場合、ランタイムを閉じます。
5. ランタイムを起動します。以下のデータが記録に含まれています:
 - すべての「トレース」情報
 - すべての画面の内容と画面の変更
 - すべてのオペレータアクション

記録済みのデータは、記憶媒体のルートディレクトリのファイルに暗号化されて保存されます。

記録のファイル名の構文: 「telemetry_<date>_<time>_<id>」

- <date>: 「yyyymmdd」(年、月、日)の形式の日付
- <time>: 「hhmmss」(時間、分、秒)の形式の時間
- <id>: 記録のための一意の数字

記録されるデータ量によっては、記録は複数のファイルで構成されることがあります。

記憶媒体の容量が記録のために不十分である場合、記録は終了されます。記憶媒体に空き容量が十分あることを確認してください。

6. 記録を停止するには、[Enable Event logger]オプションを選択解除します。

別の記憶媒体への切り替え

複数の記憶媒体がHMIデバイスに接続されていて、別の記憶媒体で記録を続行する場合、次のように進んでください：

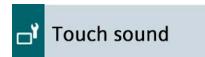
1. [Enable Event logger]オプションをクリアします。
2. [Storage Medium]で別の記憶媒体を選択します。
3. [Enable Event logger]オプションを選択します。
4. ランタイムを起動します。

下記も参照

Trace options (ページ 157)

5.3.9 Touch sound

[Touch sound]では、タッチ操作時の音声再生を設定できます。

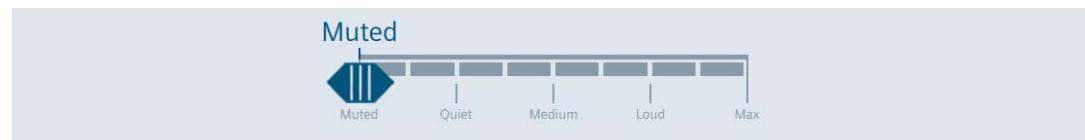


注記

MTP1500/1900/2200 Unified Comfort

[Touch sound]機能は、商品番号「-...0」の内蔵デバイスMTP1200/1500/1900 Unified Comfortでは使用できません。

Sound Level



スライダーを使用して希望の音量を設定します。可能な値は次のとおりです。

- [Muted](初期設定):音声が再生されない
- [Quiet]:最小音量
- [Medium]:中くらいの音量
- [Loud]:大音量
- [Max]:最大音量

音声再生が有効になっている場合、次のオペレータコントロールアクションに対してHMIデバイスの音響フィードバックが発生します。

- 操作対象物に触れる(通常は指でタップ)
- 両手操作の場合:2本目の指でタップし、放したオブジェクトを操作

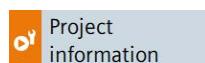
以下のオペレーターコントロールアクションには音響フィードバックはありません。

- スクリーンセーバーの無効化
- スクリーン清掃の無効化
- ズームなどの2本指のジェスチャ
- 両手操作の場合:リリースボタンをタップする

5.4 Runtime Properties

5.4.1 Project information

[Project information]で、HMIデバイスでプロジェクトを一意に識別するプロジェクト固有の情報を表示できます。



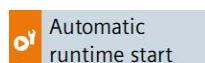
Project information

Name:	Line 1 Station 1
Device name:	HMI_RT_1
Project ID:	fc949e4a-aaf1-493d-8d6e-01e9883052ae

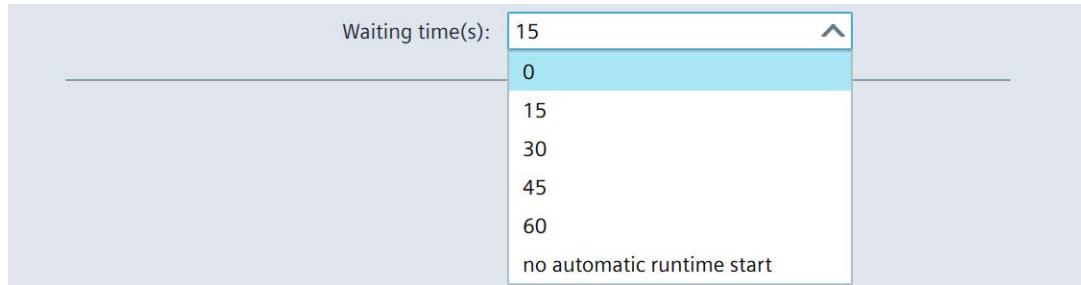
- [Name]:プロジェクトの名前は、WinCC (TIA Portal)のプロジェクト名と同一です。
- [Device name]:HMIデバイスでランタイムプロジェクトに対して自動生成された名前です。
- [Project ID]:ランタイムプロジェクトの一意の識別情報は、WinCC (TIA Portal)の[ランタイムID]と同一です。

5.4.2 Automatic runtime start

[Automatic runtime start]で、定義された遅延時間後に、HMIデバイスでプロジェクトが自動的に起動されるかどうかを設定します。



Automatic runtime start



[Waiting time(s)]:定義された遅延時間後に、HMIデバイスでプロジェクトが自動的に起動されるかどうかを決定するドロップダウンリスト。

選択オプション:

- [0]:オペレーティングシステムの後に直接プロジェクトが起動されます。
- [15]～[60]:15～60秒の遅延時間後にプロジェクトが起動されます。遅延時間中、カウントダウンと次のボタンとともにダイアログ[Runtime Start]が表示されます。
 - [Cancel]:ダイアログが閉じ、ランタイムは起動しません。
 - [Skip]:遅延時間がスキップされ、ランタイムが起動します。
- [no automatic runtime start](初期設定):プロジェクトは自動的には開始されませんが、[コントロールパネル]の[Start Runtime]ボタンで起動できます。

ランタイムの始動

ランタイムがHMIデバイスで起動している間、ダイアログボックス[Runtime Start]が初期化メッセージとともに表示されます。ランタイム始動中は、コントロールパネルを操作できません。

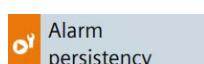
注記

プロジェクトが起動されていると、[コントロールパネル]を開くための次のオプションを使用できます。

- タスクバー(ページ71)の使用。
- [ShowControlPanel]または[StopRuntime]機能が設定されている操作オブジェクトの使用。

5.4.3 Alarm persistency

[Alarm persistency]でアラームバッファの保持型アドレスエリアを有効または無効にできます。初期設定は、[無効]です。



注記

[Alarm persistency]を[Update OS]や[Restore]と組み合わせる

[Update OS]を使用してオペレーティングシステムをアップグレードするか[Restore]を使用してバックアップを復元する場合、アラームバッファ内のすべてのデータが削除されます。

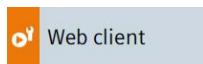
Alarm persistency configuration



- [Storage media]:保持型アラームバッファの記憶媒体を定義するための選択リスト。選択オプション:
 - [Internal Memory]:内部フラッシュメモリに書き込まれるアラーム。
 - [Enable alarm persistency]:アラームバッファの保持型アドレスエリアを有効または無効にするオプション。初期設定は、[無効]です。
アラームバッファの保持が有効化されると、保持型アラームデータが選択された記憶媒体に2秒ごとにバックアップされます。
アラームバッファはリングバッファとして設計されています。アラームバッファの最大容量に達すると、最も古いアラームが削除され、最新のアラームが表示されます。
アラームの数が多いと、その記憶媒体の読み取り/書き込みサイクルの回数が同じように高くなります。
メッセージバッファの保持型アドレスエリアが無効の場合、メッセージバッファは空になり、保持型アラームデータが選択された記憶媒体にバックアップされなくなります。これは、アラーム数が多いときに、記憶媒体があまり使用されなくなることを意味します。
- [Enable alarm persistency]オプションの切り替えには再起動が必要です。[Enable alarm persistency]ダイアログが表示されます。[OK]ボタンを使用してシステムを再起動します。

5.4.4 Web client

[Web client]で、ランタイムプロジェクトへのWebベースのクライアントアクセスを有効にできます。クライアント経由のランタイムのオペレータ制御は同期されていません。つまり、サーバーの表示コンテンツは、クライアントがランタイムで操作されている間は変更されません。



注記

HMIデバイスの構成でリモートアクセスの設定を指定し、プロジェクトと一緒にHMIデバイスにロードすることもできます。

Web client configuration



- [Enable web access to runtime]:ランタイムプロジェクトへのWebアクセスを有効にするオプションです。

注記

ランタイムプロジェクトへのWebアクセスを有効にすると、HMIデバイスへのWebアクセスポートが自動的にアクティブ化されます。「Port settings (ページ 138)」のセクションを参照してください。

ランタイムプロジェクトへのWebアクセス

Webアクセスが有効にされていると、ブラウザ経由でランタイムプロジェクトにアクセスできます。「HMIデバイスへのWebアクセス (ページ 77)」のセクションを参照してください。

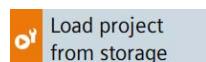
リモートアクセスの詳細については、TIA Portalヘルプの「Web client」を参照してください。[可視化プロセス(RT Unified)] > [分散システムの使用] > [Webクライアント]。

5.4.5 Load project from storage

[Load project from storage]で、WinCC (TIA Portal)の外部記憶媒体にバックアップされているプロジェクトをHMIデバイスに読み込むことができます。

HMIデバイスを設定してから、ドラッグアンドドロップを使用してHMIデバイスのフォルダ(例、「HMI_1 [<DeviceType>]」)を[カードリーダー/USBメモリ]の下にある外部記憶媒体(USBアイコン)に移動することで、必要なプロジェクトデータをWinCCで生成します。

推奨事項:プロジェクトのランタイムバージョンおよびファームウェアバージョンは、HMIデバイスのバージョンと一致している必要があります。



Select storage media for project transfer



バックアップされたプロジェクトが保存されている記憶媒体を選択します。

Projects on external storage

Project Name	Device Type	RT Version
HMI_RT_1[Line 1 Station 1]...	MTP1500 Unified Comfort	21.0.0.0
HMI_RT_1[Line 1 Station 2]...	MTP1900 Unified Comfort	21.0.0.0
HMI_RT_1[Line 2 Station 1]...	MTP2200 Unified Comfort	21.0.0.1

Show details

Load project

- 外部記憶媒体にあるすべてのプロジェクトが一覧に含まれます。
- [Show details]:選択されたプロジェクトの追加情報を表示するためのボタンです。
- [Load project]:選択されたプロジェクトを読み込むためのボタンです。

詳細表示および互換性確認

プロジェクトを選択した場合、[Show details]ボタンを使用して選択されたプロジェクトに関する詳細情報を表示し、そのプロジェクトがHMIデバイスに読み込み可能かどうかを確認できます。



- [Name]:プロジェクトの名前。
- [Device]:プロジェクトでのHMIデバイスの名前。
- [RT Version]:プロジェクトのランタイムバージョン。
- [Project path]:外部記憶媒体でのプロジェクトのパス。
- [Project ID]:ランタイムプロジェクトの一意の識別情報は、WinCC (TIA Portal)の[ランタイムID]と同一です。
- [Date created]:WinCC (TIA Portal)のプロジェクトが記憶媒体に保存された日付。
- [Size]:記憶媒体でのプロジェクトのサイズ。
- [Compatibility]:プロジェクトの互換性に関するメッセージ。HMIデバイスはこの出力フィールドに表示されます。互換性の程度に応じて、メッセージが色分けされます。

次のメッセージが[Compatibility]出力フィールドに表示されることがあります。

- メッセージ[Compatible]:プロジェクトおよびHMIデバイスに互換性があります。プロジェクトは問題なく読み込むことができます。
- [警告]タイプのメッセージはオレンジ色に強調表示されます:プロジェクトおよびHMIデバイスのファームウェアおよび/またはランタイムバージョンが異なります。それらのバージョンには互換性があります。[Upgrade]または[Downgrade]はオプションです。プロジェクトを読み込むことができます。
- [エラー]タイプのメッセージは赤色に強調表示されます:下記のいずれかの理由で、プロジェクトを読み込むことができません。
 - プロジェクトおよびデバイスタイプに互換性がありません。例えば、プロジェクトが異なるデバイスタイプに対して作成されました。プロジェクトを読み込むには、WinCCのデバイスを交換します。
 - プロジェクトおよびHMIデバイスのファームウェアおよび/またはランタイムバージョンに互換性がありません。[Upgrade]または[Downgrade]が必要です。プロジェクトを読み込むには、HMIデバイスのオペレーティングシステムを更新します。

オペレーティングシステムの更新に関する情報は、このセクションの末尾および「参照項目」を参照してください。

プロジェクトの読み込み

[Load preview]ダイアログが[Load project]ボタンによって表示されます。



- [Keep actual values of the following objects]で、次のオブジェクトのプロセス値が保持されるかどうかを指定します。
 - [Screen objects and tags]:HMIデバイスの画面オブジェクトおよびタグのプロセス値を保持するオプションです。
 - [User administration data]:HMIデバイスのユーザー管理を保持するオプションです。
- [Reset logging and alarm events]で、ログおよびアラームイベントのデータが削除されるかどうかを指定します。
 - [All logging activities]:すべてのログおよびアラームイベントを削除するためのオプションです。
- [Encrypted project transfer]領域は、選択されたプロジェクトに対して、暗号化された転送が有効なときに表示されます。この場合、暗号化された転送に対してWinCCで設定されたパスワードを入力します。
- [Load]ボタンによって、選択された設定を考慮に入れて、プロジェクトがHMIデバイスに読み込まれます。

読み込みプロセス後、HMIデバイスで[Start Runtime]機能を使用してプロジェクトを起動できます。

現在グレー表示されているオプションの有効化は、将来のファームウェアバージョンで予定されています。

下記も参照

Update OS (ページ 146)

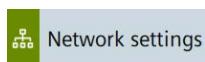
オペレーティングシステムの更新 (ページ 182)

5.5 Network and Internet

5.5.1 Network settings

5.5.1.1 概要

[Network settings]で、ネットワークおよびネットワークインターフェースX1とX2の設定を変更します。両方のインターフェースは、PROFINET基本サービスをサポートしています。



次のボタンによって、対応する設定に移動されます。



PN-X1



PN-X2



General

- [PN-X1]:X1インターフェースの設定 (ページ 105)
- [PN-X2]:X2インターフェースの設定 (ページ 106)
- [General]:全般設定 (ページ 109)

[Network settings]の設定は、オペレーティングシステムの再起動や更新後に保持されます。

次の場合、[Network settings]の設定は保持されません。

- HMIデバイスが出荷時設定にリセットされた場合、すべての設定が初期設定にリセットされます。
- 変更されたネットワーク設定を使用するプロジェクトをHMIデバイスに読み込むとき、プロジェクトからの値が適用されます。
- 他のネットワーク設定を含むバックアップがHMIデバイスにロードされると、例えば[Restore]機能を使用するか、「自動バックアップ」に使用したシステムメモリカードを挿入することによって実行できます。

X1およびX2インターフェースに関する重要な情報

DNSはX2でのみサポートされています

名前解決のためのDNSサーバーの使用は、インターフェースX2でのみサポートされます。

X2インターフェースは主に、DNS名前解決を必要とするIT接続を対象としています。

集中ユーザー管理用のUMCサーバーなど、DNS名前解決を必要とする接続には、インターフェースX2を使用します。

5.5.1.2 PN-X1

[PN-X1]で、X1インターフェースおよびX1P1とX1P2コネクタの両方のパラメータを設定します。



PROFINET

Device name:	<input type="text" value="mtp1500.x1"/>
Converted name:	<input type="text" value="mtp1500.x1"/>
MAC address:	<input type="text" value="08-00-06-00-02-b0"/>

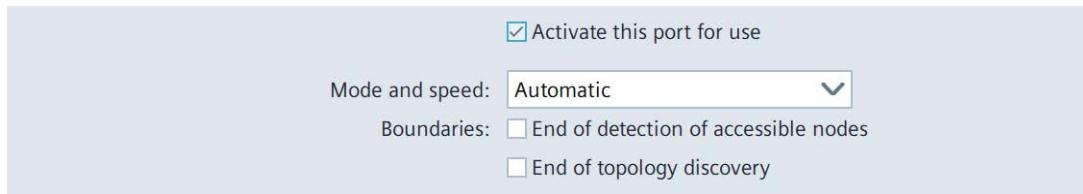
- [Device name]:このインターフェースのPROFINET名には、スペースは含まれていてはならず、ローカルネットワークで一意である必要があります。
- [Converted name]:このインターフェースのPROFINET名のある表示フィールドには、[Device name]にエントリが含まれ、PROFINETの名前表記規則に基づいて自動的に変換されます。
- [MAC address]:HMIデバイスのX1インターフェースのMACアドレスの含まれるフィールドを表示します。

IP address

<input checked="" type="radio"/> Specify an IP address
IP address: <input type="text" value="123.45.67.8"/>
Subnet mask: <input type="text" value="255.255.0.0"/>
Default gateway: <input type="text"/>
Set IP address

- [Specify an IP address]:IPアドレスを手動で割り付けるオプション。
- [IP address]:X1P1およびX1P2ポートのX1インターフェースのIPアドレス。
IPアドレスはローカルネットワーク内で一意でなければなりません。これに当てはまらない場合、HMIデバイスのIPアドレスは自動的に値「0.0.0.0」に設定されます。
X1およびX2インターフェースのIPアドレスは、異なるサブネットに配置されている必要があります。
SIMATIC EdgeがHMIデバイスユニットでアクティベートされているかどうかに関係なく、IPサブネット「172.17.0.0/16」はSIMATIC Edge通信用に予約されています。
このIPアドレス領域を一般のネットワーク通信に使用してはなりません。
- [Subnet mask]:X1インターフェースのIPアドレスのサブネットマスク。
- [Default gateway]:複数の異なるローカルネットワークが使用される場合のゲートウェイのIPアドレス(ルータ)。
- [Set IP address]:指定されたIPアドレスパラメータを保存するボタン。

Ethernet parameters Port 1、Ethernet Parameters Port 2



- [Activate this port for use]: X1P1またはX1P2ポートを有効化または無効化するオプション。初期設定は、[有効]です。
- [Mode and speed]: インターフェースの伝送タイプおよび伝送速度を選択するためのリスト。選択オプション: [Automatic] (初期設定)または[100Mbps / FDX] (100Mbps、全二重)。初期設定の[Automatic]を使用することを推奨します。
- [Boundaries]:
 - [End of detection of accessible nodes]: 使用可能なノードを検出するためのDCPフレームは転送されません。このインターフェースを超えるノードは、もはやアクセスできません。
 - [End of topology discovery]: トポロジ検出用のLLDPフレームは、次の隣接ポートに送信されません。

[Ethernet parameters Port 1]および[Ethernet parameters Port 2]で変更を加えると再起動が必要です。[PROFINET Port Settings]ダイアログボックスが表示されます。[Restart]ボタンを使用してシステムを再起動します。

5.5.1.3 PN-X2

[PN-X2]で、X2インターフェースのパラメータを設定します。



PROFINET



- [Device name]: このインターフェースのPROFINET名には、スペースは含まれていてはならず、ローカルネットワークで一意である必要があります。
- [Converted name]: このインターフェースのPROFINET名のある表示フィールドには、[Device name]にエントリが含まれ、PROFINETの名前表記規則に基づいて自動的に変換されます。
- [MAC address]: HMIデバイスのX2インターフェースのMACアドレスの含まれるフィールドを表示します。

IP address

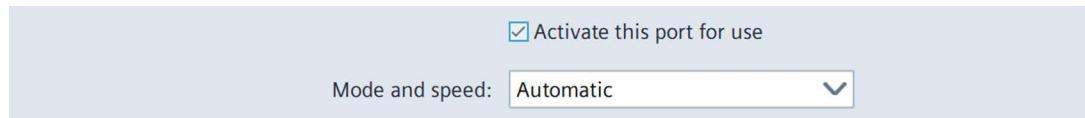


- [Obtain an IP address via DHCP](初期設定): DHCPサーバーを介してIPアドレスを自動的に割り付けるオプション。
- [Specify an IP address]: IPアドレスを手動で割り付けるオプション。
- [IP address]: X2インターフェースのIPアドレス。
IPアドレスはローカルネットワーク内で一意でなければなりません。X2およびX1インターフェースのIPアドレスは、異なるサブネットに配置されている必要があります。
SIMATIC EdgeがHMIデバイスユニットでアクティベートされているかどうかに関係なく、IPサブネット「172.17.0.0/16」はSIMATIC Edge通信用に予約されています。このIPアドレス領域を一般のネットワーク通信に使用してはなりません。
- [Subnet mask]: X2インターフェースのIPアドレスのサブネットマスク。
- [Default gateway]: 複数の異なるローカルネットワークが使用される場合のゲートウェイのIPアドレス(ルータ)。
- [Set IP address]: 指定されたIPアドレスパラメータを保存するボタン。

注記

[Obtain an IP address via DHCP]オプションを選択すると、プロジェクトが読み込まれたときに、この設定が上書きされません。[Specify an IP address]オプションを選択すると、WinCCデバイス設定のネットワークアドレスを設定し、それをプロジェクトと一緒にHMIデバイスに読み込むこともできます。

Ethernet parameters Port



- [Activate this port for use]:ポートを有効化または無効化するオプション。初期設定は、[有効]です。
- [Mode and speed]:ポートの伝送タイプおよび伝送速度を選択するためのリスト。選択オプション:
 - [Automatic](初期設定)
 - [10Mbps / HDX] (10Mbps、半二重)
 - [10Mbps / FDX] (10Mbps、全二重)
 - [100Mbps / HDX] (100Mbps、半二重)
 - [100Mbps / FDX] (100Mbps、全二重)初期設定の[Automatic]を使用することを推奨します。

注記

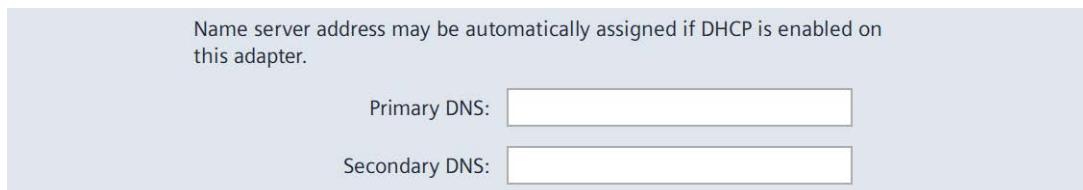
インターフェースX2との[Boundaries]オプションはありません

インターフェースX2は2つの[Boundaries]オプション

[End of detection of accessible nodes]および[End of topology discovery]をサポートしていません。

DCPフレームは転送されません。したがって、LLDPフレームは常に次の隣接ポートに送信され、到達可能なデバイスの検出と、このインターフェースに接続されているデバイスのトポロジ検出が可能になります。

Name servers



- [Primary DNS]:DNSサーバーのアドレス。
 - [Secondary DNS]:セカンダリDNSサーバーのアドレス。
- [Obtain an IP address via DHCP]オプションを[IP address]で有効にすると、[Name servers]の仕様が選択可能になります。

5.5.1.4 General

HMIデバイスの両方のネットワークインターフェースの一般的なパラメータは、[General]で定義します。



General network settings

SNMP settings

Enable simple network management protocol (SNMP)

- [Enable simple network management protocol (SNMP)]:データ転送のために簡易ネットワーク管理プロトコルポートを有効化または無効化するオプション。HMIデバイスは、SNMP v1をサポートしています。

初期設定は、[無効]です。

注記

このオプションを無効にすると、ネットワークで他のデバイスとやり取りする情報が少なくなるため、情報セキュリティが向上します。

DCP settings

When activated, DCP write protection prevents network tools from changing the device's name and IP address while maintaining network visibility.

Activate DCP Write Protection

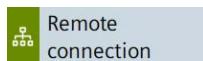
- [Activate DCP Write Protection]:DCP書き込み保護を有効にするオプション。このオプションを有効にすると、ネットワーク経由で外部デバイスまたはツールによって次の機能が実行されなくなります。

- X1およびX2インターフェースのPROFINET名を変更する([Device name])
- X1およびX2インターフェースのIPアドレスを変更する
- HMIデバイスを工場出荷時の設定にリセットする

初期設定は、[無効]です。

5.5.2 Remote connection

[Remote connection]で、HMIデバイスへのリモートアクセスの設定を変更します。リモートアクセスに対して2つのパスワードを設定できます。例えば、[操作]権限に対して1つのパスワード、[モニタ]権限に対して1つのパスワードを設定します。コントロールパネルまたはランタイムでのオペレータ制御は同期されています。つまり、サーバーの表示コンテンツは、クライアントのコンテンツの表示が変更されたときに同時に変更されます。



設定を変更するとすべてのクライアント接続が切断されるため、Remote connectionに接続しているクライアントがない場合のみ[Smart Server]の設定を変更します。

注記

HMIデバイスの構成でリモートアクセスの設定を指定し、プロジェクトと一緒にHMIデバイスにロードすることもできます。

Smart Server

Enable Smart Server

[Enable Smart Server]:HMIデバイスでSmart Serverを有効化または無効化するオプション。初期設定は、[無効]です。このオプションは、[Users]で、2つの異なるパスワードが設定されている場合にのみ有効にできます。

または、ランタイム設定のHMIデバイスの設定でSmart Serverを有効にし、プロジェクトとともにHMIデバイスにロードすることもできます。

Smart ServerがHMIデバイス上で起動されると、Smart ClientアプリケーションまたはTigervncなどのVNCクライアントを介してHMIデバイスにアクセスできるようになります。[Users]の設定に応じて、クライアントはサーバーデバイスの操作またはモニタを行うことができます。

注記

接続の帯域幅および接続されているクライアントの数に応じて、クライアントのパフォーマンスがSmart Serverのパフォーマンスと異なってくる場合があります。

Smart Serverに接続し、ランタイムプロジェクトを操作またはモニタする各クライアントは、Smart Serverデバイスのリソースを使用します。リソースのパフォーマンス向上および消費の低減のため、同時にSmart Serverに接続されているクライアント数をできるだけ少なくする必要があります。

推奨事項:最大3つのクライアントをSmart Serverに接続します。

Users

Password for user1: i

User1 is allowed to remote control the panel

Password for user2: i

User2 is allowed to remote control the panel

この領域では、2人のユーザーに対してパスワードとアクセス権を定義します。2人のユーザーのパスワードを同じにしてはなりません。複数のユーザーは、パスワードを使用して同時にSmart Serverにアクセスできます。

- [Password for user1]:HMIデバイスへのアクセス用の最初のパスワード。初期設定: [空]。
 - [User1 is allowed to remote control the panel]:パスワード1を使用してログインしたユーザー用の[操作]権限を有効にするオプション。初期設定は、[無効]です。
- [Password for user2]:HMIデバイスへのアクセス用の2番目のパスワード。パスワードは[Password for user1]と区別する必要があります。初期設定: [空]。
 - [User2 is allowed to remote control the panel]:パスワード2を使用してログインしたユーザー用の[操作]権限を有効にするオプション。初期設定は、[無効]です。

Smart Serverのパスワードのガイドライン

[Users]のパスワードは、ちょうど8文字の長さであり、次の文字が含まれている必要があります。

- 大文字1文字以上(A~Z)
- 小文字1文字以上(a~z)
- 数字1文字以上(0~9)
- 特殊文字1文字以上(! \$ % & () * + , - . / ; < = > ? @ [\] _ { | } ~ ^)

Communication

Secure communication via self-signed certificate

Port Configuration: Automatic

Manual

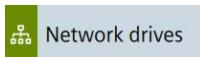
Port for access from desktop application:

- [Secure communication via self-signed certificate]:SSL暗号化を介した安全な通信を有効にするオプション。初期設定: [有効]。クライアントアクセスは、クライアントアプリケーションがSSL暗号化をサポートしている場合のみ可能になります。

- [Port Configuration]
 - [Automatic](初期設定):自動ポート割り付けを有効にするオプション。ポート番号の初期値[5900]は変更されないままになります。
 - [Manual]:手動ポート割り付けを有効にするオプション。
- [Port for access from desktop application]:Smart Clientアプリケーションを介したアクセス用のポート番号。初期値は[5900]です。

5.5.3 Network drives

[Network drives]で、HMIデバイスがアクセスできるネットワークドライブを管理します。



次の条件がネットワークドライブに適用されます。

- ネットワークドライブはHMIデバイスのサブネットのサーバーPCに配置され、アクセスに対して有効にされている必要があります。
- サーバーPCのオペレーティングシステムは、ネットワークプロトコルSMB 3.0以降をサポートしている必要があります。
- ネットワークドライブは、サーバーPCとHMIデバイスの間のデータ交換のみに対して使用できます。
これは、ネットワークドライブを次の機能などに使用できないことを意味します。
 - オペレーティングシステムの更新、バックアップ、復元
 - プロジェクトの転送
 - ファイルからユーザー管理をインポートするか、ファイルへそれをエクスポート
 - ロギングやレポーティングなどのランタイム機能
 - 証明書のインポート
- HMIデバイスには最大5つのネットワークドライブを作成できます(コントロールパネル > [Network and Internet] > [Network drives])。
- WinCC (TIA Portal)の[ランタイム設定] > [記憶媒体]で最大5個の追加のネットワークドライブを設定し、HMIデバイスにロードできます。これらの事前設定されたネットワークドライブには次の内容が適用されます。
 - プロジェクトの転送後、[Configure]ボタンを使用してユーザー名とパスワードを正しく入力する必要があります。
 - [Name]のネットワークドライブ名([Configure]ボタンを押した後に表示される)がHMIデバイス上で有効であり、スクリプトなどによって使用できます(例えばネットワークドライブにアクセスするなど)。
 - 読み込まれたネットワークドライブは、[Network drives]ボタンを使用して[Remove]リストから削除することはできません。
 - 各プロジェクトの転送中に、WinCC (TIA Portal)を介して設定された以前のネットワークドライブがHMIデバイス上で削除され、新しい設定がロードされます。

Network drives

Remote Path	User Name	Local Path	Status	Type
Add		Configure		Remove

ネットワークドライブの次のプロパティがリストに表示されます:

- [Remote Path]:ネットワークドライブのパス
- [User Name]:ネットワークドライブに接続するために使用されるユーザー名
- [Local Path]:ネットワークドライブにアクセスするためのローカルパス。例えば、「/net/mount/remotedrive」。
- [Status]:ネットワークドライブの接続ステータスの情報。セクションの最後にある「ステータスのアラーム」の段落を参照してください。
- [Type]:ネットワークドライブがHMIデバイス上で作成されたか、エンジニアリング内で作成されたかを表示します。
 - [User-defined]:ネットワークドライブはHMIデバイスのコントロールパネルで作成されました。
 - [Pre-configured]:ネットワークドライブはWinCC (TIA Portal)で設定され、プロジェクトとともにHMIデバイスにロードされました。

次の機能のある次のようなボタンがリストの下にあります:

- [Add]:ネットワークドライブを追加します。
- [Configure]:ネットワークドライブのプロパティを編集します。
- [Remove]:ネットワークドライブを切断します。HMIデバイス上に作成されたネットワークドライブのみ対象です。

注記

[Reboot]と[Update OS]

ネットワークドライブは、HMIデバイスの再起動後に、リストに保持されます。

オペレーティングシステムが更新されると、[Remote Path]の入力内容は保持されます
が、[Username]および[Password]の資格情報は、セキュリティ上の理由から、再度入力
する必要があります。

ネットワーク ドライブの追加

1. [Add]を押して、[Add Network Drive]ダイアログを開きます。



注記

[Add Network Drive]ダイアログの入力ボックスのガイドライン

入力ボックスの最大許容文字数は、255です。

入力ボックス[Name]、[Remote Path]および[Username]は必須フィールドです。次の文字をこれらの入力ボックスで使用できます。

- 大文字(A~Z)
- 小文字(a~z)
- 数字(0~9)
- 特殊文字()

次の入力ボックスでは、次の追加の特殊文字が許可されています。

- [Remote Path]:特殊文字(- /)
- [Username]:特殊文字(- .)

入力フィールド[Password]には文字制限がありません。

2. [Name]にネットワークドライブの一意な名前を入力します。

さらに、この名前のサブディレクトリが「/net/mount」の下に作成され、[Local Path]の下に表示されます。

例: [Name] = [pc_drive] => [Local Path] = 「/net/mount/pc_drive」

注記

ネットワーク ドライブの名前は変更できません

HMIデバイス上に作成されたネットワークの名前を変更するには、ネットワークドライブを削除して再度作成します。

設定およびロードされたネットワークドライブの名前を変更するには、設定を調整し、プロジェクトをHMIデバイスにロードします。

3. [Remote Path]で、HMIデバイスのサブネットの有効なネットワークドライブに対するパスを入力します。

構文: 「//<サーバーPCのIPアドレス>/<ネットワークドライブの有効名>」

例: 「//169.254.139.190/mounttest」

常にIPアドレスを使用してください。コンピュータ名の仕様はサポートされていません。

4. [Username]と[Password]に、ネットワークドライブにアクセスのあるユーザーの認証情報を入力してください。

次のボタンを使用して、ダイアログが表示されている間、パスワードを可視状態で表示されるようにすることができます。



5. [OK]をクリックして、エントリを確定します。

ダイアログが閉じます。

接続のセットアップに成功すると、[Status]情報が[Connected]リストの[Network drives]列の下に表示されます。

接続のセットアップができなかった場合、[Failed]情報が[Status]の下に表示されます。この場合、サーバーPCへの接続、およびネットワークドライブの有効化プロパティを確認します。

ステータスマッセージ

次の表に、ステータスマッセージ、意味、およびエラー発生時に講じることができる対策を示します。

ステータスマッセージ	意味	対策
Connecting	ネットワークドライブへの接続を確立しようとします。	-
Connected	ネットワークドライブの接続に成功しました。	-
Failed	ネットワークドライブへの接続を確立できませんでした。	サーバーPCのネットワークドライブ共有設定とユーザーアクセス権限を確認してください。ネットワークドライブ用のログインデータ[Username]、[Password]および[Remote Path]を再入力してください。
Draft	ネットワークドライブのプロパティが完全に指定されていません。	ネットワークドライブの不足しているプロパティを入力します。

ステータスは、「StartProgram」システム関数と「checkNetworkDrive.sh」スクリプト経由で呼び出すこともできます。

システム関数の「プログラム名」の下に次のコマンドを入力します。

/opt/siemens/App_Restriction/checkNetworkDrive.sh <ユーザー|事前設定> <ネットワークドライブ名>

例:

- HMIデバイス上に作成された、「local_drive」という名前のネットワークドライブのステータスを確認します。

```
/opt/siemens/App_Restriction/checkNetworkDrive.sh user
local_drive
```

- WinCC (TIA Portal)で設定され、HMIデバイスにロードされた、「pc_drive」という名前のネットワークドライブのステータスを確認します。

```
/opt/siemens/App_Restriction/checkNetworkDrive.sh
preconfigured pc_drive
```

スクリプトは、上記の表のいずれかのステータスメッセージを戻り値として返します。

5.5.4 Unified Air

ローカルユーザー管理に関する統合化されたモバイルデバイス上の[SIMATIC Unified Air]アプリを使用して生体認証を有効にします。



次の図は、Unified Airを有効にするための[コントロールパネル]ページを示しています。



- [Unified Air]:HMIデバイス用にUnified Airを有効化または無効化するオプション。初期設定は、[無効]です。
[Unified Air]が有効になっている場合、「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーは、自分自身または他のユーザー用に生体認証を設定できます。

注記

Unified AirはRFID機能を使用します。したがって、オプション[UMAC settings] > [Enable authentication via RFID card] (ページ 135)を追加で有効化する必要があります。

Unified Airのステータスは、[Unified Air]オプションの下に表示されます。

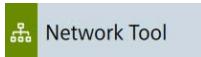
- [Not running]:Unified Airが有効化されていること。
- [Not running. Bluetooth dongle not compatible]:Bluetooth ドングルはUnified Airに適していないため、Unified Airを有効化できません。
- [Running]:Unified Airが有効化されていること。

Unified Airが有効になっている場合、HMIデバイスにBluetooth経由でアクセスできるデバイス名がUnified Airステータスの下に表示されます。このデバイス名は [Network and Internet] > [Network settings] > [PN-X2] > [PROFINET] > [Converted name] のエントリに対応しています。

Unified Airに関する詳細情報は、インターネット
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109827893>)で参照できます。

5.5.5 Network Tool

[Network Tool]で、HMIデバイスのサブネット内にあるPROFINETデバイスの特定のインターフェースパラメータを変更できます。



これにより、たとえば、プロジェクトを作成し、それを複数のHMIデバイスに転送してから、HMIデバイスのIPアドレスを調整することができるようになります。

必要条件

[Network Tool]のすべての機能を使用するには、HMIデバイスに接続されているPROFINETデバイスが次の条件を満たしている必要があります。

- PROFINETデバイスは、HMIデバイスのサブネット内にある必要があります。
- SIMATIC HMIデバイスの場合、次が適用されます。ランタイムが停止されている必要があります。
- コントローラの場合、次が適用されます。
 - HMIアクセスが設定で許可されていること。
 - コントローラが[STOP]状態であること。

Network Tool



次の機能のある次のようなボタンがリストの上にあります:

	[Scan]:選択したインターフェースに接続されているすべてのPROFINETデバイスを検索するボタン。
	[Flash]:リスト内で選択されたデバイスを「点滅」で識別するボタン。たとえば、HMIデバイスではディスプレイが点滅します。たとえば、ディスプレイのないデバイスでは、ステータスLEDまたはEthernet/PROFINETインターフェースLEDが点滅します。
	[Edit]ボタンを使用して、リストで選択したデバイスのインターフェースパラメータを編集できます。
	[Reset to factory]:リストで選択したデバイスのインターフェースパラメータを工場出荷時の設定にリセットするボタン。

見つかったPROFINETデバイスの次のパラメータがリストに表示されます。

- [Device Name]:PROFINETデバイスがHMIデバイスに接続されるインターフェースのPROFINET名。
- [MAC Address]:このインターフェースのMACアドレス。

- [Device Type]:PROFINETデバイスのファームウェアに応じたデバイスタイプ。
- [IP Address]:PROFINETデバイスがHMIデバイスに接続されるインターフェースのIPアドレス。
- [Subnet Mask]:IPアドレスのサブネットマスク。

接続されたデバイスの検索と識別

1. リストの右上にある[PN-X1]または[PN-X2]インターフェースを選択します。
2. [Scan]で、選択したインターフェースに接続されているPROFINETデバイスを検索します。



検索が完了すると、見つかったすべてのデバイスがリストに表示されます。次の図に、例を示します。

Device Name	MAC Address	Device Type	IP Address	Subnet Mask
mtp1200ubp	4c:e7:05:4e:d8:af	MTP1200 Unified...	169.254.139.200	255.255.0.0

3. プラント内のデバイスを識別するには、リストからデバイスを選択し、[Flash]ボタンを押します。



上記の例では、デバイス「mtp1200ubp」のディスプレイは3回点滅します。

接続されたデバイスのインターフェースパラメータの変更

1. [Edit]を押して、[Configure Device Parameters]ダイアログを開きます。

Configure Device Parameters

Device Name:	mtp1200ubp
IP Address:	169.254.139.200
Subnet Mask:	255.255.0.0
Default Gateway:	0.0.0.0
MAC Address:	4c:e7:05:4e:d8:af
Edit Type:	All
<input type="button" value="Set"/> <input type="button" value="Cancel"/>	

2. [Device Name]で、PROFINETデバイスをHMIデバイスに接続するためのインターフェースのPROFINET名を変更できます。

PROFINET名にはスペースを含めることはできず、ローカルネットワークで一意である必要があります。

3. [IP Address]および[Subnet Mask]のインターフェースのIPアドレスとサブネットマスクを調整できます。
関連するPROFINETデバイスのドキュメントで対応する情報を確認してください。
4. [Default gateway]:複数の異なるローカルネットワークが使用される場合のゲートウェイのIPアドレス(ルータ)。
5. PROFINETデバイスがHMIデバイスに接続されているインターフェースの固定MACアドレスは、[MAC Address]フィールドに表示されます。
MACアドレスは変更できません。
6. [編集タイプ]で、開いているダイアログ[Configure Device Parameters]で編集できる入力ボックスを選択できます。
 - [All]:記載されているすべての入力ボックス
 - [IP]:[IP Address]、[Subnet Mask]および[Default Gateway]入力ボックスのみ
 - [Device Name]:PROFINETデバイス名のみ
7. [Set]をクリックして、エントリを確定します。
ダイアログが閉じます。

選択したPROFINETデバイスのインターフェースパラメータが変更され、リストの対応する行に表示されます。

変更は保持されます。つまり、選択したPROFINETデバイスの再起動後も変更は保持されます。

5.6 Security

5.6.1 User management

[User management]で、便利なユーザー管理を使用できます。ユーザー管理は、WinCCで設定され、HMIデバイスに転送され、HMIデバイスで管理されます。

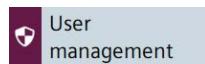
Webアクセスは、ユーザー管理に対しても使用できます。「HMIデバイスへのWebアクセス (ページ 77)」を参照してください。RFID割り付けの機能は、Webアクセス経由では利用できないことに注意してください。

注記

設定およびプロジェクト転送に関する重要な情報

- ユーザーに役割を割り付けていないか、設定に機能権限がない場合、ユーザーまたは役割はデバイスに読み込まれません。
WinCCでは、HMIデバイスで必要な機能権限を持つHMIデバイスで必要なすべての役割を設定します。HMIデバイスで必要な各役割を少なくとも1人のユーザーに割り付けます。
- WinCCからHMIデバイスにユーザー管理を転送するには、プロジェクト転送中 (ページ 176)に、[プレビューを読み込み]ダイアログボックスで、[ランタイムで現在のユーザー管理データを保持する]オプションをディアクティベートする必要があります。

設定に関する詳細情報は、TIA Portalヘルプの[可視化プロセス(RT Unified)] > [ユーザーおよび役割の設定(RT Unified)]で参照できます。



完全なユーザーリストは、設定で[ユーザー管理]機能権限が割り付けられているユーザーのみが表示し編集することができます。

他の機能権限のあるユーザーは、ユーザーリストの自分のエントリを表示し、[Current user]領域のボタンのみ使用できます。

パスワード保護が[コントロールパネル]に対して有効にされていると、[コントロールパネルアクセス]機能権限のあるユーザーのみが[コントロールパネル]にアクセスできます。

設定中にパスワードガイドラインが指定されます。ユーザーの機能権限は、コントロールパネルおよびランタイムソフトウェアに対して有効です。

Current user



- [Logged in user]:現在ログインしているユーザーのログイン名を表示します。ログインしているユーザーがまだいない場合、[No User logged in]が表示されます。

- [Change password]:現在ログインしているユーザーのパスワードを変更するためのボタン。ボタンを押した後、[Change password]ダイアログが表示されます。

Change password

Username: admin

Password:

New Password:

Confirm Password:

OK Cancel

以前のパスワードを1回入力し、新しいパスワードを2回入力します。次のボタンを使用して、ダイアログボックスが表示されている間、パスワードを可視状態することができます。



- [Change user]:現在のユーザーを変更するためのボタン。
[Login]:ユーザーにログインするためのボタン。
ボタンを押した後、[User Login]ダイアログが表示されます。

Access to control panel is restricted

Please enter user name and password to gain access:

Username:

Password:

Login Change password Cancel

希望するログイン名を関連するパスワードと一緒に入力し、[Login]ボタンを使用してログインします。

注記

ログインの試行回数

ログイン資格情報を正しく入力するための試行回数は、WinCCの[ランタイム設定] > [セキュリティ]で設定できます。

ログイン資格情報をもう一度間違えて入力すると、関係するユーザーがロックアウトされます。そのユーザーを削除し、再度作成するか、ユーザー管理をHMIデバイスに再ロードする必要があります。

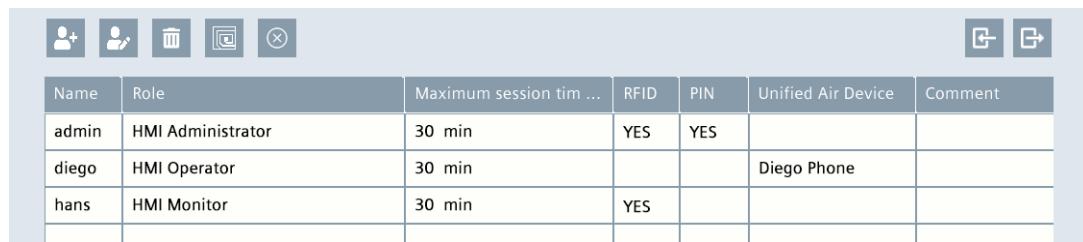
ログイン資格情報を正しく入力していることを確認してください。

5.6 Security

代替オプション:

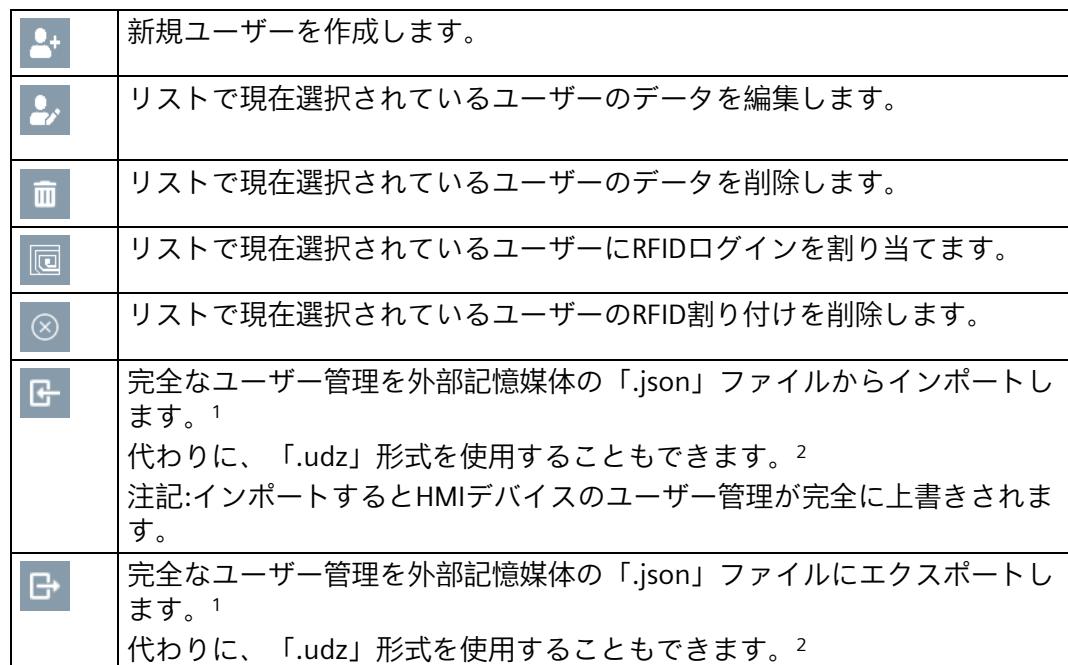
- ユーザーにRFIDログインが割り当てられている場合は、RFIDカードを使用してログインできます。お使いのRFIDカードをRFIDリーダーの直前にかざし、必要に応じてPINを入力します。
- ユーザーが[Unified Air]を介してログインが割り当てられている場合は、モバイル端末デバイスからログインできます。

Users



Name	Role	Maximum session time	RFID	PIN	Unified Air Device	Comment
admin	HMI Administrator	30 min	YES	YES		
diego	HMI Operator	30 min			Diego Phone	
hans	HMI Monitor	30 min	YES			

- [ユーザー管理]機能が右にあるユーザー向けに次の機能のある次のようなボタンがユーザーリストの上にあります。



	新規ユーザーを作成します。
	リストで現在選択されているユーザーのデータを編集します。
	リストで現在選択されているユーザーのデータを削除します。
	リストで現在選択されているユーザーにRFIDログインを割り当てます。
	リストで現在選択されているユーザーのRFID割り付けを削除します。
	完全なユーザー管理を外部記憶媒体の「.json」ファイルからインポートします。 ¹ 代わりに、「.udz」形式を使用することもできます。 ² 注記:インポートするとHMIデバイスのユーザー管理が完全に上書きされます。
	完全なユーザー管理を外部記憶媒体の「.json」ファイルにエクスポートします。 ¹ 代わりに、「.udz」形式を使用することもできます。 ²

¹ ユーザー管理のインポートおよびエクスポートには「ユーザー管理」機能権限が必要です。WinCCで設定可能な「ユーザーのインポートおよびエクスポート」機能権限は必要ありません。

² RFIDログインを含むユーザーリストをエクスポートし、それを別のUnifiedコンフォートパネルにインポートする場合は、「.udz」形式を使用する必要があります。

- ユーザーリストは、HMIデバイスで使用可能なユーザーを次のユーザー特性を含めて表示します。
 - [Name]:ユーザーのログイン名。
 - [Role]:役割をユーザーに割り付けます。
 - [Maximum session timeout]:この値は、オペレータ操作を実行しない場合にユーザーが自動的にログオフするまでの分数を示します。
値の範囲:0~600分 (0 = 自動ログアウト無効)。
 - [RFID]:ユーザーにRFIDカードが割り当てられているかどうかの情報。[YES]の意味:RFIDカードが割り当てられました。
 - [PIN]:ユーザーにRFIDログイン用のPINが割り付けられているかどうかの情報。
[YES]の意味:PINが割り当てられました。
 - [Unified Air Device]:Unified Airがユーザー用に設定されている場合、モバイル端末デバイスの名前です。
 - [Comment]:ユーザーのコメントテキスト。

注記

ユーザーとして自身を編集したり削除したりすることはできません。

「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーを1人以上HMIデバイスに確実に残すため、ユーザーは自身を編集したり削除したりすることはできません。これを行うには、「ユーザー管理」機能権限を持つ2人目のユーザーが必要になります。

注記

Maximum session timeout

エンジニアリングシステムでは、1つの役割および1人のユーザーに対する最大セッション期間を設定できます。これらの値が異なる場合、2つの値のうち小さいほうの値が読み込み中にパネルに転送されます。

ユーザーの作成または編集

編集機能は、設定で「ユーザー管理」機能権限が割り付けられているユーザーのみが使用することができます。

次のボタンを使用して新規ユーザーを作成します。



次のボタンを使用して、ユーザーのデータを編集します。



2つのボタンのいずれかを押すと、[Add user]ダイアログまたは[Edit user]ダイアログが開きます。両方のダイアログボックスの内容は同じです。

下記の図は、[Edit user]ダイアログボックスの例を示しています。

5.6 Security

Edit user

Login user name:	<input type="text" value="hans"/>
Role:	<input type="text" value="HMI Operator"/> <input type="button" value="▼"/>
Password:	<input type="password"/>
Confirm password:	<input type="password"/>
Maximum session timeout:	<input type="text" value="30"/>
<input type="checkbox"/> Enable mobile authentication via Unified Air <input type="checkbox"/> Enable authentication via RFID card <input type="checkbox"/> PIN required for authentication via RFID card	
PIN:	<input type="text"/>
Comment:	<input type="text"/>
<input type="button" value="Edit user"/> <input type="button" value="Cancel"/>	

- [Login user name]:ユーザーのログイン名を含むフィールドを表示します。
- [Role]:ユーザーを1つまたは複数の役割に割り付けるためのドロップダウンリスト。役割は、HMIデバイスのWinCCプロジェクトで定義され、該当する機能権限が割り付けられています。

次のシステム定義の役割は常に、HMIデバイスに転送されます:

役割の指定	[コントロールパネル]の認証	ランタイムにおける認証
HMI Operator	-	Webアクセス、操作、モニタ
HMI Monitor	-	Webアクセス、モニタ
HMI Monitor Client	-	Webアクセス、コントローラ内のプロセスに影響を与えずにモニタ
HMI Administrator	ユーザー管理、ユーザーのインポートとエクスポート、コントロールパネルへのアクセス	リモートアクセス、モニタ、操作、Webアクセス

また、ドロップダウンリストには、WinCCプロジェクトからHMIデバイスに転送された設定済みの役割があります。

注記

HMIの役割「HMI Monitor Client」は、他のすべての役割およびその機能権限よりも優先されます。「HMI Monitor Client」の役割が割り当てられている場合、その役割の機能権限のみ取得します。ユーザーに割り当てられている他の役割の上位機能権限はすべて失われます。

TIA Portalヘルプで、ユーザー、役割および機能権限に関する詳細な情報を参照できます。

- [Password]:ユーザーのパスワード用のテキストボックス。何も入力しないと、ユーザーの既存のパスワードが変更されずそのまま残ります。
- [Confirm password]:パスワードを確認するためのテキストボックス。
- [Maximum session timeout]:この値は、オペレータ操作を実行しない場合にユーザーが自動的にログオフするまでの分数を示します。
値の範囲:0 ~ 600分 (0 = 自動ログアウト無効)。
- [Enable mobile authentication via Unified Air]:ユーザー用にUnified Air経由で認証を有効にするオプション。
このオプションは、Unified Airを介したHMIデバイスへのアクセスが有効にされている場合のみ可能になります。「Unified Air (ページ 116)」のセクションを参照してください。

注記

Unified AirまたはRFID cardを介したログイン

- Unified Airによる認証は、RFIDカードによる認証との併用はできません。2つのオプションのうち1つのみを選択してください。
- どちらのログイン方法でもRFID機能が必要です。
[Security] > [UMAC settings (ページ 135)]にある[Login via RFID]オプションが有効化されていることを確認してください。
- [Enable authentication via RFID card]:ユーザーのRFIDログインを有効にするオプション。
- [PIN required for authentication with RFID card]:RFIDログイン用のPINを使用して2要素認証を有効にするオプション。
- [PIN]:PINのテキストボックス。数字のみが許可され、最大長は8桁です。
- [Comment]:ユーザーの変更に関する注意事項。
- ユーザーを保存するための[Edit user]または[Add user]ボタン。
- [Cancel]:変更内容を破棄するためのボタン。

RFIDログインの特徴

RFIDログインに関する注意事項を考慮してください:

- RFIDログインは、HMIデバイスに直接接続されているRFIDリーダーでのみ機能します。
- RFIDログインは、[コントロールパネル]とランタイムの両方で使用できます。
- [プレビューを読み込む]ダイアログでプロジェクト転送 (ページ 176)用に[実行時に現在のユーザー管理データを保持する]オプションが有効にされている場合に、RFIDの割り当ては、オペレーティングシステムが更新された後でも保持されます。

[Add new user]ダイアログ内のRFID割り付け

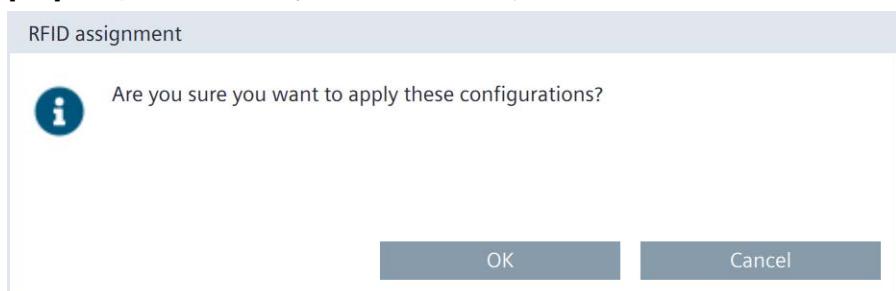
1. 「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーとしてコントロールパネルでログインしていることを確認します。
2. [ユーザーの作成]ボタンを押します。



3. [Login user name]にユーザー名を入力します。

5.6 Security

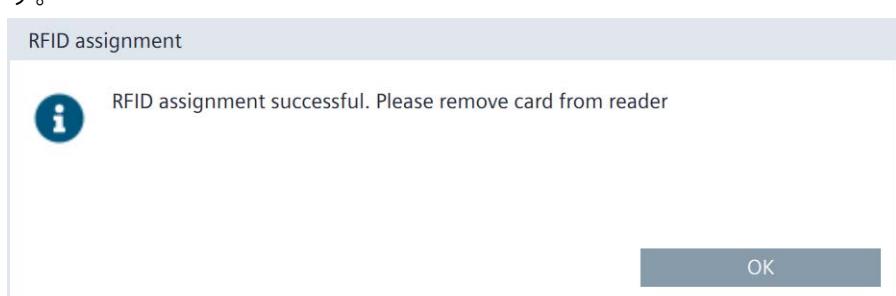
4. [Role]で、リストからユーザーの希望する認証を選択します。
5. [Password]および[Confirm password]にユーザーログイン用のパスワードを入力します。
6. 必要に応じて、[Maximum session timeout]で値を変更します。
7. [Enable authentication via RFID card]オプションを選択します。
8. PINなしでRFIDログインを使用する場合は、[PIN required for authentication with RFID card]オプションを無効にしておきます。
2要素認証の場合は、[PIN required for authentication with RFID card]オプションを選択し、1~8桁のコードを[PIN]に入力します。
9. [OK]を選択します。以下のダイアログが表示されます:



10. [OK]を選択します。[OK]ボタンは色付きの背景で表示されます。



11. まだユーザーに割り当てられていないRFIDカードを取得します。
12. 以下のダイアログが表示されるまでRFIDカードをRFIDリーダーの前にかざします。



13. RFIDカードをリーダーから削除し、[OK]を選択します。
- 新しいユーザーが作成され、RFIDログインがユーザーに割り当てられました。ユーザーは、RFIDカードをRFIDリーダーの前にかざすだけでログインできます。

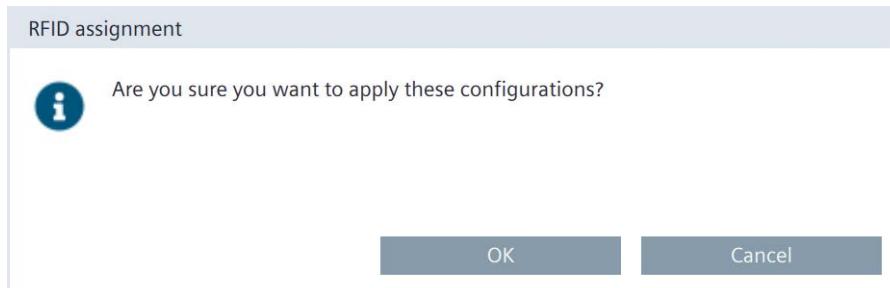
[Edit user]ダイアログを使用してRFID割り付けを変更します。

ユーザーリストからユーザーのRFID割り付けを変更するには、次の手順に従います:

1. 「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーとしてコントロールパネルでログインしていることを確認します。
2. ユーザーリストでユーザーを選択します。
3. [ユーザーの編集]ボタンを押します。



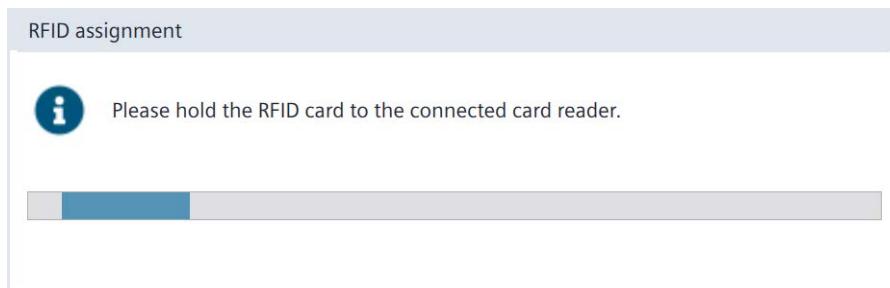
4. [Enable authentication via RFID card]オプションを有効または無効にします。
5. [Enable authentication via RFID card]オプションを有効にし、PINなしでRFIDログインを使用する場合は、[PIN required for authentication with RFID card]オプションは無効になります。2要素認証の場合は、[PIN required for authentication with RFID card]オプションを選択し、1~8桁のコードを[PIN]に入力します。
6. [Edit user]を選択します。以下のダイアログが表示されます:



7. [OK]を選択します。[OK]ボタンは色付きの背景で表示されます。



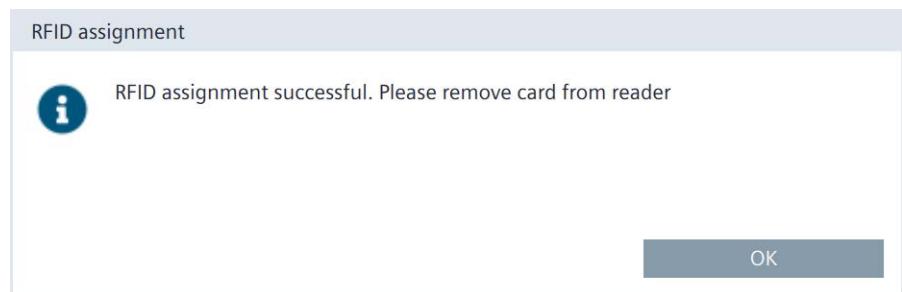
以下のダイアログが表示されます:



8. ユーザーにRFIDログインがまだ割り当てられていない場合は、まだユーザーに割り当てられていないRFIDカードを取得します。
ユーザーにRFIDログインがすでに割り当てられている場合は、このユーザーの以前のRFIDカードを取得します。

5.6 Security

9. 以下のダイアログが表示されるまでRFIDカードをRFIDリーダーの前にかざします。



10. RFIDカードをリーダーから削除し、[OK]を選択します。

ユーザーのRFID割り付けが変更されました。

[RFIDログインの割り付け]ボタン

RFID割り当てには、[RFIDログインの割り付け]ボタンも使用できます。このボタンは、RFIDログインがまだ割り当てられていないユーザーにのみ作動します。

以下のように実行します。

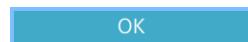
1. 「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーとしてコントロールパネルでログインしていることを確認します。
2. RFIDログインがまだ割り当てられていないユーザーリストでユーザーを選択します。
3. [RFIDログインの割り付け]ボタンを押します。



4. PINなしでRFIDログインを使用する場合は、[PIN]テキストボックスをブランクにしておきます。

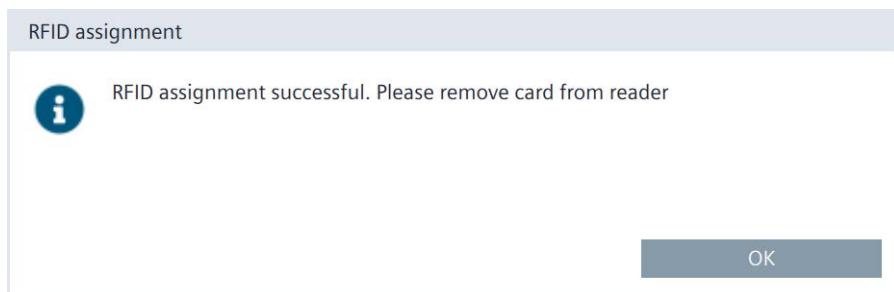
2要素認証の場合は、1~8桁のコードを[PIN]に入力します。

5. [OK]を選択します。[OK]ボタンは色付きの背景で表示されます。



6. まだユーザーに割り当てられていないRFIDカードを取得します。

7. 以下のダイアログが表示されるまでRFIDカードをRFIDリーダーの前にかざします。



8. [OK]を選択します。

ユーザーにRFIDログインが割り当てられました。ユーザーは、RFIDカードをRFIDリーダーの前にかざすだけでログインできます。

「RFID割り付けの削除」ボタン

RFID割り付けを削除するために、[RFIDログインの削除]ボタンも使用できます。このボタンは、RFIDログインが割り当てられたユーザーにのみ作動します。

以下のように実行します。

1. 「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーとしてコントロールパネルでログインしていることを確認します。
2. RFIDログインが割り当てられているユーザーリストでユーザーを選択します。
3. [RFID割り付けの削除]ボタンを押します。



[Disable authentication via RFID card]ダイアログが表示されます。



4. [OK]を選択します。

ユーザーは、RFIDカードでログインできなくなります。

5.6.2 Certificates

この機能を使用して、証明書および証明書取り消しリストをインポート、表示、および削除できます。

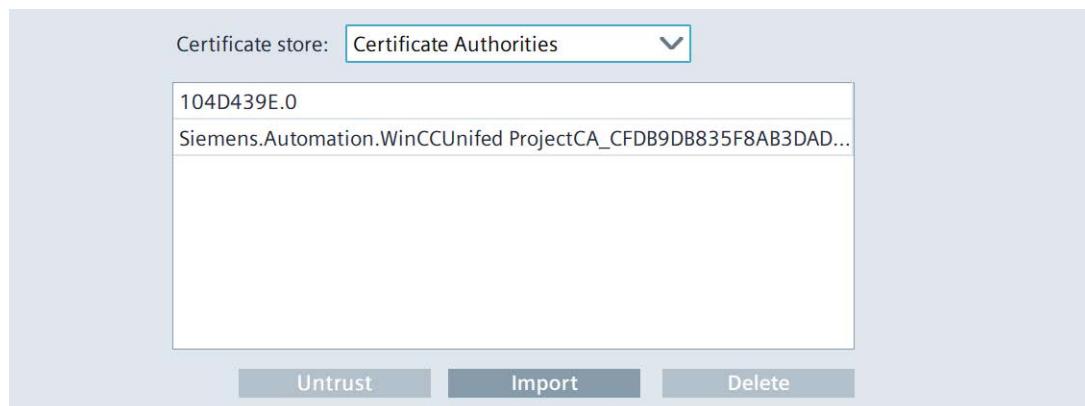


デジタル証明書は、所有権や他の公開鍵のプロパティを確認する構造化データで、構成されます。

証明書を取り扱うとき、産業セキュリティ (ページ 21)の情報に注意してください。

証明書の作成と使用に関する詳細情報は、TIA情報システムの[プロセスの視覚化(RT Unified)] > [ランタイムとシミュレーション(RT Unified)]で参照できます。

Certificates on the device



- [Certificate store]:次の証明書カテゴリのドロップダウンリスト:
 - [Certificate Authorities]:信頼済みのルート証明書機関および中間証明書機関。
 - [My Certificates]:HMIデバイスアプリケーションの証明書。ほとんどの場合、OPC UAサーバーなどのサーバー証明書。
 - [Other Certificates]:自己署名エンドエンティティ証明書および信頼済みエンドエンティティ証明書。
 - 証明書取り消しリストの[Certificate Revocation Lists]。
- 証明書リストは、選択されたカテゴリの証明書を表示します。リストでエントリを選択する場合、証明書の[Certificate details]または証明書取り消しリストの[CRL details]がリストの下に表示されます。
- [Untrust]:信頼できない証明書としてマークを付けるためのボタン。この機能は、[Other Certificates]証明書カテゴリでのみ使用可能です。
- [Trust]:信頼できる証明書としてマークを付けるためのボタン。この機能は、[Other Certificates]証明書カテゴリでのみ使用可能です。

- [Import]:データ記憶媒体から1つまたは複数の証明書をインポートするためのボタン。

注記

サポートされている証明書ファイル形式

インポート機能は、「.enc」、「.der」、「.crl」、「.pem」のタイプの証明書ファイルをサポートしています。

「.enc」のタイプのファイルは、「WinCC Unified Certificate Manager」からエクスポートされ、キー、証明書、CRLの集合を含んでいます。

個別の暗号ファイルをインポートする場合、CERやCRLのファイルに対してサポートされている形式は「.pem」や「.der」で終わります。個別のファイルにはCA証明書やCRLがあり、拡張子「.der」、「.crl」、「.pem」があります。

証明書をインポートする前にランタイムを終了することをお勧めします。

[Import]ボタンを押した後に、[Import certificate]ダイアログが表示されます。



記憶媒体および証明書ファイルを選択し、[Import]ボタンを使用して証明書ファイルをインポートします。

[.enc]ファイル拡張子の付いた暗号化された証明書をインポートするとき、次の追加データを入力します。

- [Password]:証明書が生成されたときに指定された暗号化パスワード。
- [Iteration]:証明書が生成されたときに指定された反復カウント。
- [Delete]:証明書リストで現在選択されている証明書を削除するためのボタン。

注記

選択された証明書は、確認なしですぐに削除されます。

Certificate details

Certificate name	CA_STEP7
Status:	Trusted
Thumbprint:	43:88:F4:2F:DC:4C:DB:DC:DD:8E 1E:53:0D:76:C4:9E:84:DB:A6:C6
Valid from:	Oct 15 13:41:58 2020 GMT
Valid to:	Oct 12 13:41:58 2029 GMT
Issued to:	SecureHMICommunication
Issued by:	Siemens.Automation.STEP7_CA

- [Certificate name]:証明書の名前。
- [Status]:HMIデバイスの証明書のステータス([Trusted]または[Untrusted])。この表示フィールドは、[Other Certificates]証明書カテゴリでのみ使用可能です。
- [Thumbprint]:証明書の信頼性を証明するための文字列。
- [Valid from]:証明書の有効性の開始日。
- [Valid to]:証明書の有効性の終了日。
- [Issued to]:証明書の受信者。
- [Issued by]:証明書の発行者。

CRL details

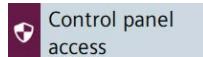
CRL name	Siemens_Automation_CA_2019
Issuer:	Siemens Automation CA 2019
CRL number	3
Last update	Mar 29 00:00:00 2020 GMT
Next update	Mar 27 23:59:59 2029 GMT
Thumbprint:	9D:B2:1D:7A:E9:7A:70:29:BD:C3 49:22:7E:F9:0A:27:FC:4C:47:D9
CRL count	16

- [CRL name]:証明書取り消しリストの受信者。
- [Issuer]:証明書取り消しリストの発行者。
- [CRL number]:証明書取り消しリストの連続バージョン番号。
- [Last update]:この証明書取り消しリストの作成時刻。
- [Next update]:次の証明書取り消しリストの作成時刻。

- [Thumbprint]:証明書取り消しリストの信頼性を証明するための文字列。
- [CRL count]:証明書取り消しリストのエントリ数。

5.6.3 Control panel access

[Control panel access]で、[Control Panel]へのアクセスをパスワードで保護します。設定で[コントロールパネルアクセス]機能権限が割り付けられているユーザーのみがパスワード保護を変更することができます。



Control panel access

Enable password protection for control panel

- [Enable password protection for control panel]:[コントロールパネル]のパスワード保護を有効にするためのオプション。
パスワード保護は、設定で[コントロールパネルアクセス]機能権限が割り付けられているユーザーのみが有効化または無効化を行うことができます。
[コントロールパネルアクセス]機能権限を持つユーザーとしてログインしており、[Enable password protection for control panel]オプションを有効にしている場合、[Access to control panel is restricted]ダイアログが表示されます。

Access to control panel is restricted

Please enter user name and password to gain access:

Username:

Password:

Login Change password Cancel

[コントロールパネルアクセス]機能権限のあるユーザーとしてログインして、[コントロールパネル]のパスワード保護を有効にします。次のボタンを使用して、ダイアログが表示されている間、パスワードを可視状態で表示されるようにすることができます。



注記

ログインの試行回数

ログイン資格情報を正しく入力するための試行回数は、WinCCの[ランタイム設定] > [セキュリティ]で設定できます。

ログイン資格情報をもう一度間違えて入力すると、関係するユーザーがロックアウトされます。そのユーザーを削除し、再度作成するか、ユーザー管理をHMIデバイスに再ロードする必要があります。

ログイン資格情報を正しく入力していることを確認してください。

または、ユーザーにRFIDカードが割り当てられていれば、RFIDカード経由でログインできます。RFIDカードをRFIDリーダーの直前にかざし、必要に応じてPINを入力します。

注記

コントロールパネルのパスワード保護とプロジェクトの転送

コントロールパネルへのアクセスが保護されている場合、プロジェクトを再度転送する前に、ユーザー管理がTIA Portalで正しく設定されていることを確認する必要があります。これは次のことを意味します:

- [コントロールパネルへのアクセス]権限のあるユーザーが設定されています。
- 中央ユーザー管理が使用されていれば、UMCサーバーにアクセスするためのすべてのデータが正しく入力されています。

推奨事項:

- 再度読み込む前に、[Enable password protection for control panel]オプションを無効にしてください。
 - 読み込んだ後に、[コントロールパネルへのアクセス]権限のあるユーザーがログインできることを確認してください。ログインできない状態の場合、ユーザー管理の設定を訂正してください。
 - [Enable password protection for control panel]オプションを再度有効にします。
-

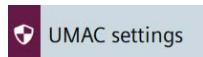
[コントロールパネルアクセス]機能権限を持つユーザーとしてログインしている場合、[Access to control panel is restricted]ダイアログが[コントロールパネル]にアクセスしているときに表示されなくなります。

ログインしていないか、[コントロールパネルアクセス]機能権限を持っていない場合、[Access to control panel is restricted]ダイアログが[コントロールパネル]にアクセスするときに表示されます。

[コントロールパネル]へのアクセスは、[コントロールパネル]で直接トリガするか、ランタイムソフトウェアのシステム機能によってトリガすることができます。

5.6.4 UMAC settings

[UMAC settings]で、HMIデバイスで、ローカルユーザー管理と中央ユーザー管理のいずれが使用されるかを確認できます。



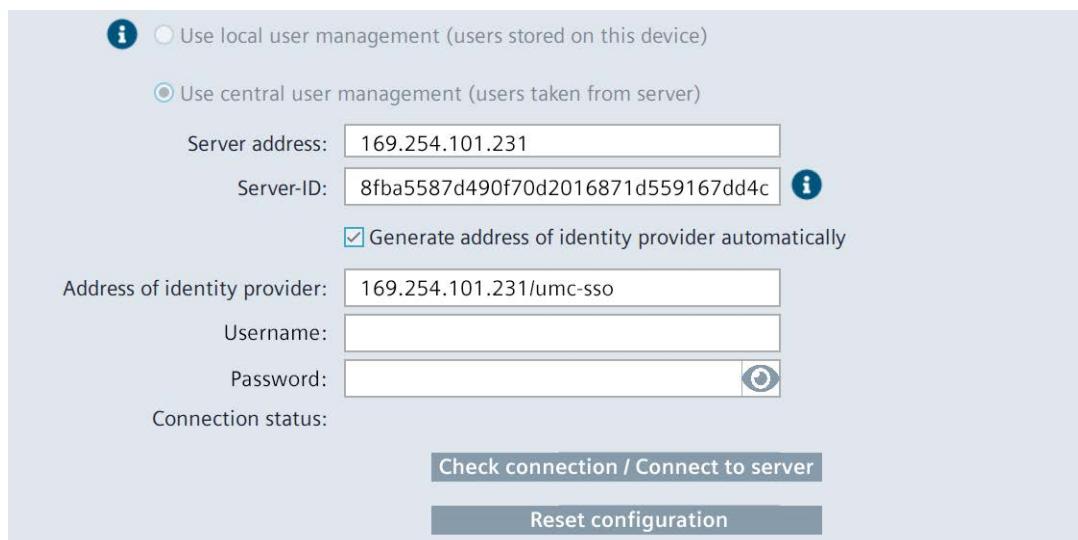
ローカルまたは中央ユーザー管理は、WinCCで設定され、ダウンロードによってHMIデバイスに転送されます。

注記

WinCCでのみローカルユーザー管理と中央ユーザー管理を切り替えることができます。

中央ユーザー管理を読み込むとき、HMIデバイスのすべてのローカルユーザーが削除されます。

Configuration of user management



- [Use local user management (users stored on this device)]:ローカルユーザー管理が使用される情報。このウィンドウのデータは編集できません。ユーザーは、[Security] > [User management]でローカルで管理されます。
- [Use central user management (users taken from server)]:中央ユーザー管理に使用される情報。接続設定は、WinCCで設定され、読み込み中にデバイスに転送されます。HMIデバイスの設定は、必要に応じて調整可能です。

中央ユーザー管理の接続設定の意味:

- [Server address]:UMCサーバーのIPアドレスまたはデバイス名。
- [Server-ID]:UMCサーバーを識別するための一意の文字列。サーバーIDを手動で入力したり、接続設定中に自動で指定したりできます。
- [Generate address of identity provider automatically]:UMCサーバー上のIDプロバイダアドレスの自動生成オプション。初期設定は、[有効]です。UMCサーバーを使用せず、IDプロバイダとして別のサーバーを使用したい場合、このオプションを選択解除します。これは、例えば、サーバーファームを使用しているときに必要になることがあります。
- [Address of identity provider]:IDプロバイダのアドレス([Generate address of identity provider automatically]オプションで自動的に生成されたか、(必要に応じて)手動で入力されます)。
- [Username]/[Password]:UMCサーバーデータベース内の管理者のユーザー名とパスワード。この情報は、HMIデバイスでRFIDログインが使用される場合にのみ必要です。この場合、UMCサーバーデータベースに[管理者]ロールが割り当てられているユーザーのログインデータを指定します。
- [Connection status]:UMCサーバーへの接続ステータス。可能な値:
 - <空>:UMCサーバーへの接続がまだテストされていません。
 - [Connected]:UMCサーバーへの接続が確立されておらず、テストされていません。
 - [Not connected] - <エラーメッセージ>:UMCサーバーへの接続がありません。<エラーメッセージ>によって、考えられる原因に関する情報が提供されています。
 - [Connection not possible] - <エラーメッセージ>:UMCサーバーへの接続をセットアップできませんでした。<エラーメッセージ>によって、考えられる原因に関する情報が提供されています。
- [Check connection]:UMCサーバーへの接続を確認するためのボタン。
- [Connect to server]:UMCサーバーへの接続をセットアップするためのボタン。
- [Reset configuration]:接続設定を削除するためのボタン。

Login via RFID (e.g via ID card)

Enable authentication via RFID card

- [Enable authentication via RFID card]:HMIデバイスでRFID機能を有効にするオプション。初期設定は、[無効]です。

Unified AirはBluetooth ドングルとしてRFIDリーダーが必要なため、RFID機能は、RFIDカードによるログインと、Unified Airを介したログインにも必要になります。

ユーザーに対してRFIDログインまたはUnified Airを介したログインを使用する場合、[Enable authentication via RFID card]オプションを有効にします。

それ以外の場合は、オプションを無効のままにします。

中央ユーザー管理の使用

注記

ユーザー管理を使用する前に、UMCドキュメントをすべて読むことを強くお勧めします。デフォルトのインストールパスを使用した場合、UMCドキュメントは「C:\Program Files\Siemens\UserManagement\Documentation」にあります。

中央ユーザー管理によるHMIデバイスへのWebアクセス

中央ユーザー管理を使用する UnifiedコンフォートパネルへのWebアクセスの場合、次のようにになります。

- 別のUnifiedコンフォートパネルをクライアントとして使用してWebアクセスすることはできません。
- Webアクセスの場合、UnifiedコンフォートパネルのURLを「IDプロバイダのホワイトリスト」に入力する必要があります。ネットワーク内でデバイスにデバイス名が割り当てられていない場合は、URLでUnifiedコンフォートパネルのIPアドレスを使用できます。
「IDプロバイダのホワイトリスト」の作成に関する詳細については、UMCドキュメントを参照してください。

中央ユーザー管理への接続の確立

すべての接続設定が正しく構成され、プロジェクトと一緒にHMIデバイスに転送されると、HMIデバイスは中央ユーザー管理に自動的に接続されます。接続がまだ確認されていないため、[Connection status]で指定されている値はありません。接続を確認するためには、[Check connection]ボタンを押します。

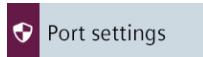
中央ユーザー管理の構成が完了していないか、構成が正しくない場合、HMIデバイスで設定を修正することができます。[Connect to Server]ボタンを押して、デバイスを中央ユーザー管理に接続します。

接続のセットアップに成功していると、[Connected]情報が[Connection status]の下に表示されます。[Connect to server]ボタンが[Check connection]に変わります。

詳細情報は、TIA Portalヘルプの[可視化プロセス(RT Unified)] > [ユーザーおよび役割の設定(RT Unified)]で参照できます。

5.6.5 Port settings

HMIデバイスへのWebベースのアクセス用のHTTP/HTTPSポートを、[Port settings]で有効化または無効化できます。



Web access

Activate the HTTP/HTTPS ports to enable web-based access to the device, also required by the Web Client and SIMATIC Edge features.

Enable web access ports

- [Enable web access ports (HTTP/HTTPS)]: HMIデバイスのHTTP/HTTPSポートをアクティブ化するオプション。

初期設定は、[有効]です。

次の機能を使用するには、HTTP/HTTPSポートをアクティブ化する必要があります。

- ローカルアプリ[Web Browser]または別のデバイスのブラウザ経由のWebアクセス。「HMIデバイスへのWebアクセス (ページ 77)」および「Web client (ページ 100)」のセクションを参照してください。
- エッジ管理へのアクセス。「SIMATICエッジ (ページ 160)」のセクションを参照してください。

コントロールパネルで次の2つのオプションのいずれかを有効にすると、すぐにHTTP/HTTPSポートが自動的に有効になります。

- [Web client] > [Enable web access to runtime]
- [Apps] > [SIMATIC Apps] > [SIMATIC Edge]

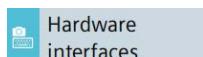
[Enable web access ports (HTTP/HTTPS)]オプションが有効になっていて、このオプションを再度無効にしたい場合は、次のようにします。

[Web client]および[SIMATIC Edge]の両方が事前に無効にされている場合にのみ、ポートを無効化できます。

5.7 External Devices and Input

5.7.1 Hardware interfaces

[Hardware interfaces]で、記憶媒体インターフェースにアクセスするための設定を変更します。



1つまたは複数のインターフェースを無効にして、HMIデバイスを未許可の外部アクセスから保護することができます。

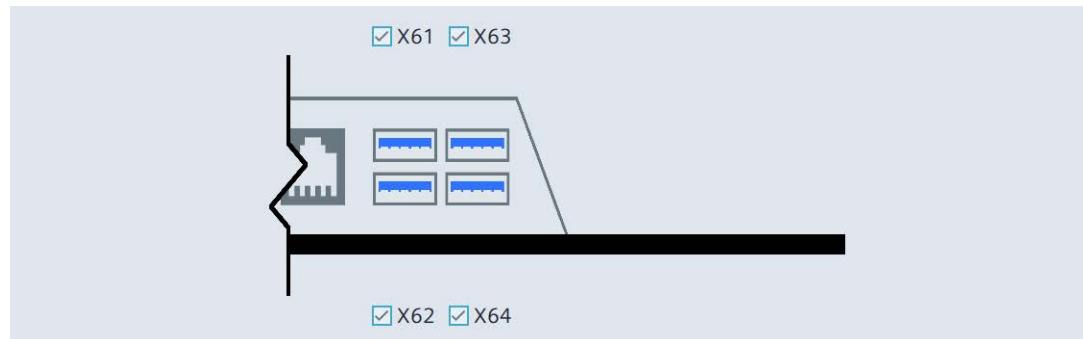
システムメモリカードのインターフェースは無効にできません。

Data memory card slot



- [Activate data memory card slot]:データメモリカードのインターフェースを有効化または無効化するオプション。デフォルト設定は、[有効]です。

Activate USB ports



- [X61]:USBポートX61を有効化または無効化するオプション。
- [X62]:USBポートX62を有効化または無効化するオプション。
- [X63]:USBポートX63を有効化または無効化するオプション。
- [X64]:USBポートX64を有効化または無効化するオプション。

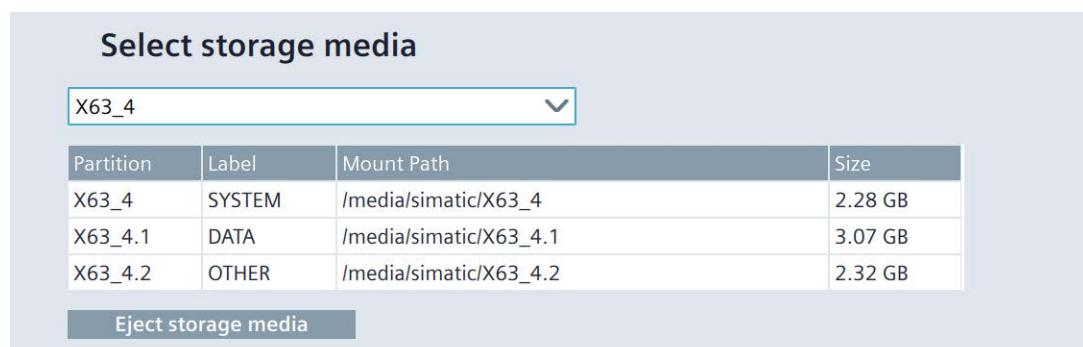
すべてのUSBポートの初期設定は[有効]です。

5.7.2 Connected devices

[Connected devices]に、HMIデバイスに接続されている記憶媒体の情報を表示できます。



Select storage media



ドロップダウンリストボックスには、HMIデバイスのインターフェースにあるすべての記憶媒体が表示されます。

ハブ経由でHMIデバイスに接続されている記憶媒体は、次の構文に従って表示されます。

<コントロールパネルインターフェース>_<ハブインターフェースの数>

例:X63_4は、HMIデバイスのインターフェースX63に接続されているハブの4番目のインターフェース上のUSB記憶媒体です。

エントリを選択すると、パーティションリスト内の記憶媒体の詳細情報が表示されます。

- このパーティションリストには次の情報が含まれます。

- [Partition]:パーティションの名前。最初のパーティションには、記憶媒体が接続されるインターフェースの名称が保持されます。たとえば、「X63」となります。

記憶媒体上にさらに多くのパーティションが存在する場合は、連続して番号が付けられ、最初のパーティションの下にピリオドで区切られて表示されます(例:「X63.1」)。

- [Label]:フォーマット時に選択したパーティションの名称。
- [Mount Path]:HMIデバイスがパーティションにアクセスする際に経由するパス。
- [Size]:パーティションのサイズ。

記憶媒体のパーティションが指定されていない領域は表示されません。

- [Eject storage media]:選択した記憶媒体を安全に取り外すためのボタン。

注記

[Eject storage media]機能の挙動

- 記憶媒体でデータがまだアクセスされている場合、記憶媒体を安全に取り出すことができません。対応するエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージを[OK]で確認し、データのアクセスが終了したら再度機能を実行します。
- 安全に取り外した後は、HMIデバイスは記憶媒体にアクセスできません。新たにアクセスするには、HMIデバイスを再起動するか、記憶媒体を再度接続する必要があります。
- 安全に取り外した後は、記憶媒体は選択リストに存在しなくなり、パーティションリスト内のすべての関連エントリが削除されます。

5.7.3 Printers

[Printers]で、HMIデバイスに対してUSBプリンタを管理します。ネットワークプリンタはサポートされていません。

新しいプリンタを追加するには、関連するPostScript Printer Description (PPD)ファイルを製造元から入手する必要があります。

許容される最大PPDファイルサイズ:1 MB

オペレーティングシステムを更新した後も、プリンタのリストは保持されます。



Printers

Default Printer : **PDF**

Name	Status	Location	Description
PDF	Idle	PDF Printing	Softprinting to PDF
BrGenML1	Idle	Local	Preconfigured printing options for Brother ...
CUSTOM_Engineering_PLUS...	Idle	Local	Preconfigured printing options for CUSTOM...
DCPL1848W	Idle	Local	DCPL1848W preconfigured options
HL2260	Idle	Local	HL2260 preconfigiured options
HL2560DN	Idle	Local	HL2560DN preconfigured options
HL4150CDN	Idle	Local	Preconfigured printing options for HL4150...
HLL2360D	Idle	Local	Preconfigured printing options for HLL2360D
HLL5100DN	Idle	Local	Preconfigured printing options for HLL510...
HLL5200DW	Idle	Local	Preconfigured printing options for HLL520...
HLL5210DN	Idle	Local	Preconfigured printing options for HLL521...
HLL8250CDN	Idle	Local	Preconfigured printing options for HLL825...

Add **Configure** **Remove**

リストには利用可能なすべてのプリンタが表示されます。

- [Default Printer]:このフィールドに優先プリンタが表示されます。デフォルト設定は、[PDF]です。
[Default Printer]として設定されているプリンタは、常にプリンタリストの最初の行に表示されます。
新しいプリンタを追加する場合は、[Default Printer]として設定した後で再度削除します。[PDF]が再度自動的に[Default Printer]になります。
- プリンタリストには次の列が含まれます。
 - [Name]:プリンタ名
 - [Status]:プリンタ動作に関する情報。可能な値は、[Idle]、[Printing]、[Pause]および[Unknown]です。
ステータスは、約3秒ごとに更新されます。
 - [Location]および[Description]オプションのコメント。詳細については、次の「プリンタの追加」セクションをご覧ください。

[Default Printer]以外を表内のエントリを列の内容に基づいてアルファベット順に並べ替えるには、対応する列のヘッダーをタップします。
- [Add]:さらにプリンタを追加するためのボタン。
- [Configure]:プリンタドライバを編集またはコピーするためのボタン([Idle]状態でのみ使用可能)。
- [Remove]:[Add]で追加されたプリンタドライバを削除するボタン。プリンストールされているプリンタドライバは削除できません。プリンタを削除すると、そのプリンタから保留中の印刷ジョブがすべて削除されます。

リストには最大50個のエントリを含めることができます。

新しいプリンタの追加

必要条件

- 新しいプリンタは、LinuxとCUPSをサポートしています。
- 新しいプリンタのPPDファイルが利用可能です(最大サイズ1 MB)。

リストに別のプリンタを追加するには、次の手順に従います。

1. [Add]を選択します。

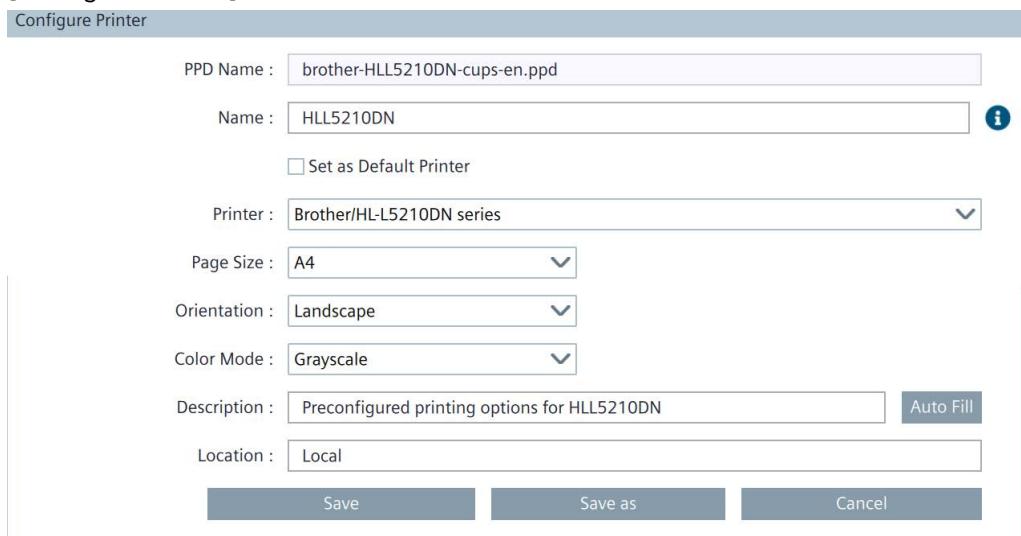
2. [Select PPD]ボタンを使用して新しいプリンタのPPDファイルを入力します。
3. 新しいプリンタの名前を[Name]に入力します。
名前にはスペースや次の特殊文字を含めることはできません。
! # \$ & () * + , : ; < = > ? @ [] _ { | } ~ ^
4. 必要に応じて、[Set as Default Printer]オプションを有効にします。
5. 必要なプリンタがすでにHMIデバイスに接続されている場合は、[Printer]で対応するプリンタモデルを選択します。それ以外の場合は、[Select]で入力内容を変更せず、プリンタがHMIデバイスに接続されたときにプリンタモデルを入力します。これでプリンタは完全に有効化され、使用できるようになります。
[Printer]エントリはプリンタごとに1回だけ設定する必要があります。すでに有効化されているプリンタをHMIデバイスから切断して再接続する場合は、[Printer]で再度このプリンタを選択する必要はありません。
6. ページサイズ、向き、カラー mode の既定の設定を選択します。
7. [Description]で、プリンタの説明を入力できます。
[Auto Fill]ボタンは、[Page Size]、[Orientation]および[Color Mode]の値で構成される入力内容を生成します。
8. [Location]で追加のコメントを追加できます。
9. [OK]を選択して、新しいプリンタを追加します。

プリンタ設定の編集またはコピー

以下の手順に従ってください。

1. リストからプリンタを選択し、[Configure]を押します。

[Configure Printer]ダイアログが開きます。次の図に、例を示します。



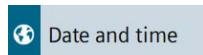
2. 選択したプリンタの設定を編集するには、必要な変更を加えてから、[Save]を選択します。
 3. プリンタ設定をコピーするには、[Name]の入力内容を変更し、他の設定を調整してから、[Save as]を選択します。
- これにより、特定のプリンタごとに異なる設定を保存することもできます。

[Configure Printer]ダイアログが閉じられ、設定が保存されます。

5.8 Language, Region and Formats

5.8.1 Date and time

[Date and time]で、HMIデバイスの日付、時刻、およびタイムゾーンを手動で設定するか、ネットワークのタイムサーバーを介して設定します。



通知

日付および時刻を正しく設定する

日付および時刻が正しく設定されていないと、プラントで不具合が発生する可能性があります。不具合を避けるため、HMIデバイスおよびHMIデバイスに接続されているすべてのコントローラの日付と時刻を正しい値に設定するか、時刻同期用にNTPサーバーを使用します。

HMIデバイスが使用される場所に応じて、タイムゾーンが正しく設定されていることを確認してください。

オペレーティングシステムを更新した後は、毎回日付と時刻の設定が正しいか確認します。

通知

時間依存性の応答に必要な時間同期

日付および時刻が同期されていない状態で時間依存性の応答がHMIデバイスのプロセスセルでトリガされると、誤動作がプロセスセルで発生する可能性があります。誤動作を避けるため、1つまたは複数のNTPサーバーを介して自動時間同期を使用します。

Date and time

Date:	22 November 2025
Current Time:	09:50:12
Time zone:	(UTC) Coordinated Universal ... <input checked="" type="button"/>
<input checked="" type="radio"/> Set date and time manually	
<input type="radio"/> Synchronize time with a NTP (Network Time Protocol) server	

- [Date]:現在の日付を含むフィールドを表示します。
- [Current Time]:現在のクロック時刻を含むフィールドを表示します。
- [Time zone]:希望するタイムゾーンの選択リスト。

注記

自動夏時間/標準時間の自動切換え

夏時間と標準時間の切り替えが行われるタイムゾーンを選択すると、切り替えが関連の日に自動的に行われます。

- [Set date and time manually](初期設定):HMIデバイス上の手動時間設定のオプション。このオプションを選択すると、次のリストがオプションの下に表示されます。



日、月、年および時刻を対応するリスト列をスクロールして設定し、リストの中央のフレーム行に適切な日付と時刻が表示されるようにします。[Set Date and Time]ボタンを使用して設定を保存します。

注記

手動の日付/時刻設定と[Update OS]

HMIデバイスイメージをロードしてHMIデバイスのオペレーティングシステムを更新する場合は、次のようにになります:日付と時刻が以前に手動で以前の時刻に設定されていた場合、HMIデバイスイメージの作成日で上書きされます。

- [Synchronize time with a NTP (Network Time Protocol) server]:NTPサーバーを介した自動時間同期のためのオプション。このオプションを選択すると、NTPサーバーを介した時間同期を指定するための次のパラメータがオプションの下に表示されます。



[Update rate(s)]リストから、8~65536秒(約18時間)の範囲で希望の同期間隔を選択します。初期設定:512

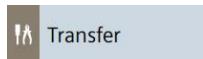
[Add Server]ボタンを使用してNTPサーバーを1つまたは最大で4つ追加します。各NTPサーバーのIPアドレスを指定し、デバイスがNTPサーバーとしてセットアップされるようにします。

サーバーを削除するには、IPアドレスの右側にある「ゴミ箱」アイコンをクリックします。

5.9 Service and Commissioning

5.9.1 Transfer

[Transfer]で、設定PCからHMIデバイスにデータが転送されるか、および転送方法を定義します。



Transfer mode

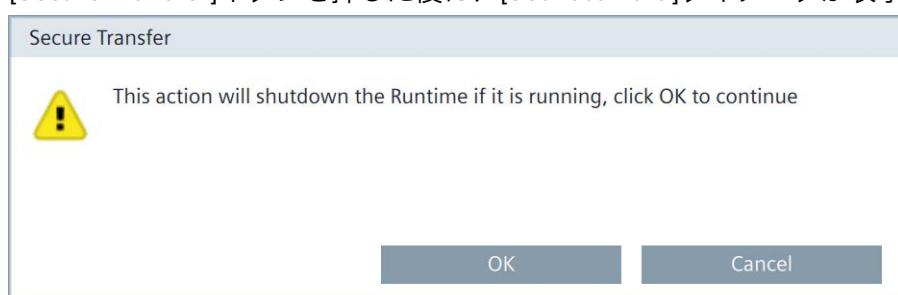
Enable transfer

- [Enable transfer]:HMIデバイスへのデータ転送を有効化または無効化するオプション。初期設定は、[有効]です。
転送を無効にすると、HMIデバイスを、オペレーティングシステムの予期しない更新やプロジェクトデータの上書きから保護することができます。

Encrypted project transfer



- [Password]:プロジェクトの暗号化転送用のパスワード。このパスワードは、HMIデバイスのランタイム設定の構成で指定されたパスワードと一致している必要があります。
パスワードを入力するには、エントリフィールドをタップします。
- [Set Password]:暗号化されたプロジェクト転送用のパスワードを保存するためのボタン。
[Secure Transfer]ボタンを押した後に、[Set Password]ダイアログが表示されます。



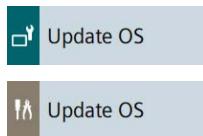
[OK]で確定するか、[Cancel]でアクションをキャンセルします。
代替オプションとして、プロジェクトの初回読み込み中に、パスワードを暗号化解除して転送することができます。

5.9.2 Update OS

HMIデバイスのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンは、インストールされているWinCCソフトウェアのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンとの互換性がある必要があります。互換性がない場合、オペレーティングシステムを更新する必要があります。

[Update OS]を使用してHMIデバイスのオペレーティングシステムを更新します。オペレーティングシステムは複数のファームウェアファイルに含まれています。マスタファイルには、拡張子「.fwf」が付きます。追加ファイルの番号は異なります。これらのファイルには、マスタファイルのファイル名に連番(「.0」、「.1」、「.2」など)が拡張子として付きます。

[Update OS]機能は、[System Properties]および[Service and Commissioning]の両方で使用できます。



通知

オペレーティングシステムを更新すると、HMIデバイスのデータが削除されます。

オペレーティングシステムを更新すると、HMIデバイス上のプロジェクト、パラメータセット、およびアラームバッファの内容が削除されます。必要に応じて、オペレーティングシステムを更新する前にデータをバックアップしてください。

オペレーティングシステムを更新する前に[コントロールパネル]で変更した次の設定以外のすべての設定内容は、オペレーティングシステムの更新後にも保持されます。

- 外部インターフェースは再度有効にされます(初期設定)。「Hardware interfaces (ページ 138)」のセクションを参照してください。
- タイムゾーンは初期設定[(UTC) Coordinated Universal Time]にリセットされます。「Date and time (ページ 143)」のセクションを参照してください。
- 接続されているネットワークドライブの認証情報を再度入力する必要があります。「Network drives (ページ 112)」のセクションを参照してください。

SIMATIC Edgeアプリとそのデータについては、[SIMATIC Apps (ページ 160)]のセクションを参照してください。

通知

自動バックアップとオペレーティングシステムの更新

オペレーティングシステムの更新中に[自動バックアップ]機能が有効にされると、HMIデバイスが正しく再起動されないことがあります。

HMIデバイスのオペレーティングシステムを更新する場合、そして[自動バックアップ]機能を有効にした場合、次の手順に従ってください:

- [自動バックアップ]機能を無効にします。
- オペレーティングシステムを更新します。
- [自動バックアップ]機能を有効にします。

更新前や更新中は、システムメモリカードをHMIデバイスに挿入されたままにします。

32 GB以上のSIMATIC SD memory cardまたは工業用USBフラッシュドライブを使用して、ファームウェアを読み込みます。

Unifiedコンフォートパネルのファームウェアファイルは、インターネット(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109825605>)からダウンロードできます。ダウンロード内容に含まれている取扱説明書に従います。

注記

ファームウェアファイルの名前を変更しないでください。

ファームウェアファイルの名前を変更すると、オペレーティングシステムをこれらのファームウェアファイルを使用して更新できなくなります。ファームウェアファイルは使用不能になります。ファームウェアファイルの名前を変更しないでおきます。

注記

ファームウェアファイルを完全にコピーする

ファームウェアファイルをコピーする場合、マスタファイル「.fwf」とすべての関連ファームウェアファイル(「.0」、「.1」、「.2」など)も一緒に確実にコピーするようにしてください。

ファイルが欠けていると、オペレーティングシステムを読み込めなくなります。

[コントロールパネル]で[Update OS]機能を使用する別の方法として、WinCCで[Update OS]機能を使用できます。

Panel Information



- [Device type]:HMIデバイスタイプ名称。
- [Image version]:ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

Select storage media for OS update



選択リストを使用して、ファームウェアファイルが保存されている記憶媒体を選択します。

Firmware files on external storage

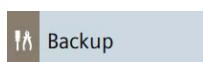
Name	Path	Image Version
UCP_7_22_V21_0.fwf	/media/simatic/data-s...	V21.00.00.00_04.01....

Update OS

- リストは、HMIデバイスに読み込み可能なすべてのファームウェアファイルを示しています。
リストから希望するファームウェアマスタファイル(.fwf)を選択します。
- [Update OS]:読み込みプロセスを開始するためのボタン。
[Update OS]ボタンを押すと、HMIデバイスが再起動されます。その後、読み込みプロセスが開始されます。
各ファームウェアファイルについて、進捗状況バーがあるダイアログがHMIデバイスに表示されます。
HMIデバイスは、読み込みプロセスが完了した後に再度再起動されます。
[コントロールパネル]のメインウィンドウが、再起動後に表示されます。HMIデバイス上のオペレーティングシステムが更新されました。

5.9.3 Backup

[Backup]で、オペレーティングシステム、アプリケーションおよびデータをHMIデバイスのフラッシュメモリから外部記憶媒体にバックアップできます。



32 GB以上のSIMATIC SD memory cardまたは工業グレードのUSBスティックを記憶媒体として使用します。

HMIデバイスのデータの量に応じて、バックアップには最大で20 GBメモリが必要になることがあります。記憶媒体に十分の空き容量があることを確認してください。推奨事項:記憶媒体上に5 GB以上の空き容量。

HMIデバイスへのリモートアクセスは、バックアッププロセス中は行うことができません。

バックアッププロセス中は、HMIデバイスの電源を切らないでください。

Select storage media



データをバックアップする記憶媒体を選択します。

Complete backup file



- [File name]:バックアップの名前。バックアップ内容を最もよく表している名前を選択します。
バックアップには複数のファイルが含まれています。マスタファイルには、拡張子「.brf」が付きます。追加ファイルの番号は異なります。これらのファイルには、マスタファイルのファイル名に連番(「.0」、「.1」、「.2」など)が拡張子として付きます。
- [Create backup]:バックアッププロセスを開始するためのボタン。
[Create backup]ボタンが押されると、システムは[File name]で指定された名前のバックアップが記憶媒体に存在するかどうかを確認します。存在する場合、警告が表示されます。[OK]を選択してバックアップを上書きするか、[Cancel]を選択してバックアップに別の名前を指定します。
バックアッププロセスは、HMIデバイスの再起動後に開始され、その後データバックアップが行われます。
データバックアップ中に、バックアップの名前の付いたフォルダが選択された記憶媒体のルートディレクトリに作成されます。バックアップファイルはこのフォルダに保存されます。進捗バーのあるダイアログが、各バックアップファイルに対して表示されます。
HMIデバイスは、バックアッププロセスの完了後に再度再起動されます。
[コントロールパネル]のメインウィンドウが、再起動後に表示されます。
HMIデバイスのデータは、記憶媒体に保存されます。

注記

データ記憶媒体のバックアップファイルの名前を変更しないでください。

データ記憶媒体のバックアップファイルの名前を変更すると、これらのバックアップファイルは[Restore]機能を使用してHMIデバイスに読み込むことができなくなります。

データ格納媒体のバックアップファイルの名前を変更せずにそのままにしておきます。

注記

一式のバックアップファイルをすべてコピーする

バックアップファイルをコピーする場合、マスタファイル「.brf」とすべての関連バックアップファイル(「.0」、「.1」、「.2」など)も一緒に確実にコピーするようにしてください。

1ファイルでも欠けていると、バックアップを読み込めなくなります。

下記も参照

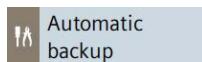
付属品 (ページ 17)

バックアップと復元 (ページ 179)

5.9.4

Automatic backup

[Automatic backup]で、[自動バックアップ]機能を有効化または無効化できます。



[自動バックアップ]機能を有効にするとき、HMIデバイスのデータは、操作中にシステムメモリカードに、ファームウェアを含むバックアップ形式で、自動的にバックアップされます。システムメモリカードのデータは、HMIデバイスのデータと恒久的に同期されます。システムメモリカードは、同じタイプのHMIデバイスであれば挿入できます。データがコピーされ再起動が完了した後、同一タイプのHMIデバイスが操作可能になります。

注記

システムメモリカードとして、32 GB以上のSIMATIC SD memory cardを使用します

32 GB以上のSIMATIC SD memory cardがシステムメモリカードとして使用することが許可されています。その他のメモリカードは、HMIデバイスによってシステムメモリカードとして認識されません。

注記

異なるタイプのデバイスに挿入されているシステムメモリカード

HMIデバイスのシステムメモリカードを異なるタイプのHMIデバイスで使用すると、エラーメッセージが表示されます。

点検修理を行う場合は、必ず同じタイプのHMIデバイスのシステムメモリカードを使用してください。

通知

「自動バックアップ」用のシステムメモリカードを操作中に取り外さないでください。

[自動バックアップ]機能が有効になっている場合、システムメモリカードはHMIデバイスの電源が切られているときのみ取り外しできます。

通知

自動バックアップとオペレーティングシステムの更新

オペレーティングシステムの更新中に[自動バックアップ]機能が有効にされると、HMIデバイスが正しく再起動されないことがあります。

HMIデバイスのオペレーティングシステムを更新する場合、そして[自動バックアップ]機能を有効にした場合、次の手順に従ってください:

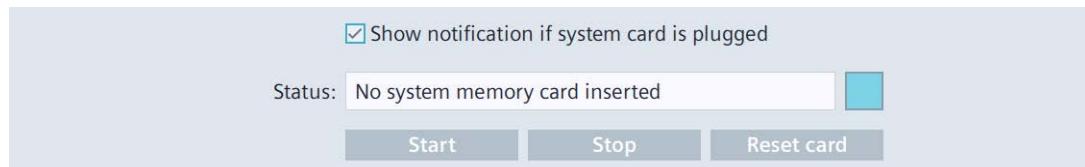
- [自動バックアップ]機能を無効にします。
- オペレーティングシステムを更新します。
- [自動バックアップ]機能を有効にします。

更新前や更新中は、システムメモリカードをHMIデバイスに挿入されたままにします。

引渡しの状態のデバイスでは、[自動バックアップ]機能は無効になっています。

メモリカードをシステムメモリカードスロットに挿入すると、すぐに[System memory card plugged]ダイアログボックスが表示されます。[コントロールパネル]に進むには、[OK]をクリックします。そこで、新しいシステムメモリカードを有効にしたり、準備したシステムメモリカードからデータを復元できます。

Automatic backup



- [Show notification if system card is plugged]:自動メッセージ[System memory card plugged]を有効化または無効化するオプション。
- [Status]:スロットX50のシステムメモリカードに関するステータス情報。
 - [No system memory card inserted]:スロットX50にシステムメモリカードがありません。
 - [System memory card is invalid]:スロットX50のシステムメモリカードがサポートされていないか、間違ってフォーマットされています。
 - [Backup on system memory card is not device compatible]:同一でないHMIデバイスまたは異なるHMIデバイスイメージを使用するHMIデバイスのシステムメモリカードがスロットX50にあります。
 - [Ready for automatic backup]:スロットX50に正しくフォーマットされたSIMATIC SD memory cardがあります。
 - [Starting automatic backup]:[Start]ボタンを押した後のステータスマッセージ。システムメモリカードが準備されます。
 - [Synchronizing data]:システムメモリカードの準備中のステータスマッセージ。
 - [Automatic backup active]:システムメモリカードの準備が完了したときのステータスマッセージ。[自動バックアップ]機能が正常に有効化されました。
 - [Resetting system memory card]:システムメモリカードがフォーマットされました。
- [Start]:[自動バックアップ]機能を有効化するためのボタン。
- [Stop]:[自動バックアップ]機能を無効にするためのボタン。
- [Reset card]:システムメモリカードをフォーマットするためのボタン。

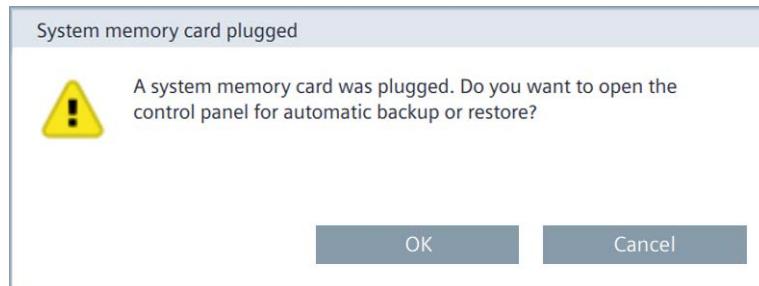
使用例

システムメモリカードが自動バックアップ用に以前に使用されていたかどうかに応じて、下記の使用例を区別しています。

空のシステムメモリカードに対する自動バックアップを有効にする

- 自動的に保存されたデータの含まれていないSIMATIC SD memory cardをスロットX50に挿入します。

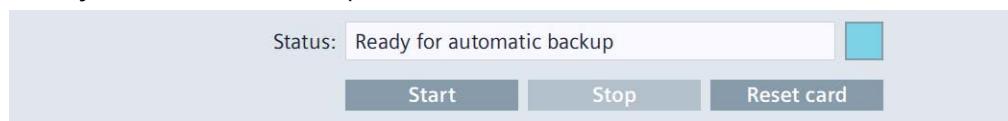
[System memory card plugged]ダイアログボックスが表示されます。



- [OK]を押します。

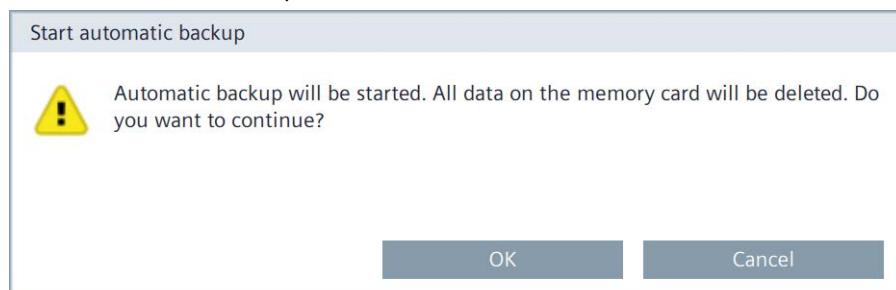
ウィンドウ[Service and Commissioning] > [Automatic backup]がコントロールパネルで開かれます。

[Ready for automatic backup]が[Status]フィールドに表示されます。



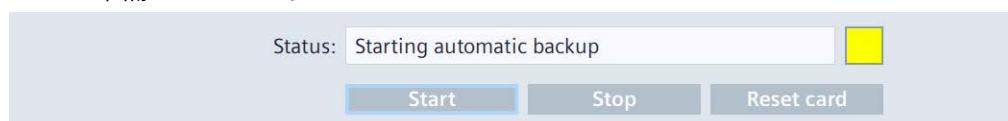
- [Start]ボタンを押します。

[Start automatic backup]ダイアログボックスが表示されます。



- [OK]を押します。

ステータスマッセージ[Starting automatic backup]が表示されます。システムメモリカードを準備しています。

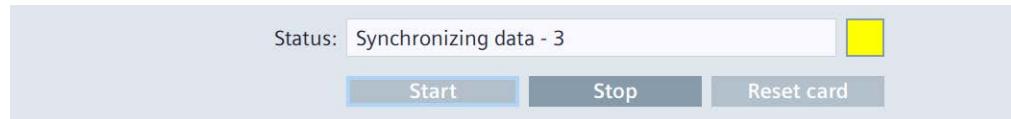


注記

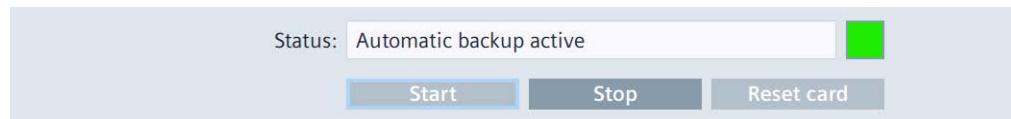
準備中にシステムメモリカードを取り外さないでください。

準備中にシステムメモリカードをHMIデバイスから取り外すと、システムメモリカードを自動バックアップに使用できなくなります。準備プロセス中は、スロットにシステムメモリカードを入れたままにします。

準備中に、ステータスマップメッセージ[Synchronizing data]が表示されます。



準備が完了すると、ステータスマップメッセージ[Automatic backup active]が表示されます。



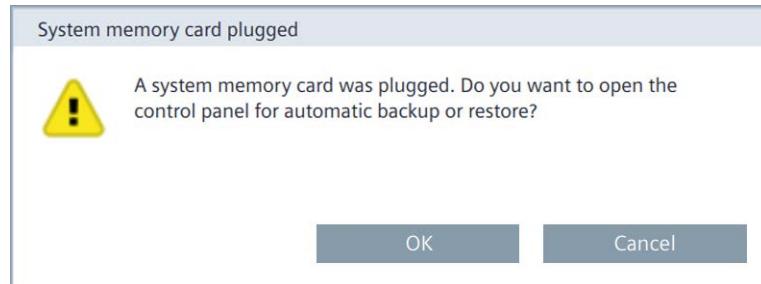
[自動バックアップ]機能が正常に有効化されました。

システムメモリーカードの自動バックアップの使用

システムメモリーカードに自動バックアップされたデータが既に含まれている場合、対応するバックアップをまず読み込む必要があります。その後で、自動バックアップを続行できます。

1. 自動的に保存されたデータが含まれているSIMATIC SD memory cardをスロットX50に挿入します。

[System memory card plugged]ダイアログボックスが表示されます。

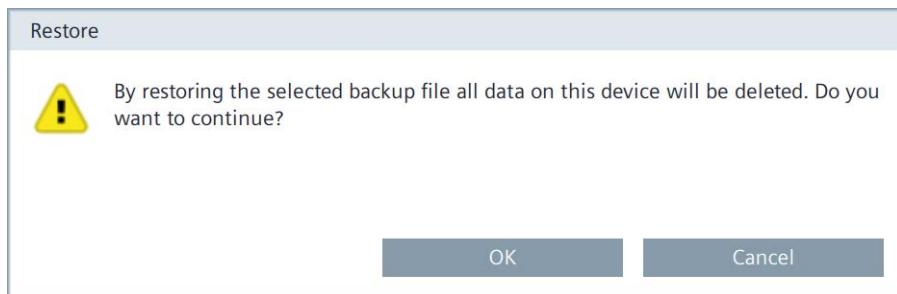


2. [OK]ボタンを押します。

ウィンドウ[Service and Commissioning] > [Restore]が[コントロールパネル]で開かれます。



3. バックアップファイルを選択し、[Restore]ボタンを押します。
次のダイアログボックスは、デバイスのすべてのデータが上書きされることを示しています。



4. [OK]ボタンを押して復元プロセスを開始するか、[Cancel]ボタンを押してプロセスをキャンセルします。
[OK]ボタンを押すと、HMIデバイスが再起動されます。その後、復元プロセスが開始されます。
復元プロセス中に、進捗状況バーがある[Automatic backup restore]ダイアログボックスが表示されます。
HMIデバイスは、復元プロセスの完了後に再度再起動されます。
[コントロールパネル]のメインウィンドウが、再起動後に表示されます。
データ転送後、HMIデバイスの状態は、自動バックアップを生成するのに使用されたHMIデバイスの状態と同一になります。
HMIデバイスでの自動バックアップを続行するには、[コントロールパネル]の[Service and Commissioning] > [Automatic backup]で[自動バックアップ]機能を再度有効にします。

下記も参照

- 付属品 (ページ 17)
- Backup (ページ 149)
- メモリカードの交換 (ページ 76)

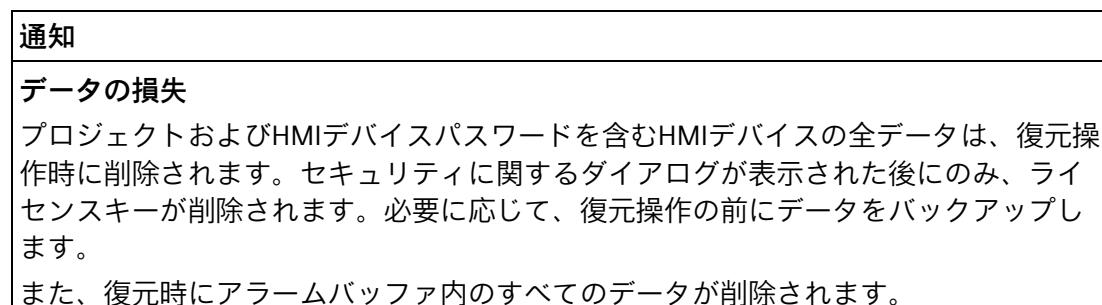
5.9.5 Restore

[Restore]で、記憶媒体からHMIデバイスのバックアップを復元できます。



HMIデバイスへのリモートアクセスは、復元プロセス中は行うことができません。

復元操作は、確認した上で、HMIデバイスのフラッシュメモリを削除します。次いで、記憶媒体にバックアップされたデータを転送します。



注記

コントロールパネルの設定

復元すると、IPアドレスなどの[コントロールパネル]のすべての設定がバックアップのデータで上書きされます。

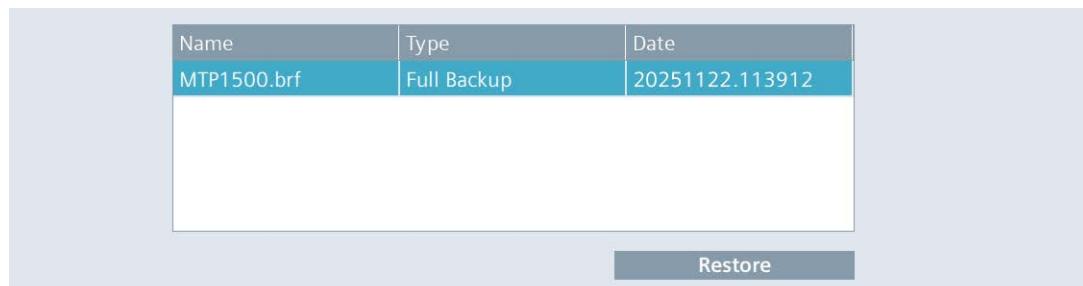
必要に応じて、復元プロセスの前に[コントロールパネル]の設定をメモし、復元プロセス後に設定を再度調整します。

Select storage media



バックアップされたデータが保存されている記憶媒体を選択します。

Backup files



- このリストは、HMIデバイスに読み込み可能なすべてのバックアップを示しています。

このリストから希望するバックアップを選択します。

- [Restore]:復元プロセスを開始するためのボタン。
[Restore]ボタンを押すと、HMIデバイスが再起動されます。その後、復元プロセスが開始されます。
復元プロセス中はHMIデバイスの電源を切らないでください。データソースをHMIデバイスから切断しないでください。
復元プロセス中に、読み込まれている各バックアップファイルについて、進捗状況バーがあるダイアログが表示されます。
HMIデバイスは、復元プロセスの完了後に再度再起動されます。
[コントロールパネル]のメインウィンドウが、再起動後に表示されます。
これで、記憶媒体のデータがHMIデバイスに復元されました。

注記

プロセスが中断されたときのシステム動作

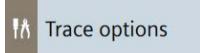
復元プロセスが電源故障やデータ接続の中止が原因を完了できない場合、例えば、HMIデバイスは保守モードで起動され、出荷時設定が復元される必要があります。

下記も参照

ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 185)

5.9.6 Trace options

[Trace options]で、トレース出力が表示されるかどうか、そして外部記憶媒体にバックアップされるかどうかを指定します。



注記

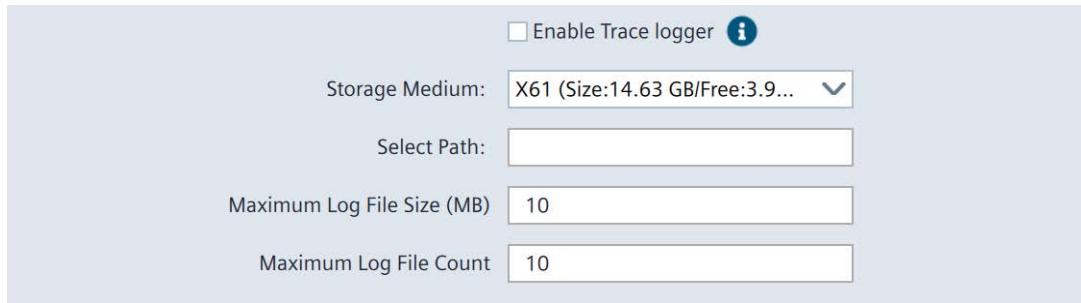
[Trace options]の設定、つまり[Trace forwarder]と[Trace logger]の設定は、HMIデバイスの再起動後、またはオペレーティングシステムの更新後も保持されます。

Trace forwarder



- [Enable Trace forwarder]:[トレース]サービスを永続的に有効または無効にするオプション。初期設定は、[無効]です。
診断目的および整備目的で[トレース]を有効にして、例えば、スクリプトからトレース出力を表示します。保守モードでHMIデバイスを起動する場合、[トレース]機能は自動的に有効にされます。詳細については、インターネット(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109777593>)のよくある質問エンティリ109777593で参照できます。

Trace logger



- [Enable Trace logger]:外部記憶媒体に「トレース」情報を永続的にバックアップするオプション。初期設定は、[無効]です。
もしオプションがアクティベートされると、「トレース」情報が選択された記憶媒体にある指定されたサイズ([Maximum Log File Size])の複数のファイルに連続して保存されます。最初のログファイルの最大サイズに達すると、別のログファイルが自動的に作成され、そこに書き込まれます。最後のログファイルの最大サイズ([Maximum Log File Count])に達すると、その時点で最も古いログファイルが削除され、さらなる「トレース」情報をバックアップするために新しいログファイルが作成されます。

注記

[Trace logger]が有効になっているときは、ストレージメディアを取り外さないでください。

[Enable Trace logger]オプションを選択した場合、関連するストレージメディアへのアクセスが永続的に確保される必要があります。

[Enable Trace logger]システム機能を使用して関連するストレージメディアを取り出すかHMIデバイスから切断する前に、[EjectStorageMedium]オプションを[無効]にします。

- [Storage Medium]:「トレース」情報がバックアップされる記憶媒体。
- [Select Path](オプション):「トレース」情報がバックアップされる場所へのパス。パスの名前は「/」で開始する必要があります、アルファベットのみを使用できます。次の特殊文字はいずれも使用できません: ! # \$ % & () * + , : ; < = > ? @ [] _ { | } ~ ^

選択した記憶媒体上のログファイル

「トレース」情報を含むログファイルは常に、選択された記憶媒体のサブディレクトリ「/TraceLogs」に保存されます。

パスが指定されていない場合、ログファイルは「/TraceLogs」ディレクトリで見つけることができます。

パスが指定されている場合は、この「/パス>/TraceLogs」ディレクトリでログファイルを見つけることができます。

上の図では、パス「/traces」が例として挙げられます。関連するログファイルは「/traces/TraceLogs」で見つけることができます。

ログファイルの名前

ログファイルには、次の構文に従って、日付と時刻を含む名前が付けられます:

TraceLogs-YYYY-MM-DD-T_HH_MM_SS.log

- [Maximum Log File Size (MB)]:ログファイルの最大サイズ(メガバイト単位)。許容範囲:10 MB ~ 512 MB。初期設定:10 MB。
- [Maximum Log File Count]:作成できるログファイルの最大数。
 - 初期設定:10
 - 最小値:2
 - 最大値は、選択した記憶媒体上の空き記憶容量のサイズによって決まります。

[Maximum Log File Size (MB)]と[Maximum Log File Count]で指定した値の積が選択した記憶媒体上の利用可能な記憶領域のサイズを超えている場合、値は不正確なものとしてマークされるため、修正する必要があります。

下記も参照

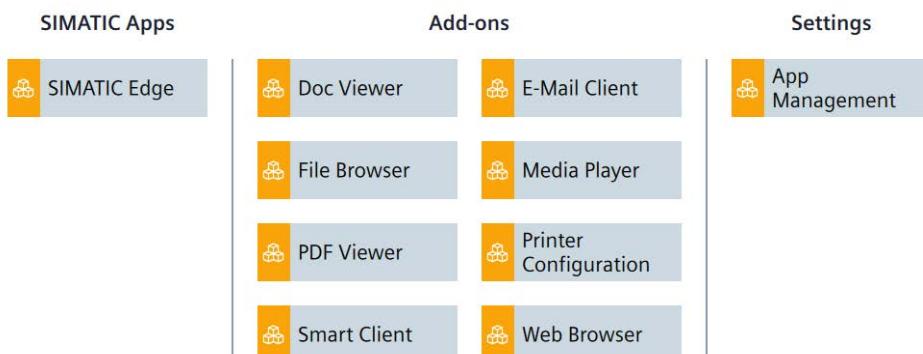
Event Logger (ページ 95)

5.10 Apps

次のオプションは、[Apps]で、HMIデバイスにあるアプリを管理するために使用できます。

- [SIMATIC Apps]にあるSIMATIC用に特別に開発されたアプリを起動するか、それらの設定を調整します。
- [Add-ons]で、プリインストールされているアプリを起動するか、設定を調整します。
- [Settings]の[App management]経由で、プリインストールされているアプリのアンインストールおよび起動および設定を変更します。

次の図は、HMIデバイスの引渡しの状態の例を示しています。



アプリを開く、アプリの設定を変更する、またはアプリをアンインストールするには、[SIMATIC Apps]、[Add-ons]または[Settings]カテゴリの下にあるエントリを選択します。

それらのカテゴリのエントリは、次のセクションで説明されています。

- **SIMATIC Apps** (ページ 160)
- **Add-ons** (ページ 162)
- **Settings** (ページ 171)

注記

ベストパフォーマンス

各アプリは、ある程度の量の作業メモリを占有します。アプリの数や[Web Browser]アプリで開かれるタブの数が増えるほど、使用可能な作業メモリの量が少なくなります。HMIデバイスの可能な限り最高のパフォーマンスを得るために、次の推奨事項に留意してください。

- 同時に開くアプリの数は、できるだけ少なくしてください。
 - 使用しなくなったアプリは閉じてください。
 - 可能な場合、[Web Browser]アプリでは、1つのタブのみを開いてください。
-

5.10.1 SIMATIC Apps

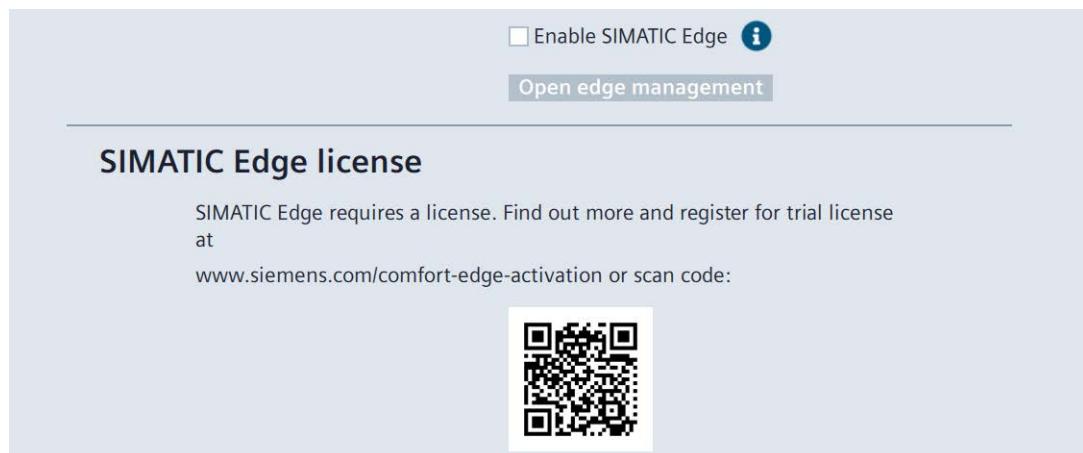
[SIMATIC Apps]では、[SIMATIC Edge]など、SIMATIC環境用に特別に開発されたアプリを確認することができます。



SIMATICアプリのWebページでのデータ入力中にスクリーンキーボードが自動的に開かない場合、タスクバーの次のアイコンを使用してスクリーンキーボードを開きます。



SIMATIC Edge



- [Enable SIMATIC Edge]:Edge Managementを有効または無効にするオプション。初期設定は、[無効]です。「操作に関する注意 (ページ 82)」セクションに従ってください。
-

注記

エッジ管理を有効にすると、HMIデバイスへのWebアクセス用のポートが自動的にアクティブになります。「Port settings (ページ 138)」のセクションを参照してください。

- [Open edge management]:HMIデバイスで「Web Browser」アプリのEdge Management Webページを開くボタン。
初めてこのボタンを押すと、[Activate Edge Device]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、ローカルEdge Managementまたは中央Edge Managementのどちらを将来使用するかを決定します。

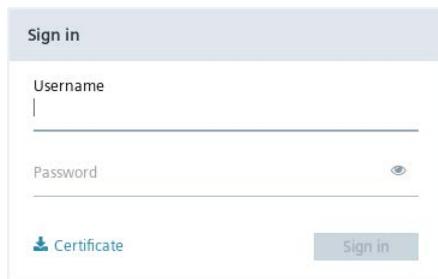


ローカルEdge Managementに対して[Standalone]を選択するか、中央Edge Management IEMに対して[Central Managed]を選択します。

必要に応じて、Edge Managementのために、[Settings]でネットワーク設定を行えます。

ローカルEdge Managementまたは中央Edge Managementのどちらを使用するかを決定すると、[Activate Edge Device]ダイアログが今後表示されなくなります。

Edge Managementにログインするために、[Sign in]ダイアログが表示されます。



必要な権限のあるユーザーとしてEdge Managementにログインします。

Edge ManagementのWebサイトが[Web Browser]アプリで開きます。

代替オプションとして、Webアクセスを介して[SIMATIC Edge]を開くことができます。

「HMIデバイスへのWebアクセス (ページ 77)」を参照してください。

UnifiedコンフォートパネルのEdge Managementに関する詳細は、次のドキュメントで確認できます: 操作説明書「Unifiedコンフォートパネルの産業用エッジデバイス - 操作」 (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109804671>)

SIMATIC Edgeアプリとアプリデータを[Update OS]と併用する

HMIデバイスイメージバージョン20.0.0.0以降では、SIMATIC Edgeアプリとそのデータは、[Update OS]ファンクションと併用されます。

- オペレーティングシステムをより高いバージョンにアップグレードしても、すべてのSIMATIC Edgeアプリとそのデータは保持されます。
- オペレーティングシステムを下位バージョンにダウングレードすると、すべてのSIMATIC Edgeアプリとそのデータが削除されます。

5.10.2 Add-ons

5.10.2.1 Add-onsの概要

[Add-ons]で、次のセクションで説明するプリインストールされたアプリを参照できます。

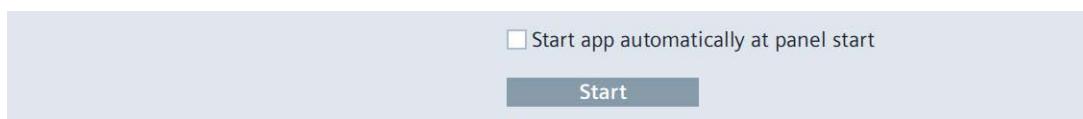
アプリ	説明
 Doc Viewer	Doc Viewer (ページ 164)
 E-Mail Client	E-Mail Client (ページ 164)
 File Browser	File Browser (ページ 165)
 Media Player	Media Player (ページ 165)
 PDF Viewer	PDF Viewer (ページ 166)
 Printer Configuration	Printer Configuration (ページ 166)
 Smart Client	Smart Client (ページ 166)
 Web Browser	Web Browser (ページ 171)

[Add-ons]にあるすべてのプリインストールされているアプリには[Start]ボタンがあり、ほとんどのアプリで[自動起動]機能も使用できます。

アプリの起動

アプリを起動するには、該当するアイコンを押します。

アプリの起動オプションが表示されます。



- [Start app automatically at panel start]:対応するアプリの[自動起動]機能を有効化または無効化するオプション(すべてのアプリで使用できるわけではありません)。このオプションが選択されている場合、アプリは、[コントロールパネル]が起動された後すぐに起動されます。このアプリは、[コントロールパネル]の前面に表示されます。
- [Start]:アプリを手動で起動するためのボタン。

注記

[Add-ons]での表示方向とアプリ

Media PlayerなどのいずれかのアプリがHMIデバイス上で実行されているときに、コントロールパネルの[System Properties] > [Display] > [Orientation]で表示方向を切り替える(ページ 88)と、アプリの内容が正しく表示されない可能性があります。これを回避するには、表示方向を切り替えた後にHMIデバイスを再起動してください。「Reboot(ページ 92)」のセクションを参照してください。

注記

アプリインスタンスの数

HMIデバイス上で一度に起動できるアプリのインスタンスは1つだけです。

- Doc Viewer
- E-Mail Client
- Media Player
- PDF Viewer
- Smart Client

すでにバックグラウンドで実行されているアプリを起動すると、フォアグラウンドに移動します。これは、アプリがスクリプト経由で起動される場合にも適用されます。

プロジェクトからプリインストールされているアプリを起動する

ただし、プロジェクトの操作エレメントから、プリインストールされているアプリを起動することもできます。このようにするためには、設定で[StartProgram]システム機能を使用します。

次のコマンドを[プログラム名]に入力します: 「/opt/siemens/App_Restriction/<起動スクリプトの名前>」

希望するアプリに応じて、「<起動スクリプトの名前>」に次のスクリプトを使用します。

起動対象のアプリ	関連付けられた起動スクリプト
Doc Viewer	runLibreoffice.sh
E-Mail Client	runEvolution.sh
File Browser	runFileBrowser.sh
Media Player	runVLC.sh
PDF Viewer	runEvince.sh
Smart Client	runSmartClient.sh
Web Browser	runFirefox.sh

[プログラムパラメータ]で、どのファイルを開くかなど、アプリの呼び出しに許可されるすべてのパラメータを指定できます。

「runSmartClient.sh」を検索することで、TIAヘルプでSmart Clientアプリを呼び出すためのパラメータを参照できます。

他のすべてのアプリについては、[Help] > [About ...]でアプリの固有の名前を検索することで、インターネット上で可能なパラメータを参照することができます。

例

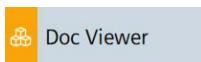
1. [MyPDFfile.pdf]を、インターフェースX61に接続されているUSBスティックから開きます。
 - [プログラム名]: 「/opt/siemens/App_Restriction/runEvince.sh」
 - [パラメータ]: 「/media/simatic/X61/MyPDFfile.pdf」
2. [Doc Viewer]アプリを使用して、ランタイムから「.odt」ファイルをPDFファイルに出力します
「/home/industrial」フォルダのすべての[.odt]ファイルを[Doc Viewer]を使用してPDFファイルに出力するには、次の値と一緒に[StartProgram]システム機能を使用します。
 - [プログラム名]: /opt/siemens/App_Restriction/runLibreoffice.sh
 - [プログラムパラメータ]: --convert-to pdf --outdir /home/industrial /home/industrial/*.odt -headless

下記も参照

App Management (ページ 171)

Printers (ページ 140)

5.10.2.2 Doc Viewer



[自動起動]が使用可能:はい

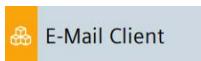
簡単な説明

「Doc Viewer」では、テキストやWordファイルなどのドキュメントを表示および編集できます。

ランタイムソフトウェアやシステム機能を使用して保存されたファイルを編集するためには[Doc Viewer]は使用しないでください。これらのファイルには、例えば、.tsvファイルにエクスポートされたパラメータセットが含まれます。

ファイルを印刷するとき、ファイルタイプの初期設定[Portable Document Format] (.pdf)をそのまま変えないでおきます。

5.10.2.3 E-Mail Client



[自動起動]が使用可能:はい

簡単な説明

「E-Mail Client」では、電子メールアカウントを接続して電子メールを送受信したり、別のアプリからメールファイルをインポートすることができます。

初めて[E-Mail Client]が呼び出されたとき、設定ウィザードが起動されます。設定中、電子メールを送受信に対してSSL暗号化を有効にします。

5.10.2.4 File Browser



[自動起動]が使用可能:はい

簡単な説明

[File Browser]を使用して、内部メモリおよびHMIデバイスの記憶媒体にあるファイルを検索および管理できます。

注記:[記憶媒体をイジェクト]機能は、[File Browser]ではサポートされていません。代わりに、ランタイムの[EjectStorageMedium]システム機能またはコントロールパネル(ページ 139)の[Eject storage media]機能を使用してください。

5.10.2.5 Media Player



[自動起動]が使用可能:はい

簡単な説明

「Media Player」を使用して音声と動画ファイルを再生できます。

サポートされているフォーマット、解像度、フレームレート

注記

以下の情報は、ランタイムオブジェクト[メディアプレーヤー]および[ブラウザ]のビデオの再生にも適用されます。

サポートされるファイル形式

[Media Player]アプリおよび[メディアプレーヤー]と[ブラウザ]ランタイムオブジェクトは、次のビデオ形式をサポートします。

- mp4
- ogv (VP8/VP9コーデック)
- webm
- mkv

解像度とフレームレート

次の表は、スムーズなビデオ再生のための最大解像度とフレームレートの推奨事項を示しています。

Unified HMIデバイス	解像度 / ピクセル	フレームレート / 1秒あたりのフレーム数
MTP700 Unified Comfort	800 x 400	30
MTP1000 Unified Comfort	1280 x 800	30
MTP1200 Unified Comfort	1280 x 800	30
MTP1500 Unified Comfort	1366 x 768	30
MTP1900 Unified Comfort	1920 x 1080	30
MTP2200 Unified Comfort	1920 x 1080	30

5.10.2.6 PDF Viewer

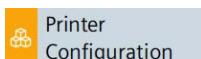


[自動起動]が使用可能:はい

簡単な説明

「PDF Viewer」を使用してPDFドキュメントを表示できます。

5.10.2.7 Printer Configuration



[自動起動]が使用可能:いいえ

簡単な説明

[Printer Configuration]は、[External Devices and Input] > [Printers] (ページ 140)の下にあるプリンタ管理を開きます。

5.10.2.8 Smart Client



[自動起動]が使用可能:はい

簡単な説明

Smart Clientアプリ経由で、別のデバイスのSmart Serverに接続し、このデバイスを監視または操作できます。

Smart Clientアプリは、次のいずれかのデバイス上でSmart Serverをサポートします。

メインのTIAバージョンに応じて、次のソフトウェア/ファームウェアバージョンがサポートされます。

- HMIデバイスのイメージバージョンを備えたUnified Comfort Panel:
 - 18.0.0.5以降のV18バージョン
 - 19.0.0.3以降のV19バージョン
 - 20.0.0.0以降のV20バージョン
 - 21.0.0.0以降のV21バージョン
- HMIデバイスイメージバージョンとUnified Basic Panel:
 - 21.0.0.0以降のV21バージョン
- Comfort Panel、HMIデバイスイメージバージョンを備えたMobile Panel 2nd Generation:
 - 15.1.0.5以降のV15バージョン
 - 16.0.0.7以降のV16バージョン
 - 17.0.0.8以降のV17バージョン
- Runtime Advanced
 - 15.1.0.7以降のV15バージョン
 - 16.0.0.7以降のV16バージョン
 - 17.0.0.8以降のV17バージョン

Smart Clientアプリは、特に下記の機能を提供します。

- 暗号化通信
- 最後に接続されたスマートサーバーのリストを、日時や最後の接続のステータスを含めて保存します([Successful]、[Failed])
- Smart Server接続用のパスワードの保存
- Smart Client用のView only許可の強制
- 以下のジェスチャのサポート:
 - Smart Serverデバイスがサポートするジェスチャ
 - 画面全体のコンテンツのズームとパン
- 高、中、低帯域幅の接続プロファイル
- Smart Clientアプリ用の明るい色または暗い色の配色

注記

同時に開いているSmart Clientアプリの数

Smart Clientアプリを開くと、それぞれのアプリはHMIデバイス上のリソースを使用します。パフォーマンス上の理由で、同時に開くSmart Clientアプリの数は、できるだけ少なくしてください。

推奨事項:同時に開くSmart Clientアプリは最大5個にします。

Smart Clientアプリの使用

1. そのボタンを使用して、Smart Clientアプリを開きます。



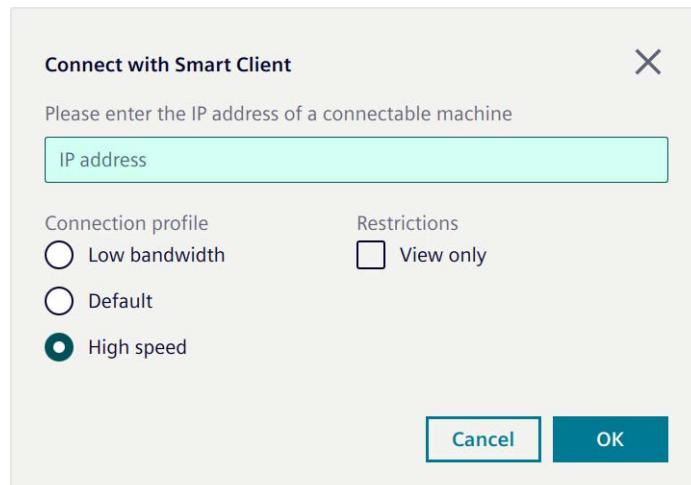
[Settings]で、Smart Clientアプリの配色を[Light theme]から[Dark theme]に切り替えることができます。

最後に接続されたIPアドレスは、[Recently Connected Servers]リストに表示されます。

2. [New connection]または(存在する場合) [Recently Connected Servers]の接続のいずれかを選択します。

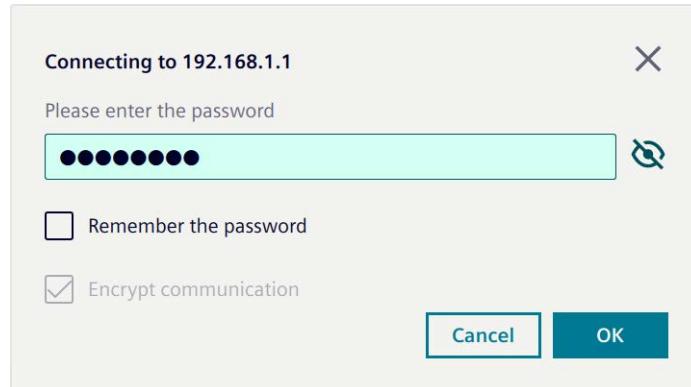
IPアドレスを[Recently Connected Servers]リストから選択する場合、サーバーに直接接続されます。接続に成功するとサーバー画面が表示されます。この場合、これ以上の手順を実行する必要はありません。

[New connection]を選択する場合、[Connect with Smart Client]ダイアログが表示されます。



3. デバイスのIPアドレスを、接続したいSmart Serverと一緒に入力します。関連する Smart Serverが起動されていることを確認してください。
4. [Connection profile]で、接続に対して希望する帯域幅を選択します。
5. 監視のみを行い、どんな場合でもサーバーを操作しない場合は、[View only]オプションを[Restrictions]で有効にします。
6. [OK]をクリックして、エントリを確定します。

[Connecting to <IPアドレス>]ダイアログが表示されます。



7. 接続用のパスワードを[Smart Server]に入力します。次のボタンを使用して、ダイアログが表示されている間、パスワードを可視状態で表示されるようにすることができます。



-
8. [Remember the password]オプションを使用して、このSmart Serverのパスワードを保存して、次回から再度入力する必要がないようにすることができます。

注記

HMIデバイスアプリとランタイムスクリプトのパスワードを個別に管理

Smart Clientアプリの代替手段として、Smart Server接続をランタイムスクリプト[runSmartClient.sh]経由で接続を確立することもできます。「プロジェクトからプリインストールされたアプリを起動する」の下にある「Add-onsの概要 (ページ 162)」セクションをクリックします。

[Remember the password]オプションは、両方の接続方法で有効にできます。セキュリティ上の理由から、2つのパスワードは別々に管理されます。

時にはSmart Clientアプリ経由、時には[runSmartClient.sh]経由でサーバーへの接続を確立し、かつパスワードを保存したい場合は、どちらの場合でも、初めて接続を確立するときに[Remember the password]パスワードを有効化します。

9. 暗号化転送は、[Encrypt communication]によって有効化されています。以下が適用されます。

- 暗号化転送がSmart Serverに対して有効化されている場合、[Encrypt communication]オプションもSmart Clientアプリで有効なままになり、無効にすることはできません。
 - 暗号化転送がSmart Serverに対して有効化されていない場合、Encrypt communicationを無効化または有効化することができます。
[Encrypt communication]をSmart Clientアプリで有効化することで、対応する設定をSmart Serverでも有効化します。
-

注記

Smart Serverでの暗号化転送のオプション

Smart Serverタイプによっては、暗号化通信を有効にするオプションが呼び出されます。

- Runtime Advanced、Comfort PanelおよびMobile Panelの第2世代の場合: [Encrypt communication]
 - Unified Comfort Panelの場合: [Secure communication via self-signed certificate]
-

10. [OK]を選択して、接続を確立します。

接続が正常に確立されると、付与されている権限に応じて、Smart Serverが動作しているデバイスを監視および操作することができます。

トラブルシューティング

次の表は、Smart ClientアプリのSmart Serverとの接続に関する可能性のあるエラーの例を示しています。

アラーム	原因	対策
 Connection failed! Please wait and try again later. <input type="button" value="OK"/>	指定されたIPアドレスが見つかりませんでした。	[OK]を選択します。 目的のIPアドレスにアクセスできることを確認してください。 Smart ClientをSmart Serverに再度接続します。
 Authentication failed Please try again. <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>	入力されたパスワードが正しくありません。	[OK]を選択して、もう一度パスワードを入力します。 Smart Serverに対するパスワードを確認します。 パスワードは、設定またはHMIデバイスで設定されます。 パスワードを忘れた場合は、Smart Serverの新しいパスワードを入力してください。
 The Smart Server has disconnected Please restart the session. <input type="button" value="OK"/>	接続は正常に確立されました BUT 中断されました。	[OK]を選択します。 ネットワーク接続をチェックしてください。 ネットワーク接続が再確立されたら、Smart ClientをSmart Serverに再度接続します。
 No more client connections allowed! Please wait and try again later. <input type="button" value="OK"/>	Smart Serverの最大接続数にすでに到達しています。	[OK]を選択します。 不要になったSmart Clientを閉じるか、別のSmart Client接続が閉じられるまで待機します。 Smart ClientをSmart Serverに再度接続します。
 Your connection has been rejected Please wait and try again later. <input type="button" value="OK"/>	Comfort PanelのSmart Serverへの接続が頻繁に開閉されています。 Smart Serverの保護メカニズムにより、現在別の接続は許可されません。	[OK]を選択します。 約5秒待ってから、Smart ClientをSmart Serverに再接続してください。

5.10.2.9 Web Browser



[自動起動]が使用可能:はい

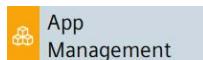
簡単な説明

「Web Browser」はインターネットへのアクセスを提供します。

ブラウザのダウンロードディレクトリは「home/industrial/download」です。

5.10.3 App Management

[App Management]で、プリインストールされているアプリのアンインストールや設定の変更を行うことができます。



Manage Apps



- このリストは、[アドオン]でインストールされているすべてのアプリを示しています。
- [Uninstall]:選択されたアプリをアンインストールするためのボタン。推奨事項:必要ななくなったアプリをインストールします。

注記

アンインストールを取り消すことはできません

アンインストールしたアプリを再インストールすることはできません。引渡しの状態でプリインストールされていたすべてのアプリを戻すには、HMIデバイスの出荷時設定を復元する必要があります。

- [Configure]:選択したアプリの設定を変更するためのボタン(「Add-onsの概要 (ページ 162)」セクションを参照)。

下記も参照

ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 185)

データの転送

6.1 概要

設定フェーズ

設定フェーズで、自動化プロセスは、プロジェクトの形式で設定ソフトウェアと一緒に視覚化されています。プロジェクトのプロセスセル画面には、プロセスのステータスに関する情報を提供する値とアラームの操作エレメントとディスプレイコントロールが含まれています。設定段階の後、プロジェクトは、プロセス制御フェーズの後に、HMIデバイスに転送されます。

プロジェクトのHMIデバイスへの転送

プロジェクトは、プロセス制御で使用されるHMIデバイスに転送される必要があります。転送には次のオプションがあります。

- プロジェクトを設定PCからHMIデバイスに転送します(「WinCCを使用したプロジェクトの転送(ページ 176)」セクションを参照)。
- 外部記憶媒体からプロジェクトを転送します。「Load project from storage(ページ 101)」セクションを参照してください。
- 同一のHMIデバイスで準備したシステムメモリカードを挿入します(「Automatic backup(ページ 151)」セクションを参照)。
- 同一のHMIデバイスのバックアップファイルを外部記憶媒体から復元します(「Restore(ページ 156)」セクションを参照)。

HMIデバイスのオペレーティングシステムの更新

HMIデバイスのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンは、インストールされているWinCCソフトウェアのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンとの互換性がある必要があります。互換性がない場合、転送前にエラーメッセージが出力されます。

HMIデバイスのオペレーティングシステムを次の方法で更新できます。

- オペレーティングシステムをプロジェクトと一緒に設定PCからHMIデバイスに転送します(「WinCCを使用したプロジェクトの転送(ページ 176)」セクションを参照)。
- オペレーティングシステムを設定PCからHMIデバイスに転送します(「WinCCによるオペレーティングシステムの更新(ページ 183)」セクションを参照)。
- オペレーティングシステムをデータ記憶媒体からHMIデバイスに転送します(「Update OS(ページ 146)」セクションを参照)。
- 同一のHMIデバイスで準備したシステムメモリカードを挿入します(「Automatic backup(ページ 151)」セクションを参照)。
- 同一のHMIデバイスのバックアップファイルを外部記憶媒体から復元します(「Restore(ページ 156)」セクションを参照)。

オペレーティングシステムを上記のオプションで更新できなかった場合、HMIデバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。

次の方法でHMIデバイスを出荷時設定にリセットすることができます。

- HMIデバイスを起動し、[コントロールパネル]へのアクセス権を持っている場合、「ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット(ページ 185)」セクションの説明に従って進めます。
- HMIデバイスを起動しておらず、HMIデバイスの[コントロールパネル]へのアクセス権がない場合、保守モードでHMIデバイスを起動します(「メンテナンスマードの使用(ページ 189)」を参照)。

プロセスコントロールフェーズ

プロセスコントロールフェーズで、HMIデバイスはコントローラにオンラインで接続されており、プロセスセルの操作とモニタを行うことができます。

コミッショニングと再コミッショニング

初期コミッショニングおよび再コミッショニングは次の点で異なります。

- 初期コミッショニング中、HMIデバイスには使用可能なプロジェクトはありません。引渡し時およびオペレーティングシステムの更新後、HMIデバイスはこの状態になります。
- 再コミッショニング時は、HMIデバイスに既に存在するプロジェクトが置換されます。

6.2 操作モード

操作モード

HMIデバイスは、次の操作モードにすることができます。

- オフライン
- オンライン
- 転送

操作モードの変更

操作の進行中にHMIデバイスの操作モードを変更できるようにするには、設定エンジニアによって適切なオペレータコントロールが設定されている必要があります。

必要な場合には、プロセスセルのマニュアルで追加情報を参照できます。

[オフライン]操作モード

このモードでは、HMIデバイスとコントローラの間の通信はありません。HMIデバイスを操作できますが、コントローラとデータを交換することはできません。

[オンライン]操作モード

この操作モードでは、HMIデバイスとコントローラ間またはHMIデバイスと設定PC間に通信接続があります。

- HMIデバイスとコントローラ間のオンライン操作では、設定に応じて、HMIデバイスと一緒にプロセスセルを操作します。
- HMIデバイスと設定PC間のオンライン操作では、[オンラインおよび診断]などの拡張機能が使用可能です。

6.3 既存プロジェクトの使用

[転送]モード

このモードでは、設定PCからHMIデバイスにプロジェクトを転送することや、HMIデバイスデータのバックアップと復元をすることができます。

6.3 既存プロジェクトの使用

既存のプロジェクトの移行に関する情報およびサポートは、次から利用可能です。

- TIA Portalヘルプの[プロジェクトの編集] > [プロジェクトの互換性] > [プロジェクトのアップグレード]。
- コンフォートパネルからUnifiedコンフォートパネルへの切り換えに関するインターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109768002>) にあるガイドライン。
- SIMATIC WinCC Unifiedへの切り換えに関するインターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109770510>) にある [Data2Unified Add-in] エントリ。

6.4 データ送信オプション

次の表に、HMIデバイスと設定PC間のデータ転送のオプションを示します。

インターフェース	PROFINET (LAN)	USB	SD		
転送機能	プロトコル	X1	X2	X61～X64	X51
バックアップと復元	PN/IE	-	-	X	X
	Ethernet	x ¹	x		
オペレーティングシステムの更新	PN/IE	-	-	X	X
	Ethernet	x ¹	x		
オペレーティングシステムの更新および出荷時設定へのリセット	PN/IE	-	-	-	-
	Ethernet	-	x		
プロジェクトの転送	PN/IE	x	x	X	X
	Ethernet	x	x		
S7通信	PN/IE	x	x	-	-
NTP、Webクライアント、インターネットアクセス、Unifiedコラボレーション、Smart Server/Smart Client、Industrial Edge	Ethernet	x	x	-	-

¹ 下記の商品コードと下記の機能バージョンのデバイス向け([F-State]、銘板を参照):

- 商品コード...-0AX1の付いたすべてのUnifiedコンフォートパネル
- 商品コード...-0AX0およびF-State ≥ 7の付いたMTP700/1000/1200
- 商品コード...-0AX0およびF-State ≥ 5の付いたMTP1500/1900/2200

データ転送に関する注意事項

可能な場合は、データ転送にはPN/IEよりも高速の「Ethernet」プロトコルを使用してください。

「WinCCによるオペレーティングシステムの更新」機能には、必ず「Ethernet」プロトコルを使用してください。

可能な場合は、以下の機能のある最高帯域幅のX2インターフェースを使用します。

- バックアップと復元
- オペレーティングシステムの更新
- プロジェクトの転送

X20 RS422/485インターフェースは、他のメーカーのコントローラを接続するために設計されています。設定PCとHMIデバイス間のデータ転送にはX20インターフェースを使用しないでください。

6.5 PG/PCインターフェースの設定

設定PCとHMIデバイス間のEthernet接続を確立するには、PG/PCインターフェースを正しく設定する必要があります。

手順

1. 設定PCの[コントロールパネル]を開きます。
2. [PG/PCインターフェースの設定]をクリックします。
3. [アプリケーションアクセスポイント]の最初のタブで、[S7ONLINE (STEP 7)]エントリを選択します。
4. [使用済みのインターフェースパラメータ]にある、名前の接尾辞が「.TCPIP.Auto.1」であるEthernetアダプタを選択します。

結果

PG/PCインターフェースが設定されました。設定PCを、Ethernet経由でHMIデバイスに接続し、データを転送できるようになりました。

6.6 WinCCを使用したプロジェクトの転送

このセクションでは、設定ソフトウェアWinCC経由でプロジェクトをHMIデバイスに転送する方法を説明しています。転送前に、このソフトウェアはプロジェクトをHMIデバイスに読み込み可能かどうかを確認します。チェックの結果が、[ロードプレビュー]ダイアログボックスに表示されます。プロジェクトを読み込むことができない場合、[ロードプレビュー]ダイアログボックスで転送設定を変更できます。プロジェクトを読み込むためには、HMIデバイスを使用して設定された設定ソフトウェアを使用します。

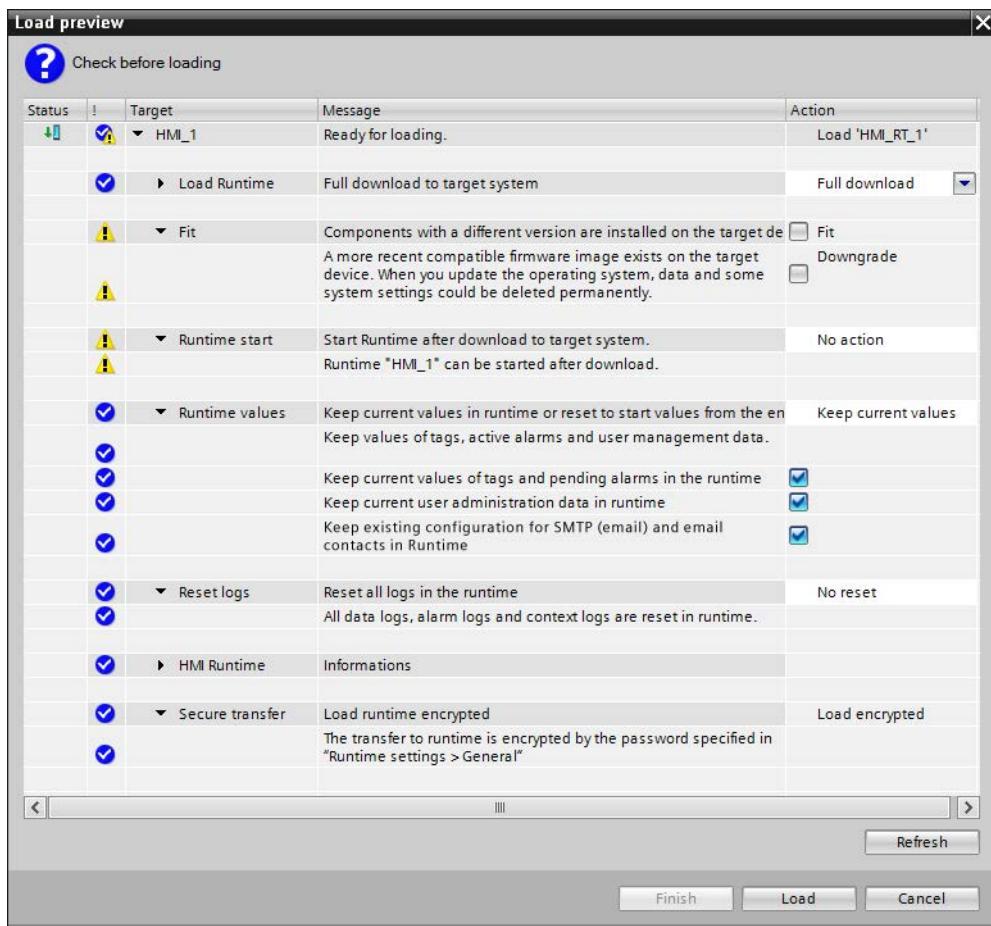
注記

読み込み中に既存のパラメータセットが削除される

プロジェクトをHMIデバイスに読み込むとき、以前のプロジェクトからの、内部メモリや外部記憶媒体に保存されたすべてのパラメータセットが削除されます。プロジェクトを読み込む前に、以前のプロジェクトから入力されたパラメータセットを保存しておきます。

手順

1. HMIデバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
2. HMIデバイスをX1またはX2インターフェースで設定PCに接続します。可能な場合は、最高帯域幅のX2インターフェースを使用します。
3. HMIデバイスの[コントロールパネル]で、[Network and Internet]を選択します。データ転送用に選択されたポートが使用されるインターフェース用に有効にされていることを確認します([Activate this port for use])。
4. HMIデバイスのコントロールパネルで、[Service and Commissioning] > [Transfer]を選択します。
5. [Enable transfer]オプションが有効にされていることを確認します。
6. HMIデバイスを使用して設定された設定ソフトウェアを開きます。
7. HMIデバイスに転送したいプロジェクトを開きます。
データ転送用に使用されるインターフェースのポートがプロジェクト設定で有効化されていることを確認します。デバイス設定のインターフェースパラメータの詳細なオプションで、この設定を確認できます。
8. プロジェクトツリーで、転送したいプロジェクトがあるHMIデバイスを選択します。
9. HMIデバイスのショートカットメニューで[デバイスへのダウンロード] > [ソフトウェア]コマンドを選択します。
10. HMIデバイスへの接続がない場合、接続ダイアログボックスが表示されます。この場合、HMIデバイスの接続設定を入力します。[接続]ボタンをクリックしてから、[読み込み]をクリックします。
接続の確立に成功すると、[ロードプレビュー]ダイアログボックスが表示されます。次の図に、例を示します。



[ロードプレビュー]ダイアログボックスには、[情報]および[警告]タイプのアラームが含まれます。

	情報	この設定に互換性があります。プロジェクトを読み込むことができます。
	警告 [アラーム]列の設定を変更することができません。	HMIデバイスの設定は、設定ソフトウェアの設定とは異なります。プロジェクトは、依然として、この設定を使用して読み込むことができます。
	警告 [操作]列の設定を変更することができます。	HMIデバイスの設定は、設定ソフトウェアの設定とは異なることに注意してください。[操作]列の設定を変更した後に、このプロジェクトを読み込むことができます。
	エラー [アラーム]列の設定を変更することができません。	プロジェクトを読み込むことができません。設定またはHMIデバイスの設定を調整します。
	エラー [操作]列の設定を変更することができます。	プロジェクトを読み込むことができません。[操作]列の設定を変更した後に、このプロジェクトを読み込むことができます。

11. [ロードプレビュー]ダイアログボックスで、読み込みプロセスに対してオプションを指定します。
 - [ランタイムの読み込み]:HMIデバイスのランタイムソフトウェアを上書きまたは保持するための選択リスト。
 - [適合]:この領域で、設定のコンポーネントのバージョンがHMIデバイスのコンポーネントのバージョンと異なる場合に、個別コンポーネントを調整すべきかどうかを定義します。HMIデバイスのバージョンがより新しい場合、[Downgrade]を選択します。そうでない場合は、[Upgrade]を選択します。
[Upgrade]によりオペレーティングシステムを更新する場合、「オペレーティングシステムを更新する際の重要な注意(ページ 182)」に従ってください。
 - [ランタイムの開始]:読み込み後にランタイムソフトウェアがHMIデバイスで起動されるかどうかを指定しできるようにする選択リスト。
 - [ランタイム値]:この領域で、タグのデータ、アラームおよびユーザー管理がHMIデバイスで保持されるべきかどうかを定義します。対応するオプションが選択されている場合、HMIデバイスのデータが保持されます。対応するオプションが選択解除されている場合、HMIデバイスのデータが削除されるか、設定のデータによって上書きされます。HMIデバイスのユーザー管理を更新したい場合、[ランタイム時に現在のユーザー管理を保持]オプションを選択解除しておく必要があります。
 - [ログのリセット]:すべてのログをリセットまたは保持するための選択リスト。[すべてをリセット]を選択した場合、HMIデバイスにあるすべてのデータログのデータ、アラームログおよびコンテキストログが削除されます。
 - [HMIランタイム]:この領域には、HMIデバイスのランタイムおよびファームウェア/オペレーティングシステムのバージョンに関する情報が含まれています。
 - [安全な転送]:この領域で、プロジェクトが暗号化されて転送されるかどうかを決定します。その他の情報は「Transfer(ページ 146)」セクションを参照してください。
- 明るい赤色のテキストがある警告が表示されなくなったら、[ロードプレビュー]の左側の[ステータス]列にある[ダウンロード]アイコンが緑色に表示され、[読み込み]ボタンが有効になります。
12. [読み込み]をクリックして、プロジェクトをHMIデバイスに転送します。
プロジェクトがHMIデバイスに転送されます。転送中にエラーまたは警告が発生した場合は、[調査官]ウィンドウの[情報]>[ダウンロード]の下にアラームが表示されます。転送に成功すると、アラーム[ロード完了(エラー:0、警告:0)]が表示されます。
13. HMIデバイスのコントロールパネルで、[Service and Commissioning] > [Transfer]を選択します。
14. [Enable Transfer]オプションを選択解除して、HMIデバイスを未許可の転送から保護します。

結果

プロジェクトがHMIデバイスに配置され、開始可能です。転送後、[オフライン]モードで操作エレメントおよび画面変更をテストします。すべての操作エレメントおよび画面変更が正常に機能する場合、HMIデバイスを[オンライン]モードに切り替えることができます。

6.7 バックアップと復元

データバックアップ中、内部メモリのコンテンツが設定PCまたは外部記憶媒体でバックアップに保存します。アラームログおよびプロセス値アーカイブはバックアップには含まれません。これらのアーカイブは、外部記憶媒体に個別に保存されます。必要に応じて、これらのログを手動でバックアップします。HMIデバイスがネットワークに統合されている場合は、ネットワードライブにデータをバックアップすることもできます。以下のデータはバックアップに保存されます。

- オペレーティングシステム
- [コントロールパネル]設定
- インストールされているアプリ
- SIMATIC Edgeデータ
- プロジェクトおよびパラメータセット
- ユーザー管理

バックアップには複数のファイルが含まれます。マスタファイルには、拡張子「.brf」が付きます。追加ファイルの番号は異なります。これらのファイルには、マスタファイルのファイル名に連番(「.0」、「.1」、「.2」など)が拡張子として付きます。

設定PCへのバックアップ

HMIデバイスのデータをバックアップするには、次のステップを実行します。

1. HMIデバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
2. HMIデバイスをX1またはX2インターフェースで設定PCに接続します。可能な場合は、最高帯域幅のX2インターフェースを使用します。
3. HMIデバイスの[コントロールパネル]で、[Network and Internet]を選択します。
データ転送用に選択されたポートが使用されるインターフェース用に有効にされていることを確認します([Activate this port for use])。
4. HMIデバイスのコントロールパネルで、[Service and Commissioning] > [Transfer]を選択します。
5. [Enable transfer]オプションが有効にされていることを確認します。
6. HMIデバイスを使用して設定された設定ソフトウェアを開きます。
7. プロジェクトツリーで、バックアップしたいデータがあるHMIデバイスを選択します。
8. [オンライン] > [HMIデバイスマネンテナンス]メニューで[バックアップ]コマンドを選択します。
9. HMIデバイスへの接続がない場合、接続ダイアログボックスが表示されます。この場合、HMIデバイスの接続設定を入力します。[接続]ボタンをクリックしてから、[作成]をクリックします。
接続が正常に確立されると、[バックアップの完了]ダイアログボックスが、プロジェクトおよびHMIデバイスに関する情報と一緒に表示されます。
10. [バックアップ]ボタンをクリックします。
[SIMATIC ProSave [バックアップ]]ダイアログボックスが表示されます。
11. [データタイプ]の下で、保存すべきHMIデバイスのデータを選択します。

12. [名前を付けて保存]フィールドで、バックアップのファイル名を入力します。

13. [バックアップの開始]をクリックします。

バックアッププロセスを開始します。ProSaveとHMIデバイスの両方で、各バックアップファイルについて進捗状況バーがあるダイアログが表示されます。選択した接続によっては、更新操作に時間がかかります。

注記

データ記憶媒体のバックアップファイルの名前を変更しないでください。

保存されたバックアップファイルの名前を変更すると、これらのバックアップファイルは[復元]機能を使用してHMIデバイスに読み込むことができなくなります。バックアップファイルは使用不能になります。

データ格納媒体のバックアップファイルの名前を変更せずにそのままにしておきます。

注記

一式のバックアップファイルをすべてコピーする

バックアップファイルをコピーする場合、マスタファイル「.brf」とすべての関連バックアップファイル(「.0」、「.1」、「.2」など)も一緒に確実にコピーするようにしてください。

1ファイルでも欠けていると、バックアップを読み込めなくなります。

HMIデバイスのデータ記憶媒体へのバックアップ

設定PCの代替として、HMIデバイスに直接接続されたデータ記憶媒体に、HMIデバイスの[コントロールパネル]経由で、データを保存することもできます(「Backup (ページ 149)」セクションも参照)。

設定PCからの復元

HMIデバイスのデータを復元するには、次のステップを実行します。

1. HMIデバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
2. HMIデバイスをX1またはX2インターフェースで設定PCに接続します。可能な場合は、最高帯域幅のX2インターフェースを使用します。
3. HMIデバイスの[コントロールパネル]で、[Network and Internet]を選択します。データ転送用に選択されたポートが使用されるインターフェース用に有効にされていることを確認します([Activate this port for use])。
4. HMIデバイスのコントロールパネルで、[Service and Commissioning] > [Transfer]を選択します。
5. [Enable transfer]オプションが有効にされていることを確認します。
6. HMIデバイスを使用して設定された設定ソフトウェアを開きます。
7. データツリーで、復元したいデータがあるHMIデバイスを選択します。
8. [オンライン] > [HMIデバイスマネテナンス]メニューで[復元]コマンドを選択します。

9. HMIデバイスへの接続がない場合、接続ダイアログボックスが表示されます。この場合、HMIデバイスの接続設定を入力します。[接続]ボタンをクリックしてから、[読み込み]をクリックします。

接続が正常に確立されると、[復元の完了]ダイアログボックスが、プロジェクトおよびHMIデバイスに関する情報と一緒に表示されます。

10. [復元]ボタンをクリックします。

[SIMATIC ProSave [Restore]]ダイアログが表示されます。

11. [開く...]で、バックアップのパスとファイル名を入力します。

12. [復元の開始]をクリックします。

復元プロセスが開始されます。ProSaveとHMIデバイスの両方で、読み込まれる各バックアップファイルについて、進捗状況バーがあるダイアログが表示されます。選択した接続によっては、更新操作に時間がかかります。

復元プロセス中はHMIデバイスの電源を切らないでください。データソースをHMIデバイスから切断しないでください。

注記

プロセスが中断されたときのシステム動作

復元プロセスが電源故障やデータ接続の中断が原因を完了できない場合、例えば、HMIデバイスは保守モードで起動され、出荷時設定が復元される必要があります。

この場合、「ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 185)」のセクションのステップ6の手順に従ってください。

HMIデバイスのデータ記憶媒体からの復元

設定PCの代替として、HMIデバイスに直接接続されたデータ記憶媒体から、HMIデバイスの[コントロールパネル]経由で、データを復元することもできます(「Restore (ページ 156)」セクションも参照)。

6.8 オペレーティングシステムの更新

6.8.1 概要および重要な注意事項

HMIデバイスのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンは、インストールされているWinCCソフトウェアのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンとの互換性がある必要があります。互換性がない場合、オペレーティングシステムを更新する必要があります。HMIデバイスのオペレーティングシステムがもはや機能しない場合は、HMIデバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。

通知

オペレーティングシステムを更新すると、HMIデバイスのデータが削除されます。

オペレーティングシステムを更新すると、HMIデバイス上のプロジェクト、パラメータセット、およびメッセージバッファの内容が削除されます。

オペレーティングシステムを更新する前に、必要に応じて、HMIデバイスのデータのバックアップを取ります。

オペレーティングシステムを更新する前に[コントロールパネル]で変更した次の設定以外のすべての設定内容は、オペレーティングシステムの更新後にも保持されます。

- 外部インターフェースは再度有効にされます(初期設定)。「Hardware interfaces (ページ 138)」のセクションを参照してください。
- タイムゾーンは初期設定[(UTC) Coordinated Universal Time]にリセットされます。「Date and time (ページ 143)」のセクションを参照してください。
- 接続されているネットワークドライブの認証情報を再度入力する必要があります。「Network drives (ページ 112)」のセクションを参照してください。

オペレーティングシステムを出荷時設定にリセットするとき、HMIデバイスのすべてのデータが削除され、[コントロールパネル]のすべての設定が出荷時設定にリセットされます。

通知

自動バックアップとオペレーティングシステムの更新

オペレーティングシステムの更新中に[自動バックアップ]機能が有効にされると、HMIデバイスが正しく再起動されないことがあります。

HMIデバイスのオペレーティングシステムを更新する場合、そして[自動バックアップ]機能を有効にした場合、次の手順に従ってください:

- [自動バックアップ]機能を無効にします。
- オペレーティングシステムを更新します。
- [自動バックアップ]機能を有効にします。

更新前や更新中は、システムメモリカードをHMIデバイスに挿入されたままにします。

オペレーティングシステムは複数のファームウェアファイルに含まれています。マスタファイルには、拡張子「.fwf」が付きます。追加ファイルの番号は異なります。これらのファイルには、マスタファイルのファイル名に連番(「.0」、「.1」、「.2」など)が拡張子として付きます。

Unifiedコンフォートパネルのファームウェアファイルは、インターネット(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109825605>)からダウンロードできます。ダウンロード内容に含まれている取扱説明書に従います。

注記

ファームウェアファイルの名前を変更しないでください。

ファームウェアファイルの名前を変更すると、オペレーティングシステムをこれらのファームウェアファイルを使用して更新できなくなります。ファームウェアファイルは使用不能になります。ファームウェアファイルの名前を変更しないでおきます。

注記

ファームウェアファイルを完全にコピーする

ファームウェアファイルをコピーする場合、マスタファイル「.fwf」とすべての関連ファームウェアファイル(「.0」、「.1」、「.2」など)も一緒に確実にコピーするようにしてください。

ファイルが欠けていると、オペレーティングシステムを読み込めなくなります。

HMIデバイスの[コントロールパネル]へのアクセスが可能な場合は、オペレーティングシステムの更新またはHMIデバイスの出荷時設定の復元に関する次のオプションがあります。

- WinCCによるオペレーティングシステムの更新 (ページ 183)
- 外部記憶媒体経由のオペレーティングシステムの更新 (ページ 146)
- ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 185)

HMIデバイスの[コントロールパネル]へおアクセスが機能しなくなった場合、「メンテナンスマードの使用 (ページ 189)」セクションで説明されている手順に従います。

6.8.2 WinCCによるオペレーティングシステムの更新

HMIデバイスのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンは、インストールされているWinCCソフトウェアのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンとの互換性がある必要があります。互換性がない場合、オペレーティングシステムを更新する必要があります。

通知

データの転送中にHMIデバイスの電源を切らないでください。

HMIデバイスのオペレーティングシステムの更新中にHMIデバイスの電源を切ると、HMIデバイスは起動しなくなります。この手順を繰り返す必要があります。

データの転送中にHMIデバイスの電源を切らないでください。

手順

オペレーティングシステムを更新するには、次のステップを実行します。

1. HMIデバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
2. HMIデバイスをX1またはX2インターフェースで設定PCに接続します。可能な場合は、最高帯域幅のX2インターフェースを使用します。
3. HMIデバイスの[コントロールパネル]で、[Network and Internet]を選択します。
データ転送用に選択されたポートが使用されるインターフェース用に有効にされていることを確認します([Activate this port for use])。
4. HMIデバイスのコントロールパネルで、[Service and Commissioning] > [Transfer]を選択します。
5. [Enable transfer]オプションが有効にされていることを確認します。
6. HMIデバイスを使用して設定された設定ソフトウェアを開きます。
7. プロジェクトツリーで、オペレーティングシステムが更新しようとしているHMIデバイスを選択します。
8. [オンライン] > [HMIデバイスマンテナンス]メニューで[オペレーティングシステムの更新]コマンドを選択します。
9. HMIデバイスへの接続がない場合、接続ダイアログボックスが表示されます。この場合、[Ethernet]インターフェースプロトコルを選択し、対象デバイスのIPアドレスまたは名前を入力し、[接続]ボタン、[更新]の順にクリックします。
接続が正しく確立されると、[オペレーティングシステムの更新]ダイアログボックスが表示されます。
10. [ファームウェアのファイルパス...]に、必要なオペレーティングシステムを含むファームウェアマスタファイル(.fwf)のパスとファイル名を入力します。
11. [OSの更新]をクリックします。

オペレーティングシステムの更新が開始されます。各ファームウェアファイルについて、進捗状況バーがあるダイアログがHMIデバイスに表示されます。選択した接続によっては、更新操作に時間がかかります。

結果

これで、HMIデバイスのオペレーティングシステムが選択したファームウェアのバージョンに更新されました。

下記も参照

概要および重要な注意事項 (ページ 182)

Update OS (ページ 146)

6.8.3 ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット

HMIデバイスのオペレーティングシステムがもはや機能しない場合は、HMIデバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。

ProSaveに関する詳細情報は、TIA Portalヘルプの[プロセスの可視化(RT Unified)] > [コンパイルとロード] > [Unified Panel] > [HMIデバイスのメンテナンス] > [ProSave]で参照できます。

通知

データの転送中にHMIデバイスの電源を切らないでください。

HMIデバイスが出荷時設定にリセットされているときに、HMIデバイスの電源を切ると、HMIデバイスは起動しなくなります。この手順を繰り返す必要があります。

データの転送中にHMIデバイスの電源を切らないでください。

必要条件

- PG/PCインターフェースが適切に設定 (ページ 175) かれていること。

手順

HMIデバイスを出荷時設定にリセットするには、以下のステップを実行します。

- HMIデバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
- HMIデバイスをX2インターフェースにより設定PCに接続します。
- HMIデバイスの[コントロールパネル]で、[Network and Internet]を選択します。
データ転送用に選択されたポートが使用されるインターフェース用に有効にされていることを確認します([Activate this port for use])。
- HMIデバイスのコントロールパネルで、[System Properties] > [Reboot]を選択します。
- [Reboot in maintenance mode]ボタンを押します。HMIデバイスが起動します。
[Maintenance Mode]ダイアログボックスが10分間表示されます。この期間中、HMIデバイスを設定PCに接続し、ProSaveソフトウェアを使用してHMIデバイスを出荷時設定にリセットできます。[Maintenance Mode]ダイアログが表示されない場合は、[メンテナンス]ボタンを押しながらHMIデバイスを起動してください。「メンテナスマードの使用 (ページ 189)」のセクションを参照してください。
- 設定PCで、WinCCインストールディレクトリにある「ProSave」ソフトウェアを開きます。
- 次のデータを[全般]タブに入力します。
 - [装置タイプ]:お使いのHMIデバイスのデバイスタイプを選択します。
 - [接続]:[Ethernet]を選択します。
 - [接続パラメータ]:HMIデバイスのIPアドレスまたはコンピュータ名を指定します。IPアドレスは設定PCのサブネットにあります。

6.8 オペレーティングシステムの更新

8. 次のデータを[OS更新]タブに入力します。
 - [開く...]で、必要なオペレーティングシステムを含むファームウェアマスタファイル(.fwf)のパスとファイル名を選択します。
 - オプション[出荷時設定へのリセット]を選択します。
 - [MAC]に、HMIデバイスのディスプレイの右上に表示されているMACアドレスを入力します。
 - [デバイスのステータス]ボタンを使ってデバイスおよび選択したファームウェアに関する情報を表示します。
9. [OSの更新]をクリックします。HMIデバイスのすべてのデータが上書きされるという警告を含むダイアログボックスが表示されます。
10. ダイアログボックスを確認します。
[出荷時設定へのリセット]でのオペレーティングシステムの更新が開始されます。ProSaveとHMIデバイスの両方で、更新の進捗状況が表示されます。選択した接続によっては、更新操作に時間がかかります。このプロセスの最後にHMIデバイスが再起動されます。

結果

これで、HMIデバイスのオペレーティングシステムが選択したファームウェアのバージョンに更新され、HMIデバイスは工場出荷設定にリセットされました。

下記も参照

概要および重要な注意事項 (ページ 182)

装置の保守と修理

7.1 保守とサービスに関する一般情報

アース回路または過電圧保護の構成部分など、保護継電装置の保守と修理を行う際は、次の内容に従ってください。

- ・メーカーが指定したメンテナンスと交換の期間を順守してください。
- ・外部ケーブル、ヒューズ、バッテリを含むプラント構成部品を、各メーカーが承認している同等の構成部品で交換してください。

7.2 デバイスの清掃

HMIデバイスは、わずかな保守で動作するように設計されています。

HMIデバイスが適切に取り付けられている場合、通常はHMIデバイスの前面を清掃するだけで十分です。

注記

デバイスの背面の清掃

デバイスを正しく取り付けた後にデバイスの背面を清掃する必要がある場合は、次の手順に従ってください。

- ・デバイスの背面を清掃するには、HMIデバイスが組み込まれている筐体またはキャビネットを開く必要があります。筐体またはキャビネットは、次の要件が満たされている場合にのみ開くことができます。
 - HMIデバイスを危険区域で使用する場合は、爆発の可能性のある雰囲気が存在しないことを確認してください。
 - 制御キャビネットを開く前に、電源から外してください。電気システム内および電気システム上で作業する場合は、5つの安全規則を守ってください。
- ・デバイスの背面を清掃するには、乾いたESDクリーニングクロスを使用してください。
- ・ESD保護対策を守ってください。

7.2.1 HMIデバイスの前面ガラスの清掃

[コントロールパネル]のガラス前面を定期的に清掃してください。

化学耐性 (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/39718396>)に関する情報に従います。

重要な注意事項

注記

掃除中に意図しない反応を回避すること

電源が入った状態で前面ガラスを掃除すると、タッチスクリーンの不注意な操作が発生する場合があります。

清掃するときは、HMIデバイスのスイッチをオフにするか、可能な場合はスクリーン清掃機能を有効にします。

注記

前面に対する損傷を回避

圧縮空気やスチームジェット、および腐食性の溶剤または研磨剤を使用すると、前面ガラスが損傷する場合があります。

圧縮空気やスチームクリーナーで前面ガラスを掃除しないでください。腐食性の溶剤や精練剤は、使用しないでください。

必要条件

- HMIデバイスは、これらの操作手順に従って正しくインストールされています。
- 湿った清掃布
- 食器洗剤または発泡性のスクリーン清掃剤

手順

以下のように実行します。

1. スクリーン清掃が設定されている場合は、それを有効にするか、プロジェクトを停止してHMIデバイスの電源をオフにします。
スクリーン清掃が設定されていない場合は、プロジェクトを停止し、HMIデバイスの電源をオフにします。
2. 洗浄剤を清掃布にスプレーします。
HMIデバイスに直接吹き付けないでください。
3. 前面ガラスを清掃します。
前面ガラスを清掃するときは、内側から外側にかけて拭いてください。

7.2.2 スクリーン清掃に関する注意事項

電源が投入されており、プロジェクトが実行されていても、HMIデバイスのタッチスクリーンを清掃できます。クリーン清掃を呼び出すために使用できる操作エレメントがプロジェクト内で使用可能である必要があります。スクリーン清掃を有効にすると、設定された時間の間、タッチスクリーンの操作がロックされます。

注記

意図しない反応

タッチスクリーンを清掃する際にキーにタッチしてしまうことによって、コントローラの意図しない反応を引き起こすことがあります。

システムの稼動中は、タッチスクリーンを清掃する前に、必ずスクリーン清掃を開くか、HMIデバイスの電源を切ります。

注記

スクリーン清掃が有効な間は操作できません。

スクリーン清掃が作動していると、HMIデバイスに対する操作はできません。

スクリーン清掃の時間が過ぎるまでお待ちください。その後、HMIデバイスを使ってシステムを再度操作できるようになります。

7.3 メンテナンスモードの使用

メンテナンスモードは、HMIを出荷時設定にリセットするのに使用します。

HMIデバイスの電源を入れた後にオペレーティングシステムが起動し、コントロールパネルが表示されたとき、[Reboot in maintenance mode]ボタンをクリックすると、HMIデバイスをメンテナンスモードで起動できます。「ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 185)」セクションの説明に従います。

ブートスプラッシュ画面でHMIを起動し、破損したオペレーティングシステムが検出されると、HMIは自動的にメンテナンスモードに切り替わります。[Maintenance Mode]ダイアログボックスが表示されます。この場合、「ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 185)」のセクションのステップ6の手順に従ってください。

ブートスプラッシュ画面でHMIデバイスを起動、破損したオペレーティングシステムが検出されないと、HMIデバイスはメンテナンスモードに切り替わりません。

[Maintenance Mode]ダイアログは表示されません。HMIデバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。この場合、このセクションで説明したとおり、[メンテナンス]ボタンを押しながらHMIデバイスを起動します。

通知

オペレーティングシステムはメンテナンスモードで更新する必要があります。

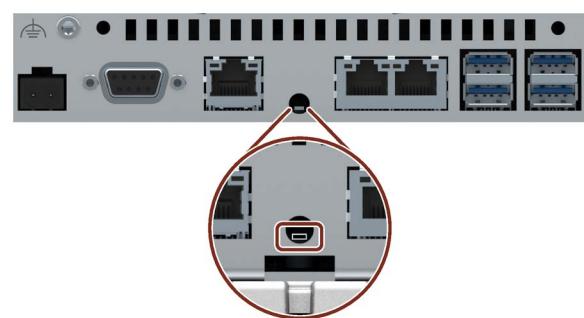
[メンテナンス]ボタンを押しながらHMIデバイスを起動すると、HMIデバイスはメンテナンスモードになります。メンテナンスモードで、[Maintenance Mode]ダイアログが表示されます。オペレーティングシステムを更新する必要があります。

オペレーティングシステムを確実に更新する場合のみ、[メンテナンス]ボタンを押しながらHMIデバイスを起動してください。

手順

以下のように実行します。

1. HMIデバイスの電源を切ります。
2. [メンテナンス]ボタンを押します。直径約5 mmの十分に硬く、鋭利ではない非導電性素材のツールを使用します。



ボタンは正確に押し、ツールがボタンからスライドして外れないようにしてください。

3. HMIデバイスの電源を入れ、ブートスプラッシュ画面が表示されるまで[メンテナンス]ボタンを押し続けます。

HMIデバイスが再起動し、[Maintenance Mode]ダイアログボックスが表示されます。

HMIデバイスを設定PCに接続し、ProSaveソフトウェアを使ってHMIデバイスを出荷時設定にリセットします。「ProSaveによるHMIデバイスの出荷時設定へのリセット（ページ 185）」のセクションのステップ6の手順に従ってください。

7.4 ブートローダーの更新

ブートローダーは、オペレーティングシステムを起動するのに使用され、HMIデバイスの電源投入時に自動的に起動します。オペレーティングシステムがロードされると、コントロールパネルが開きます。必要に応じて、Siemensの担当者と相談してブートローダーを更新できます。

ブートローダーの更新が必要な理由としては、次のことが考えられます。

- セキュリティの改善:ブートローダーの更新により、セキュリティのギャップが解消され、サイバー脅威からシステムをより適切に保護できるようになります。
- 使いやすさの向上:ブートローダーの更新には、特定の既知の問題に対する修正が含まれている場合があります。
- 高度な機能範囲:ブートローダーの更新には、システムパフォーマンスを向上させるための最適化や追加機能が含まれる場合があります。

通知

ブートローダーの更新は、要求されたときのみ、指示に従って実行してください。

ブートローダーの更新に関連するエラーにより、HMIデバイスが動作を停止する可能性があります。

次の注記に従ってください。

- シーメンスの担当者から依頼があった場合にのみ更新を実行してください。
- ブートローダーの更新に付属するReadmeファイルの指示に従ってください。

利用可能なブートローダーの更新と更新手順が記載されたそれぞれのreadmeファイルは、インターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109973587>) からダウンロードできます。

7.5 スペアパーツと修理

修理

担当のSiemens代理店 (<https://www.siemens.com/aspa>)にお問い合わせください。専門知識、製品、地域によりフィルタリングしてください。

お客様の担当者は、製品が修理可能か、そしてどのように返却するのかを教えてくれます。

製品を返却する前に担当のSiemens代理店に連絡してください。優先順位つきの修理の取り扱い、コストの見積り、修理レポート、検査レポートをいつリクエストするかが含まれます。

担当のSiemens代理店は、スペア部品がある場合はそれに関する情報も提供できます。

スペア部品

HMIデバイスのスペア部品と付属品は、「付属品 (ページ 17)」のセクションで確認できます。

7.6 リサイクルと廃棄処分

この操作説明書で説明されているHMIデバイスに含まれる汚染物質は微量であるため、デバイスをリサイクル利用できます。

環境上持続可能である旧型機のリサイクルや処分については、承認された電子機器スクラップ廃棄物処理センタにお問合せください。デバイスの廃棄はお客様の国の関連規則に従って行ってください。

技術情報

8.1 ソフトウェア使用許諾契約

オープンソースソフトウェア

提供された「Open Source Software License Conditions」データメディアのオープンソースソフトウェアのソフトウェア使用許諾契約書を順守してください。

8.2 マークと承認

注記

銘板上の承認事項

次の概要に、対象となる承認事項を示します。

銘板に指定されている承認のみがデバイスに適用されます。



デバイスは、以下のEU指令の一般必要条件と安全関連の必要条件に対応しています。また、欧州連合の公報で公開され、EU適合宣言書で確認された対応統一欧洲標準(EN)にも準拠しています。

- 2014/30/EU 「電磁環境両立性指令」 (EMC指令)
- 2011/65/EU 「電気電子機器中の特定有害物質の使用の制限に関する2011年6月8日付
欧洲議会および理事会指令」 (RoHS指令)

デバイスにEx承認がある場合、以下が適用されます。

- 2014/34/EU 「爆発的雰囲気での
使用を目的とした機器および保護システム」 (防爆指令)

EU適合性宣言

EU適合性宣言は、次の住所の関係当局から入手できます。

Siemens Aktiengesellschaft

DI FA

Gleiwitzer Straße 555

DE-90475 Nürnberg

次のアドレスで、キーワード「適合性宣言」を使用して、インターネットでこれらをダウンロードすることもできます: Unified Comfort Panels認証
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26033/cert>)

UKCAマーキング



本デバイスは、次の規制と関連の修正事項の一般的かつ安全に関する要件を満たし、英国政府の公式な統合リストで公開された指定済みの英国規格(BS)に準拠しています。

- 電磁環境適合性規制2016 (EMC)
 - 電気・電子機器における特定有害物質の使用制限に関する規制2012 (RoHS)
- デバイスにEx承認がある場合、以下が適用されます。
- 爆発的雰囲気での使用を目的とした機器および保護システム2016 (爆発保護)

UK適合性宣言

UK適合性宣言は、次の住所の関係当局から入手できます:

Siemens plc
Princess Road
Manchester
M20 2UR
United Kingdom

次のアドレスで、キーワード「適合性宣言」を使用して、インターネットでこれらをダウンロードすることもできます: Unified Comfort Panels認証
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26033/cert>)

UL承認



次の注記に従ってください。

- The device shall be supplied from an isolating source.
- Only for use in LAN, not for connection to telecommunication circuits.

Underwriters Laboratories Inc. (E116536) in accordance with

- UL 61010-1 and UL 61010-2-201
- CAN/CSA C22.2 No. 61010-1 and 61010-2-201

or

Underwriters Laboratories Inc. (E222109) in accordance with

- UL 61010-1 and UL 61010-2-201
- CAN/CSA C22.2 No. 61010-1 and 61010-2-201
- UL 121201 (Hazardous Location)
- CAN/CSA C22.2 No. 213 (Hazardous Location)

Approved for use in

- Class I, II, III, Division 2, Group A, B, C, D, F, G; T4
- Class I, Zone 2, Group IIC T4
- Zone 22, Group IIIA, IIIB, T135°C
- non-hazardous locations

FM承認



Factory Mutual Research (FM) in accordance with

- Approval Standard Class number 3611, 3600, 3810
- ANSI/ISA 61010-1
- ANSI/UL 121201 (Hazardous Location)
- ANSI/NEMA 250
- CAN/CSA C22.2 No. 213 (Hazardous Location)
- CAN/CSA C22.2 No. 61010-1

pproved for use in

- Class I, II, III, Division 2, Group A, B, C, D, F, G; T4
- Class I, Zone 2, Group IIC T4
- Zone 22, Group IIIA, IIIB, T135°C

危険区域での使用に関する設置手順

注記

ULおよびFM承認に準拠した危険区域での使用に関する規範的な要件により、次の警告は英語とフランス語で表示されます。

WARNING – Explosion hazard. Do not disconnect while circuit is live unless area is known to be non-hazardous. Substitution of components may impair suitability for Class I, Division 2 or Zone 2.

AVERTISSEMENT – Risque d'explosion. Ne pas déconnecter pendant que le circuit est sous tension, sauf si la zone est non-dangereuse. Le remplacement de composants peut compromettre leur capacité à satisfaire à la Classe I, Division 2 ou Zone 2.

WARNING – Substitution of components may impair suitability for Division 2.

AVERTISSEMENT – La substitution de composants peut nuire à l'adéquation à la Division 2.

WARNING – Do not remove or replace while circuit is live when a flammable or combustible atmosphere is present.

AVERTISSEMENT – Ne pas retirer ou remplacer pendant que le circuit est sous tension lorsqu'une atmosphère inflammable ou combustible est présente.

WARNING – Explosion hazard. Do not disconnect equipment when a flammable or combustible atmosphere is present.

AVERTISSEMENT – Risque d'explosion. Ne débranchez pas l'équipement lorsqu'une atmosphère inflammable ou combustible est présente.

WARNING – Substitution of components may impair suitability of the equipment.

AVERTISSEMENT – La substitution de composants peut nuire à l'adéquation de l'équipement.

CAUTION – To prevent injury, read the manual before use.

ATTENTION – Pour éviter les blessures, lisez le manuel avant utilisation.

WARNING – If the equipment is installed within an ultimate enclosure, the inner service temperature of the enclosure corresponds to the ambient temperature of the module.

AVERTISSEMENT – Si l'équipement est installé dans une enveloppe ultime, la température de service intérieure de l'enveloppe correspond à la température ambiante du module.

WARNING – The equipment is intended to be installed within an enclosure/control cabinet. The inner service temperature of the enclosure/control cabinet corresponds to the ambient temperature of the module. Use cables with a maximum permitted operating temperature of at least 20 °C higher than the maximum ambient temperature.

AVERTISSEMENT – L'équipement est destiné à être installé dans un boîtier/une armoire de commande. L'intérieur la température de service du boîtier/de l'armoire de commande correspond à la température ambiante du module. Utiliser des câbles avec une température de fonctionnement maximale autorisée d'au moins 20 °C supérieure à la température ambiante maximale.

ATEX/UKEX/IECEx承認

危険領域での使用に関する注意事項

HMIデバイスの危険区域での使用については、以下のFAQに従ってください。FAQ 291285 (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/291285>)

デバイスを危険区域で使用するには、デバイスに接続されたすべてのプラグが係留方法で固定されていることを確認してください。「危険領域で使用するケーブルの固定(ページ 55)」のセクションを参照してください。

爆発保護、EU/UK適合性宣言、製品承認、およびその他の認証に関する詳細情報は、インターネットの以下のアドレスから参照できます: Unified Comfort Panels認証 (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26033/cert>)

ATEX/UKEX承認

「Ex」マークの付いたHMIデバイスは、以下の規格にしたがって、次の認証が適用されます。

- 規格:

- EN IEC 60079-0
- EN IEC 60079-7
- EN 60079-31

- 承認:

	II 3 G	Ex ec IIC T4 Gc
	II 3 D	Ex tc IIIC T 70 °C Dc

IECEx承認

「IECEx」マークの付いたHMIデバイスは、以下の規格にしたがって、次の認証が適用されます。

- 規格:

- IEC 60079-0
- IEC 60079-7
- IEC 60079-31

- 承認:

	Ex ec IIC T4 Gc
	Ex tc IIIC T70°C Dc

CCEx承認



「CCC」マークの付いたデバイスは、以下の規格にしたがった次の認証が有効です。

- 規格:
 - GB/T 3836.1 (爆発性雰囲気 - パート1:装置 - 一般要件)
 - GB/T 3836.3 (爆発性雰囲気 - パート3:強化された安全性「e」による装置の保護)
 - GB/T 3836.31 (爆発性雰囲気 - パート31:筐体「t」による装置の粉塵着火防止)
- 承認:
 - Ex ec IIC T4 Gc
 - Ex tc IIIC T70°C Dc

特別な使用条件

- HMIデバイスの前面は少なくともIP65の保護等級を提供します。
HMIデバイスの前面は、少なくともGB 3836.1 for Group IIに準拠したIP54、GB/T 3836.1 for Group IIIAとIIIBに準拠したIP54、GB/T 3836.1 for Group IIICに準拠したIP6Xの保護等級を提供する認定筐体で設置する必要があります。
使用中には周囲条件に合わせた処置を行ってください。
- HMIデバイスを> 7 Jの機械的負荷から、表示領域では> 4 Jの機械的負荷から保護するものとします。
- 帯電を防止するために、筐体の表面は湿った布だけで拭いてください。
- 「Ratings」の設計審査証明書に指定されている筐体内の周囲温度は、デバイスから25 mm離れたところで測定し、監視する必要があります。
- EPL Gcを備えた装置を使用する必要のある領域で使う場合、次の追加の条件が適用されます。
 - 装置は、GB/T 16935.1で定義されている汚染度2以下の領域においてのみ使用される必要があります。
 - 119 Vを超える過渡妨害によって定格電圧を超えないように対策を講じる必要があります。
- デバイスがオプションの15インチ、19インチ、22インチの付属品アダプタフレームと共に使用される場合、次の追加の条件が適用されます:
 - デバイスは、機械的危険のリスクが低くなるように設置する必要があります。

RCM Australia/New Zealand



This product meets the requirements of EN 61000-6-4 Generic standards – Emission standard for industrial environments.

Korea Certificate



This product conforms to Limit Class A for emission of radio interference. This device is not intended to be used in residential areas.

이 기기는 업무용(A급) 전자파 적합기기로서 판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기 바라며 가정 외의 지역에서 사용하는 것을 목적으로 합니다.

EAC (Eurasian Conformity)



EAC (ユーラシア適合性)マークは、ユーラシア経済連合の技術規制(TR)への適合を確認します。

WEEEラベル (欧州連合)



廃棄の手順は、地域の規制およびセクション「リサイクルと廃棄処分 (ページ 192)」を遵守してください。

8.3 認証

海洋承認

このデバイスには次の海洋承認が提供されます。

- ABS (American Bureau of Shipping: アメリカ船級協会)
- BV (Bureau Veritas: フランス船級協会)
- DNV (Det Norske Veritas: ノルウェー船級協会)
- LRS (Lloyds Register of Shipping: 英国ロイズ協会)
- クラスNK (日本海事協会)
- KR (韓国船級協会)
- CCS (中国船級協会)
- RINA (Registro Italiano Navale)

合格後、証明書はインターネット

(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26033/cert>)から参照できます。

8.4 規格と要件

IEC 61010-2-201

この装置は、IEC 61010規格の要件と基準、『測定、制御および実験用電気機器の安全規制』のパート2-201:制御機器の特別要件を満たします。

IEC 61131

HMIデバイスは、次に基づく必要条件および規準に適合しています: IEC 61131-2、『プログラマブルロジックコントローラ』のパート2:「操作リソース要件とテスト」の要件および規準に適合しています。

8.5 電磁環境適合性

このデバイスは、他の指令に加えて、欧洲国内市場のEMC指令の要件を満たしています。

EMC指令に従ったデバイスの設置

EMCに準拠してデバイスを装着し、干渉防止ケーブルを使用することが、干渉電波のない操作を行うための基本です。

これらの操作説明書に加えて次のマニュアルに従っています。

- 無干渉コントローラの設計
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/59193566>)
- Industrial Ethernet/PROFINET – 受動回路網の構成部分
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/84922825>)

パルス型妨害

パルス型妨害に関するモジュールの電磁環境適合性は、次の表のとおりです。デバイスが電気装置の設置に関する仕様と指令に準拠していることが、電磁環境適合性の必要条件になります。

パルス型妨害	テスト法	Test level相当
静電気放電 IEC 61000-4-2に準拠	空中放電:8 kV	3
	接触放電:6 kV (前面)	
	接触放電:4 kV (背面)	2
バースト (高速過渡電圧妨害) IEC 61000-4-4に準拠	2 kV電源ケーブル 1 kV信号ライン、< 30 m	3
	2 kV信号ライン、> 30 m	4
	非対称のカップリング(線路接地): • 1 kV電源ライン、DC電圧	2
高エネルギー単一パルス(サージ)、 IEC 61000-4-5に準拠 カップリングプロセス: 42 Ω、0.5 μF ¹	• 2 kV信号ライン/データケーブル、> 30 m	3
	対称のカップリング(ライン間): • 0.5 kV電源ケーブル、DC電圧	2
	• 1 kV信号ライン、> 30 m	3

¹ 基本的に、上流のローカル電源を介してHMIデバイスを独自の配電システム(またはバッテリ)に接続する必要があります。HMIデバイスを独自の配電システムに直接接続する場合は、過電圧に対する追加の保護措置を講じる必要があります。

8.5 電磁環境適合性

正弦波妨害

正弦波妨害に関するモジュールのEMC特性は、次の表のとおりです。これは、デバイスが、電気的設置に関する仕様と指令に適合するために必要です。

正弦波妨害	テスト値
IEC 61000-4-3に準拠したHF放射(電磁界)	1 kHzでの80%振幅変調 <ul style="list-style-type: none"> 10 V/mまで(80 MHz ~ 1 GHz) 3 V/mまで(1.4 GHz ~ 6 GHz)
IEC 61000-4-6に準拠したケーブルおよびケーブルシードへのHF電流フィード	150 kHz ~ 80 MHzの範囲で、1 kHzの80%振幅変調で10 Vのテスト電圧
IEC 61000-4-8に準拠した磁界強度	50/60 Hz、100 A/m rms

無線妨害の放射

次の表は、以下の距離で測定した、EN 61000-6-4に準拠している電磁界から放射される妨害電波放射を示しています。

放射妨害波(放射された妨害電波)

周波数範囲	測定距離	妨害電波放射
30 MHz ~ 230 MHz	10 m	40 dB (μ V/m)未満、擬似ピーク
230 MHz ~ 1000 MHz	10 m	47 dB (μ V/m)未満、擬似ピーク
1 GHz ~ 3 GHz	3 m	< 76 dB (ピーク時)、< 56 dB (平均)
3 GHz ~ 6 GHz	3 m	< 80 dB (ピーク時)、< 60 dB (平均)

無線妨害電圧の放射

周波数範囲	妨害電波放射
0.150 MHz ~ 0.5 MHz	89 dB未満(疑似ピーク時)、76 dB未満(平均)
0.5 MHz ~ 30 MHz	83 dB未満(疑似ピーク時)、70 dB未満(平均)

参照項目

「使用についての注記事項 (ページ 27)」セクションのEMC情報。

8.6 機械的環境条件

8.6.1 輸送と保管の条件

次の情報は、元のパッケージで輸送および保管されるデバイスで有効な情報です。

条件の種類	許容範囲
製品パッケージ内での自由落下	≤ 0.3 m
IEC 60068-2-6に準拠した振動	5 ~ 8.4 Hz、偏差3.5 mm 8.4 ~ 500 Hz、加速1 g
IEC 60068-2-27に準拠した衝撃	250 m/s ² 、6 ms、衝撃回数1000回

8.6.2 動作条件

次の情報は、本取扱説明書の使用に従って設置されたデバイスに適用されます。

条件の種類	許容範囲
IEC 60068-2-6に準拠した振動	5 ~ 8.4 Hz、偏差3.5 mm 8.4 ~ 200 Hz、加速1 g
IEC 60068-2-27に準拠した衝撃	150 m/s ² 、11 ms、衝撃回数3回

指定された範囲内の衝撃パルスは、ディスプレイに伝達されますが、デバイスの機能には影響は与えません。

8.7 周囲の気候条件

8.7.1 輸送と保管の条件

次の情報は、元のパッケージおよび防水パッケージで輸送され、ある期間保管されるデバイスに適用されます。

条件の種類	許容範囲
温度	-20 ~ 60 °C
大気圧	1140 ~ 660 hPa、対応高度-1000 m ~ 3500 m
相対湿度	10 ~ 90%
汚染濃度	ANSI/ISA-71.04-2013 severity level G3に準拠

注記

結露が発生した場合、HMIデバイスが完全に乾くまで待ってから電源を入れます。

ヒーターの直射熱にHMIデバイスを露出しないでください。

8.7.2 動作条件

次の情報は、本取扱説明書の使用に従って設置されたデバイスに適用されます。

HMIデバイスは、耐候性があり、据え置きでの使用を目的としています。

条件の種類	取り付け位置	MTP700-1500	MTP1900-2200
温度、 横フォーマット取り付け	垂直	0 ~ 50 °C	0 ~ 45 °C
	傾斜、最大傾斜35°	0 ~ 40 °C	
温度、 縦フォーマット取り付け	垂直	0 ~ 40 °C	
	傾斜、最大傾斜35°	0 ~ 35 °C	
空気圧 ¹ 、運転高度	1140 ~ 795 hPa、対応高度-1000 m ~ 2000 m		
相対湿度	10 ~ 90 %、デバイスの背面で結露なし		
汚染濃度	ANSI/ISA-71.04-2013 severity level G3に準拠		

¹ 筐体/制御キャビネットの内部と外部の圧力差は許容されません。

「使用上の注意 (ページ 27)」と「許容取り付け位置 (ページ 31)」のセクションを参照してください。

また、次のセクションの気候ダイアグラムを順守してください。

注記

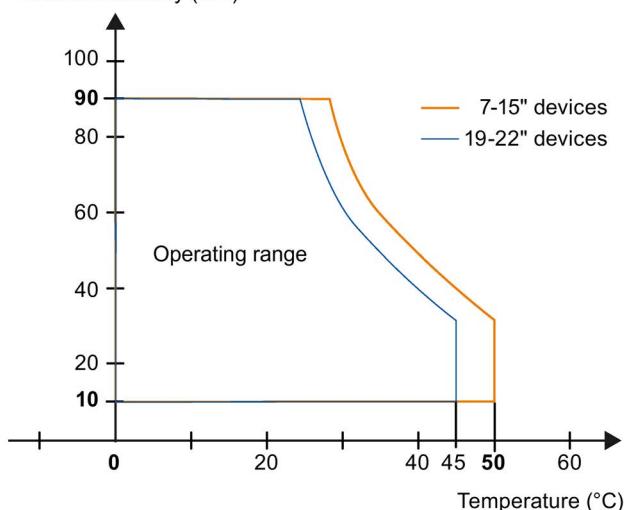
HMIデバイスに接続されたシステムコンポーネント、例えば電源についても、それぞれの動作条件に適していなければなりません。

8.7.3 天候図

以下の図は、連続動作時の温度と湿度の範囲を示します。

この情報は、傾斜なしの横フォーマットで設置されているデバイスに適用されます。

Relative Humidity (%H)



8.8 絶縁テスト、保護クラス、および保護等級に関する情報

絶縁テスト

絶縁強度は、IEC 61010-2-201に準拠して、以下のテスト電圧を使ったタイプテストで実証します。

回路	絶縁テスト済み(タイプテスト)
定格電圧 U_e 24 V	他の回路/接地への707 V DC
Ethernetコネクタ	2250 V DC

汚染レベル

デバイスはIEC 61010-2-201に準拠して次の要件を満たす必要があります:

デバイス側	汚染レベル
前面	3
背面	2

過電圧カテゴリ

IEC 61010-2-201に準拠した過電圧カテゴリII。

保護クラス

IEC 61010-2-201に準拠した保護クラスIII。

異物や水からの保護

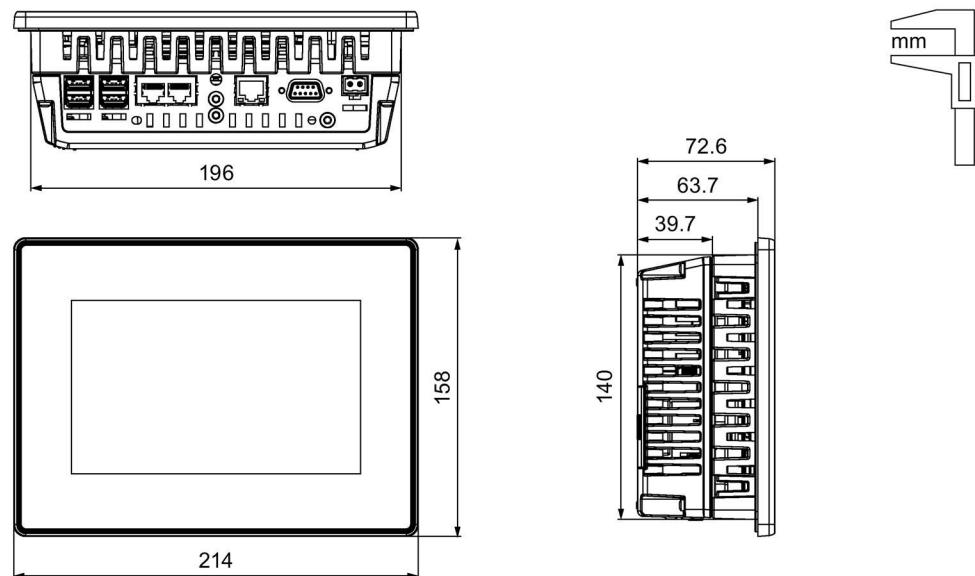
このデバイスは、IEC 60529およびUL50Eに準拠する要件を満たしています。

デバイス側	保護等級
前面	取り付け状態: • IEC 60529に準拠したIP65 • UL50Eに準拠したType 4X/12 (indoor use only, front face only)
背面	IP20 標準テストプローブとの接触に対する保護。水、ホコリ、有害ガスの侵入に対する保護はありません。

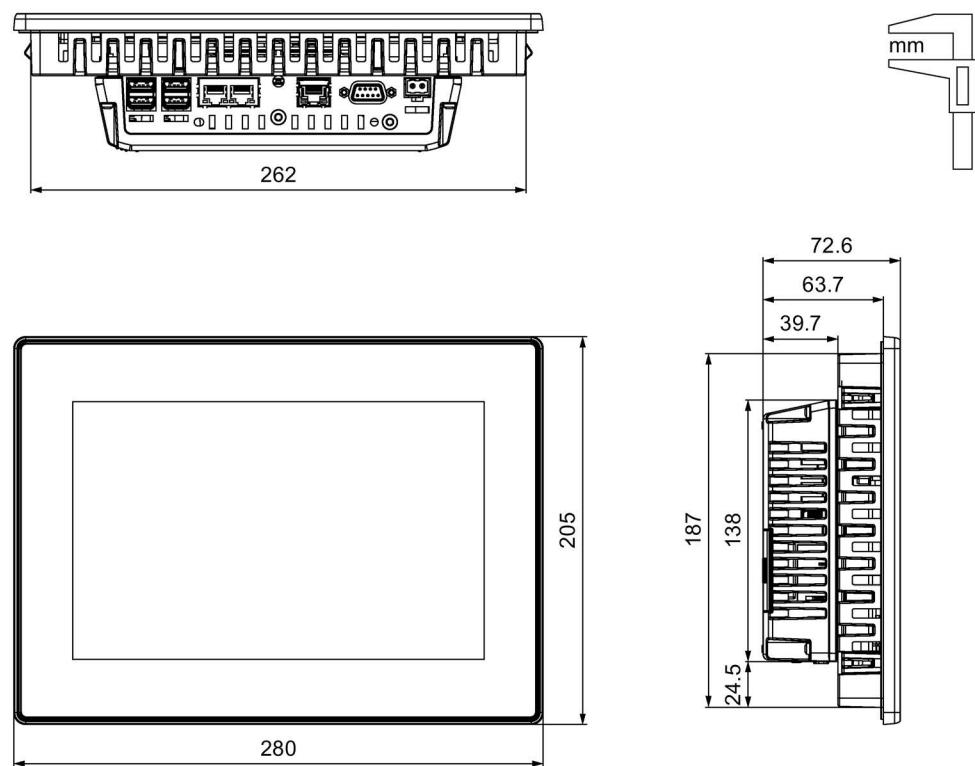
前面の保護等級は、取り付けシールが取り付けカットアウトと同一面に取り付けられている場合に限り、保証されます。「取り付けカットアウトの準備 (ページ 34)」のセクションの対応する情報を順守してください。

8.9 寸法図

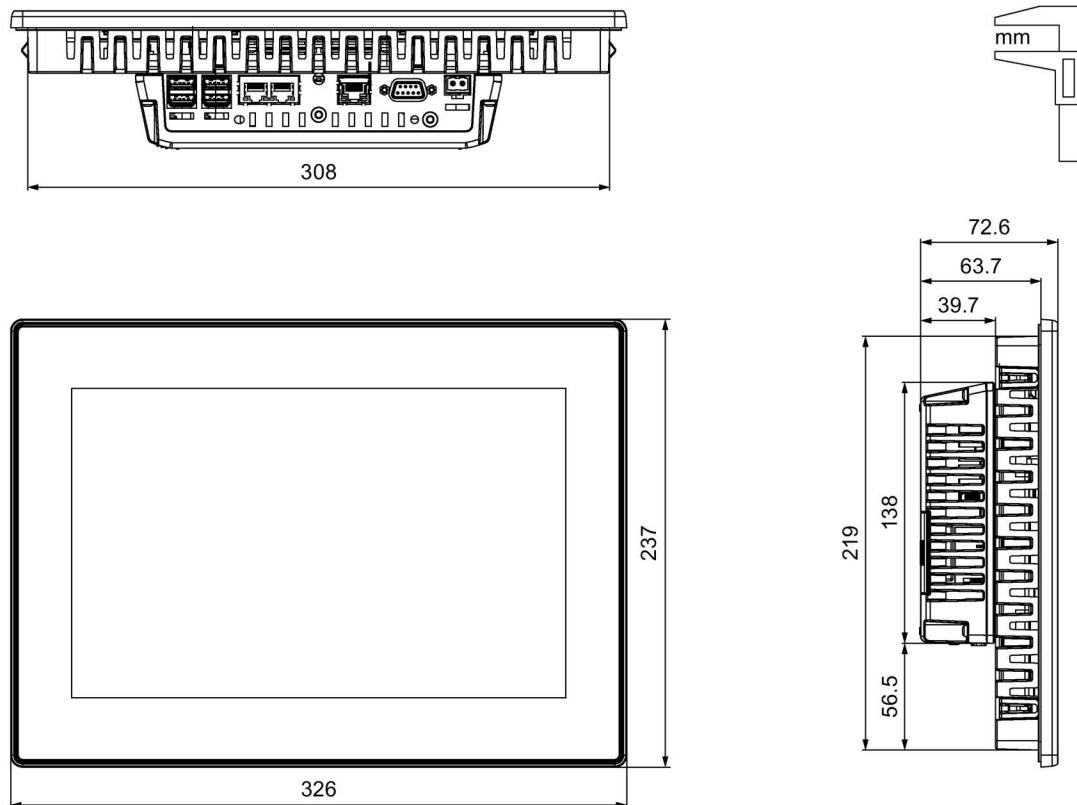
8.9.1 MTP700 Unified Comfortの寸法図



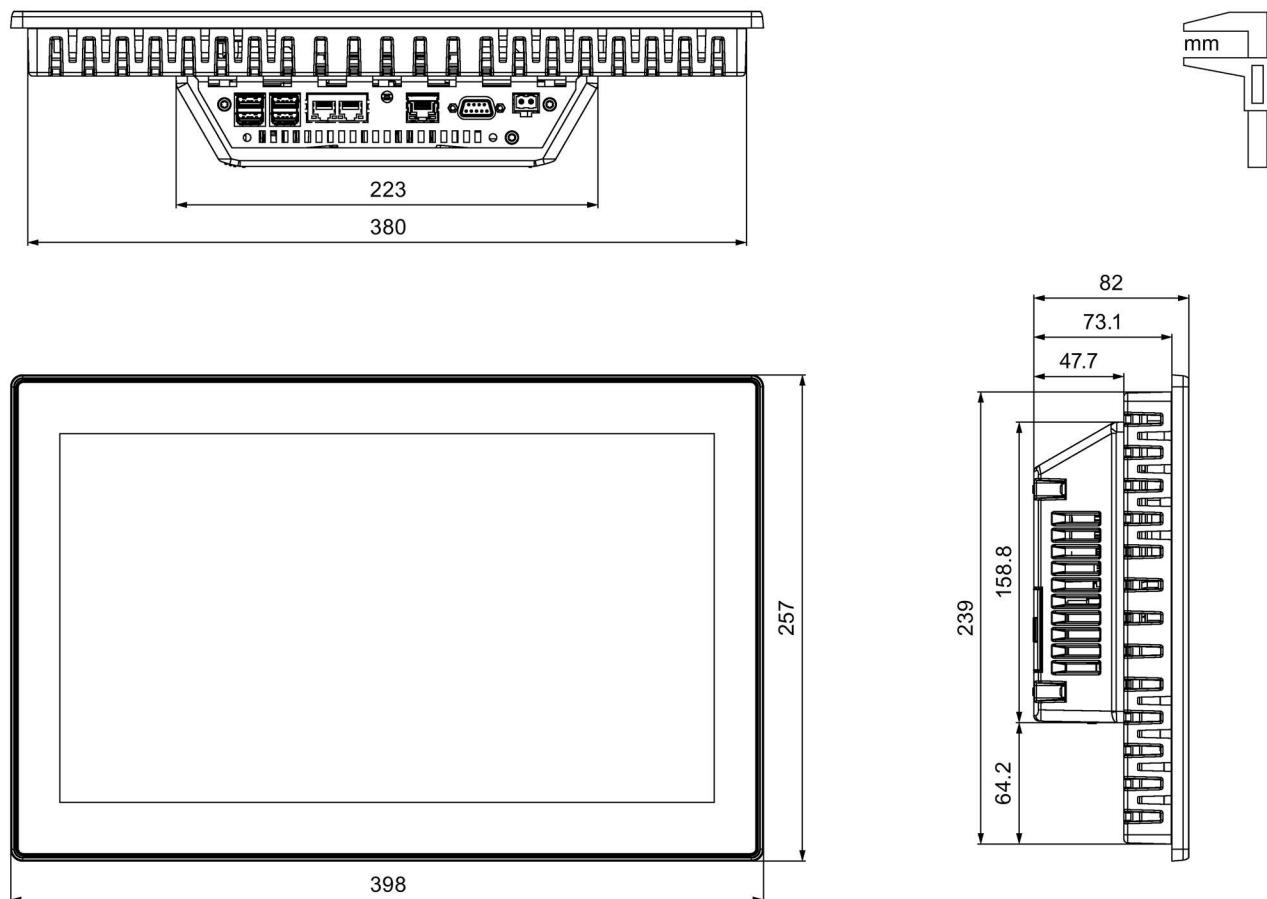
8.9.2 MTP1000 Unified Comfortの寸法図



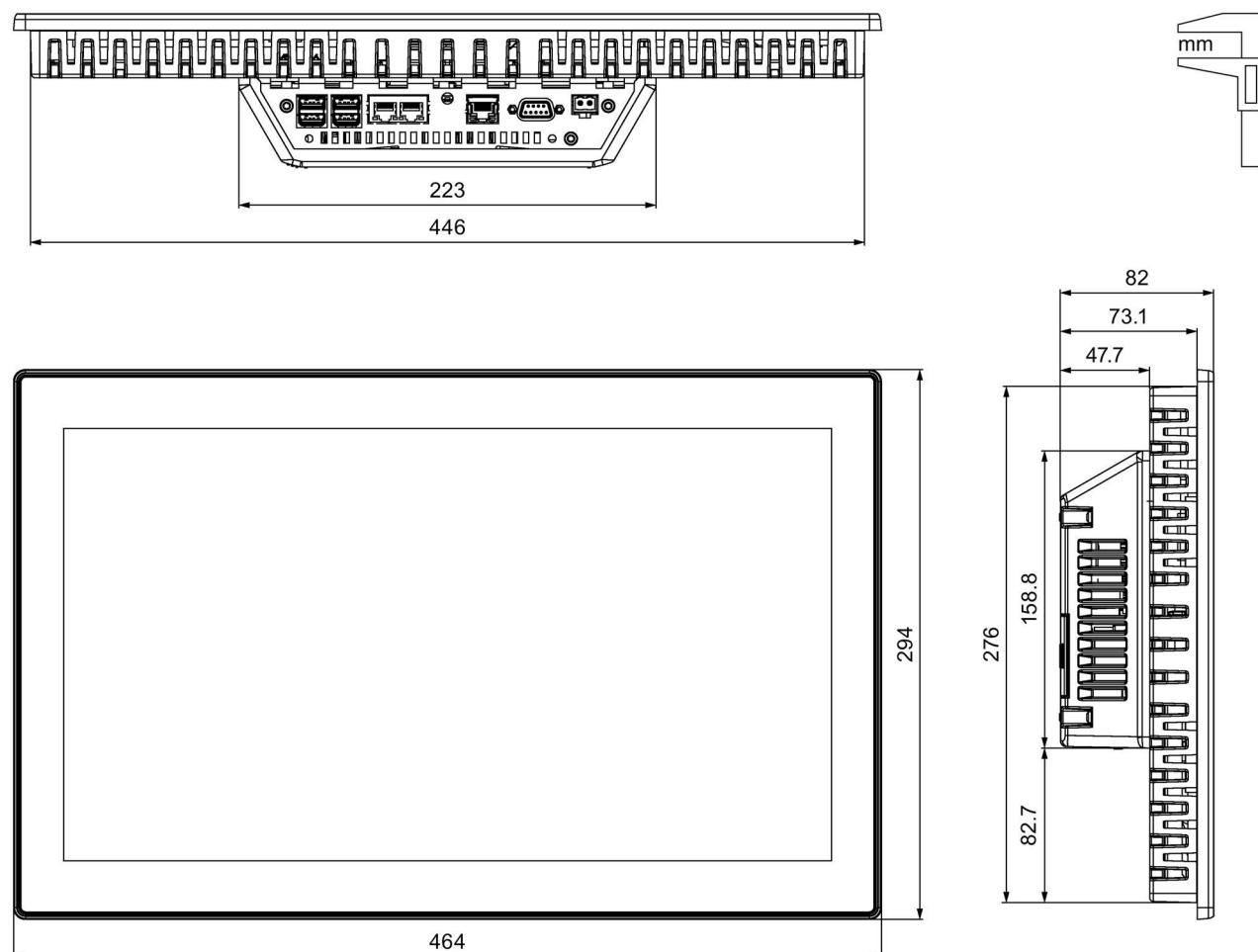
8.9.3 MTP1200 Unified Comfortの寸法図



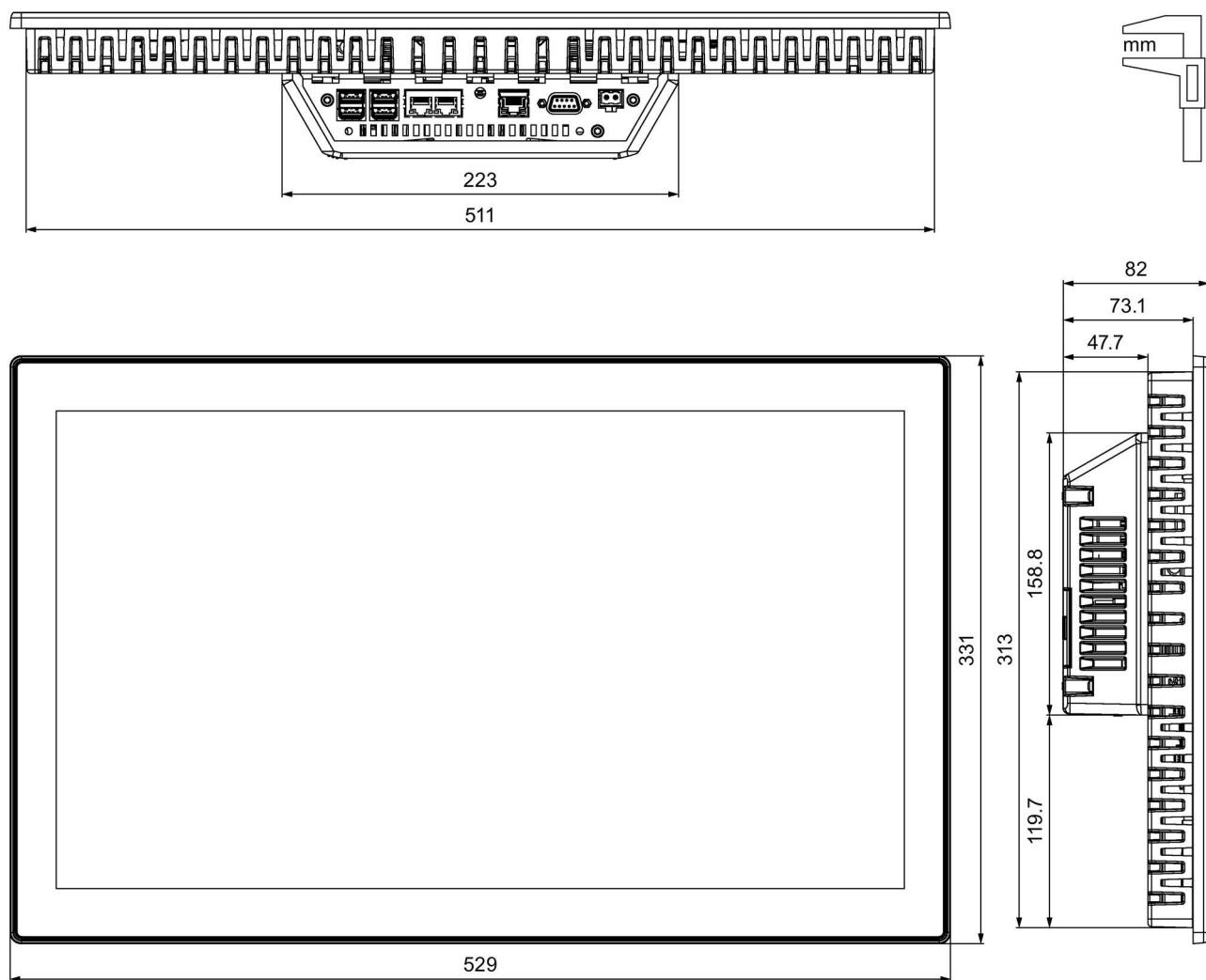
8.9.4 MTP1500 Unified Comfortの寸法図



8.9.5 MTP1900 Unified Comfortの寸法図



8.9.6 MTP2200 Unified Comfortの寸法図



8.10 技術仕様

8.10.1 MTP700、MTP1000、MTP1200 Unified Comfort

重量

Unified Comfort HMIデバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
梱包部分を含まない重量	1.4 kg	2.1 kg	2.8 kg

ディスプレイ

Unified Comfort HMIデバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
タイプ	LCD TFT		
ディスプレイサイズ	7.0インチ	10.1インチ	12.1インチ
有効表示エリア	152 x 91 mm	217 x 136 mm	261 x 163 mm
解像度/ピクセル	800 x 480	1280 x 800	
表示可能な色	最高1670万		
コントロールパネルによる輝度の制御、値の範囲	10 ~ 100%		
WinCCによる輝度の制御、値の範囲	0 ~ 100%、 10%未満の値は10%に設定		
バックライト	LED		
半輝度寿命(MTBF ¹)	50000時間		
ISO 9241-307に準拠したピクセルエラークラス	I		

¹ MTBF:最大輝度が元の値の半分に減少するまでの動作時間。例えば、スクリーンセイバーによる時間コントロールやPROFIenergyによる集中管理などの統合的調光機能を使用するとMTBFは長くなります。

入力デバイス

Unified Comfort HMIデバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
マルチタッチスクリーン(容量性)	はい		

メモリ

Unified Comfort HMIデバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
ランダムアクセスメモリ	4 GB LPDDR4-SDRAM		
内部フラッシュメモリ	32 GB eMMC pSLC		
アプリケーションデータに使用可能なメモリ	1 GB RAM、2 GB フラッシュメモリ		
インターネットパラメータセットメモリ ¹	12 MB		
データメモリカードカードおよびシステムメモリカード ²	2 x SD/SDHC/SDXCコンビネーションスロット		

¹ スロットX51のメモリーカードまたはインターフェースX61またはX62のUSBフラッシュドライブにより拡張可能

² メモリーカードは、SIMATIC HMI付属品として入手可能

インターフェース

Unified Comfort HMIデバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
RS 422/485		1 x SUB-D	
PROFINET (LAN)		2 x RJ45 10/100 Mbps ¹	
		1 x RJ45 10/100/1000 Mbps	
USB 3.1 Gen 1 (タイプA)		4 x ホスト ²	

¹ 内蔵スイッチを使用(IPアドレスは1つのみ)

² USBタイプA、インターフェースごとの最大負荷:900 mA、すべてのインターフェースの最大総負荷:1.2 A

電源

Unified Comfort HMIデバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
定格電圧	24 V DC		
許容電圧範囲	+19.2 V ~ +28.8 V		
主電源および電圧バッファリング時間	20 ms、IEC 61131-2に準拠したPS2に対応		
24 V DCでの定格電流、負荷なし	0.45 A	0.5 A	0.6 A
定格電流(最小～最大)、負荷により異なる	0.45 ~ 1.0 A	0.52 ~ 1.1 A	0.6 ~ 1.3 A
電力消費、負荷なし ¹	10.8 W	12.5 W	14.5 W
突入電流 ² t	0.5 A ² s		
最大許容過渡電圧	35 V (500 ms)		
2つの過渡電圧間の最短時間	50秒		
内部保護	はい		

¹ 電力損失は、通常、電力消費の指定値に対応しています。

電流および電力の仕様は、アプリによる高い永久プロセッサの負荷がない状態で適用されます。

その他

Unified Comfort HMIデバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
バッファ付きリアルタイムクロック ¹		はい	

¹ バッファリング期間は通常6週間

8.10.2 MTP1500、MTP1900、MTP2200 Unified Comfort

重量

Unified Comfort HMIデバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
梱包部分を含まない重量	4.3 kg	5.5 kg	6.9 kg

ディスプレイ

Unified Comfort HMIデバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
タイプ	LCD TFT		
ディスプレイサイズ	15.6インチ	18.5インチ	21.5インチ
有効表示エリア	344 x 193 mm	409 x 230 mm	476 x 268 mm
解像度/ピクセル	1366 x 768	1920 x 1080	
表示可能な色	最高1670万		
コントロールパネルによる輝度の制御、値の範囲	10 ~ 100%		
WinCCによる輝度の制御、値の範囲	0 ~ 100%、10%を下回る値は10%に設定されます		
バックライト	LED		
半輝度寿命(MTBF ¹)	50000時間	30000時間	
ISO 9241-307に準拠したピクセルエラークラス	I		

¹ MTBF:最大輝度が元の値の半分に減少するまでの動作時間。例えば、スクリーンセイバーによる時間コントロールやPROFlenergyによる集中管理などの統合的調光機能を使用するとMTBFは長くなります。

入力デバイス

Unified Comfort HMIデバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
マルチタッチスクリーン(容量性)	はい		

メモリ

Unified Comfort HMIデバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
ランダムアクセスメモリ	4 GB LPDDR4-SDRAM		
内部フラッシュメモリ	32 GB eMMC pSLC		
アプリケーションデータに使用可能なメモリ	1 GB RAM、2 GB フラッシュメモリ		
インターネットパラメータセットメモリ ¹	12 MB		
データメモリカードカードおよびシステムメモリカード ²	2 x SD/SDHC/SDXCコンビネーションスロット		

¹ スロットX51のメモリーカードまたはインターフェースX61またはX62のUSBフラッシュドライブにより拡張可能

² メモリーカードは、SIMATIC HMI付属品として入手可能

インターフェース

Unified Comfort HMIデバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
RS 422/485		1 x SUB-D	
PROFINET (LAN)		2 x RJ45 10/100 Mbps ¹	
		1 x RJ45 10/100/1000 Mbps	
USB 3.1 Gen 1 (タイプA)		4 x ホスト ²	

¹ 内蔵スイッチを使用(IPアドレスは1つのみ)

² USBタイプA、インターフェースごとの最大負荷:900 mA、すべてのインターフェースの最大総負荷:1.2 A

電源

Unified Comfort HMIデバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
定格電圧	24 V DC		
許容電圧範囲	+19.2 V ~ +28.8 V		
主電源および電圧バッファリング時間	20 ms、IEC 61131-2に準拠したPS2に対応		
24 V DCでの定格電流、負荷なし	0.7 A	1.2 A	1.0 A
定格電流(最小～最大)、負荷により異なる	0.7 ~ 1.3 A	1.2 A ~ 1.7 A	1.0 ~ 1.5 A
電力消費、負荷なし ¹	16.8 W	28.8 W	24.0 W
突入電流 ² t	0.5 A ² s		
最大許容過渡電圧	35 V (500 ms)		
2つの過渡電圧間の最短時間	50秒		
内部保護	はい		

¹ 電力損失は、通常、電力消費の指定値に対応しています。

電流および電力の仕様は、アプリによる高い永久プロセッサの負荷がない状態で適用されます。

その他

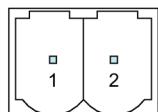
Unified Comfort HMIデバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
バッファ付きリアルタイムクロック ¹		はい	

¹ バッファリング期間は通常6週間

8.11 インターフェースの説明

8.11.1 DC24V X80

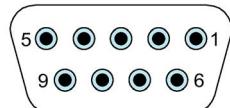
電源24 V DC 2ピン



ピン	意味
1	+24 V DC
2	接地

8.11.2 RS422/485 X20

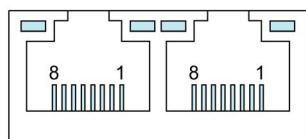
シリアルインターフェース、9ピンsub-Dソケット、メス



ピン	RS422の割り付け	RS485の割り付け
1	NC	NC
2	NC	NC
3	TxD+	データ信号B (+)
4	RxD+	RTS
5	GND 5 V、フローティング	GND 5 V、フローティング
6	+5 VDC、フローティング	+5 VDC、フローティング
7	NC	NC
8	TxD-	データ信号A (-)
9	RxD-	NC

8.11.3 PROFINET (LAN) X1

PROFINET (LAN) 10/100 Mbps、RJ45ソケット



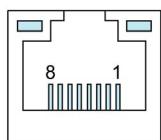
ピン	名称	意味
1	TX+	データ出力+
2	TX-	データ出力-
3	RX+	データ入力+
4	NC	割り付けなし

8.11 インターフェースの説明

ピン	名称	意味
5	NC	割り付けなし
6	Rx-	データ入力-
7	NC	割り付けなし
8	NC	割り付けなし

8.11.4 PROFINET (LAN) X2

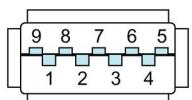
PROFINET (LAN) 10/100/1000 Mbps、RJ45ソケット



ピン	名称	意味
1	D1+	双方向データ1+
2	D1-	双方向データ1-
3	D2+	双方向データ2+
4	D3+	双方向データ3+
5	D3-	双方向データ3-
6	D2-	双方向データ2-
7	D4+	双方向データ4+
8	D4-	双方向データ4-

8.11.5 USB X61/X62/X63/X64

USBタイプA



ピン	名称	意味
1	VBUS	+5 V、ヒューズ付き
2	D-	データチャネルUSB 2.0、双方向
3	D+	データチャネルUSB 2.0、双方向
4	GND	接地
5	RX-	データ入力USB 3.1 Gen. 1
6	RX+	データ入力USB 3.1 Gen. 1
7	GND	接地
8	TX-	データ出力USB 3.1 Gen. 1
9	TX+	データ出力USB 3.1 Gen. 1

8.12 コントローラによる通信

接続数

Unifiedコンフォートパネルは、コントローラへ最大16接続に対応しています。

コントローラ

HMIデバイスでは、次のSIMATICコントローラと通信ドライバがサポートされています。

- SIMATIC S7-1200/1500
- SIMATIC S7-300/400
- OPC UAサーバー
- OPC UAクライアント

下記の追加のコントローラおよび通信デバイスがサポートされています。

- Allen Bradley Ethernet/IP
- Allen-Bradley DF1
- Mitsubishi iQR/iQF
- Mitsubishi MC TCP/IP
- OMRON Ethernet/IP
- 標準的なModbus TCP/IP
- 標準的なModbus RTU
- LOGO!

追加のCSPは、インターネット

(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109739698>)からダウンロードできます。それぞれのダウンロードについては、マニュアルを順守してください。

安全なHMI通信の使用

HMIデバイスは、安全なHMI通信もサポートするコントローラと併用することで、安全なHMI通信をサポートしています。

HMIデバイスがこのようなコントローラに接続されると、TIA Portalでコントローラに設定されている接続メカニズムに関係なく、安全なHMI通信が常に使用されます。

安全なHMI通信に関する詳細情報は、次で参照できます。

- TIA Portalヘルプの[デバイスおよびネットワークの編集] > [デバイスおよびネットワークの設定] > [ネットワークの設定] > [安全な通信]
- TIA Portalヘルプで[安全な通信と証明書(RT Unified)]を検索してください
- S7-1500、ET200通信マニュアル
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/59192925>)

次のセクションは、HMIデバイス上で安全なHMI通信を使用するための最も重要な手順について説明しています。

安全なHMI通信の設定

1. アラームコントロールを使用するHMIデバイスを設定します。

注記

アラームコントロールなしでは、接続を確立するときに、エラーを検出できません。

2. 必要なセキュリティ設定を使用してCPUを設定します。PLC通信証明書を選択してHMI通信を安全にするか、TIA PortalによってPLC通信証明書を生成します。
3. CPUとHMIデバイス間のHMI通信を設定します。
4. プロジェクトをCPUとHMIデバイスに読み込みます。プロジェクトの転送中、PLC通信証明書および(必要な場合は)必須のCA証明書(証明書機関)がCPUおよびHMIデバイスに転送されます。

注記

CPUの設定の更新や読み込みを行う場合は、HMIデバイスを新たにダウンロードする必要があります。

CPUの設定が変更され、コントローラにダウンロードされると、コントローラのPLC通信証明書が更新されます。この場合、HMIデバイスのPLC通信証明書も、新しいプロジェクトのダウンロードにより、更新する必要があります。

PLC通信証明書を信頼する

接続のセットアップ中、CPUはPLC通信証明書をHMIデバイスに転送します。次の状況を識別します。

- HMIデバイスでPLC通信証明書が既に「信頼済み」ステータスになっている場合、CPUとHMIデバイス間の安全なHMI通信が自動的に確立されます。
- HMIデバイスのPLC通信証明書が「信頼済み」ステータスでまだ使用可能になっていない場合、HMIデバイスのアラームコントロールはCPUが信頼されておらず、エラーコードが出されているアラームを示します。
この場合、HMIデバイスでPLC通信証明書を「信頼済み」としてマークする必要があります。

PLC通信証明書を「信頼済み」としてラベル付けするには、次を実行する必要があります。

1. コントロールパネルを開きます。
2. [Security] > [Certificates]を選択します。
3. [Other Certificates]エントリを[Certificate store]ドロップダウンリストから選択します。
4. CPUのPLC通信証明書を[Other certificates]リストから選択します。
5. [Trust]ボタンを押します。
6. HMIランタイムソフトウェアを再起動します。

HMIデバイスでPLC通信証明書が既に「信頼済み」ステータスになっている場合、安全なHMI通信が確立されます。

8.13 WinCCとの機能範囲

パフォーマンス特性

以下のパフォーマンス特性の表は、プロジェクトが使用するHMIデバイスのシステム制限内に収まっているかを評価するのに役立ちます。

指定された最大値は、加算されません。システム限界で稼働するデバイスの設定が正しく機能するという保証はありません。

さらに、画面ごとのオブジェクト数、タグ接続数、サイクル時間とスクリプトなど、画像設定における複雑さが、画像を開く時間やランタイムのパフォーマンスに決定的な影響を及ぼします。

指定された制限に加えて、設定メモリリソースによって課される制約も順守する必要があります。

パフォーマンス機能に関する詳細情報は、TIA Portalヘルプの[可視化プロセス(RT Unified)] > [パフォーマンス機能] > [SIMATIC Unified Comfort Panel]で参照できます。

タグ

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
プロジェクト内のタグ数	8000	
配列ごとのエレメント数	1600	

アラーム

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
アラームクラス数	32	
ディスクリートアラーム数	9000	
アナログアラーム数	300	
アラームの文字長	512	
中断ごとのアラームテキスト数	10	
アラームごとのプロセス値の数	10	
キューにあるアラームイベント数	750	
アラームバッファのサイズ ¹	2000	

¹ 設定されているすべてのアラームクラスのアラームのすべての状態の数に対応し、設定が原因でアラームコントロールに表示されないアラームクラスのアラームも含まれます。

注記

内部メモリの使用に関する注意事項を順守してください

短い時間間隔でアラームバッファに大量のアラームが書き込まれると、内部メモリの寿命、つまりはHMIデバイスの耐用年数が短くなります。

アラームを設定する際には、セクション「メモリコンセプト (ページ 73)」の内部メモリの注意事項に従ってください。

画面

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
画面数	1200	
低レベル画面ウィンドウ数	10	
画面ごとのオブジェクト数	800	1200
画面ごとの「コントロール」領域からのオブジェクト数	40	80
画面ごとのタグ数	600	800

パラメータセット

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
パラメータセットタイプの数	750	
パラメータセットタイプエレメントの数	1000	
パラメータセットの数	2000	
内部フラッシュ内のデータレコード専用メモリ1	12 MB	

¹ スロットX51のメモリーカードまたはインターフェースX61またはX62のUSBフラッシュドライブによる拡張

ログ

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
ログの数	50	
ロギングタグの数、SQLite	5000	
ロギングタグの数、Microsoft SQL	--	

「メモリコンセプト (ページ 73)」のセクションのログの使用に関する注意事項を順守してください。

トレンド

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
トレンド数	600	
トレンド表示ごとのトレンド数	20	
トレンド表示ごとのトレンドエリア数	2	5

テキストリストとグラフィックリスト

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
グラフィックリスト数	750	
テキストリスト数	750	

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
テキストまたはグラフィックリストごとのエントリ数		750
グラフィックオブジェクト数		6000
テキストエレメント数		60000

スクリプト

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
Javaスクリプト数		600
機能リストごとの機能数		25

スケジューラ

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
時間またはイベントによってトリガされたタスク数		70

通信

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
S7接続数		16

言語

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
ランタイム言語数		32

ユーザー管理

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
役割数		50
事前定義された機能権限数		20
ユーザー数		200

プロジェクト

Unified Comfort HMIデバイス	12インチ以下のディスプレイサイズ	15インチ以上のディスプレイサイズ
装置のプロジェクトファイルのサイズ		100 MB未満

A.1 サービスおよびサポート

製品に関する追加情報やサポートはインターネットの次のアドレスにあります:

- 技術サポート (<https://support.industry.siemens.com>)
- サポートリクエストフォーム (<https://www.siemens.com/supportrequest>)
- アフターサービス情報システムSIMATIC IPC/PG (<https://www.siemens.com/asis>)
- SIMATICマニュアルセット (<https://www.siemens.com/simatic-tech-doku-portal>)
- 最寄りの担当代理店 (https://www.automation.siemens.com/aspa_app)
- トレーニングセンター (<https://siemens.com/sitrain>)
- Industry Mall (<https://mall.industry.siemens.com>)
- TIA Selection Tool (<https://www.siemens.com/tia-selection-tool>)

最寄りの担当代理店またはテクニカルサポートにお問い合わせの際は、以下の技術情報をご用意ください:

- デバイスのMLFB
- 産業用PCのBIOSのバージョンまたはデバイスのイメージバージョン
- 他の取り付けられているハードウェア
- 他のインストールされているソフトウェア

ファームウェアとソフトウェア

HMIデバイス用のファームウェアとソフトウェアは、今後も継続的に開発されています。お使いのHMIデバイス用のソフトウェアアップデートやパッチが利用可能かどうかを定期的に確認し、最新バージョンをインストールしてください。

お使いのHMIデバイスの最新のアップデートおよびパッチは、インターネットの次のアドレスを参照してください。

- HMIパネルファームウェア
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109825605>)
- WinCC (TIA Portal)ダウンロード
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/24212/dl>)

現在の文書

製品に対して現在の文書を常に使用できるようにしてください。インターネット (<https://support.industry.siemens.com>)でデバイスの記事番号を入力することにより、本マニュアルの最新版や他の重要な文書を確認できます。必要に応じて、入力タイプ[マニュアル]の入力項目をフィルタします。

A.2 トラブルシューティング

このセクションでは、発生する可能性がある障害の特定および調整の情報を説明しています。

エラーメッセージ	考えられる原因	対処法
[Reset system memory card failed] [Start automatic backup failed]	システムメモリカードに欠陥があるか、誤ったシステムメモリカードが挿入されています。	欠陥があるシステムメモリーカードを新しい32 GB以上のSIMATIC SD memory cardと交換します。
[System card error]	異なるタイプのデバイスのシステムメモリーカードが挿入されています。	システムメモリーカードを同じタイプのデバイスのシステムメモリーカードと交換します。 システムメモリーカードのデータを使用していないデバイスで、システムメモリーカードを使用できます。この場合、[System Card\SIMATIC.HMI\Active] フォルダ内のすべてのデータが削除されます。

A.3 適用例とFAQ

適用例

適用例については、インターネットの次のアドレスで参照できます。
Unifiedコンフォートパネルの適用例
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26032/ae>)。

FAQ

UnifiedコンフォートパネルのFAQは、インターネットの次のアドレスから入手できます: UnifiedコンフォートパネルのFAQ
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26032/faq>)

A.4 システムアラーム

HMIデバイスのシステムアラームには、HMIデバイスおよびコントローラの内部状態に関する情報が表示されます。

注記

システムアラームが表示されるのは、アラームウィンドウが設定されている場合に限ります。システムアラームは、HMIデバイスで現在設定されている言語で出力されます。

システムアラームパラメータ

システムアラームは、トラブルシューティングに関連する暗号化パラメータを含んでいます。これは、ランタイムソフトウェアのソースコードを参照するために役立つためです。これらのパラメータは、[エラーコード]テキストの後に表示されます。

「メモリコンセプト (ページ 73)」のセクションのシステムアラームの設定とアラームバッファの使用の注意事項を順守してください。

システムアラームの説明

HMIデバイスのすべてのシステムイベントリストについては、TIA Portalヘルプを参照してください。

A.5 製造元および輸入業者に関する情報

このドキュメントで説明されているHMIデバイスのメーカーはSiemens Aktiengesellschaftです。

製造元の住所は以下の通りです。

Siemens Aktiengesellschaft
Digital Industries
Postfach 48 48
90026 NÜRNBERG
GERMANY

輸入業者の住所

次の表は、特定の国における輸入業者の住所を示しています。

国	アドレス
英国(UK)	Siemens plc Princess Road Manchester M20 2UR
トルコ	Siemens San. ve Tic. A.Ş. Yakacik Cad. No: 111 34870 Kartal/İstanbul

マークおよびシンボル

B.1 安全関連シンボル

次の表は、マニュアルに記載のシンボルに加えて、SIMATICデバイス、そのパッケージ、または同封のドキュメントに付け加えることのできるシンボルを説明しています。

シンボル	意味	参照
	一般的な危険の表示/注意 操作説明書に従ってください。操作説明書には潜在的な危険の種類に関する情報が含まれており、危険を特定して対策を実施することができます。	ISO 7000 No. 0434B, DIN ISO 7000 No. 0434B
	Ex承認のモジュールにのみ関連する注意	
	指示に従う	ISO 7010 M002
	認定された電気技師のみが設置可能	IEC 60417 No. 6182
	HMIデバイスの機械的負荷	
	接続ケーブルは周囲温度に合わせて設計する	
	EMCに適合した設置	
	電圧がかった状態で、設置しない、着脱しない	
	230Vモジュールの危険な電圧	ANSI Z535.2
	保護クラスIII、保護低電圧 (SELV/PELV) のみを供給	IEC 60417-1-5180の 「クラスIII装置」

マークおよびシンボル

B.1 安全関連シンボル

シンボル	意味	参照
	産業用途および屋内エリアのみ (制御キャビネット)	
	デバイスは制御キャビネットに統合されているか設置されていること	
	最低IP54の制御キャビネット内にEx Zone 2承認デバイスを統合するか設置すること	
	最低IP6xの制御キャビネット内にEx Zone 22承認デバイスを統合するか設置すること	

ANSI	米国規格協会
CA	認証局
CER	インターネットセキュリティ証明書
CPU	中央演算処理装置
CRL	証明書取り消しリスト
CSP	通信サービスパック
CSV	カンマ区切りの値
CTS	送信可
CUPS	Common Unix Printing System
DC	直流
DCD	データキャリア検出
DHCP	動的ホスト設定プロトコル
DIL	デュアルインライン(電子チップハウジングデザイン)
DNS	ドメインネームシステム
DP	分散I/O
DSN	データソース名
DSR	データセットレディ
DTR	データ端末レディ
IO	入出力
ESD	静電気放電によって破損の危険があるコンポーネントとモジュール
EMC	電磁環境適合性
EN	ヨーロッパ規格
ES	エンジニアリングシステム
ESD	静電気放電によって破損の危険があるコンポーネントとモジュール
GND	接地
HF	高周波
HMI	マンマシンインターフェース
IEC	国際電気標準会議
IEM	Industrial Edge Management
IF	インターフェース
IP	インターネットプロトコル
LED	発光ダイオード

MAC	ディアアクセスコントロール
MOS	金属酸化膜半導体
MPI	マルチポイントインターフェース(SIMATIC S7)
MS	マイクロソフト
MTBF	平均故障間隔
n. c.	接続されていません
OP	オペレータパネル
PC	パーソナルコンピュータ
PG	プログラミングデバイス
PPI	ポイントツーポイントインターフェース(SIMATIC S7)
RAM	ランダムアクセスメモリ
PELV	保護特別低電圧
RJ45	登録済みJack Type 45
RTS	送信要求
RxD	受信データ
SD Memory Card	Secure Digital Memory Cardの略語
SMB	サーバーメッセージブロック
SELV	安全特別低電圧
SP	サービスパック
SUB-D	Sub-Dコネクタ(プラグ)
タブ	タブレータ
TCP/IP	伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル
TFT	薄膜トランジスタ
TxD	送信データ
UL	UL規格
UMAC	ユーザー管理およびアクセス制御
UMC	ユーザー管理コンポーネント
USB	ユニバーサルシリアルバス
UPS	無停電電源装置
WINS	Windowsインターネットネーミングサービス

用語集

EMC

電磁環境適合性(EMC)は、技術装置がお互いに不必要的電気または電磁効果で干渉しない、通常あるべき状態のことを示します。電磁環境適合性は、電気設計における不適切かつ相互的な影響に関する技術上および規制上の問題に対処するものです。

HMIデバイス

HMIデバイスは、マシンおよびプラントの操作およびモニタリングに使用するデバイスです。機械やプラントの状態はHMIデバイス上でグラフィックオブジェクトによって視覚化されます。オペレータは、HMIデバイスのオペレータコントロールを使用して、マシンやプラントのプロセスに介入できます。

HMIデバイスイメージ

HMIデバイスイメージは設定PCまたは外部ストレージメディアからHMIデバイスに転送可能なファイルです。HMIデバイスイメージは、HMIデバイス用のオペレーティングシステムおよびプロジェクトファイルの開始および視覚化に必要なランタイムソフトウェアのエレメントを含んでいます。

WinCC

WinCC (TIA Portal)は、SIMATIC HMIデバイスを設定するエンジニアリングソフトウェアです。

アラーム

アラームにはシステムアラームまたはユーザー定義のアラームがあります。ユーザー定義のアラームは通常、プラントの特定の稼働状態を示す一方、システムアラームには一般にHMIデバイスの状態に関する情報が含まれます。

イベント

ファンクションは、定義された着信イベントによってトリガされます。イベントを設定できます。ボタンには、[押す]や[放す]などのイベントを割り付けることができます。

オブジェクト

オブジェクトは、画面やアラームなどプロジェクトエレメントです。オブジェクトはHMIデバイス上でテキストや値を表示、入力するために使用されます。

コントローラ

コントローラは、HMIデバイスの通信に使用するSIMATIC S7などのデバイスやシステムの一般用語です。

タグ

タグは定義済みのメモリロケーションで、そこに値を書き込み、そこから値を読み取ることができます。これはコントローラまたはHMIデバイスから実行できます。タグをコントローラと相互接続させるかさせないかによって、外部タグ(プロセスタグ)と内部タグに区別します。

パラメータセット

パラメータセットは、固定データ構造を形成するタグの組合せです。設定されたデータ構造は、設定ソフトウェアやHMIデバイス上のデータに割り付けることができ、レコードとして参照されます。パラメータセットを使用すると、特定のデータレコードをダウンロードするときに、そのデータレコードに割り付けられた、すべてのデータが同期してコントローラへ確実に転送されます。

フィールド

入力値および出力値用の設定画面に確保されたエリア。

ブートローダー

ブートローダーはHMIデバイスの電源投入後に自動的に起動して、起動したブートローダーを使用してオペレーティングシステムが起動されます。オペレーティングシステムがロードされると、コントロールパネルが開きます。必要に応じて、Siemensの担当者と相談してブートローダーを更新できます。

フラッシュメモリ

フラッシュメモリはEEPROMチップを使用した不揮発性メモリで、モバイルの記憶媒体やマザーボードの常駐メモリモジュールとして実装されます。

プラント

HMIデバイス上で操作、モニタされる機械、プロセシングセンター、システムおよびプロセスを指す一般的用語。

プロジェクト

プロジェクトには自動化プロセスの視覚化に関する情報が含まれ、設定ソフトウェアにより作成されます。プロジェクトは、プラント固有のオブジェクト、基本設定、およびアラームを組み込んだ複数の画面を通常含んでいます。WinCCで設定されたプロジェクトは、拡張子「*.apx」の付いたファイルに保存されます。「x」はバージョンキーを表します。例:WinCC V21プロジェクトの場合は「MyProject.ap21」となります。

プロセスの視覚化

プロセスの視覚化は、テキストエレメントおよびグラフィックエレメントによる、テクニカルプロセスの表示です。設定されたプラントの画面で、オペレーターは入力/出力情報を使用して、アクティブなプラントのプロセスに介入できます。

ランタイムソフトウェア

プロジェクトは、ランタイムソフトウェアにより、HMIデバイスで開始および可視化されます。

画面

画面はプラントの論理的に関連するすべてのプロセスデータの表示形式です。プロセスデータの表示は、グラフィックオブジェクトでサポートされます。

画面オブジェクト

画面オブジェクトは、矩形、入力ボックスまたはアラームコントロールなどのオブジェクトで、プラントの表示や動作のために設定されているものです。

設定PC

設定PCは、エンジニアリングソフトウェアを使用してプラントプロジェクトを作成する、プログラミングデバイスまたはPCです。

設定ソフトウェア

プロセスを視覚化するためにプロジェクトの作成に使用される設定ソフトウェアです。WinCCは、たとえば、こうした設定ソフトウェアを表します。

操作エレメント

操作エレメントは値やトリガファンクションの入力に使用されるプロジェクトコンポーネントです。たとえば、ボタンは操作エレメントです。

他社の商品

Siemens Aktiengesellschaftは、独自の付属品に加えて、有名メーカーの高品質の付属品も商品として提供しています。商品は簡単なパワーアップテストで認定されていますが、Siemens Aktiengesellschaftのシステムテストは受けていません。商品の技術プロパティは、Siemens Aktiengesellschaftの同等の製品によって保証されているプロパティと異なる可能性があります。商品は、Siemens Aktiengesellschaftのオンラインカタログで適宜そのように指定されています。技術仕様、ドライバ、証明書、テスト検証文書などは、各メーカーよりSiemens Aktiengesellschaftに提供され、オンラインカタログまたはSiemens Aktiengesellschaftの技術サポートからもダウンロードできます。

転送

「転送」モードでは、データが設定PCからHMIデバイスへ転送されます。

入力ボックス

入力ボックスを使ってHMIデバイスに保存された、またはコントローラに転送された文字と値を入力します。

半輝度寿命

輝度が元の値の50%に低減するまでの期間。指定値は運転温度に依ります。

表示時間

表示時間は、HMIデバイスにメッセージまたはダイアログボックスが表示されるかどうか、および表示される時間を定義します。

保護クラス

保護クラスは電気設計で使用され、電気ショックを防ぐために設計された既存の安全対策に基づいて電気装置を分類および識別します。電気装置には3つの保護クラスがあります。

保護等級

保護等級はさまざまな周囲の条件のために電子機器の基準を定義します。そしてこの機器を使用するとき、起こりうる危険に対して人間を保護するためのものです。

IPが分類する保護等級は、保護クラスと異なります。両者とも危険な電圧に触れたときの保護に関するものです。IP保護等級は汚れと湿度に対する装置の保護も分類します。